## 屯山會に於けるカークウド氏の演說

### (一) キャデットに就て

植民地の文官を選擇する事に就きましては英吉利でも面倒な傾向であつた事です邇て御話します。西曆紀元一千八百五年頃に英吉利から印度に行き役人の志願者に對して學校を拵へて其の學校を卒業した者を印度に送る仕組であつた、夫が丁度一千八百五十八年迄そういふ仕組が繼續されそして二年間は英吉利に在る處の文官の學校に於て教育を受けた者を印度に送る仕組でありましたが一千八百五十八年以後は夫を止めて今日ではさういふ仕組といふものはありません、それでこの年齡のことが初めには十歳から二十歳までの者が入學を許される仕組でありましたが其の後十八歳から二十歳までといふ事に致しました、さうして最後に所謂競爭試驗で文官になるといふ仕組に致しました、時には二十一歳から二十三歳までを受驗者の資格と致しました、それで千八百五十八年以後は全く公開の競爭試驗を課し文官を登用する事になりました、此の印度の文官になるには他の錫蘭緬甸馬來或は海峽植民地抔の文官になるのを比較すれば餘程手重にしたものである。從つて印度の役人の俸給の點から云ふても餘程高級の役人が多ふございます。併し此の試驗の仕組といふものは各植民地に於て大した違があるといふ譯でありませんから私は假りに錫蘭に於ける文官登用の事に就て話をしてそれで一般の類推を諸君に御願ひ申すといふ事にしやうと思ひます。

この錫蘭島は私もよく巡回しましたが臺灣と比較すれば殆んど二倍位の幅員で此の島に住んで居る處の人々は四百萬許り御座います、で此錫蘭の役人となる志願者が試驗を受ける時には單に錫蘭といふのみならず、若し志願に依ては海峽植民地或は香港にも行くことが出來、其の任地の點に就ては錫蘭の役人の試驗を受けるけれども自由の選擇に任して他の植民地に行くことを許すといふ仕組であります。此の志願者(キャデットといふ事は何と譯したら宜か知りませんが私は志願者と譯しました)一番初めの志願者の試驗を受けてそれで直ちに役人になれるといふ譯ではなく第二今一つ試驗を受けねばなりません、其試驗を受くるまでに役人としての生徒卽ちキャデットとして學校に居る有樣であります。此のキャデット卽ち志願者となるに就て試驗を受けねばならぬといふ事を唯今申しましたから此の試驗を受くるに就ては第一自體が丈夫でなければならぬ。又其の人の品性が役人となるに適する樣な品性の良い人を撰ぶ、又學術も大學其他相當の學校を卒業して尙ほ卒業の上で數學とか文章とか或は字を綺麗に書くとかいふ樣なことが受驗の資格であります。此の資格の中で最も面倒なのが體格で健康のことには餘程注意して居ります。試驗は隨意試驗と强制試驗といふ樣な風に二つに分れて居て必ず試驗を受けねばならぬ。科目は一般の普通教育に屬することで今申した文章とか數學とか或は地理歴史とかいふ樣なもので是等はどうあつても受けねばならぬ。又憲法、國際法、或は他國の語又は地質學、器械學、測量學等の如きは本人の望みに依て試驗を受けさせて良く出來る人は良い點を與へて、それ丈け優遇をするといふ組織であります。此の試驗科目の中には農學の事が載つて居りませんが、私の考へでは農學といふものを是非科目の中に入れなければならぬと思ひます。

愈々その志願者の試驗を受けた時には植民地に往く所の船賃は無賃でさうして內地を出立してから俸給の半額を支給せられる。それから植民地に往て正當の役人となる前には今一度試驗を受けねばならぬ、土語卽ち印度に往ては印度語、緬甸に行つては緬甸語の試驗を受けねばならぬ。又其の地方の法規則の試驗を受けねばならぬ、一體英吉利の植民政治は英吉利本國の政治を植民地に輸入せずして其地の風俗習慣等を考へて植民地相當の簡單なる法律規則を拵へる。若し在來の事に別に保安に關係するとか、道德上に害があるとかいふ事でなければ矢張其の習慣に從つて植民地特有の一の規則を拵へるといふ主義でありますから各植民地でも各其の規則が違ひます。故に植民地に往ては其地に於ける特殊の法律規則に就て試驗を受けねばなりませぬ。今一つは簿記のこと其他事務見習の樣なことをして居て事務が何れ位出來るかといふ試驗を受けねばなりませぬ。詰り三つの試驗を受けて始めて正當の植民地の文官になる譯であります。此の試驗を受ける前には臺灣でいふと民政局といふ樣な政治の中央部若くは縣といふ處で試驗を受けるといふ風でやります。此十八箇月の間は一日二時間の役所の事務見習をして後に土語の研究と今一つは先に申した規則の研究に掛つて居るのです。此の土語の稽古をするに就て政府は毎月一人に十五圓宛給與するさうして先生となつて土語を敎授する者は政府に於て與へたる此の者は確に土語が出來るといふ證明書を持て居るものでなければならぬ。さうして其者に土語を

教へられて居るといふ證據を毎月役所に見せて始めて十五圓を貰ふのであります。十八月若くは長い時には二箇年位のこともありますが、其の上で愈々第二回の試驗を受けて若し其成績が非常に惡かつた時には役に立たないと認めて政局は其の者を解傭することに致して居ります。而して愈々此の試驗に及第した者は植民地に於ける正當の官吏といふことになります。此の正當の官吏は植民地に於て五等に分つて居ります。其の中の最下級の官吏となつて一箇月の俸給が二百圓との事であります。二百圓と申すのは俸給の全額であつて臺灣の樣に俸給十分の三の加俸といふものは英國の植民地には無いのです。英國の役人の事を申すと試驗ばかり多いやうでありますが、今申した五等に昇る時には今一度試驗を受けねばなりません。其の試驗は法律規則の試驗でも土語の試驗でも總てが餘程面倒である。愈々之を卒業した上で三番目の役人となつて一箇月三百五十圓の俸給を貰ひます。諸君の内にも御存じの方もありませうが、英吉利植民地に於ける方針といふものは出來得べき丈け役人の數を少なくして夫れに對して出來得べき丈け多くの俸給を與へるといふ方針である。さうして其役人は最も能く教育を受け最も年功を積んだ者を用ゆるといふ方針を取つて居ります。種族の違つた所も治者が僅かで被治者が多いといふ場合に當てはドウシテも治者となるものは人民の信認を得なければなりません。信認を得るのみならず、又土語にも通じなければならぬ、又其他の風俗習慣も知らなければならぬ。あらゆる點に於て責任が重いのであるから從つて夫れに對する報酬として十分の俸給を與へるといふ方針を取つて居るさうして植民地の役人は其責任が重いから例へば臺灣などゝ稍々事情を同ふして居る所もありますが、彼の辯務署の如きもの植民地の辯務署長は甚だ其責が重いので是れは或る程度までの裁判權を持たせて居る。從つて辯務署長は法律に通じ風俗習慣に通じなければならぬ。彼是職責が餘程重いのであるから夫に對して好く俸給を與へるといふ事は自然の順序と思ひます。錫蘭では知事が裁判權を持て居ります。正當にいふ所の裁判官なるものは單に三人のみで後は總て文官がやつて居るといふ樣な風であります。植民地に於ける役人の異動を餘り多くするといふことは最も好くない。英吉利の如きは植民地役人は最も永く其地に勤續させる樣に努めて居る、それが爲めに好い恩給を與へさうして正當の理由がなければ錫蘭に於ける役人は十五年間を勤續せねばならぬ。十五年勤續すれば恩給は内地は餘計に與へる印度の如きは二十年で初めて恩給に入るといふ風で總て英吉利の政治は植民地の役人は永くなれば永い程益に立つ次第で植民地の事情に明るくなつて總て價値のある方をするから成るべく永く居て貰つて植民地の行政に當らせる方針を取つて居るのであります。

## (二)　日本人は島民に模範たれ

此の印度か錫蘭に十五年も二十年も役人をして居るといふ事は皆さんが御考へになつて隨分永い話であるといふ考へを御持ちになるかも知れない。又臺灣抔に諸君が御出でになると比較すれば英吉利の役人が印度や錫蘭に行く苦しみは一層酷い、其の本國は日本より遠いのに臺灣より一層暑い處の印度、錫蘭に往つて十五年も二十年も勤續する何故英吉利の役人は其の樣に苦しい所に勤續が出來るか其の秘訣は何處にあるかといふことを探究して見ると由來があるのです。一體御承知の通り健康な身體に活潑なる精神が宿るといふ風で體が丈夫でなければ植民地に勤務は出來ない。それで英吉利の役人が植民地に往つては到る處に倶樂部がある。倶樂部といふものを立てゝ或は野外の運動其他種々の遊戯を考へてさういふ事に實を入るゝといふことが無くては殆んど棲むことが出來ないから**クリーケット**とか、**フートボール**とかいふ樣な遊戯をして體を健全に保ちさうして常に勇氣があるから快く勤續が出來るのであります。此度私が臺灣を廻つて方々で色々御話を承つて見ましたが何處に往つても巡査の方も憲兵の方も文官の御方もさう云ふ快よい運動をなさる處は餘り見受けませぬ。大抵役所から歸ると室内のみに居るといふ風でありますが、それでは體が永く持てるといふ事は出來ませぬ。どうしても英吉利が植民地政治に成功したる秘訣の通りに一種の運動法、勿論私は日本人に向つて**クリーケット**其の他英吉利の遊戯法をせよと云ひませんが、さういふ事を實行したならば臺灣に永く快く勤續することが出來ると思ひます。此遊戯です、遊戯を致します上に就ては別段に上下の階級といふものを置かずに交際を致しますから一方からは相互に知り合ふ爲めに好い交際機關になります。私は此度臺灣を巡つて見ましたが、側に居る役人同志でも極く不音信で全く見ず不知の人の樣な風の處がありますが、英吉利抔には斯ういふことはない何か役人が一所に居れば、巡査、憲兵、文官、總督に至る迄皆打寄て遊戯をやります。遊戯といふことが主になつて地位といふ事は其の際には更らに眼中に置くものなく其の情感も好く行渡つて互に相識り合ふことに於て非常に好い機關となつて居ることであ

ります。是れは少し失禮の樣な申分ではありますが臺灣に御出になつて居る日本の役人の方々は一つ忘れて御出になりはしないかと思ふことがある。役人といふものゝ單に官廳に於て其の職務を勉めるといふばかりでなく退いた後も總ての行爲といふものが矢張り植民地の被治者なる土人に對して一の模範となるといふ風で悪い事をすれば悪い事に對して夫々の批評あり、善い事をすれば益敬慕の情を增すのであるから役人は役所に勤務するばかりでなく、家に歸つても土人を率て行く所の模範となるべき人品を備へて居らなければならないと思ひます。植民地の成功して行く秘訣などを彼是考へて見るに單に自分丈けで土人に對しては常に尊敬の意を失はせない樣にして行くことが一方には植民地の政治が成功して參る所以である樣に思ひます。此の臺灣には殆んど三百萬の民衆が居ることでありますから之れを支配して居る日本人は到て少數である此の少數の人が人種の異つた三百萬の人民を治するといふは餘程思慮を過らずして、三百萬人の模範となり人民の尊敬を受け人民の信認を得るといふ者がなければどうも植民政治の成功は望まれない、一體植民を治めるには腕力に依つて治めることが出來ぬ道德上の制裁力に仍て始めて治める事が出來るものであります。然るに素行の修らざる人は土人に對して道德上の勢力を得るのが出來ぬ、若し平生の勢力が土人の模範となれば道德上の力を以て土人を率ゐて行くことが出來ると思ひます。

## (三) 文官の責任重大

御承知の通り此の度私が臺灣を巡遊致しましたことに就ては色々觀察をして參りましたことも御座います。さうして又皆さんの中には色々見て來た事を御承知になりたいといふ御方もありませうが、私は顧問としての職分柄行政上の考、其の他萬般に對する考とを此の場所に於て申し上ぐることが出來ません、けれども私が一つ申上げて差支ないと思ふ事は私が臺灣に來る前臺灣に對して懷いて居る考から今日臺灣を去らうとする時、臺灣に對す考へやら彼是比較して見た時には將來に對して臺灣に十分の望を持つ餘程將來は芽出度といふ考を以て此の地を去るといふことを申上ぐることが出來ます。此の臺灣の三難問と申すべき臺灣の歳出入が償はないといふこと、又地方到る處に土匪といふ者が居て地方が騷擾であるといふ事、又生蕃といふ者が居て土人を殺すのみならず、此の頃は茲だ不愉快にも日本人を殺すといふ事が起つたといふこと、是れから臺灣に於ける三つの面倒なことゝ思ひます。第一歳出入の償はないといふ事は私の考へでは左程面倒なことでないと思ひます。今少しすれば其の目的通に歳入が歳出を償ふ樣に到ることを私は御受合ひ申す事柄で御座います。次で第二の難問たる土匪といふものに就ては英吉利も頗分困るのです。十年ばかり前、緬甸が英吉利の領土になつた時は臺灣が土匪に困るよりは尙困つたが幸ひにして三年にして土匪を十分に平げることが出來たのです。之に就ては軍隊の力も入り其の他樣々の腕力上の力が入りましたけれども餘程土匪を平げるに功能の有つたのは保甲制度で、保甲聯庄の制度を輸入した爲めで土匪が早く殲滅した樣に思ひます。又此の生蕃に對しても私の考へでは右樣の面倒もなく成功するだらうと思ひます愈々左樣いふ風に總ての難關といふものを經過した上は最後に文官といふものが非常に重い役人となる。其の後の成功は文官に在るといつても宜しい。軍隊其の者も勿論入りますが主として最後のことは文官が善く統治のことに當れば將來の臺灣は餘程望みある土地だらうと思ひます。文官が臺灣を統治して行く上に於て殊に必要なのは善く臺灣の民心を得るといふことで文官が此の臺灣土人の民心を得るは從來大に望がある。御承知の通り、今日東洋に於ては隨分政治上の事に就て一大競爭場裡に立て居ると覺悟して宜い、總ての制度が進み總ての事が進んで互ひに相拮抗するといふ樣な有樣で例へば露西亞は北の方から段々手を延ばして來るやうな有樣、獨逸も其通り東洋に心を寄せて居り英國も亦艦隊を十分用意して何時でも働かれる樣にして居るのである。其の時に當て東洋に於ける日本帝國が臺灣を統治し行く上に於て、若しも此の臺灣が日本の厄介物とせられて居る樣なことでは迚も東洋に於ける勢力を張ることは出來ません。さうでなく此の臺灣が勢力の源泉となつて東洋の勢力を玆に集中することが出來るならば日本帝國を東洋に於て餘程勢力のあるものとなすことが出來樣と思ひます。

私は愈々明日此の地を去つて臺灣を後にして東京に參りませうと思ひますが、今夕は此處に皆さんの御出でを願つて餘り面白くもない話を御聽下さつたのは自分に於て幸ひと思ひます、玆に一つ皆さんに願ふて置き度いことは、此の度私が旅行するに就きましては方々で文官の方に餘程御厄介になりました。縣廳は六つの縣廳を廻り廳は二つ撫墾署は十一の中九つを廻り、辯務署は五十ばかり警察署、憲兵屯所は數知れず廻りましたが到る處で歡迎を受けたのは自分に於て光榮に思ひます。雖有く思ふて居ります。玆に臺灣の何時までも幸ひである樣に望んで臺灣を去りますことで御座い

ます。

明治三十一年二月十四日　於屯山會集會　司法省顧問　カークウド

因に屯山會なるものは當時總督府の中堅官吏を以て組織せられたるものであるといふ。

## 四　カークウドの臺灣視察談

明治三十一年三月八日伊藤内閣總理大臣官邸に於て兒玉總督、後藤長官、局長、司法省顧問カークウド氏を招きて臺灣視察の意見を聞きたり（明治三十一年三月十五日臺灣新報所載）

同時に内地新聞が臺灣刷新に就て芳川内相と兒玉總督と妥協したりとの報左の如し。

一、臺灣總督府官制を改むること。
一、官吏は能材を選擇し及ぶべき丈減員の方針を取り大に冗員を淘汰すること。
一、下級行政機關の組織を改正し成るべく自治的制度に倣ふこと。
一、下級行政部に於て成るべく土人の有識秀才を登用して上下情疏通の方針を取ること。
一、臺灣に對する法律命令を特殊とし成るべく舊慣を破壞せざる方針を取ること。
一、財政は可成獨立の方針を取ること。
一、主として輕易簡便なる財源を求むこと。
一、徴稅方法は實效ある手段を取ること。

### カークウドの報告要旨　（東京讀賣新聞所載）

首相官邸に於けるカークード顧問の演說には首相初め列席者何れも耳を傾けて其の視察の詳細なるに驚きしものゝ如く臺政上參考となるべきもの少なからざりしといふ。尤も其の演說は深く秘して公示せざるを以て其の詳細を知るに由なけれど今其大要を聞くにカ氏は先づ曾て視察せし印度緬甸等に於ける植民地の狀況を語り、次で臺灣巡察の談に及び元來同島土人と蕃人との關係は恰も彼の北米印度に於ける合衆國政府が彼等の地域を制したるに拘はらず白哲人種を深く是等の蠻域に侵入して漸次に其の種族を化せしむるに至りし如く多數の蕃族は往古清國人の爲めに驅逐せられて人跡通じ難き所に追ひやり故に民蕃互に怨恨相容れざるものあるに今回日本の版圖に入り此の民蕃の上に立ちて施政綏撫の任に當れもの言語相通ぜず感情達せざるより辯務署撫墾署を置かざるべからざると須らく合して民蕃兩者の上に一施政署を置くを要す。又地方法院の如き同島を土人が三百年來生息せし專制治下の民たるものに對しては實に美事に屬すべきも所謂法三章の廣義を以て之を律するを優れりとす。故に寧ろ之を臺北、臺中、臺南の三地に分立する利ぞあるべけれ又道路の如きは到底國庫の費用を以て悉皆修築する事能はざるは彼の緬甸の植民地に於ける如く一箇年中三箇月間の勞役に服せしむるが如き義務を負はしむるを便とすと。其の他蕃辯務署警察配置等に付て語る處ありたりといふ。

（明治三十一年三月十四日讀賣新聞）

### 臺灣視察より歸京したカ氏の談　（東京時事新報所載）

一、成るべく縣廳の權限を割きて之を辯務署に與へ以て大に辯務署の事務を擴張すること。
一、撫墾署の監督權を縣廳より奪ふて之を總督府直接の監督に歸せしめ以て新に撫墾局を總督府内に置くことは土匪鎭壓に付ては清國流の保甲聯庄の舊制に服し各部落現行の國語傳習所を廢し更らに各村落の書房（寺小屋）に國語の教師を官費にて派出せしむる等はカ氏が臺灣行政に對する主なる意見なりといふ。

## 五　伊藤總理、井上藏相の傾聽

各新聞の報ずる處大略右の如し。此の報告に就き當局者は果して如何なる感想を有せるやといふに、伊藤總理、井上藏相を始めとして新總督局長の諸人何れも悉く其の說を傾聽し只管其の活眼に驚き居るものゝ如きなれど新總督局長赴任の曉は多くは右力氏の意見を採用して之に基きたる改革を行ふに至るならんと言へり。尤も生蕃に對する方策に付きては當局者中土人に對する統治の成功するまでは可成彼等を山中に封じ込み置くの政策を採るべしとの說を爲すものある趣きなれば是等は多分徐々に何れかの適當の方策に出づるならんと思はる。因にいふ、カークウド氏は司法省顧問より總督府の顧問に內定せしなど傳ふるものあれども何も力氏が總督の身邊に付き居らざれば仕事の出來ぬにもあらざるべきのみならず、力氏の意見は現に總督府顧問ならざるも何時にても之を徵するに可らん。（時事新報所載）

## 第三節　石塚參事官長の精勵

當時石塚氏は齡僅かに而立の境にして常に世の進運に後れざらん事を期し研極怠らず、精勵以て官人の軌範たるものありき。又本島統治の實際研究家として、觀風訪俗、既に本島經營に對する抱負經綸を有し、且つ世界の植民學に通じ引證該博なる事今日の靑年官人等の到底企及し能はざるものありたり。今二三の例を揭げて見るに、新領土に於ける國語敎育に關する識見の如き、各國の例を引きて我國に於ける統治方針の精神に及び、土語の習得を從とし國語普及を主なりと斷じ、同化は國民的運動の大眼目なりと說き、言語は同化の最大要素にして、我臺灣に於ては國語敎育は將來擴張すべきも斷じて縮少すべきものにあらずと鐵案を下したり。前にカークウド氏が母國民に土語の必要なるを高唱したることあるも石塚氏は之れを否定して曰く『勿論內地人は官民共に土語を習得すべきは當然のことなりと雖、是れ畢竟一時の手段に過ぎずして、永遠の目的は臺灣人に我が國語を普及するにあり』と、眞に然り。更らに氏の先見の明あるに驚くものあり。今より三十有餘年前に萬國平和會議なるものを說きたるものあり。卽ち五十步百步と題する時局談の末尾に曰く、

『畢竟一國は一國として何處々々までも其の利益其の主張を維持するの必要がある。其の必要がある爲めに何處々々迄も兵備を擴張するといふ列國の競爭が到底際限の有るべきものではない。此の勢力で進んで行くと財政上各國共倒れとなるのはチャーンと知れ切つた話だ。之れが卽ち平和會議の基く所である』と、次に『それでドウカといふに餘程可笑しいじやないか、露西亞はチャーンと旅順港を占めてさ、スツカリ諸事の整理が着いた、獨逸は膠洲灣を頂戴した、佛蘭西は海南島を拾ひ上げた、英吉利は英吉利で、亞米利加は亞米利加で大分身上を拵らへてそこでドツコイ待つたと來て、之れでは世界の平和は保てないから善い加減に軍備を節約しやうではないかと吹いたものだ』云々。

當時露國から提出せる萬國平和會議を眞向から批評されたものである。今や、海軍々縮問題上下擧げて喧びしきの時、これを回顧せば轉た魂飛神驚の感なきを得ざるべし。更に氏が、歐米各國へ出張命をぜられて上京するや、（明治三十二年八月三十日）東京臺灣協會席上に於て演說せられたるものあり。其の要旨を見るに一は法律上に於ける臺灣の位置、二は食鹽專賣制度、三は土地調査に就き腹藏なき意見を述べて、大に臺灣の眞相紹介に努むる等、行李多忙の洋行前を控へながら其の精勵と熱心なるに敬服すべきもの多し。今これを揭げて溫故知新の資に供せん。

## 一　官長の時局談五十步百步

（明治三十一年九月二十五日新報所載）

朝鮮と臺灣との比較＝其他人文關係＝日本人の潛勢力＝東學黨と土匪＝萬國平和會議＝偶感

左樣サネ、朝鮮といふ奴と此處の土人と比較したら餘程面白からうと思ふよ。つまり大體に於ては兩方共非常に能く似

てる。僕の渡つたのが恰も二十八年だから、其の當時は實に不思議な國だつたネ、イヤもう喧騒の何んのつて丸で話にならん、能く觀察すると却々面白い國だ。先づ臺灣に比較して左樣サネ、土地はたしかに良いやうだネ、斯んな土地でなくて君痩せて居る場所とは違ふね、夫れだから政治の腰をチャーンと据へさへしたら立派な財政なもんだ、中々以てビューく風車の及ぶ處でない。彼地の人民と此の方の人民を比較すれば左樣だナ、先づ文學の上から言ふと臺灣人の無學文盲に立優ること一段だ、兎も角文學丈けは一通り修めて居るのだから讀書的智識はある。それで人民の心はといふと餘程臺灣人よりは柔順である。呑氣な一點は無論大した違ひはないがネ、此の方のやうに氣長にして居て、それでグット乘り出した日には執念深く魂氣能く押し附くるといふことは無いらしい。ウム其の日本人的だよバット怒るとバット落付く始末だ、夫れに又小さな權謀術數と來ては誠に御手の物だからね、僕も始めは斯く思つた彼奴等は金玉鈎を暗殺するとか何んとかいふけれども無論風説だらう、處がそれが一々實行せられるから驚くじやないか、現に今月十一日に　畏くも皇帝と皇太子を毒害し奉らんとした者があつた。恐れ入る話じやないか、朴泳孝が此の場合歸國する抔は實は危險極まる事だと思ふ。ウム、斯んな具合で政變を企てるのだから今日の大臣は明日忽ち刑戮を受ける、放逐される、逐電するといふ始末で不斷の革命だ。それに較べると臺灣の政治は先づ〳〵安全といふものであらう。朝鮮人の此の性質からして割り出される政治だそれ故に存外政治上に於ての主義だとか何とかいふ者は立つて居る。今日は影も形もないが東學黨といふ奴があつたネ。臺灣なら差當り土匪なんだらう。彼は其の無意味な團體ではなかつた。併し素々鐵塊の食ひ外れ者、無賴漢抔が右の改革黨を利用しながら中々強盗を働く者もあつた。恰も土匪の始めが敗兵の類で後に段々無賴漢が附着してホントの強盗となつたと似て居る。併し彼れは多少の節義を理解して居た丈けに土匪よりも優つたらうと思ふ。

## 朝鮮での日本人の潛勢力

それからして朝鮮での日本人の潛勢力はどうして〳〵臺灣抔の及ぶ所でない。臺灣でも臺北邊りは少々領分らしいが、中々遠方では左樣に思はれない。特に英人で御座る。獨人で御座る。イヤ何んだといつて多年住み込んで居る連中が臺灣の實益、即ち實權を占めて居るのである。處が朝鮮ではグルリと反對で日本人の潛勢力が譬へば日清戰爭當時も大變な懸隔のあるにもせよ、今以て衰へないといふのは韓人の知己が一番日本人に多く一番日本に出入することが頻繁だから、今日米國が朝鮮に勢力を持つてるといつてもそれがつまり、米國公使其人の運動であつて、國と國、民と民との交情は誰れが何といつても矢張り日本が一番の御氣に入りだ。此の頃も伊藤侯爵が出掛けて行くと大した優遇だといふ事だ、伊藤さんも隨分毀譽に攻め立てられる人だかアノ漫遊の如きは矢張り政治家だね、何程の反響の來るかは面白い研究材料だらう。全體の關係が此樣な朝鮮だらう。それで日本が獨斷で十分の政治を布れんのだ、充分の政治を布かんにも拘はらず、御し易きこと斯の如しだらう。臺灣は日本の領分だ御勝手な政治が布ける。布けるに拘はらず、人民は實に御し易からざる有樣だ。之れがどうだらう。朝鮮と臺灣を地を更へて治めた日にはさ、面白き新局面が出來たと思ふぜ。

## 最近の世界の問題

此の頃世界の問題は露國から提出した萬國平和會議の事に集つて居る。看板が平和といふのであるから此の事は誰も反對するといふ譯には行くまい、親睦會を開き度い、ドウだ反對かと言ふた處で勿論親睦會に反對な者の有らう筈はない、併し會費とか、會場の都合もあるものだし、又同じ親睦會でも議員選擧の時などは隨分怪しい會があるものだ。併し親睦といふ事、其の者に不同意を表した日には飛んだ喧嘩に見られてつまらぬ經緯が始まる、況哉、今日の列國は實に神經質なものであるから其の樣な行違が有つてはならん、特に日本は極く平和主義の國であるから、當然賛同せねばならん、今度政府から公然賛同の申込みしたといふのも當然の條理を當然進んだ丈けだ。

平和會議は如何なるものだらうか、斯んな問題は判り切つてるよ、考へなくとも知れ切つて居るよ。

今まで萬國平和會議を遣れとか、何んとかいつた事は是迄計畫した國もないではない。又國際的裁判所も開いて總ての國際紛議を決すべしとかの説も有つた。併しみんな一の理想に過ぎないのだ實行された例はないのである。例の那翁が戰亂後のウインナ會議の如き者はあるが夫れは今度のと全く其の趣向は違ふのである。又第三國が甲乙兩國間と葛藤を靜め

る爲めに仲裁をしたことは甚だ多い。今世紀丈けで慥かに二十回前後はある筈だけれども、今度の樣な平和會議は先例なしといふも可なりだ。

つまり一國は一國として何處々々までも其の利益其の主張を維持するの必要がある。其の必要がある爲めに何處々々迄も兵備を擴張するといふ列國の競爭が到底際限の有るべきものでない。此勢で進んで行くと財政上各國共倒れとなるのはチヤンと知れ切つた話だ。之れが卽ち平和會議の基く所である。

それでドウカといふに餘程可笑しいじやないか、露國はチヤント旅順を占めてサ、スツカリ諸事の整理がついた。獨逸は膠洲灣を頂戴した佛蘭西は海南島を拾ひ上げた、英吉利は英吉利で、亞米利加は亞米利加でモー大分身上をこしらへてそこでドツコイ待つたと來て、之れでは世界の平和は保てないからいゝ加減に軍備を節減しやうではないかと吹いたものだネ、賭博でサンザン金を儲けて仕舞つて時に賭博といふ者は甚だ怪しからぬ者だ、法律に背いて居る、御互に慶さうではないかといふ寸法だナ。

ダカラして萬國平和會議のすることは知れ切つたものだと斯ふいふのだ。

內地も面白い事はないやうだネ、併し今度のやうな政府は存外長持をするものだ、僕も始めから左樣思つたネ、世間では、今にも潰れる樣に思ふけれども土臺黨派の利益の共同から組立つた政府だから滅多に破れるものではない。破れると損だからナ、君いはゞ身分のない平民の大金持から身分の貴い貧乏公卿に嫁遣をしたといふもので夫婦になるのは馬鹿らしいやうだが、サテどうも離緣は覺束ない者だよ、物の道理といふものはネ。

結局の政爭は大隈さんと伊藤さんサ、此の兩人の外にないネ、眼識の高いのも先づ此の邊だらう。それに面白い事は、大分兩人の仕振が違つて居る。これは畢竟何んだらうよ、此大隈さんが多年失意の地位に居て、伊藤さんは久しい事得意の宰相であつた、斯んな事が二人の特性をいよ〳〵著しくしたものと思はれる、で大隈さんは盛んに靑年敎育に從事すれば伊藤さんは東西洋を漫遊する。ドノ途尋常の政治家とは慥かに毛色が違つてるネ、多分二人の舞臺と相場が定つてるらしい——云々。

## 二　臺灣協會支部發會式と官長の演說

諸君本日玆に臺灣協會支部發會式を擧行するに當り總督閣下を始め貴顯紳士の賑々敷來臨せられたるは本會の最も光榮とする處なり。

本日は支部長不在なるに依り予より一言開會の趣旨を陳述することゝすべし。抑も臺灣協會の支部は今日始めて發會式を擧行するに至りたるも其の由來する所頗る遠くして決して今日に始まりたるにあらず。回顧すれば一昨三十年の十月頃當地の官民有志者間に臺灣協會なる一の機關を設け內地と氣脈を通じて臺灣の眞相を內地に紹介し以て本島の經營に裨益せんとするの議あり。又殆んど之と相前後して東京の方にも夫々臺灣に關係ある人々が舊交を溫むる爲に設けたる例の臺灣會に於ても臺灣協會なる一つの社交的倶樂部を作らんとするの計畫ありて尙他の有志者に交涉し來たりたるも、當地の有志は寧ろ東京の方に此の計畫あるに於ては之れに讓るべしとの意味を回答し幾何もなく東京に於て臺灣協會の組織を見るに至り昨三十一年八月初旬當地官民有志入會の事を本部より申來たり、

**木村、横澤、山下、山田、木下、守屋**

の諸氏主動者となり同月十四日當淡水館に於て相談會を開き、其後數回の協議を重ね又東京の本部とも敎育の交涉を經て愈々當地に其の支部を設置することゝなれり。又十一月十六日淡水館に會し支部の規約を議定し、並に支部長、幹事長評議員、幹事を選定し同十二月十三日支部設置の認可を本部より受け玆に今日其の發會式を擧ぐるに至れり。

偖て本日玆に生れ出でたる臺灣協會支部は言ふまでもなく臺灣協會の一部分なり、隨て臺灣協會本部の目的とする所卽ち當支部に特殊なる目的を加ふるは妨げなしと雖も大體に於ては本部と支部とは其の目的を同ふするは當然の事とす、されば臺灣協會の目的は種々ありと雖も要するに其の重要なるものは臺灣の眞相を闡發するにあり、凡そ臺灣の狀況程

## 世間に誤解誤傳せられ其眞相の顯れざるもの

恐らく他にあらざるべし、顧みるに本島領有以來殆んど四年間或は官吏に、或は政治家に、又或は實業家に前後本島を視察したる者其の數頗る多し、而して尙且つ本島の狀況に就ては誤解誤傳を免れざるなく、又彼の香港或は上海に於ける外國新聞の如き亦往々誤解ある記事論說を揭ぐるもの多きが如し、右は果して眞面目の視察をなす能はざるか將又眞面目の視察を遂ぐるも眞面目の報告を爲す能はざるか、又は眞面目の結論を下すこと能はざる事情あるか恐らくは何れか其一を出でざるべし。世人臺灣經營を談ずるもの抽象的に、演繹的に、一種の前提を置き此の前提に符合する程、事實を蒐集聯結して斷案を下す者あり。其の論旨の取に足らざるは固より言を俟たずと雖彼の事實に基き卽ち歸納的、考證的に臺灣の問題を談ずる者と雖往々其の正鵠を得ざるものあるは何ぞや。是れ他なし未だ臺灣の眞相を觀察せざるか、又は單に一部局一方面のみの觀察を爲して直ちに判斷を下すに因らずんばあらざるなり。是れ則ち本島の

## 眞相を闡發して之れを世間に紹介する

所の機關なる臺灣協會の必要なる所以なりとす。臺灣協會は臺灣なる問題を研究し、臺灣の經營に裨益するに在り、臺灣の經營は今更更めていふまでもなく、擧國一致の力に依らざるべからず。擧國一致を要するは何ぞ臺灣問題に限らん、爾後百般の場合に於て皆此力を要とするもの新領土たるこの臺灣の經營に付ては特に最も之を必要とすることは玆に贅するを要せざるなり。蓋し臺灣は日淸戰役の結果として淸國より特に割讓せられたり。古來戰爭又は平和談判の結果一國の領土の他國に割讓せられたるもの東西の歷史に其の例決して尠なからず然共割讓の爲め人民は不幸を被れる場合もあれども、却て大に幸福を受けたる場合も尠なからず。故に領土の割讓其者を以て直ちに人民の休戚を卜するは大早計に屬すといふべし。要は新來の政府に依り人民の被むる幸不幸果して如何に顧みて判斷すべきのみ、抑も日淸戰役は元と淸國長夜の迷夢を驚醒し以て東洋の平和を維持せんとするの深意より萬止むことを得ずして起れることは已に均しく、中外の認むる所にして臺灣の特に割讓せられたるも亦畢竟するに東洋の平和を維持するの一の擔保たるに外ならず。彼の

## 禍端省の不割讓事件の如き

は亦之れと同一の趣旨に出づるは言を待たず果して然らば今や我國は列國環視の中に於て東洋平和維持の實績を擧ぐるの極めて容易ならざる責任を負ふものといふべし。此の責任を全ふせんには到底國民一般の結合に依らざるを得ざるなり。臺灣協會は深く玆に見る處ありて起る則ち本協會は臺灣の眞相を研究し以て爲政者に便宜を與へ上下相與に協力して臺灣問題を料理せんとするものなり。

本協會の目的は臺灣の眞相を闡發するにあり、故に本協會は本協會の當然の目的を當然の方法順序に依り遂行するときは條理上斷じて爲政者の施設に障碍を來たすが如き事萬々之れあらざるなり。果して然らば將來本協會の益々隆盛に赴くに伴ひ爲政者の其の施設上益々本協會より便宜を受くるに至るべく他日本協會、會運の盛衰と臺灣經營の擧否とは自ら其の消長を共にするならんことを確信し又且つ斯くならんことを望む、幸に本協會は諸君の熱心なる盡力により續々入會申込者あり、本島を通じて今日迄に已に六百十四名の多きに達せり。予は諸君と誓て奮勵努力以て本協會の良成績を將來に擧げんことを切に希望するものなり。

明治三十二年一月二十九日

臺灣協會支部長代理　石塚英藏

# 三　東京に於ける石塚參事官長の演說

臺灣協會評議會に於ける石塚參事官長の演說　明治三十二年八月三十日

於東京臺灣協會

## 法律上に於ける臺灣の位置

臺灣にては憲法施行主義を採りし爲め經濟的に政治を行ふ能はず。其の結果英領緬甸印度錫蘭島に於ける如き行政官を

して裁判を兼ねしめ、簡易適切なる裁判を行ふ能はざるも昨年より可成簡易の政策を採り縣を廢合し警察を嚴務署に合併し、三人合議制なりし地方法院を單獨判官とし高等法院を廢して二級審となしたるが爲め幾分か此の弊を矯むを得たり。又法律第六十三號の結果勅令を以て臺灣に施行する法律を指定する筈なるも斯ては其運用機關に關し大いに不都合を感ずるが故に臺灣にては律令を以て特に之れを定め來たりしも之れが爲めに又內地臺灣間に效力の共通を缺くに至り、其の不便尠なからざるが故に之れが爲め今や大いに苦心し居れり。又新條約は臺灣に對し除外例を設けざりしが故急に新法典を施行して新條約を總て實施することゝせり。

## 食鹽專賣に就て

主務省より多く支那鹽を輸入して夫れが爲めに內地鹽業者の困難する如きことありては不都合なりとの注文なりし故、支那鹽を輸入する時は其の石數を豫め主務省に報告することゝせり。然るに專賣法を行ひたる今日は却て內地鹽を多量に臺灣に輸入し專賣法の精神貫徹せざりしに至りしを以て內地鹽は總督府の手を以て輸入せんことを主務省に稟議したるに主務省にては臺灣鹽の輸出をも總督府の手を以て爲したしとの意を通じ來たりしも予の見る處を以てすれば之れは無理なる注文といふべし。本來、內地鹽は其の品質に於て到底臺灣鹽に壓倒せらるべき運命を有するものなれば、强て之れを保護せんとするは謬ならずや。今斯の名臺灣鹽を防がんとするも外國鹽の競爭は如何にして防がんとするか、此の問題に關しては切に諸君の一考を望む。

## 土地の調査に關して

之れは個人の權利を確定する爲め又課稅の基礎を定むる爲め是非其の必要なるも世間にては之れが爲め土人の反抗を招くべしと憂ふるものあり。されど之れは劃銘傳の如き富豪より賄賂を取り、或は丈量費を後に土人に負擔せしめたる等のことあるが爲めに總督府にては大いに此の點に注意して總て願書を出したる地方にのみ行ふことゝし、又土人に測地法を敎授して親しく其の事務に當らしめ、且つ其の土地の有力者をして檢分せしめ、丈量者には凡て制服に徽章を附して不正を働くを得ざらしめしが爲め其の結果甚だ良く、今日まで丈量したる處にては、地積平均二割八分一厘の割增を見たり、全體の上にては凡そ四割の割增を見る見込みなり云々。

## 四　石塚參事官長の歐米出張

法制局參事官時代、臺灣を一巡して歸任後氏一流の深鋭に觀たる『臺灣統治に對する意見』一識見ともいふべきものを政府當路者に具陳して大いに盛名を博し、更らに臺灣總督府參事官長に轉ずるや、かの英人**カークウド**問題を解決して、我が全國民の面目を保ち得たるは何よりの慶事といふべきなり。而して當時歐米に於ける植民地經營は、果して優先的文明なるものありや否を實際に透視する必要ありとなし、兒玉總督の鋭眼達識は石塚參事官長をして任後僅かに一年なるに歐米各地に出張せしめらるゝに至れり。明治三十二年八月十日臺北を發し上京し九月十八日午前十時三十分天皇陛下に拜謁仰付けれ翌九月十九日米船**シチーオフベキン**號にて橫濱を解纜し途中布哇を經由して十月九日桑港に着し、各地を視察する所あり、十一月一日英船**チユウニツク**號にて紐育を發し、九日**リバプール**に着し其日直ちに龍動に入り轉じて大陸を渉り佛蘭西、西班牙の各國を經て明治三十三年三月中旬亞弗利加北部に至り、更らに伊太利に航し、瑞西より獨逸を過ぎて普露西に至り墺地利、匈牙利を視察し、更らに佛蘭西より再び英吉利に至り、九月十日獨逸船**ハイルン**號にて同國を發し香港に於て大阪商船會社の淡水丸に轉乘し厦門を經て同月二十五日午前十一時三十分淡水に無事歸着せられたり。

同日、歐米の新文明を踏査せられたる石塚官長の歸朝を歡迎すべく豫て出迎への爲に總督府より出張せし大鳥祕書官中山、關屋の兩參事官（今の宮內次官）中村稅關長の諸氏本船に出迎へ斯て官長は上陸稅關長官舍に小憩の上水上警察小蒸汽船にて淡水を發し、同日午後三時臺北に歸着せり。大稻埕にては後藤民政長官を始め鈴木覆審法院長、大島參事官、並に中村、木村、加藤、松岡、浦其他の高官及添田臺銀頭取、柳生副頭取、賀田の諸氏等民間紳士無慮數十名淡水河畔にて待受け一同棧橋に出迎へ晴れの歸朝を祝福せられたり。當時歸朝記念の寫眞として撮影せられたるものあり。（三好德三郎氏秘藏）一見して英姿颯爽、當時の服裝としては極めて**ニユウスタイル**、今日の所謂**モダン**なるものなりといふ。（口繪參照）

## ◉洋行中の消息

石塚臺灣總督府參事官長は十二月末に伯林着一月二十日ブラツセル、巴里、ツーニス、羅馬に旅行し再び伯林に歸り又墺地利、露西亞に旅行し五月十一日最後に伯林に來り倫敦、古倫母、カルカツタ、ラングン、ペナン、新嘉坡、爪哇、安南を經て九月中旬臺灣に歸着すべしと。

石塚參事官長は二月二十五日當地に着し來る二十六日頃よりアルゼリー巡視の途に就く筈(三十三年三月三日巴里發)

## 桃園居士の書翰

桃園居士石塚英藏氏露に歐米に出張を命ぜられ其途に上られてより久しく消息を聞く能はざりしが此の程旅行先より左の如き書翰を寄せられたり。こゝに掲げて銷夏錄の一節となす、謂ゆる歐山米水の勝、亦自ら其の一斑を窺ふに足るものあらん。

貴社益々御清榮奉賀候、同行の森は出發の際、貴社に通信の約束致し候趣の處、一同の外、其の義務を忘り居候由、小生は其の義務なきものには候へ共、一、二度位は貴社の御機嫌可相伺置心得の處實は森の上手にて是れ亦た疎音に打過ぎ何とも申譯無之候、扨て亞弗利加の旅行に就ては去三月十五日アルゼ市に着、四日間滯在の後、獅子の棲むてふ山を越え、佛國の保護國なるチユニス國に出て、三日間の滯在を以て兎も角も結了を告ぐることゝ相成候。

夫れより伊太利に渡り、瑞西に出て、獨の新領アルサス、ロートリンゲンに參り、三日間滯在斯くて伯林に歸着し、更らに同地を發して、墺都ウヰンナに赴き、ホスニヤ、ヘルツエゴビナに關する取調べをなし、二十三日同地を發し、セルビア國を過ぎ、ブルガリア國に入り、其の首府ソフヰヒを經て二十四日午後八時、恰も同府も土耳古ブルガリア國境との中間に來たれるとき、前日來の降雨に出水甚しく、線路破壞し翌二十六日午前までを、汽車進行するを得ずとのこと、然るに此地は山間の一小村にて別に見るべきものなく、旅客の大半はソフヰアに引還したるも我々は汽車籠城策を執れり、無聊甚だし是れ意外にも貴社に一書を送呈するに至れる所以に候貴社請ふ之れを咎むることなかれ。

去りながら取調事項を通信するも如何ははしく旅行日記は簡單に綴り難きを以て隨所遺らがしたる腰折數首を記して、聊か笑覽に供せんとす、但し小生は勿論歌人にあらねば、チニオハの不都合等はお諒恕を願ふ所に候

見渡せば野にも山にも色添えて
　春の心ぞ今知られける

綠なる野山の色に今ぞ知る
　亞米利加洲に春のありとは

亞弗利加旅行のときは、春三月の下旬なりしも、恰も東京の五月末六月始の氣候にて、見渡すかぎり新綠ならざるはなく、而かも諸處に梅、桃、李、梨の花など、艶を競いて咲きほこり、其の風光の佳なる、豫想の外に出で申候、依て右の句あり外に追加として

青柳のなびく姿や洗髪

おかしきは候、チユニス市を北西に距ること數哩の處にカルセージの古跡あり、半ば以上は地震の爲め、地中深く陷落し、今は一帶に湖水となれり。

其の一
　憂かりける古き都のカルセージ
　　千尋の底に沈みけるとは

其の二
　音に聞く古き都の跡訪ふて
　　熱き涙に袖しぼりけり

其の三

遠近に堆かまれる石の丘
　なれし都の果ぞかなしき

右にては餘りに眞面目に過ぐるもの御非難もあらんかと存じて

顏の黑いのに、白齒が見ゆる
　あれは日の國、色男

右は小生及び人見の合作なり、顏の黑さと齒の白きとは、野蠻人の特質なるかは知らざれども、歐人と比較すれば、我々は此の二點を確かに具備致候マルセイユ港よりアルゼリーに至る海上、僅かに一壹夜の間に、元來黑き顏が凡そ五六割方も色上げを爲し壹而して齒の白きこと益々著るしアルゼリーに着して見れば、土人よりも遙かに黑く彼處になる歐人とは勿論比較にならず、依て右の作あり、こゝに一の參考ともなるべきは、巴里の一婦人（是れは人見一太郎の知己にて一日小生も森も訪問したり）が森を評せる言葉「彼の人は立派な日本人なり大變齒が白い」とありたる一事に候、妙味ある言葉ならずや。

ハンガリー、セルビア、ブルガリーアの途上、諸處山櫻の開くを見たり、何となく故郷懷しく、又敷島の大和心の歌など思ひ出して、

とつ國に櫻の花は數あれど
　花の心を知る人ぞなき

又紀貫之の人となりを氣取るにはあらで、その境遇を氣取りて、ドナウの河を渡りけるとき、戯れに斯くもならんかとて、

ほの〳〵とドナウの河の朝霧に
　山かくれゆく汽車をしぞ思ふ

先づは是れ限り、御一笑被下度候

# 六　歐米各國視察談

國語研究會席上に於ける石塚官長の演說

## 新領土と國語教育（於國語研究會席上 明治三十四年二月十七日）

臺灣協會支部長代理　石塚英藏述

諸君豫て會期を約し置きたる如く、新領土と國語教育との關係に就て一言せん。

念の爲めに申置かん、余が玆にいふ（新領土）とは最も廣い意味にて所謂植民地と稱するものは勿論其の他保護國附屬地を包括するつもりなり問題の趣旨は是等の地方に於て各本國の國語教育は之れを如何に施設しつゝあるか、即ち如何なる方法手段を以て之れが普及、及び擴張に從事しつゝあるかといふ事に就て曰はんと欲する也。

本題に入るに方りて第一に述べて置かねばならぬ事は、國民的運動の目的といふこと之れなり。この國民的運動なる語は凡そ或る國民が其の母國を去りて他に植民するとか或は領土を擴張するとか、又は其の他勢ひを海外に扶植するとかいふ如き、他國民に對する一國民の運動を稱す。この國民的運動なるものゝ目的は何にあるかといふに、古來種々の形となりて現はるゝも要するに孰れも國民的生存競爭の行はるゝが如く各國民間は又國民的生存競爭が行はれつゝあり。言を換へて詳く申さば、地球上に散布する無數の國民は互ひに他の國民に敗けず、否寧ろ他の國民を壓倒してまでも自分を發達せしめ、他國民を排斥しても自分を繁昌せしめんとし最も激烈なる競爭をなしつゝあり。人類ありてより以來今日まで幾千萬の戰爭ありしや數ふるに遑あらざるも、一つとして此の思想に支配せられざるものあらず彼の蒙昧無智の野蠻人の鬪爭も最も文明に進歩せる歐米人の戰爭も、其の規模の大小並に戰鬪方法の差別こ

そあれ、其の他を壓倒して自ら起んとするの趣旨に至りては毫も異なる處なし。否寧ろ各國民間の競爭は近時文明の進むに從ひ益々激甚を加へつゝあるにあらずや。これ何の爲めに然るか、請ふ一歩を進めて其の然る所以を說かん。蓋し一面に於て地球は甚大なるが如しと雖も、面積限りあり、而して他の一面に於て人口の繁殖各國民の慾望は限りあるなし、故に各國民の由りて以て生存し、由りて以て發達し得る範圍材料は、日に月に減縮せざるを得ず、之れ世の進歩するに從ひ各國民間の軋轢競爭の愈々盛んなる所以也。

前世紀の始めより以來各國、殊に五六の歐米各國民が植民競爭に熱中しつゝあるもの皆此の理に外ならず。歐米各國の如き通常貿易卽ち文明的行動を標榜とする植民政策も、侵略併呑を主義とする露國の如き植民政策も詰る處は孰れも國民的發達、國民的生存競爭てふ經濟的觀念に驅られつゝあるに外ならず。國民的運動といふ事の目的は、斯の如く自國民の發達を圖るの思想に出でざるなし、故に若し新領土に於て二個の人種相接觸するときは、優等人種は劣等人種を己れに同化せしむる事必要なるを感ずるの理由も亦自ら明白ならん。

同化とは申すまでもなく、一民族が、他の民族の言語風俗習慣其他の特性を還して己れに化せしむること、卽ち俗を換へ、風を移すをいふ。固より同化には時と場合により夫々緩急遲速の差あらざるべからず。之は各場合に付き決定すべき所謂事實問題也。然共新附の民人を何時までも客分の待遇をなす事は到底事情の許さざる處なるのみならず、國民的運動の大趣旨に反す。故に結局の目的は之を化して我國民と同樣の國民となし、打つて一團となすの點に置かざるべからず。

孰れの新領土、孰れの植民地にても同化を以て統治の最終目的とせざるはなし。彼の印度の如き、爪哇の如きすら尙且つ今日は同化の方針を採りつゝあるにあらずや。

次に國民教育は如何に新領土に必要なるかの一端を述べん。蓋し同化なるものは民族の特性を移し化するにあり。而して民族の特性とは前にも一寸申述べたる通り言語、風俗、宗教、法制等にして就中言語は最も力强きものにて他は皆自らの之に伴ふが故に同化の最大要素は、言語にあることは自ら明なり。或は本國人をして土語を習はしむるものもあらん。然れ共、之れ畢竟一時の目的にあるものにて永遠の目的は、土人をして本國人の方に接近同化せしむるにあるを要す。

國語の盛衰は其の國力の消長を表するものなり。彼の人口四億を有し世界到る處に領土を有し、宛然世界的封建の勢ひをなせるものは英國にあらずや。此の廣大無邊なる領土は卽ち英語の行はるゝ範圍（米國及附屬國を除く）卽ち英國の勢力區域なり。一體アングロサクソン人は到る處言語は勿論、風俗習慣等携帶して決して失墜せず、劣等人種に接觸するも、自己の品位を墜落することなくよく世界の各人種を己れに同化せしむ。獨逸人の如き大いに之れを羨ましく感じ居れり北米合衆國の白人種の約三分の一は獨逸人種なるに拘はらず、言語風俗其他の特性を失ひ、全くアングロサクソン人種に同化せられたる實例あり。アングロサクソン人の力實に偉大なりといふべし。

之れに反して我日本の國語は如何、日本國を一歩踏み出せば之れを話すもの殆んど一人もなき有樣なり。之れ蓋し一は其の實力の大なるより他國民が競ふて其の言語の必要あると、他は國力小にして全く其の必要なきとに由らずんばあらず世界に於ける日本の價値は、未だ嘆息に堪えぬ程度にあるなり。

言語に重きを置くの度合に就ては、歐洲と東洋とは非常の差あり、一體に言語といはずまた日本にては差程必要とは思考せず、之れ日本人が、今日までの位置からいはゞ孤立的にして世界的たらざりしにより歐米各國民が孰れも語學に重きを置くは實に思ひ半ばに過ぐるものあるなり。何れの國にても普通教育は男女子共に語學に重きを置かざるはなし、彼の最も國自慢なる英國人すら近年多く自國語の外、佛語若くは獨語を學ぶの風あり、又自國語は外交的言語世界的言語なりと自負し來れる佛國人すら近頃は英語又は獨語を學ぶもの多し、獨逸人に至りては必ず外國語の一又は二を話せり、露國人亦佛語或は獨語を能くす、要するに今日歐羅巴の有樣は可成多數の外國語を話す程夫れ丈け完全なる教育を受けたるの徴證となせり。我國民が將來世界に立て歐米の强大國の仲間入をなして國を建て行くには中流以上の者は必ず一、二の外國語を學ぶを要すべし。

各國民が如何に語學に重きを置くか、又如何に語學の肝要なるものかを知るの利道ならんと信ず、是れより進んで各國が如何に自國語の隆盛擴張に努めつゝあるか、所謂國語の生存競爭あるものゝ實況を示すべし。

## 露國

自國語の擴張他國語の壓倒に付て極端の手段を執るのを露國とす、尤も露國は種々雜多の人種より成立ち居る尨大なる

帝國なれば統治上百事抑壓主義を執るの止むべからざるものあらん。**ポーランド**＝**ボウランド**は御承知の如く一時は歐洲の中部に位する一大帝國として彼の土耳古軍半日旗の向ふ處敵なく、西部亞細亞、北部亞弗利加及東南部歐羅巴を切り從ひ一旦は大擧して墺都維納也を包圍し、同國の運命旦夕に迫るに際し進んで其の窮を援ふて土耳古を歐洲より驅逐し、爲めに流石の勇悍猛烈なる土軍をして再び足を歐洲の中原に容れざらしめたる程の天晴なる强大國も漸次年を經るに從ひ國力次第に衰ひ露國の蠶食を被り遂に一千八百十五年露普、墺の三國間に分割せられたるなり。爾後暫くの間は自國の憲法を其儘襲用し、自己の政府を有するを許されしが遂に全く之を禁ぜられて全然露國に合併せられ十萬の露兵に制馭せらる、而して公用語として**ポーランド**語を使用するを禁ぜらる。其の後國語に關する露國の抑壓愈々甚しく總ての學校は**ポーランド**語を教授するを許さず、或は一學生が**ポーランド**語を使ひ直ちに退學を命ぜられしことあり。又店舗にても**ポーランド**語を使用するを禁ぜるを以て其の結果として各店舗は一人宛の露人を雇入れざるを得ざるに至れり。其の他**ポーランド**人は官吏に任用せず、**ポーランド**より徴集したる兵士は必ず**ポーランド**以外の地に於て服役せしむる等抑壓至らざる所なし。次は**フキンランド**なり此大公國は一千八百九年露領となり爾來自國の國憲を持續するを許され元老院も貴族、僧侶、市民、農民の四種より成る議會あり。之れを統ぶるに露帝派遣の總督を以てし軍隊、外務の事項は露國當該大臣之れを管掌せり。然るに爾來各種の權力は漸次露國に吸收せられ、抑壓を被り**フキンランド**人は**ポーランド**に於けるが如く露國の徴兵令に依り兵役に服するも必ず大公國の國境外に於てせざるを得ず、同國人の内より任命する當初の約束なりしも露帝は近頃詔勅を發し其の擔保を撤回したるを以て大に紛雜を極めたり。然れども抑壓の最大なるものは國語問題なりし、則ち昨春露帝は露語を以て爾後**フキンランド**の公用語と爲すべき詔勅を發せるに**フキンランド**元老院は之れを以て違憲なりとし、反對の決議を爲し、國内一般之れに向つて最も熱誠なる同情を表せり、蓋し當時二百七十萬の人口中露語を話し得る者僅かに八千人に過ぎず、故に右詔勅の通り實行するときは**フキンランド**に於ける高等行政官は總て露人の手裏に歸する譯で誠に國の存亡に關することなりし、然るに露政府の干渉の結果ならん元老院の硬骨議員多數は其職を辭し皇帝は其の後任者を任命し案は遂ひに同院を通過し、之れに依り**フキンランド**の高等行政に關する言語は露語を使用するに決定せり。

## ハンガリー

是れは御承知の如く現今の墺匈國の一部を成せるが其の人種は亞細亞人種にして中央亞細亞より起り歐羅巴に侵入し諸所を暴廻り遂に歐洲に根據を据へたるものなり。其後勢力衰へ一時は土耳古の爲めに大に困められ、又墺地利の爲めに征服せられたりしも爾後再び國運著しく進歩し農業工業等非常なる發達をなし、今日亞細亞人種を以て歐羅巴の一隅に割據し、列强と相駢んで國を建る異數の國民にして政治は立派なる憲法政治なり（亞細亞人種にして議會を有するもの東に日本國匈牙利あるのみ）扨て墺匈王國は實に種々雜多なる人種より成れり。第一獨逸人種、第二匈牙利人たる**マキアーレン**人種、第三**スラーブ**人種、就中**ルーマニア**人、**セルビア**人、第四猶太種等は其の重なるものなり。此等の人種は各言語、風俗、習慣等を異にするを以て國内の紛爭常に絶ゆることなく所謂國民問題及言語問題は墺、匈國の專賣特許と稱するも評言にあらず。而して匈牙利は其の動力の最も著しきものなり。而して匈牙利國にも**マキアーレン**人種の外**スラーブ**人種、獨逸人猶太人等雜居すれども政治上社會上他人種は皆**マギアーレン**に壓倒せられて殊に農業の實權は全く彼等の手になり匈牙利にては今を去る十年前迄は大學、中學、小學に於ては獨語を以て教授せしが、其後一切之れを匈牙利語に改めたり。又官廳の用務も一切國語となし、唯人民より差出す願書類は獨逸語**ルーマニア**語其他の外國語にても差支なしとするも今日の趨勢は之等の場合にも總て國語を用ゆる樣に改めんとしつゝあり。其他新聞紙雜誌の數も國語を用ふ、此の如く匈牙利の國民的運動の趨は墺國と離れて自立自存其國を建てんとするにあり而して其運動の最も力强きは則ち言語問題なりとす。

## アルサスロウレン

是れは御承知の如く千八百七十年の普佛戰爭の結果戰敗國たる佛國より戰勝國たる普國に割讓したるものなり。互に境界を接する土地の授受なれば佛國方の遺恨は固より深かりしが普國方の心配も亦實に容易ならざりしなり。依て普國の方にても法律制度を始め萬事急激の變更を避け暫く佛國政治の間に依らしめ裁判所の如き、學校の如きも佛語の最も盛に行はるゝ地方にては用語を佛語となす等用意周到、苦心慘憺の形跡明かに見へたり。然るに近年漸く此の變則を廢して總て

獨語を用ふるに至れり、右の如く一時佛語を國語と爲すを許したるも近來凡て獨語に改めたるも均しく是れ國語に重きを置きたる例證なり。

### アルゼリー及チエニス

是れは北亞弗利加の地中海に瀕する處にあり一は佛國の植民地（法律上植民地なる名稱を用ひず）一は其の保護國なり、此二國に於ける佛國の教育策は全く相同じ、其の大眼目は第一に土人をして亞剌比亞語を忘却せしめ佛語のみを理解せしむるにあり。故に教場にあつては可成アラビア語を話さしめず、佛語を話さしむる樣にせり。從て此の地方にては土人の佛語を操る者甚だ多く之に反し官吏其他佛人の土語を話す者其の數少なし。第二に實用的智力を發達せしむるに在り、普通教育にも高等學校には必ず農事試驗場を設け又は大工、左官、鍛冶等の工手に屬する科目を併せ教ゆ、其他チエニスには學校の外に外國人に佛語普及を課する私立協會あり。此の如く官民は鋭意佛語の擴張に努めつゝあり。獨人抔は國語の擴張に付ては獨逸は到底佛國の後に瞠若たるを免れず抔言つて嘆聲を發せり。

右は最も著しき例を擧げたるに止まる、右の外孰れの新領土にても本國語を以て教育の要素と爲さゞるはなし。彼の從來教育には全く無頓着なりし爪哇の如きも近年來全く其の方針を一變したり。元來和蘭の爪哇統治の要旨は單に土人を勞働の器械（強制勞働等方法に依る）に利用するに止まり、之れを開明の域に進むる抔は思ひも寄らざりし隨て土人をして和蘭語を學ばしめたり。馬來語を公用語として蘭人相互の話し居ることは土人は全く了解する能はず、又は新聞雜誌等讀み世界の形勢を知るに由なかりしなり。然るに近年段々之れに對し非難の聲あり、和蘭政府は止むを得ず學校を開き、土人の子弟に和蘭語を教ゆるに至れり。

又比較的に教育を輕視したりし印度の如きも近年大に其の面目を改めたり。印度の教育は十九、二十世紀の中葉にては大に度外視せられ現に東印度會社が印度を支配せる時代にありては努めて土人の歐化するを妨害せり。其の趣旨は、惟ふに和蘭の爪哇に於けると同樣なりしならん。然るに其後第一に上流社會を教育するの方針を執り漸次全體に及ぼせり。一千八百九十年の調査に依れば三百五十萬の學生ありしと云ふ。想ふに今日は頗る增加せしなるべく而して英國サンスクリツト、アラビア語は一般に小學校教育にもありて、其の首要の部分を占む。元來印度には十數箇の國語あり、故に同國人は互に談話する能はず英語を能くする者の間にては英語を以て相互の意志を疏通せり、故に將來勿論遠き將來に於ては英語により印度の言語は或は統一に歸するの時なきにも限らずと思はるゝなり。

叙上陳べたる如く同化は國民的運動の大眼目にして言語は同化の最大要素なり。果して然らば、我臺灣に於ても國語教育は將來大に之れを擴張すべきも斷じて縮少すべきにあらず、勿論內地人は官民共に土語を習得すべきは當然の事なりと雖も、是れ畢竟一時の手段に過ぎずして永遠の目的は臺灣人に我が國語を普及するにあり。今夫れ能く日臺兩民間の關係を密接にし相互の意志を疎通し且つ、臺民をして、我が皇帝に對する尊敬忠愛の心を發揮せしめ、永久離るべからざる關係を作るは實に國語教育を措いて他に策あるを見ざるなり。然り而して國語を如何にして臺灣人に教授すべきやは此の研究會の目的にして本問題の領分外に屬するものなり。（完）

## 第四節　總督としての石塚氏

### 一　總督の新經綸

石塚總督は臺灣初期の統治に參與せられ其の幼時を教養せられて、實際によく本島の資性を知悉せられし人なるは叙上の如し。爾來星霜二十有餘年を過ぎ、文明は物質精神の兩面に種々織り込まれ居るも、臺灣の山河草木は依然舊の如く、恩師の禮を以て歡迎せられたるは絮說を要せず。石塚總督の祖、會津藩は敬神崇祖の念を以て其の子弟を教訓した所にして、總督の淸操大節、公明通正は或は施政方針の訓示に現れ、或は府內有司の任免に表はれて陣容整々たるものあり。而も其の天分の高處をして徒らに民心に阿ねるが如きことなく、其の鋭眼は恒に中央にのみ反射せず兩端に反映し思慮極めて周匝なるものあり。

文官總督以來、其の經綸策子、文弱に流れて見るべきもの尠なし。石塚總督は莅任直ちに府内有司に訓示せる施政方針なるもの見るに實に堂々たる金言を見るが如し。千百の空言、世に何等の益なし、大丈夫の言は金鐵の如しと云へり。今之れを布衍して將來統治の證左となさん。

顧みて之れを始政草創の際に比すれば、實に隔世の感なくんばあらず、然れども帝國の隆運に伴ひ、本島の庶政を釐革し、進んで規畫運施すべきもの將に漸やく多きを加へんとす。予は其の責務の重且つ大なるを感じ蓑々匪躬の誠を効さんことを期す。と

過去に於ける統治の變遷を稽査し、尚將來の施設經營を透視したる石塚總督の方策は將に之れより大なるべきを信ず。更らに國民精神の涵養と國體觀念を鞏固にして質實穩健の氣風を作興し、民俗をして中正敦厚に歸せしむるは刻下の急務と說き、特に一段强く

苟も國是と相悖り累を統治に及ぼすが如き事象あるに於ては毫も寛假する處なかるべきなり、と

島民思想の詭激を戒しめて、斷乎たる態度を明かにせり。これ本島の情勢を洞察せられたる箴言といふべし。敢て民心に投するにあらず、又敢て世に阿ねるものにあらず、この訓示を讀むもの誰れか近來の名總督と稱揚せざるものあらん哉。

蓋し文官總督の訓示中、統治の威を示せる態度を表明せるは石塚總督一人あるのみ。內田總督時代、過激なる思想團體には斷々乎として民心の孚動を許さゞりしが龍頭蛇尾に終りし感ありき。爾來農民運動熾烈となり、權利義務の高調は伊澤、上山、川村の總督時代最も顯著なる事象を呈し農民組合數殆んど百三十餘を算し、地主と小作人との分配爭議は日一日に增大し、遂ひには取締の任にある地方官衙に不逞の行動をなし、至る處風を臨んで附和雷同の徒益々其の數を加へ、生產分配の均衡を叫ぶもの枚擧に遑あらざりき。

石塚總督は往年兒玉總督統治の張子房として法制に明く、理に長じたる人として名あり、彼の律令六十三號の如きも此の人の手に依つて立案せられたるものと聞く。故に彼の匪徒刑罰令の如きも審議立案に參畫せられたる人として夙くより島民の熟知せる處なり。轉じて、

公私經濟の更新を策し、民力の涵養に力め財政の整理緊縮、上下相戒めて冗費を節し、浮華を去りて勤儉力行の美風を興すべし。と說き、

民生の安泰康福は殖產興業に俟つもの多しと斷じ、進んで本島天與の資源をして巧みに之れを利用し、尚ほ生產力の進展開發の餘地をして施設其の宜しきを制して、民人の奮勵努力に因り之れが興隆を圖りて新生面を開拓すべし。と言及し、益々本島をして眞の產業國たらしめんと說きたるは流石に本島の實際に通曉されたる石塚總督にあらずんばこの鐵案を下す能はざるべし。

往年參事官長として兒玉總督の陶冶訓鍊を受け、其の坩堝に注入洗鍊されたる石塚總督の訓示は兒玉總督統治時代に比し、更らに一段の光彩を放ちたる感なくんばあらず、簡潔公明、理路整然首尾一貫して正に堂々として衣冠の峨々たるものに接するが如し。一の冗文なく一の飾言なし、蓋し石塚總督の全人格の反映と見るを得べし。

## 月餘に亘り全島視察

石塚總督は着任旬日にして、九月十二日より西部臺灣の初度巡視に上り、次で九月二十四日より澎湖島並に帝國南端の鷲鑾鼻を窮め、更らに陸路東臺灣を周り臨海道路の險を突破して蘭陽に出で、十月七日全島一周の視察を了れり。著者本島に筆を載せて二十年、此の間歴代總督の地方巡視に同行せざるはなしと雖も未だ曾て石塚總督の如き一氣呵成的に全島を巡視せられたる例あるを見ず、何れも西部臺灣を巡視せば、先づ上京する例多し。澎湖及東臺灣は或は半年後或は其の翌年に至るもの多かりき。この一事に證しても如何に石塚總督は恪勤精勵、範を有司に示して、本島統治に眞劍なるかを窺知し得べきにあらずや。

然して從來、文官總督として各地方に駐屯せる軍隊訪問の如き殆んど絕無とされたるが、石塚總督は先づこの炎南の天地にあつて國防の第一線にある軍隊に、自ら駕を枉げて訪問し、溫情懇切一場の訓話を與へしが如き　陛下の股肱たる軍人をして如何に奮起感激せしめしか、著者この涙ぐましき光景を見て轉た感涙禁じ能はざるものありき。

石塚總督は地方長官會議を開くに當り從來の如き形式を去りて愼重審議の實を示して傾聽時の移るを知らざるが如く、

地方長官の答申、諸問の如き聳耳張目して議場を緊張せしめ、地方長官をして冷汗爲めに背を霑ほすものありしと謂ふ、公人として其の眞摯にして嚴正なること斯の如し、而も私人としては温容玉の如き風格高雅の好紳士なり。

而して任後僅かに半歳、銳眼早くも各般の施設を透視して其の改廢を調査しこれが案配、勘考して新經綸を行はんとす緊縮内閣時代に於て、一度事業を休止せる臺東新港の如き、當初の豫算五十萬圓に尚二十五萬圓を增額し七十五萬圓として復活せしめ多年の懸案をして解決せしむるに至れり。更らに二十一萬圓を投じて花蓮港の吉野埠圳を開鑿せしむ。其の他馬太鞍溪の鐵橋數へ來たらば東部開發は領臺三十五年以來未だ曾て見ざる大施設と謂はざるべからず。次に西部地方の施設としては嘉義新竹の市制實現、地租の調査事業、高雄、基隆兩港の築港繼續十キロ放送の實現、臺南高等工業學校等前總督の計畫なりと雖、これを解決せしめたるは石塚總督なり。而して新政策としては南支南洋調査費として、南洋各地に企業を興すものに對して金利の補助を與へる方策を講じ華南銀行をして意義ある活動を開始せしめたり。

近年臺灣茶の不振に伴ひ茶商の萎縮退嬰甚だしきものあり。之れを救ふ爲めに茶の關稅（年額四十萬圓）を撤廢し、尚進んで奬勵費を給する等積極策を樹立して茶業の興隆を圖らんとせり。

更らに國家百年の大計として、本島に於ける富源未拓の蕃地を調査して、古く藏されたる林產、鑛山の探見に意を用ひ着々實行せんとす。東部臺灣には全島面積二分の一なる蕃界處女未開拓なる、所謂無限の寶庫は永遠に其の鍵をして開かざるが如きは、彼の佐久間總督の理蕃事業をして恰も畫餅に葬るの感あり、討蕃事業は佐久間伯が一身を賭して敢行せる事業にして固より毀譽褒貶顏中になく『化外の民をして化して以て忠良なる農耕の民たらしめん』となしたるものなり。

由來蕃界は山嶽重疊、岩壁削るが如きものありて、之れが實際踏査は難事中の難事に屬するも、今日に於ては蕃地は平穩に歸し、却つて平地の不良青年に比し遙かに優れるもの多し。石塚總督は蕃地の開發を期すると共にこれ等善良なる蕃民の撫育に力を臻さんとす。誠に時勢に適する事業といふべし。著者曾て明石總督に聞く、兒玉總督は平地を夷ゲ民心の歸一を期したり。佐久間總督は蕃地化外の民をして概ね皇化に浴せしめたり、予は今後蕃地の利用開發に向つて邁往直進すべしと說きし事あり、然るに天は將軍に壽を藉さず大志空しく病を得て易簀す、あゝ嘆すべき也。

石塚總督は地方制度の釐革にも多大の抱負を有し今や郡守の職權より警察權を分離せしめて警察署の獨立を見んとす。蓋し時勢に副ふる所以なるべし、更らに進んでは郡の廢合も當然實現せらるべきものと信ず。其の他評議會員の增員、產業調査會の設立等臺灣統治上に生彩を帶ぶるもの蓋し大なるものあるを見るべし。

（昭和四年八月二十八日）

## 二　石塚總督訓示

余曩に兒玉總督の下に機務に參畫すること多年今回圖ずも大命を拜し二十有五年の後再び任に玆地に莅む轉懷舊の情に禁へざるなり、惟ふに一視同仁の聖澤は遠きとして屆らざるはなし夫れ益德化を宣揚し四百萬民衆の文化の向上と福祉の增進とを維れ力むるは仰いで聖旨に副ひ奉る所以の途なり歷代總督孰れも此の精神を一貫して渝らず官民亦協心戮力以て今日の治蹟を奏せり、顧みて之れを始政草創の際に比すれば實に隔世の感なくんばあらず、然れども帝國の隆運に伴ひ本島の庶政を釐革し更に進んで規畫運施すべきもの將に漸く多きを加へんとす、余は其の責務の重且大なるを感じ蹇々匪躬の誠を效さんことを期す。

國民精神を涵養して國體觀念を鞏固にし質實穩健なる氣風を長し民俗をして中正敦厚に歸せしむるは實に刻下の最大急務なり、苟も國是と相悖り累を統治に及ぼすが如き事象あるに於ては毫も寬假する所なかるべきなり。

顧ふに經濟界は久しく沈滯し爲めに國民生活は其の安定を脅威せられつゝあり此の際官民心を一にして公私經濟の更新を策し專ら民力の涵養に力めざるべからず則ち財政に整理緊縮を加ふると共に上下相戒めて冗費を節し浮華を去り以て勤儉力行の美風を作興せんことを望む。

民生の安泰康福は殖產興業に俟つこと最も多し本島は天與の資源に富み生產力の進展較著なりと雖開發の餘地尚大なるものあり、須く施設宜しきを制し民人の奮勵努力に因り之れが興隆を圖り新生面を開拓すべし、斯の如くなれば亦以て濟世匡時の上に裨補する所多かるべきを信ず。

官紀は常に嚴肅を保たざるべからず、蓋し國運の消長民生の休戚盡く之れに繫ればなり、而も其の一弛一張は民風に影響する所亦頗る大なり公器に參與する者意を玆に用ゐ、吏道を恪遵して苟も怨る所なからんことを要す。

茲に著任に際し素懐の一端を披瀝したり、諸氏克く余の意を體し和衷協同恪勤勵精規律を嚴にし操守を堅くし公明親切事に當らんことを望む余不敏なりと雖も區々の誠を致し諸官の黽勉と相俟ちて此の重責を全ふせむことを庶幾ふ。

## 三　全島官民合同の歡迎會席上に於て石塚總督の挨拶

閣下各位此度私は總督として又人見君は總務長官として來任致しましたに就き本日各方面の有志諸君が斯くまで御集り下され私共兩名の爲め歡迎會を催されたことは衷心感謝に堪へず厚く御禮を申述べる次第であります。諺に申まする一樹の蔭に宿り一河の流れを掬むは皆是れ他生の緣とありまするが、私の臺灣に對する因緣は斯樣な手輕いことでは無く前世の宿緣深きものあるを考へて居ります。私は二十數年前にこの臺灣を離れた後は眞に疎遠に打過ぎをりまして內心申譯無く存じて居りました。實は衷情を告白申しますれば再び臺灣に於て諸君と御眼にかゝる機會はないものと思つて居たに拘はらず今回計らずも再び來任するに至つたことは誠に深き宿緣の致す處であると思はねばなりません。

昨日基隆から當地に參りまして舊山河に接し舊知諸君に御眼にかゝり眞に感慨無量なるものがあります。我が臺灣は歴代總督並に諸君の御盡力によりて凡ての事柄は有形無形に非常の進歩發展を遂げ二十五年後の今日突然拜見した私は實に今昔の感に堪へないのであります。否隔世の感に堪へないのであります。斯の如きは皆是當局者並に諸君の盡力の賜なりと信じて疑ひありません。私が前に當地に參りましたのは

### 兒玉總督に隨つて來任

したのでありましたが、當時兒玉總督の年齢は僅か四十七歳私が三十三歳、後藤長官は四十二歳でありました。然るに今や兒玉總督を始め先輩各位は皆既に故人となり獨り私のみが碌々生を偸んで今まで生き永へて諸君の盛大なる歡迎を受けます事は誠に諸先輩に對し恥ると共に一面には深き感慨に閉されるのであります。

兒玉總督が總督に親任せられた當時は統治の見當がまだつかなかつた、斯く申すと諸君は意外に思はれるであらうが、其の當時は此の臺灣が帝國の領土に歸して間もない事で之れを如何にして統治すべきやに就て何等の經驗あるものが日本人中には見當らず參考となるべき書籍もなかつたので政府要路に於ては種々考慮の結果當時英國人にして司法省の顧問であつた**カークウド**なるものが曾て英領印度及び緬甸並に海峽植民地等の事情を知れる故を以て顧問にしたら宜からうとの議が起り之れを招聘することに閣議が一決した、其の招聘條件は頗る過當なものであつた。

即ち親任官の待遇とし夏は東京に冬は臺灣に各官舍を支給し、統治に關する凡ての重要なる問題は必ず事前に彼の意見を聽くといふ條件であつた。斯る不當の條件も當時の當局者は何等不審とせず忽ちにして決定したのでありまして英邁なる兒玉總督も如何なる考へであつたか、之れに贊成したといふ事を後に至つて聞いた、後藤長官と私は之れは日本人の面目問題で且つ又實行の出來ない事柄であるから斯の契約は打破つてしまはなければならないと相談し、兩人揃つて兒玉總督の處に往き私共は如何樣にも勉强いたしますから**カークウド**との約束は破棄して了ふやうに願ひたいと希望した處、流石は兒玉總督である、忽ち言下に承知して然らば其の交渉にお前が上京せよと命ぜられ、私は東京に使に行つたのでありました。當時の內務大臣は芳川顯正子で、私の言ひ分を聞き一體何の理由にして契約を破棄すべきかについて問はれた、其の時私の答へた事は今から思へば洵に滑稽千萬の話であるが、當時兒玉總督は至つて小さな官舍に居られたが、そこには南京蟲が猛烈に跋扈して居て總督は盛んに喰ひつかれ身體處々を腫らして繃帶をして居つた始末で當時は

### 南京蟲といふものは怖ろしい

者だと懲り〳〵してゐた際なのでこの南京蟲を理由に**カークウド**を擊退しませうといつたのである。そこで契約拒絶の理由として第一臺灣は南京蟲が多いから歐洲人が來たら大變な目にあふと申し出た處が、彼**カークウド**は曾て印度にて散々に南京蟲の經驗をしてゐるから何んでもないといふので、第一の交渉は物にならず、この上は玄關前の議論では駄目であるから寧ろ本論に入つて日本人の面目問題から契約を破棄したいとの事を申出でた、之れに對し芳川內相は默つてゐたが傍に居つた當時の臺灣課長森田茂吉といふ人當時の內務書記官が口を出して一旦閣議で決定したものであるから是非實行せしめる必要があると主張し、內務大臣は默して言葉なかつたそこで私は果して然らば問題は至極簡單に片付きませう、

卽ち其結果は兒玉總督も後藤長官も必ず辭職することになるであらうと思ふが歸つて左樣復命して宜しきやといつた處、

### 芳川內相は待て〳〵と押し止め

結局カークウドとの契約を破棄して呉れたのでありました。斯樣な事情があつたのであります。今日から考へて見れば誠に馬鹿げた話でありますが當時は臺灣統治について何等見當がつかなかつた、その爲め斯樣な事が起るの餘儀なき狀態にあつたのであります。定めし諸君は意外の感に打たれるでありませうが、實際は全くその通りでありました。

然るに其の後歴代總督並に諸君の盡力により教育、產業、交通、衛生各方面に非常なる進步を遂げ、諸外國に誇るべき發達をなしたる事は御同慶の至りとして誇つて宜しいと存じます。扨て今後の事に就ては猶ほ施設すべき事多いであらうと存じますが成るべく諸君の御意見を伺つて四百萬の民衆思想を統一し內臺合一の目的を達成することに猛進いたしたいと存じます。本日は洵に厚き御親待に預りました段重ねて御禮申上げます。云々

## 四　床次氏との關係を語る

全島巡視中、臺東知本の客舍に於て一夕著者に述懷せられたる政界入りの談話がある。

自分の民政黨入りは先年床次君の勸說に據つたものであるが、熟ら〳〵考へれば人間といふものは二度此世に生れることが出來たならば、次の時代に政黨一員として活躍して見たいと考へたが、何分人間は二度此の世の中に生れることが不可能で遲まきながら政黨に頭を入れた譯である。昨年八月床次と二人が地方へ遊說に出掛けた其の時床次が演壇に立ては自分は傍聽し、自分が壇上に立つと床次が聽いて居るといふ具合に演說を濟まして二人で歸京した。然るに其の翌日であつた。朝日の大谷から（今の警視廳）電話で『床次さんが民政黨を脫黨されたといふ評判ですが、先生は知つて居りますか』と問ひ合せて來たからソンナ馬鹿なことはない、昨日まで自分と一緒に行動を共にして來たのだと返事をしてやつた。然るにそこに山本が（今の警視廳）床次脫黨の新聞號外が出たといつて知らせて來たので半信半疑して床次に電話をかけたが却々通じない。漸やくにして東京會館に居ることを突き止めたので電話で呼び出して其の脫黨の有無を問ひ合せた處『脫黨は眞實であるが、これに就て御目にかゝり度いから、東京會館に來て貰ひたい』との希望であつたので自動車で驅け付けて見ると既に新聞記者を集めて脫黨理由の聲明をして居つた。これを見た自分は何も曰はずに歸つた、其の後床次から細々と認めた手紙が來たが返事をする必要がないと斷つて置いた一方民政黨の濱口總裁に對して床次の脫黨を陳謝し、同時に自分も申譯として此の際民政黨から引退したい旨述べた處、濱口總裁は、床次君は止むを得ないが、貴君丈けは是非殘つて吾黨の爲めに援助して頂き度いと切に懇請されたので熟考の結果濱口總裁の希望を容れた次第である——云々と

世人傳へて言ふ石塚氏の臺灣總督は、現內閣閣僚の顏振れに比較して餘りに遜色あり、或は役不足なりと說き、或は役不足ならんも多年植民統治の伯樂を以て天下に鳴りし人として此の新領土經營は國家の爲めに幸福なりと斷ずるものあり。著者も亦後者の言を至言とする所以なり。人の今昔、興亡三十年の世態、榮枯一代の人事、觀じて玆に至る。其の運命の奇なるに驚かずんばあらず、而も成敗は天にあるか、利鈍は人にあるか、心中の事、眼中の景、之を寫すこと難しと雖、叙上の如く石塚氏の本島統治に於ける功績は決して僅少ならざるべし。玆に氏が過去三十年前に遺せる事蹟を主として錄したる所以は永く本島統治の活資料たらしめんが故なり。而して今後に於ける石塚總督の新經綸なるものは著者の忖度想像を許さゞるべし。

尙石塚總督が總督としての事蹟の一端を述べ了るに方り、同總督が、往年法制局參事官時代より、韓國政府顧問官在職時代、臺灣參事官長時代、關東州民政長官在職時代、韓國統治府參與官在職時代、朝鮮總督府在官時代、東洋拓殖總裁時代、日本產業協會長時代まで、網羅一括したる活躍史ともいふべきものあり。左に列擧して同總督が過去三十有餘年間に於ける。國家に貢獻せる數々を偲ばん。

# 五　過去三十年間の活躍史

## 其一　法制局在職時代（七年七箇月）

明治二十三年七月東京帝國大學の學窓を出づるや直に法制局に入り、井上毅、長崎三良、末松謙澄、神鞭知常、梅謙次郎氏等（臺灣より法制局に兼任すること二回にして、其第二次の兼任中は平田長官下に任職せり）歴代長官の下に參事官兼書記官として所管事務に鞅掌し、頻年行はれたる行政整理或は政務調査には必ず參與し、殊に深く井上、末松二子の信任知遇を得たり。井上毅子文部大臣たるに方り、偶々高等商業學校に非常なる紛糾事件勃發す、時に氏は特に同大臣の内囑を受けて之が調査に從ひ想ひ切りたる善後處置私案を内申して其の大部分を採擇せられ、該紛糾事件を解決したることあり。其の要點は卽ち校長矢野三郎氏及教官數名の解職及教則等の改正是なりき。

## 其二　韓國顧問官在職時代（一箇年）

日清戰役中我第一軍既に平壤を陷れて北進し第二軍金州半島に上陸するに方り井上馨侯（當時の伯）が大鳥圭介氏に代はり韓國公使として京城に赴任するや、先づ同國の内治外交を釐革刷新し以て獨立國たる體面を全ふせむことを期し各中央衙門に邦人顧問官を配置せり。卽ち議政府（後の内閣）に石塚英藏、宮内府に岡本柳之助、内部に齋藤修一郎、法部に星亨、度支部に仁尾惟茂、軍部に楠瀨幸彦其の他の各部に一名乃至二名の顧問官又は補佐官を推擧したり。氏は其の年十二月下旬同國に單身出張を命ぜられ、其途上廣島大本營に於て伊藤首相及伊東内閣翰長に面謁して親しく指揮を承けて前往し法制局參事官在職のまゝ内閣顧問官に聘用せらる。

初め韓國政府は法制局長官末松謙澄氏を希望せしも同氏の拒絶に依り代て之に應ずることゝなり、在留約一箇年にして翌年十月八日王妃事件勃發後十日にして歸朝す。當時同國政府は議政府（領議政及左右議政）及各衙門を以て構成し、別に官



内府を設置し組織の形式に於ては依然として見るべきものあれども實行之れに伴はず。各大臣は個々に暮夜入闕内謁を遂げて區々の行動に出て其の不統一言語に絶するのみならず、全然官府の別なく宮中卽ち政府たるの狀態なりき。氏は此の積弊を根絶する爲行政各部の統一保持に關し種々特殊の制度規定を設け左まで重要ならざる事項までも一々閣議を經由せしめ、而かも其の閣議提出前必ず内閣顧問官の檢閲を經ることゝ爲せり。

氏が顧問官在職中特筆すべき一時は夫の三百萬圓借款問題なりとす。該借款に付井上公使の斡旋に基き末松法制局長官は帝國政府の内命を啣み日本銀行の河上謹一、鶴原定吉二氏を隨へ紙幣三百萬圓を數個の柳行李に藏めて入京せり然るに韓國大臣中朴泳孝、徐光範氏等は借款亡國論を唱へて絶對に之に反對するに至れり。縱し一歩を讓りて假に借款を起すとするも紙幣を以て收受するは斷じて不可なり須く銀貨たらざるべからずとせり。然るに悲しい哉、我政府は當時僅かに三百萬圓の銀貨を放資すること能はざるのみならず、其の半額の銀貨貸付の最後の要求に對しても亦終に之を容るゝの餘裕なく、談判爲に破裂して末松氏は其の隨員を率ひて歸國の途に上らむとして遂に仁川に引揚げたり。此の刹那氏は末松氏の内意を受け首相金宏集に苦言を呈して曰く若し右借款にして不成立に歸せむか、獨り韓國の改革も獨立も絶望に陷るのみならず、對日本と國交破綻し容易ならざる事態に陷るべし。此場合首相たるべきものは所謂國家の大局に着眼し斷然俗論を排し、其の職權に依り本借款の成立を圖るべしと金首相之を頷諾して曰く今後爲に閣僚間の不和を來すべきも亦已むを得ずと。直に閣議を開きて同事件を卽決し遽かに末松氏等の再入京を促し纔に調印を了し得たり。

當時朝鮮に行はれたる文章は漢文と諺文となり、前者は廣く政府及中流以上に行はれ、後者は獨り下流社會若くは婦女子間に行はる。新に獨立國となれる面目上漢文を全廢し朝鮮固有の諺文のみに依らむとするの議政府内に熾んなりしが、斯くては同音異義の言辭多く不便多かるべきに依り、氏は兪吉濬（時の内閣翰長後の内部大臣）と協議の上漢諺交りの新文體を採用するに内議を進め結局之に決し爾來今日に至るまで社會全般に行はる。

王妃事件は勢ひの激する所洵に已むを得ざるものありしも、元來其の計畫たるや一時の熱狂に出て構思足らず。缺陷頗る多く爲めに失態百出して外は駐劄外國使臣の詰問となり、内は星、齋藤等顧問の異議あり、始んど收拾すべからざる光景なりき。氏は日本側と各大臣との間に居中斡旋して日夕善時の措置に苦心するもの十餘日に亘れり。蓋し氏に金首相の

顧問たる關係上勢ひ袖手坐視するに忍びず、右の行動に出でしものなり。然るに此の斡旋中突如として歸朝を命ぜられ途次廣島に於ける本事件豫審廷に召喚せられ其の取調を受くるに至れり。

## 其三　臺灣參事官長時代　（七年二箇月）

臺灣の我領有に歸するや、氏は時恰も韓國より復歸して法制局に在り主任として時の民政局長水野遵氏其の他と折衝を重ね、夙に同島に施行すべき諸般制度の調査立案に從事したり。惟ふに臺灣は樺山、桂の二總督を經て乃木總督に至るまで施政未だ整はず。秩序紊亂して疑獄頻發し、遂ひに高野孟矩の憲法擁護事件を惹起して紛糾其の極に達し、朝野非難の焦點となれり。偶々成立せる伊藤内閣に對しても國論は荐に臺政刷新の必要を唱導せり。氏は明治三十年六月より九月に至れるの間當時の拓殖務大臣に囑託せられ臺灣に出張し、有ゆる苦楚辛酸を經て南北縱貫旅行を敢行し、詳細なる實情報告を齎らし歸京後忌憚なき赤裸々の刷新意見並に同島將來の開發策を復命し之を拓相及び要路の各大臣等に提出したり。

翌三十一年三月總督の更迭あり兒玉將軍新に總督の印綬を佩ひ赴任するに方り、氏は同總督の要請に依り伴はれて同島に赴任したり。兒玉總督が第一次の大改革に際し斷々乎として宿弊を刷新せられたるは主として氏が以上の意見書に基かれしものなりといふ。

臺灣總督府の在職は七年を超へ、氏は參事官長として主として立法事務を擔任し、同島諸般制度の樹立に努力し兼て一切の重要なる政務に參與し、且つ年々例として民政長官上京中は其の職務を代掌し時としては事實上總督の職務をも擔行せり。

當初植民地の統治經營なるものは我國朝野の全然準備なかりし時代に屬し、政府當局者も僅に一「カークード」顧問の意見書に依り始めて植民の何たるかを聞知せるの實情なりし、而して植民地統治策に關しては英佛兩先進國の間に截然たる色彩の存するあるに鑑みて兩々對比し、寧ろ英國主義を取りて我臺灣に擬し一種の根本法規を制定するの必要なるを感知し、極力慫慂する所あり。兒玉總督後藤民政長官亦之に同意して首相桂大將に進言し首相は特に一木、水町、熊谷の諸氏及氏を委員に指名せられ同委員は數箇月間調査研究の上臺灣統治法案を立案復命したるも政治上の理由ありて遂に之を帝

## 石塚總督の今昔（一）

説明　〔上〕本寫眞は明治十九年撮影のもので石塚總督が東大法科一年生の時である。當時同クラスに太平洋ローイング、クラブなるボート部を組織し總督も亦其選手の一人であつた。後列右より四番目が今の總督である。

〔下〕明治二十三年法制局參事官時代で、後列向つて左は卽ち石塚氏、前列左より山田新一郎、松本源太郎、木内重四郎の諸氏である。

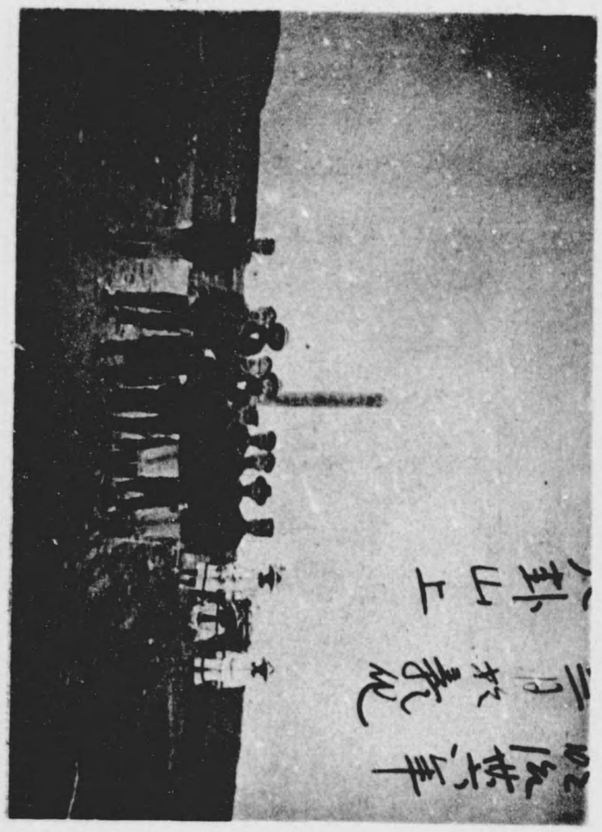
## (二) 昔今の督總塚石

總督府參事官室として他任官時の撮影で三十三歳の時である。

明治三十一年五月、參事官長時代(中央)向つて後列右に森孝三氏

## (三) 昔今の督總塚石

〔上〕明治三十五年頃、樹手によれば石塚氏、その側に黒羅紗風にたばかせて見るからに壯士風の男は小松吉久氏である。(南山官舎にて)



〔下〕明治三十六年三月彰化八卦山上に於ける石塚參事官長

明治三十八年關東廳民政長官時代（齢四十歳）

日露戰役當時大山大將上陸せる處
（中央）石塚民政長官は於けるに所出派遣官吏警察官高子貌

國議會に提出するに至らざりき。

明治三十二年九月より三十三年十二月に亘り歐米亞三洲の各殖民地を視察し、主として各種機關運用の實況植民地と母國間との關係等を稽査し、以て各國植民政策の概念を獲るに努めたり。惟ふに我帝國に於ける各國植民地の視察は恐らく之を嚆矢とすべき乎。

兒玉臺灣總督が內務文部の兩大臣を兼任し所謂大鉈を揮ひ根本的行政整理を企圖するに方り、氏は日々內相官邸に詰め切り專ら整理案の調査立案に從事したり。蓋し當時の桂首相は秘密の嚴守上殊更に當局者の調査立案を避けて氏の如き局外者を拉し來りて此任を委囑せしものと想像せらる。右調査案件中には往々果斷憚る所なき改革案件もあり國民亦深く其將來を注視せしも偶々日露事件の勃發により、兒玉將軍は參謀次長に轉職し遂に之を實現するに至らざりしを遺憾とす。

## 其四　關東洲民政長官在職時代　（二箇年）

日露戰役勃發して皇軍旅順を陷落し奉天を占領するや、廟議は滿洲の一角に民政を開始し一時的軍政を撤廢して永久的統治の根基を建設するに決し、明治三十八年四月桂首相、寺內陸相、兒玉滿洲軍總參謀次長等相商りて氏に內命を授け、參謀本部に出勤して豫め同地方に施行すべき諸般制度の調査起案に從事せしめ、翌五年關東州民政長官に任命せらるゝや特に陸軍中將相當官の待遇を以て荏任することゝなれり。元來關東州の名稱は檢關卽ち山海關以東の全滿洲を意味するものなれども、我帝國は氏の上申に基き單に露治時代の名稱を其儘襲用したるに過ぎずして斯る廣汎なる解釋を下したるにはあらざるなり。氏は着任後我滿洲軍總司令官の意圖を承けて關東州內に於ける一般民政（司法を含む）を創設執掌し兼て東淸鐵道沿線に於ける警務、通信、司法、其他の政務を管掌せり。

抑も關東州租借地に於ける民政の開始は、自ら彼の臺灣民政と其趣を異にし、從來の一時的軍政施設を移して民政に革め將來の根基を樹立するものなれば、其籌畫經營固より容易の業にあらざしなり。所謂滿洲經營なるものは一般國民擧て之を欲望すれども、爾來星霜二十餘年を經て未だ其良績を擧ぐる能はざるは、主として種々複雜なる外交問題の纏綿たるが故なり。況んや、戰時及大戰直後の混沌たる創始時代に於ておや。然れども一般民政の根基殊に大連旅順兩市街經營の

如き大體方針は、業に、已に、其の當時に樹立し了り、爾來歴代の當局者之に基きて施爲し來りしは世人の今に記憶する所なり。

當初の民政長官は我が滿洲軍總司令官の指揮の下に屬せしと雖も、其の實は遠く駐轅の奉天を離れて其の機關を大連に設置し半獨立的凡百の施設を敢行せり。其の後に至り軍民統治の意味を以て軍人出身の總督を特任し、更に後日に至りて南滿洲鐵道株式會社を創設し、沿線附屬地の一半行政にも當らしめたるが如きは、政府自ら當初の民政的精神を沒却して本末を顚倒したるが如き感なき能はず。斯くの如くして時の當局者をして一層苦痛を感ぜしめたることは、到底後人の想到し能はざる所なりとす。

## 其五　韓國統監府參與官在職時代（三箇年）

故伊藤博文公の韓國統監として新たに保護協約を締結し、各部大臣の下に邦人次官を配置して同國政府の內部より施政の改善を企圖するや、氏は明治四十年九月統監府參與官に任ぜられ監査部長として韓國政府立法行政の事前及事後の監査事務を擔任し、尋て總務長官の職務を兼攝し、公辭任後は病軀の曾禰總監を戴きて事實上の統監職務を攝行すること約一年、其の間韓國併合の機運漸く熟し來り而して伊藤公の**ハルピン**遭難の凶音に接して其の勢は愈々熾烈顯著となれり。

回顧すれば明治四十二年七月二十四日伊藤公統監の印綬を解きて京城を去るの前日偶々曾禰新統監癌腫醫師の診察に依りて確定せらる。玆に於て公は統監職務の一半を氏に引繼囑言して曰く今後の事一に子の努力に待つもの多し。從來自分は韓國政府に獨立を敎へ其の改革を强促したるに今は自ら昨の非なるを悔ゆ。惟ふに日露戰爭直後に於て疾風迅雷的に併合を斷行せば最も事宜を得たりしならむ。蓋し韓國內務の事情は之を許し國際關係亦何等顧慮するを要せざりしを以てなりと。氏は此の意外の敎訓に接し、且つ驚き、且つ喜び、韓國併合のこと一日も忽諸に付すべからざることを堅く覺悟せり。爾來此の決心と自覺とに基きて曾禰統監を激勵し朝野の大勢に順應し、以て明治大帝の偉業に貢獻せむことを期待せしも新統監は常に併合反對の意見を懷抱し之に加ふるに豎既に膏肓に入り、親しく政柄を執ること能はず、此の間に處する氏の苦衷は實に容易ならざりしものありたり。時に內田良平氏は東京政府の密旨を承け來れりと稱し、統監府に對しては全然沒交渉の態度を以て彼の一進會を促して合邦の建白書を韓廷に致さしむ。然り而して東京政府は統監に對して此の件に付何等通達し來れるものなく、却つて駐劄軍司令官大久保春野大將は多少這般の事情を諒解したるやに幾微の間察知せられたり。然れども病軀の新統監は之を措置するに躊躇し殆んど策の施すべき無し。此の場合に於て氏は區々たる一身上の利害榮辱を顧みるに遑なく、一意大義名分に據て此の間に善處すべく決意せり。蓋し彼等合邦の趣旨は頗る明瞭を缺き直に日韓兩國を聯邦組織たらしめんとするものの如く解釋せらる。元來理義に暗く猪突して大事を醸掌の間に成效せむとするの輕擧に出でたるものなれば、之に周匠の注意を缺くは固より怪むに足らず。恰も好し在京城の新聞記者團は一致して檄を四方に飛ばし、聯邦組織にあらざる所謂徹底的の日韓併合の必要を提唱せり。氏は此機を利用し軍司令部其の他に交渉して、一面には內田良平氏をして其の面目を保たしめつゝ自發的形式の下に韓國を引揚げしめ、他面には一部韓國民を敎唆して合邦建白書に反對せしめたる大韓協會顧問大垣丈夫をも一日後れて退韓せしめたり。氏は此の報を齎らして曾禰統監を病床に訪ふや、子は病苦を忘れて床上に危坐し衷心より謝意を表せられたり。子の如斯態度は氏の知る限り空前にして亦實に絕後なりし。

恁くて曾禰子の面目は保持せられたるも、子の病患は愈々篤く到底政務に堪へざるを自覺し、後事を主として氏に囑して歸槎に就き湘南片瀨に轉地せられたり。爾後合邦問題に就は韓國民中可否の兩派に分れ、各々數個の政黨を樹立して喧々相鬩き紛爭次第に激甚を加へたり。當時併合反對の韓國臣僚は相率ゐて耶蘇敎傘下に集まり、其勢力を藉り來つて併合牽制を策せむとし、民心恟々として適從するところを知らず。飜て本國政府の意圖如何と顧みるに、併合實現に傾到せること歴々觀取すべく、一方曾禰子は片瀨に病臥して依然併合反對の意見を把持して逐日國論に遲れ孤立無援の境遇に陷りつゝあるを悟らず。內閣大臣中の權威者たる桂首相寺內陸相は親しく片瀨の病床を訪ふて曾禰子と凝議すべしと聲言しながら到頭往訪せず。氏は一身に蝟集せる內外の繁務に忙殺せられて寸時も京城を離るゝこと能はず。先づ小松外事部長を內地に派遣して併合促進に關する意見を政府及片瀨の病床に進言せしめたるも、何等の反應なく徒らに東都に淹留して歸還せず。已むを得ず國分參與官（故象太郎）を第二次派遣員として上京せしむ。纔かに曾禰子の同意を得て大體の條件を商議し之を政府に稟申して歸任せり。未だ幾何ならずして曾禰子は片瀨に永眠し、時の陸相寺內子第三世統監として四十三

年四月下旬大命を拜受せり。

寺内子統監に任ぜられたるも、衆議の身嗚嗟に莅任すること能はず。其の間約二箇月を經過せり。故に氏は遙に指揮を東京に仰ぎ舊に依りて一切の政務を攝行せしが、匆忙中急遽警察權の委任に關し韓國政府と交渉を遂ぐべき政府の特命に接受せり。此命令は目的の概要を罫紙二葉程に認めたるものに過ぎずして、東京より歸任の軍參謀長明石少將の携帶し來りて氏に手交せしものなり。蓋し日韓併合の準備手段として警察權の委讓は最緊急の要件なればなり。當時韓國に於ける警察權は外國人居留地を除くの外悉く皆韓國政府の手中に存留せられ、半島全部の靜肅を保持して併合の雄圖を敢行するが爲には是非とも之が委讓を先決問題となさゞるべからず。是より先司法權は伊藤公爵の在韓中既に協約を締結して之を我が手中に收めたるを以て警察權の委任は順序上より見るも亦當然來るべき運命なりしなり。

然るに之れが決行するに際し氏が最不便を感ぜしは其の衝に當るべき首相李完用の温陽に轉地せる一事なり。蓋し李首相は最大勢に通曉し事理に明かなるも、過日卒然として兇徒の刺擊する所となり、傷痍を温陽に養ふの身となりたればなり。李の不在中には内相朴齊純臨時首相代理を勤め居れども朴は到底李の如く斷邁行の人にあらず。是氏が折衝に一層の困難を加へたる所以なり。故に氏は一面正式に朴總理代理に對し折衝を進むる以前に於て窃に腹心の一吏員（前間通譯官）を温陽に密派し說くに利害を以てし、豫め李の言質を徵したり。茲に於て便宜上韓廷の各大臣を二班に分ち先づ趙重應（法相）を招致して警察權の委任は今日の大勢上已むを得ざる所以なるを縷述し、彼をして閣議席上に各大臣に率先して其の意見を發言すべきを内諾せしめ、然る後朴齊純及全閣僚を官邸に招致し席定まるを待つて交渉を開始し附加して曰く、事は神速を尙ぶ。希くは此の席上に於て閣議を開き即決せられよと。各大臣顧みて色を失ひ、敢て一言を發する者なし。趙法相徐ろに口を開いて約の如く現下の大勢は同意の已むを得ざるものあるを主張す。續いて朴齊純其の後を承けて此の席上直に決定せむことは至難のことに屬し、且つ國民に對して辯疏の辭なし、更めて官中の閣議に於て取纒め回答すべしと告ぐ。氏は朴をして重ねて堅く誓約せしめ第一回會議は茲に散會を告げたり。

是れより先交渉の開始せらるゝ以前に於て軍參謀長明石少將は一は氏が身邊の安全を擁護し一は交渉の便宜を圖らんが爲なるべく特に左諸項を提起し來りたり。

一、或る兵數を氏の官邸周圍に配置すべき乎。

二、折衝の爲會議室の隣室に明石少將自ら詰め居るべき乎。

氏は堅く自ら信ずる所あるを以て其の好意を謝すると共に直に之を拒絶したり。

爾後朝鮮語に堪能なる國分參與官をして怠らず幾微に韓廷の内情を探知せしめたるに、朴署理は氏の豫想に違へず、直に人を温陽に遣はして李首相の意見を徵し、且閣議を開きて凝議する所ありしも議論百出して容易に決せず。而して韓國各大臣の躊躇する所以のものは左の三項を以て主眼とせり。

第一　警察權の委任は司法權の委任と相伯仲するの重大案件なるに係らず之を協約事項と爲さずして簡單なる外交文書往復の形式に依りて解決するが如きは同意すること能はず。（因に記す委任の形式に就ては本國政府より何等の訓令に接せず。總て氏の裁量に一任せられたるものと推斷し氏は寧ろ協約の形式に據らず單に外交文書の往復に依りて之を決定し以て外形上彼等韓國大臣の責任を輕減せむと欲したるに外ならず）

第二　凡百の行政は警察の力に賴りて實施し來れり、今此警察權を擧げて之を日本政府に委任せば爾後何を以て國政を實施し得べき乎。

第三　警察權を擧げて委任するの結果宮城内の警察までも亦外國に委するの結果となる、是臣子の情として忍び難き所なり。

韓廷の大勢は斯の如く悲觀に傾き各大臣は到底其の職に留ること能はずと稱し、袖を聯ねて坐席を蹶起し去りて宮城内の祕園に入れりとの飛報を齎らして國分參與官は倉皇來り告げたり。氏は直に韓廷各大臣に移牒して卽刻予が官邸に參集すべきことを通告し、各大臣之に應じて來り會す。氏は國分參與官を介して先づ朴署理に向ひ何故に前約を履行して閣議を取纒めざりしやを詰る、朴裏まず之に對する前三項の事情を以てせしに依り氏は直に左の三件を提起して之に酬ゆ。

第一項に關しては專ら内閣大臣の責任を輕減するの深意に外ならざるを以て卿等强て協約の形式を執らむとするの意見ならば敢て外交文書の形式に拘泥するものにあらず依て其の意に同意を表す。

第二項に關しては協約成立の後統監は警察權の行使に對し深甚の注意を拂ふて韓國行政各部の施設を幇助し萬違算なき

ことを期すべきこと。

第三項に關しては宮城内警察權の行使を圓滿ならしむるが爲、時に宮内大臣と協議せしむること。

以上に依りて前三項の異議は根底より消滅すべき旨を述べたるに、彼等は理の當然なるに默服し已むを得ず同意を表するに至れり。依て之を東京政府に電致し其の認諾を經て委任協約書に署名調印せり。右調印後明石少將は鋭意憲警兩者を合併して統一せる警務機關を創設し非違を警しめ内訌を豫防し以て日韓併合の基礎を安定したり。

## 其六　朝鮮總督府在官時代　（六箇年）

寺内總監莅任後併合條約の成立するや、總督府官制を始とし諸般制度の創設に際し、氏は其の主任として專ら起案のことに膺り、之を携へて東上し首相官邸に於て柴田内閣書記官長、安廣法制局長官、若槻大藏次官其の他委員と會同し、連日會議を開きて中央政府との交渉を遂げ成規の順序を經て之を公表せらる（其の件名は頗る多種に亘るに依り省略す）

併合後約一箇年間は取調局長官として諸般制度の調査整理及審議に從事し、兼て朝鮮古來の制度舊慣を調査し且つ其の時始めて朝鮮の南北縱貫巡視したり。凡そ創始時代の諸制度は之を既往政治上の歴史に徴し、古來の慣習に鑑み、或は之を海外の類例に稽へ、其の宜しきを制せざるべからず。殊に新制度と舊慣制度との連繫調和を明かにし之を新附の民に了得せしむるには、新領土の統治上肯綮を得たるものなるは言を俟たざるなり。

恁くて第一次の官制改正發表せらるゝと同時に氏は農商工部長官として專ら産業行政を管掌すること五年に及ぶ。蓋し併合直後の數年間に於て半島の産業、交通、教育、經濟の各方面は確に長足の進歩を見るに至れり。大正四年に於ける始政五年朝鮮物産共進會は卽ち半島進歩の程度を内外人士の眼前に披陳したる好個の縮圖なりき。

## 其七　東拓總裁時代　（七年二箇月）

大正五年十月東洋拓殖株式會社總裁被仰付七年十二月重任し十二年十二月任期滿了により退職す。

前後二十餘年間の官吏生活を一擲して會社生活に入れるは果して氏の自發的に出でたる行動なるや、否やは世人の批判に委すの外なし。當時東洋拓殖株式會社には種々の纏綿せる情實ありて業務甚だ振はず。成績頗る不良にして株主及世間一般より不斷の攻擊を受け、全然行詰りの狀態なりき。然れども寺内伯等の慫慂は區々の私情に出でたるにあらずして帝國拓殖上の發展を期するに在りたり、氏は久しく半島産業行政の首班たりし官歴に省みて强辭するに由なく、遂に東拓總裁に就任せられたり。爾來營々として宿弊を革め、發展を圖り幸ひ成績次第に擧り會社の營業地域及び業務種類を擴張して今や殆んど帝國唯一の拓殖機關となり、從つて其の資本額を壹千萬圓より五千萬圓に遞加し、其の配當率を六分より一割に增進するの順運に向へり。今や世界的財界の不況季に入り廣汎なる業務中多少の打擊を蒙れるものなきに非ざるも社礎の鞏固なる必すしも悲觀するを要せず。財界恢復の機運に向はゞ忽ち順調に復すべきは火を觀るより炳かならん。

## 其八　日本産業協會々長時代　（在任中）

大正十五年二月五日、日本産業協會總裁伏見宮博恭王殿下より理事に選任せられ、同日會長に就任す。日本産業協會々長として事業を企劃遂行せるものゝ中特筆すべきものは、海外在住の産業貿易功勞者並内地に於ける産業貿易功勞者の表彰を行ひ、又前會長道家齊氏の後を享けて巴里萬國裝飾美術工藝博覽會に參劃し、米國獨立三百五十年記念萬國博覽會に政府の委託を受けて本邦參同事務を取扱ひ、埃及カイロ市に常設商品館を經營し、又副業奬勵事業を行ふ。協會々長として義勇財團海防義會顧問、動力協會參與員として事業に參與し其の他内地各種博覽會の名譽顧問、顧問評議員等を委囑されし今日に及ぶ。

（完）

# 第四編

# 第一章　總督府中樞的官人列傳

杜小陵の詩に曰く『無邊の落木蕭々として下り、不盡の長江滾々として來る』と。時南國の孟夏、萬木梢葉闌として婆娑たる聲すらなし。此の時、此の際、徐ろに現下臺灣の狀態を觀察すれば、急轉又急轉、瞬時も止まざる時勢の小波大波は押し寄せて、舊人物や老朽輩を一掃し去るの新陳代謝の作用に似たらずや。

今や、功勞ある舊人物は漸次我が臺灣の舞臺より姿を消え去るに比し、有爲の青年が徐々として形を現し來たりたるは誠に不盡の長江に似たり。遠觀すれば、自然も人事も行藏顯晦の揆を一にせずんばあらず。然して本島の時勢は、正に大革新の機に入り、更らに新時代の曙光は自然的に人心の暗黑を照破せんとす。これ天に私照なき所以なるべし。

平寧和樂の世は、正理順道の政法に因りて興り、萬民無扉の夜に寢ねるは、仁道正義の政に基く。最早や昭和の大御代には粉飾的政治を容るゝの餘地なきに至れり。督府中樞の官人又其の責の重なることを感ぜずんばあらざるべし。

## 第十一次長官　人見次郎君

循環の天地は宇宙を陶冶して均衡を保たしむるものあるに似たり。さしも旺盛熾烈なりし薩長の權勢も今日蕭索として晩年振はざるが如し。雌伏春秋に贏ちたる東北の野は、今擡頭して旭日昇天旗幟亦極めて鮮明なるものあり。今や東北より三人の植民地長官と、二人の大臣とを出だせり。卽ち臺灣總督に福島出身の石塚英藏氏、關東長官に山形出身の太田政弘氏、朝鮮總督に岩手の齋藤實氏にして、大臣は秋田より町田、田中の二人を出だせり。而して人見氏は東北會津と最も緣念深き京都の人也。

幕末の代、風雲愈々急なるの時、會津藩主松平容保公は將軍家の懇請に依り京都守護職の重任に就き、決死以て勤王佐幕の兩黨の尖端に立つて、其の協調の任を完ふせんことを期したり。容保公の誠忠國あつて私なく長くも、其の忠誠は天聽に達して孝明天皇の御信認厚く屢々優渥なる御言葉を賜り、且つ有難き御下賜品を拜受せりといふ。

然るに王政復古の幕開かるゝや、三の宮、二條、九條以下佐幕派二十有餘人、守護職たる松平容保公、所司代松平定敬を免じ、代ふるに尾、越、薩、土、藝の五藩に命じて禁闕を警衛せしめたり。あゝ此の時に於ける容保公の心事ぞ如何。

明治戊辰の年に至り親藩たる資格を以て會津城を守死して官軍に抗す。城堅く、兵强く將士兵卒協心合力奮戰數旬に連り、十五六前後の少年白虎隊を組織してよく戰ふも利あらず、城外飯盛山に屯して盡く屠腹して死せし壯絶悲絶の血涙史を遺せり。惟ふに其の順逆の問題は兎も角、三百年の幕府が一朝にして倒れたる上は必ず、此の血を以て弔ふの擧あらざるべからざる也。蓋し時勢は遂ひに斯くあらしめたるものといふべし。

人見長官は京都府下船井郡富本村の出身にして其の祖は往古後醍醐天皇に仕へ、勤王家を以て知られたる裔なりと聞く人見長官は石塚總督と朝鮮以來關係厚く、大正五年石塚總督が農商工部長官時代其の下に農務課長たり、尋で鐵道局長に昇進、大正八年五月東洋拓殖會社の理事に就任、當時の總裁石塚氏を扶けて大いに手腕を擧げ、其の器石塚氏に認められ信認又大に厚きものありたり。

昭和四年七月三十日、石塚氏は臺灣總督に親任せらるゝや、各方面より總務長官の推薦者多く、石塚氏と最も交友厚き原民政黨筆頭總務の如きも、推すに木下信君を以てせり、然るに石塚總督は、

『長官と秘書官は私に一任されたい』と親任の當時、濱口首相の諒解を得て、其の證衡に當れり。卽ち其の意中の人として多年其の部下として、其の人材を認められたる人見氏が群雄衆議を排して任命せらるゝに至れり。當時、東京に於ける長官の評判は總督を壓して盛名藉甚たるものありき。川村前總督の如きも『政黨に色なき人見君を任用せるは確かに成功なり』と云へり。中川小十郎翁の如きは『人見君は京都の勤王家の後裔として知らるゝ人、其の人格の高潔は官海の光明たるものあらん。石塚氏の之れを野より拔擢せられたるは蓋しこの理由に基くものと信ず』云々と。

人見長官は明治三十七年の京大英法科の出身にして最近臺灣に於ける長官としては古參の人なり。而して多年官海に於

て內務系統にあらざりし關係上部局長の更迭に際し其の適材を選擇するに苦しみたるも亦事實なり。總督又然り。故に全然白紙を以てこれに處せるの感ありき。

兵法の備はらざる、財貨の乏しき決して國家の貧たらずして人材の貧は卽ち國家の貧なりとか。古往今來國政の任に當るものこの人物の經濟に重きを置かざるはなし。然して人材を用ゆるに、賞罰を明かにせざるべからず。彼の南朝が南風競はざりしも卽ちこれに因す。

惟ふに、今日の府內官人の新陣容は決して多士儕々といふを得べからず。伊澤總督時代を見よ、殆んど陣容を建直して內務系の新人を以て悉く網羅せり。曰く後藤文夫、阪本森一、木下信等之れ等の人物は確かに府內に一頭地を拔けり。故に當時伊澤總督に人氣集中せざりしも後藤長官以下阪本木下氏等に集まりて、總督の短を補ひし感ありき。

現今の府內新任有司中、決して人材乏しからず、之を銳眼に透視して、其經濟を誤らざれば何を苦しんで內地より求むるの要ありや。現に年々新材を內地より採用しつゝあり、然るに其新材が多年其處を得ずして不遇の境に老するもの多し。乃ち是等の人材は可成拔擢して新功をなさしむるは一挨兩得といふべし。人見長官に望むは此人物經濟の宜しきにあり。

明治の末期より大正初年の大學出身者にして高等官三等一級を食む中堅官人多し。これ等の人々は、恰も鬼哭啾々の憾みありて能率の減殺夥しきものありといふにあらずや。論じて玆に至る。年々歲々人同じからず、春や昔の花ならぬ實に定めなきは臺灣の官人なるかな。

人見長官は正義を愛し、眞理を枉げず、正則的の人として名あり。唯惜むらくは颯風驟雨の艶興に乏しく、俗眼亞流の愛慕を得る事難し。故に大衆的俳優の華やかなる技倆に乏しくも、其の踏む處、其の舞ふ處のものは確かに地味にして眞率なり。石塚總督の氏を長官に拔擢したるも、卽ちこの思慮周匝にして大過なきの人なるが故ならん。

### 鐵道の神樣　交通局總長　白勢黎吉君

新潟は雪の名所で又美人の名所である。由來新潟縣人は情の囚とならぬ特性を有して居る。であるから感情は極めて冷靜な處がある。然るに白勢君は新潟縣人であるが時には多感的に有血有淚の熱血男兒となることがある。時には破顏高論もやる。時には自說の堅牢を執つて動かざる時もある。生野、木下、丸茂の三代總長の下で敢て上司に投ずるにあらず、又敢て阿ねること抔はなかつたが、生野も、木下も、丸茂もよく白勢を賞めたものである。それはその筈である。白勢君は臺灣の鐵道で一生を終らうとする其の美はしい殉公の精神には、何人でも敬服せざるを得ないではないか。

君は臺灣に於ける生え拔きの鐵道ッ兒で、總督が誰であらうと關する處ではない。一路邁進臺灣鐵道と枕を並べて一生を終らうとする、其の意氣と其の野心のない點に於て我が官海に於ける軌範的人物である。多年鹿兒島閥で堅められた感ある鐵道部が、君が總長となつて以來極めて明くなつて來て居る。暗雲低迷に閉された時代に比して確かに、儕々として居る。今や世人から工夫よりも色の黑いと綽名のある白勢君は、往年庶務課長時代は麗艶玲瓏の風格を備へた青年官人であつた。年々歲々人同じからず、色黑く臺灣色と化したのも臺灣開發に精進された結果である。

### 鄕土肌のない財務局長　富田松彥君

富田局長は石黑內務と同期の四十三年の帝大出、臺灣に來たのは阿部滂氏が同局長たりし時で主計課長としてよく靈腕を揮はれた人である（前著參照）富田君は東北人の鄕土氣質に剛致されない自我の念の極めて尠ない人である。總てに於て溫容和氣の人である。故に積極的に他人の世話を見たり、進んで渦中に投ずるやうなことはない、であるから感情が、冷靜、人の爲めに身を亡ぼすが如きことは絕對にない人である。今や、臺灣の財政尙未來を有して、愈々多端の時である。此の時に當つて富田君の責任は益々重且つ大といふべきであらう。又局長中の古參官人として手腕を揮ふ時であらう。

### 明るい氣分の持主　警務局長　石井保君

埼玉縣浦和の出身、明治二十年の誕生とあるから今年正に四十四歲の男盛りである。四十五年の帝大獨法を出づるや警

視廳の登龍門に入り警察署長を振り出しに頓々拍子に福井、福岡、神奈川の各縣警務部長を歷任し後東京府產業部長より警視廳衛生部長、警務部長を經て大正十五年鳥取縣知事に榮轉したが、政友內閣の時鳥取の知事を辭めて野に下りて、君は歐米各國の視察に出掛け、歸朝間もなく本府の警務局長として任命を見た人である。

世間では石井君は大きな背景を持つて居る人だといつて居る。然し石井君は背景抔を鼻にするやうな人ではない。其の性格は天眞爛漫で總ての人に接して明るい人である。であるから石井君は敵も味方も一齊に氣持ちのよい明るい人だといつて賞めて居る。多年其の部下として居つた連中も、石井局長の人格を崇敬しないものはない。

明るい人は正しい人である。この正しい人が臺灣警察の總元締の任に立たれた。情弊の多いとされて居る臺灣警察界を廓淸するに最適任者である。

前の大久保君は事務的でなく政治的に活躍し、太ッ腹のやうでも人を見るの明に暗かつた。其前の本山君は小柄でも山椒の粒のやうに何處かにピリッとした人間味があつたが、感情に支配されて多少敵を作つた。又其前の阪本森一君は人間が大きく恰も海洋的であり、山岳的で人心を收攬するに甘辛の妙があつた。斯く論じて來ると近來の名警務局長としては先づ阪本君を擧げねばなるまい。

石井君は虛辯空說を吐いて人氣を博するやうな衒氣はない。從つて人心に投じたり、世に阿ねるやうな**ニコポン**主義の人ではない。飽くまで眞率の人である。秋霜烈日の威少なきも春風駘蕩の溫味が多く、人間味タッブリの人である。

今や、臺灣の警察行政愈々多事ならんとして、新人逸才の要望切なるものがある。此時に方つて新人たる石井局長の手腕に期待するもの決して尠なくはあるまい。請ふ、振威張態、信ずる處のものは總て斷行の勇あるを望んで止まない。

## 專賣畑で育つた專賣局長　池田藏六君

家より出でゝ家に入る月の東京市は、草より出でゝ草に入る月の武藏野を變形せしめたるものである。君は眞の江戸ッ子明治十八年十二月本鄕眞砂町に呱々の聲を擧げた、明治四十二年の帝大法律科を出でゝ直ちに專賣局に奉じ、爾來二十有餘年の間終始一貫專賣畑で終始した人であつたが、斯る人々は全く珍らしいものといはねばならぬ。西哲が曰つて居る。一事業を爲し遂げるのは容易ではないと、全く然りである。

今日多く見るの役人に裁判官若しくは專門技師以外に同一事業に從事して名を天下に騁せたるものあるを聞かない。或は行政官衙に入りて外交官に轉じたり、外交官から行政官の方へ轉じたり、或は遞信畑の人が行政部へ這入つたりして轉々浪々する人が多い世の中である。

大學を出でゝ判任六級俸の書記から高等官二等に辿り付くまでといふ苦勞は並大抵ではない。地田君の履歷を見ると大正十一年には既に高等官三等に陞任して居るから三等官を七年間も勤めて來た人で、昭和三年三月には年俸七百圓加賜されて居る。であるから臺灣の專賣局長に轉じても俸給が內地と同一な譯である君が昨年臺灣へ轉任する際、義兄に當るといふ永田隼之助君は著者に向つて『地田が臺灣に行くといふから僕は大反對した、其の理由は臺灣へ行けば長く續かぬ。內地に居れば奏任官でも永く續くからだ』といはれた、要するに永田君は政變の度每に臺灣官場に及ぶことを痛切に遺憾としたからであつた。然し今日では民政黨が絕對多數となり政界は先づ無風帶となつた。從つて臺灣內閣も安固たるものである。

君は初任匆々西部臺灣を一周して、本島の**アウトライン**をよく透視した。其の熱心さが普通の官人とは異なる。宇賀君のやうに馬車的に猪突振りもないから局內も靜かに納つて居る。臺灣歲計の基礎を握つて居る專賣事業は、君の如き適材に依つて其の取捨案配を勘考せられ益々本府の財政をして泰山の易きに置くことを確信して疑はぬ。

君の濶大の器宇を以て卓勵風發せんか、彼の頹勢に傾き閑談空語を許さゞる樟腦專賣の如きも必ずや起死回生に至るであらう。今や新人を網羅して新功を樹てんと企てたる君の銳眼は蓋し時勢を解する所以であらう。今日の官海を見るに決して人材多士儕々といふを得ず。或は墓石の行列の如きものもあらん、或は籠の弛んだ桶の如きものあらん、が專賣局は生氣潑剌として恰も駿馬鬣を振ふの感あるは賴母しい。

## 殖産局長　辯に長じた　百濟文輔君

**「わしとお前は燒山かづら　うらは切れても根が切れぬ」**

明治維新奇兵隊を組織した高杉春風が山縣狂介に贈つた謠である。百濟君は此の偉人の生誕地山口の産である。明治四十年の京大經濟科の出身で、大正元年頃は山梨縣で郡長抔勤めた經歷がある。それから大正五年には關東督府の參事官、次で大阪、北海道を經巡つて地方長官となつて以來今日まで官海生活を續けて居る人である。

內地の知事抔といふ役目は今日あつて明日ないといふ眞の浮草稼業とされて居るのに、君丈けは何れの政黨からも睨まれずに現存して居る珍らしい官人である。又こゝに珍らしいのは京大出の經濟科出身で、同鄕倉庫會社三卷俊夫君も三十七年の京大經濟科出身であることだ。君は一日著者にこんな感想を述べたことがある。

『今まで馘首にならぬのは何れの政黨へも餘り仕事をしなかつた爲めかも知れない。』

と述懷されて居る。然し山口の產といふ、其の山口の背景は君をして今日あらしめたことゝ思ふ。江木鐵相の御聲かゝりで臺灣落ちとなつたと東京では評判されて居つた通り、其の背景が物いふ世の中である。

內地で多年鍛へられた手腕を發揮するには臺灣は狹いかも知れないが、殖產局といふ大世帶は却々仕事が多い。海も、山も、野も皆殖產局の主管となつて居る。內地の小さい縣の仕事に比してはやり榮がある譯であるから、今後の仕事は君に負ふ處甚大なるものがあらう。君は人としてよく調和されてる。洒落であつて且つ口舌に巧みで衆人の喝采愛慕を受くる長技も備へて居る。彼の希望社といふ精神團體を一手に引受けて宣傳するあたり普通の役人では眞似の出來ない處がある。

## 內務局長　愈榮精神家　石黑英彥君

廣島の人、明治四十三年の帝大出で、富田財務や、太田高雄知事と同期の人である。臺灣に來任したのは上山總督時代である。世間では伊澤多喜男君の直參だ抔と評するものがあるが、焉んぞ知らん川崎卓吉君の推援者である。

君は文部省から地方廳を廻り、朝鮮では警察部長から府の地方課長を歷任した。官界では大抵のことをやつて來た人材である。朝鮮で警察部長時代は不逞鮮人に對する果斷一往振りは確かに君の青年時代を偲ばしむるものがある。

君は寬博士の高弟として神ながらの大道を奉じて思想の堅忍不拔な、官人の軌範たるものがある。愈榮精神家として、其の態度極めて莊重な處がある。上山、川村の兩總督時代まで文敎局長を奉じ、臺北大學の創設には隨分苦勞した人だ。今の石塚總督となるや、君は撰ばれて內務局長に轉じた。爾來幾多の因襲を打破して總てに新味を加へてよく研究を怠らない。そこに精神家の面目が躍つた居るのである。又新陣容當時地方長官の更迭問題に就ては總督長官を誤らしめざるやうに努力したことは、祕中の祕であるが、確かに君の進言は其機を愆まらなかつた。更に君を望まんとするものは、資格者本位に中毒せざることである。實務に秀でし屬僚を拔擢して統治の前哨に立たしむることも忘れてはならない。若し資格者本位に下級行政の任に立たしむるに至らば、頭が動いても手足は痺れて役に立たなくなる事を考慮して貰ひたい。世は合理化を叫ぶ時で理に遍して實效を收めなくては駄目の世の中である。

## 府內の幸運兒　文敎局長　杉本良君

大正二年の帝大出で朝鮮より臺灣の專賣局へ轉じて來た人である。先年酒課長として酒の專賣には相當働いた功勞者であるが、伊澤總督時代に宇賀といふ馬車的局長がやつて來てからは餘りに得意ではなかつた。其の後まもなく洋行に出掛けた。その後に据つたのは渡部慶之進といふ新進課長であつた。（目下洋行中）

君は洋行から歸つて來てからも餘りに榮ではなかつた。殖產局長の內田君の下で山林課長となり、更らに會計課長に轉じた。斯て間もなく政變となつた、川村總督が勇退した後に今の石塚總督が親任せられ、其の下に今の人見長官が來任することゝなつた。

著者は當時上京中で、今の新陣容の選擇等に就て種々耳にした。文敎局長は村瀨といふ人に決定して居つたのが、閣議の前日に家庭の事情が許さぬとなつて斷つて來た、これには總督も少し困つたらしい、直ちに大谷秘書官を呼んで二人で鳩首凝議の結果、朝鮮で人見長官も知つて居るといふ杉本君を拔擢することゝなつて、玆に杉本君は思ひもよらぬ富籤を抽いた譯である。

由來、毀譽褒貶は、拔群卓絕の人材に向つて放たるゝもので、杉本君は頭が確かに銳敏な處あつてよく動く男である、その如才なく動くといふので人見長官の智囊となつて今日に至つて居る。靜岡の產である。府內の幸運兒として同僚は勿論世間では馬鹿に人の出世を氣に揉んで居るものが多い。

## 風格高古な帝大總長　文學博士　幣原坦君

敎育の意義及び其の行政の運用なるものに就ては東西の學者が、常に沈靜に、且つ眞摯に、頗る綿密なる檢討を綴け居る所の重要懸案である。又往昔に支那國家經綸の士が、其の國財の足らざるを憂ひずして、寧ろ人材の乏しきを悲しむものなりとの宣言をなしたるの點に之れを見るも、敎育が如何に其の人材の大成に、滿腔の寄與を敢てするものなるやを敏感し得るものである。この重んずべき敎育によつて簇生したる人材は、常に其の國運の消長に馳せ參じ、縱橫の進展を試み、以て最後の榮冠に贏ち依然國家をして泰山の安きに置くべきの人々であることはいふまでもない。故に敎育なるものは經國の大業上より之れを見て、個人的にも社會的にも、將又國家的にも充分の施設を要すべきものなることは、超群の鐵則として嚴に人類の上に存するものといはねばなちぬ。臺灣の地もこの意味に於て改隸の當初より猛烈に敎化に意を用ゐた爲め、時としては芝山巖の如き慘劇を見たが、之が爲め旣定の方針は何等の渝る處なく、學政は駸々乎として進み、遂に今日の如き隆んなる文敎の施設を見るに至つたのである。故に臺北に帝國大學が設立されたことは當然の歸結であつて、この運用を怠らなかつたならば、必ずや南方開拓をして益々貢獻する處のものがあると信ずる。

文學博士幣原坦先生と云へば、著者夙に其の風格を偲ぶものが多い。博士の著書に『世界小觀』なるものが如何に後進子弟に裨益せられしか、博士は明治三年九月十八日、大阪府北河內郡門眞村に生る。明治二十六年東京帝國大學文科を出でゝ後鹿兒島高等中學校（造士館）敎授となり、後韓國政府顧問となり、今日の學制を創立す。文部省視學官、東京帝大敎授、廣島高等師範學校長、文部省圖書局長等を歷任し昭和三年四月臺北帝國大學の創設を見るや、初代總長として迎へられ今日に及んで居る。

爲人、風格高古、經學博覽、多識萬能、眞に大學總長として遺憾なきの人で、正四位勳三等である。著書として前記の外、內外實用地圖、女子敎育、南島沿革史論、敎育漫筆、日露間の韓國、韓國政爭志、學校論等あり。

## 村夫子然たる學界の功勞者　農學博士　大島金太郎君

汽車はアプト式の線路を攀ぢて、左に近く、金洞、金鷄、白雲の三峰を眺めながら二十六のトンネル忙はしく、變る二十六畫夜を數へて、一氣に輕井澤の驛に着けば、高原遠く打開けて、連亘の峯巒は重疊起伏し、恰も波濤の如き山野に蔓ひこれる雲海は人をして壯絕快絕の眼を睜す。これ卽ち我國の高原信州の國である。

信州は斯の如く天然雄潤の氣象に富み、山嶽に淺間、戶隱、白馬、駒ケ峯の峻嶺無比なるものがある。河川は千曲が奔放蕩泪たるものあり、湖水に諏訪の渾涵洋々たるものがある。信州の風光は爾かく雄奇で而も峻秀である。卽ち信州人は勝ち氣を有し覇氣に富み、倨傲恰も山の如く、凜冽恰も氷の如きものがある。

大島博士は信州諏訪郡宮川村の產、明治四年九月十八日の生誕であるから今年正に耳順の境に達した。明治二十六年札幌農學校を卒へ（今の北海道帝大）多年北海道帝國大學敎授として名聲高き人であつたが、大正九年六月九日本島に來任せられ爾來高等農林學校長として斯界の爲めに貢獻せられ今日に及ぶ。

博士の薫陶に浦くまれた幾多の弟子は博士を神の如く慈父の如く崇拜し、所謂師の影を踏まずとなす學風を作り上げたるは、全く博士の精神的薫陶に由らずんばあらずである。博士は好學究として恰も村夫子の高古な風格を備へ、人に接して温容玉の如く清德あつて深淵藏珠の感あるは益々後人子弟の明光と仰がるゝ所以である。

臺灣にあること既に十有餘年に及び今日官人としては中古の部類の人であるが、斯の如き實人的人材を有することは我が臺灣の誇りであり、又統治上の爲めに喜ぶべきことである。今や從三位勳二等、中央研究所農業部、臺北帝大理農學部長として愈々益々博士に負ふ處のもの甚大なるものがある。乞ふ邦家の爲めに加餐自愛せられんことを望んで止まない。

本島醫學界の泰斗
臺灣醫學專門學校長　醫學博士　**堀内次雄君**
（明治三十年渡臺）

著者常に兵庫の地を踏む毎に平家の昔を偲ぶ。然して淨海入道清盛の末路に一掬の涙なきを禁ぜぬ。渠は我國の如何にも小天地なるを洞察して、恰も螺螄の殼中に蠢む如き平安の地を棄て、帝都を家となすの天與の港灣たる福原を撰んだのである。これぞ世界的海外貿易を營むべく雄志を起した世界的快男兒である。

堀内博士は明治六年五月二十五日兵庫縣養父山町に生れ、夙に醫學に志し、第二高等學校醫學部卒業後、陸軍に仕し、後本府の醫院に轉じ明治三十年山口秀高院長の下に醫員たりき。更らに醫學校教授に轉じ次で校長となりて今日に及ぶ。爾來三十有餘年間、本島の醫學界の爲めに貢献せられし事は絮說を要せざる處である。爲人、温容端嚴、仁恤惠愛の心に富み、實に師表としての典型なり。本島が軍馬倥偬の時代より昭和の大御代に至るまで、一意專心、本島醫學界に盡瘁して倦むことなく、内外の信、子弟の德望、愈々高く畢生杏林を天職となす。又至幸といふべきである。正四位勳二等醫學博士である。

死線に立つて
ペストを防遏した
臺北醫院々長　醫學博士　**倉岡彦助君**
（明治三十九年渡臺）

君は福岡縣三井郡立石村の儒醫倉岡圭山翁の二男として、明治九年十月呱々の聲を擧ぐ、夙に出藍の譽高く、長ずるに及んで先代の業を繼ぎ志を醫學に投じ、明治三十七年帝大醫科を卒へ、直ちに同醫科大學附屬病院に勤務し、大いに研鑽する處あり。後内務省傳染病研究所技手に任ぜられ、三十九年八月府防疫醫官として來任、專ら警察本署衛生課にありて全島の醫事行政に鞅掌した。當時尙惡疫猖獗し人命を損ずること夥しく、凄慘の氣人に迫るものありき。殊に往年嘉義附近に發生したるペストの防遏に就ては高木博士と共に挺身、死線に立つてこれが殲滅に晝夜寢食を忘れて奮鬪された人である。又大稻埕にペストの侵入ありし際、君の猛斷は實に當を得て效果の大なるものありしは今尙世人の曾ねく記憶に新たなるものがあらう。この保健衛生に健鬪し功勞顯著なることは呶々を要せざる處で、本島開發史上に大書すべきことである。君爲人、奇警にして非凡努めて自說の鋭鋒を秘め、其の態度官僚臭なく、如何にも水村水郎に一竿の風月を樂しむ野人の感がある。殊に君の特異とするは辯說に長じ、女性漫談は玄人も洗足で逃げ出すといふ。更らに特筆すべきは他の官衙には勅任となれば、必ず官給自動車を有するに拘はらず、多くの人命を預る處の官立醫院の長として、この公費なき爲めに、自ら車を轉じて通勤して居ることである。

生徒より慈父と
仰がるゝ篤學の人　**切田太郎君**
（臺灣高等商業學校長）

教導は小事でない、感化は又大である。然して更らに學を卒へたる子弟に職を求むるは大事業である。教育の目的人材を養成するにあるも、人材を養成してこれを活社會に送り、社會國家の爲めに貢献せしむるにあらざれば、教育却つて世に害をなす。臺灣の現時、教育施設旺んなるも、教育を受けたる無職の徒全島に充滿し、これ等の學徒は逕ひに不平の徒となり、或は社會を呪ひ、國家を呪詛するに至る。之れ實に由々しき問題といふべきである。

切田君は大正八年五月本校教授として來任以來、先づこの問題解決に努められたる人で、官となく民となく廣く交際し父兄は勿論生徒からは恰も慈父と仰がれ來つたことは蓋し當然である。

君は母校を卒へた子弟の爲めに、身を燒いて惜しまず、殆んど席の温まる暇なく自ら北奔南走してこれが就職口の斡旋

に努力し來つた功績なるものは甚大なるものがある。高商の存在價値を尊ふとく且つ標榜あらしめたるは君の努力に與る處が多い。宜なる哉、武田校長の勇退となるや君選ばれて其後を襲ひ校長の榮位を荷ふ、責任の益々加重を感ずることであらう。我が臺灣教育界の功勞者として著者は常に崇敬措かざるの人である。

因に君の閲歴を參考の爲めに掲載する、明治九年三月一日東北盛岡市に生る。明治三十三年七月東京高等商業學校卒業三十五年七月同校專攻部を卒へ、同三十五年九月東京帝國大學法科撰科に入學せるも翌年六月同校退校、後大倉商業學校日本大學、明治大學等の講師となり、明治四十三年三月東京高等商業學校教授に任ぜられ一躍高等官六等となつた、後清國政府の招聘に應じ北京學堂にありしが任僅か一年にして辭任歸朝、爾來、商業英語讀本、英語商業用文教科書、英文商業實踐等の編纂著作に從事し、明治四十五年二月修了、同年五月朝鮮總督府學務課編輯囑託となり大正二年善隣商業學校講師から同校教諭に進み、大正五年北米合衆國及び其他植民地に於ける商業教育視察に出張命ぜられ、大正五年十二月辭して米國に渡り、大正八年歸朝同年五月十六日臺灣總督府高等商業學校教授に任ぜられ高等官五等に叙せらる、爾來、今日に及び昭和四年十二月二十四日同高等官二等に陞叙、昭和五年一月十三日武田校長の後を襲ふて校長となり二級俸下賜せらる。この間南支南洋に出張すること二回、昭和四年七月在外研究員を命ぜられ英、佛、獨、米の四箇國に在留し商業英語及び商業通信文の研究を命ぜらる。同年十一月二十一日横濱港に歸着。尚君の英語著書として左の數種あり。以て如何に語學に堪能なるかを窺知し得るであらう。篤學の士として斯界に定評がある。


商學士　切田太郎　著

Our Business Diary
（英文商業實踐）　菊判クロース製　價 1.30
附表共135頁　郵 .06

Systematic English
Commercial Correspondence
Eor Beginners
（英語商業通信初歩）　四六判洋裝　價 ·80
—— 182頁　郵 ·06

Analytical Study of
Commercial English and
Business Correspondence
（分解的研究商業英語と商業通信）　菊判クロース製　價 2.00
附表共325頁　郵 .12



臺灣總督府高等商業學校長
商學士　切田太郎先生の三著

| 書名 | 定價 | 昭和三年度臨時定價 | 發行年月日 |
|---|---|---|---|
| Primer of English Commercial Correspondence . . . . . | 49錢 | 81錢 | 昭和二年十二月十一日 |
| Junior English Commercial Correspondence . . . . . | 40錢 | 66錢 | 大正十四年十二月二十五日 |
| Senior English Commercial Correspondance . . . . . | 50錢 | 83錢 | 大正十四年十二月二十五日 |


臺灣教育界の恩人
第一師範學校長

## 志保田鉞吉君

（明治三十四年渡臺）

一師範學校長の職を以て勅任待遇の榮譽を荷ふは我國に於ても多くこれを見る事が出來ない。志保田第一師範學校長は眞に我が臺灣教育界の恩人として著者多年崇敬し且つ感謝するの人である。

君は明治六年九月京都府下福知山に生る。明治三十三年東京高等師範學校を出で直ちに沖繩縣師範學校教諭に任ぜられ任後一年にして明治三十四年九月本校の前身たる國語學校教授に榮轉し爾來春風秋雨國語教育に關すること正に三十年に及ぶ。

現總督石塚氏は曾て參事官長時代卽ち明治三十三年十月歐米各國を巡遊して歸朝せらるゝや、國語研究會の席上に於て

述べられたる一節あり。曰く

國民教育は如何に新領土に必要なるかの一端を述べん。蓋し同化なるものは、民族の特性を還し化するにあり。而して民族の特性とは前にも述べたる通り言語風俗、宗教、法制等にして就中言語は尤も力强きものにて、他は皆之に伴ふ故に同化の最大要素は言語にあることは自ら明かなり。或は本國人をして土語を學ばしむる必要もあらん。然れども是れ畢竟一時の目的に出づるものにて、永遠の目的は土人をして本國人の方に接近同化せしむるにあるを要す——云々

と述べられて居る。君は三十年間國語の普及に努め、其の啓發薫陶宜しきを制して臺灣統治に貢獻せるは著者の喞々を俟つまでもない。

君三十年の間終始一慣其の精勵恪勤よく我が教育界の軌範たるものあり、宜なる哉、遇さるゝに勅任の榮譽を賜ふ。何等の光榮ぞ、君の如きは國家の至寶的人材にして、又世に難き教育家といふべきである。我が臺灣教育界の恩人となす、決して過褒ならざるを信ずる。乞ふ自愛加餐にして『校堂の下に吾れ死なん』の晩年を飾られんことを。

## 溫情味ある　澤永彦四郎君

（府會計課長）

澤永會計課長は富山縣西蠣波郡福岡町の出身で明治十二年二月十五日の生誕である。君の閲歷を見ると相當雨にも愁ひ風にも虐げられたる感のある人で、即ち鄕里の小學校を卒業後郡役所の寫字生となり後師範學校補缺試驗を受けたることあるも、志を轉じて石川縣立中學校に入り明治四十年七月京都帝國大學政治經濟科を卒業した。當時朝鮮が我が保護の下にありて、獨立國として體面を保持せしめたが、我國は更らに朝鮮に統監府なるものを置き、積極的に内外政の保護の任に當つたのである。初代の統監は伊藤博文公であつた。君は大學を出づると直ちに統監府に出仕し明治四十四年には早くも營林廠事務官に陞進し廉務會計に從事すること滿十一年に及んだ、其後大正十一年鎭南浦府令に榮轉し自治行政に心身を傾注して大いに令名を擧げ、大正十五年遞信事務官、海事課長等に歷任して燃犀靈妙の手腕を振ふて上下の信認厚かりしが、昭和三年三月山梨總督時代に及んで挂官されたのである。君が大學を出づるや朝鮮官府にあること正に二十有餘年の長きに亘りたる人で實に今日の官人としては珍らしき人である。宜なる哉、退官の際高等官二等に叙せられ一級俸を下賜されて居る。

昭和四年九月石塚總督幕下の股臣として再び官途に就き府の會計課長として今日に及んで居る。今の總督、長官朝鮮に官人たること久しき人々である。君亦其の下にありて大いに朝鮮統治の爲めに貢獻せられた人である。

今や奇緣にも偶然にもこの三人者が南方領土の開拓に新經綸を行はんとして居る。君は權略百出、鋭鋒縱横たらざるの人だが、何んとなく親しみ易き、村夫子の如き風格高古の人である。二十有餘年の官海生活をなした人としては餘りに官僚味の薄い人である。官房の會計を司るに最適者たるはいふまでもない。望むらくは石塚總督の直參として、人材乏しきの時眞の良臣たらんことを希ふや切なるものがある。因に君は從四位勳四等位勳の所有者である。

## 電氣界のオーソリティ　三宅福馬君

（遞信部長）

天下の名君として天下に德望高かりし土佐の英傑山内容堂侯二十四萬の城下、高知の城址は今尙三層の天主閣巍然たるを見る。土佐は四國々中に最も史蹟の多き處にして又人材を出だしたる地として名高い。板垣退助、後藤象次郎、河野敏鎌、植木枝盛、馬場辰猪、大石正巳、現首相濱口雄幸氏等皆土佐出身なり。

君も亦高知縣の人、明治十六年七月十五日の生誕である。往年、遞信省に三宅福馬と云へば却々盛名を擧げた新人であつた。明治三十五年東京郵便電信學校を卒へ、同四十年高文をパスした人である。君の閲歷を見るに東京鐵道郵便局長、電氣局監理課長、同業務課長、遞信局電氣課長を歷任して大正十二年官を辭して大阪實業界に活躍した人である。

君は曾て電氣局監理課長時代歐米に留學し、電氣事業の經濟を研究し、其の蘊蓄せる學究は内外の群倫を拔きて『西にジーケル東に三宅』の令名を博した人で、我國電氣事業經濟の一新紀元を開き斯界に貢獻せる處決して僅少ではない。而して電信課長としては歐洲戰亂の反動時代に際會し電報輻輳して從業員の徹宵の努力も效なく停滯混亂殆ど策の施す處なき時に當り、恰も快刀亂麻を斷つが如き巨腕を揮ひよくこの繁多窮況を救濟して時人を驚嘆せしめたる人として今尙斯界

に盛名を藉甚たらしめて居る。昭和四年九月、前部長深川繁治君の後を襲ふて今日に及んで居るが君の如き我國有數な斯界の權威者を求め得た事は、益々多事ならんとする本島電氣事業界の爲めに慶賀すべき事である。宜なる哉、任日淺くも事業各部の面目を一新して盛んに其の足跡を印し生氣潑溂たる雰圍氣が溢れ漲つて居る。

君、書畫をよくし、漱石張りの文筆に長じ、又英、獨、露の各國語に通ず、著書として電氣事業經濟論、電氣事業の經濟、事業管理法大意等あり、正五位勳五等。

# 第二章　石塚總督幕下の新人舊人

## 地方長官の部

臺北州知事　片山三郎君　　新竹州知事　田端幸三郎君
臺中州知事　水越幸一君　　前臺南州知事　永山止米郎君
高雄州知事　太田吾一君　　澎湖廳長　大竹勇君
花蓮港廳長　猪股松之助君　　臺東廳長　兒玉魯一君

民をして各其處を得せしむるは國政第一の要件なり。民をして希望あらしめ、其の實際實力を發揮せしむるは國家の富强を致す第一要素也。若しこれなかりせば、流離浮浪の民衆又は實力あるも世に用ひられざる人は、遂ひに滿足を得る生活の場所を見出す能はずして或は不平の徒となり或は自暴自棄となつて、國家を呪詛し社會を怨嗟するに至るべし。所謂民生の安定と云ひ、民力涵養と云ひ、爲政者の常に口にする處なりと雖、實際にこれを行ふて機を愆らざるもの果して幾何ぞ。

臺灣の地方長官は政黨の圈外にありて其實力實才を發揮するには好活舞臺なり。從つて消極的の必要を外にして積極的に功名致福の希望を有する實業家の爲めに利便を與ふる敢えて躊躇するの要なけん。乃ち活動を好むに滿足を與へ、窮乏に苦しむ者に希望と地位とを與ふるは植民行政官の責務なるべし。況哉今や人口の過剩、食料問題喧びしく、國を擧げて無職の徒充滿し、失業者救濟に日も足らざるの現狀なるをや。この意味に於ても我が國家公安を保つ**セイフテーヴアルブ**の感あるは我が新領土なりと信ず。任に地方長官にあるもの其任や重大にして尙も閑談空語を許さゞるもの多かるべし。

人謂ふ臺灣は天惠にして地福なりと、眞に然り、然れども天の惠みを受くるものは內地人にあらずして悉く本島民衆なり。見よ內地人の疲弊は漸を追ふて益々深刻ならんとしつゝあるの際、富の壟斷は本島民に獨占されあるの感なきにあらず。其產業狀態を見るに於て明瞭なり、臺灣の總生產高六億餘萬を數ふ。然して農業戶數三十九萬戶を算し總戶數の約五割を占め、農業者一戶平均二町步に當るといふにあらずや。（內地農村民は平均一町半）（朝鮮平均一町半）次に農產方面の總生產額を見るに驚くべし二億千萬圓に達し內米一億四千餘萬圓を筆頭に甘蔗六千萬圓、甘藷一千餘萬圓、芭蕉壹千餘萬圓、蔬菜の壹千萬の年額は悉く島民の囊中に入る。あゝ眞に天惠にして地福といふべし。皷腹して壤を擊つの樂しみは本島民に多くして內地人は袖視傍觀の感あり。果して將來斯くの如くんば我が臺灣統治の大成は期すべきか、逆睹すべからざるものあり。

本島に於ける地方行政の區劃を見るに五州三廳とす。其面積の最大なるは臺中州の四百七十八方里にして、次に高雄、臺南、花蓮港、新竹、臺北、臺東の順序なり。澎湖島は島嶼のみにして僅かに八方里に過ぎず、今之れを內地各府縣に比較すれば、臺中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に臺南州は愛媛、千葉の間に、花蓮港、新竹州及臺北州は和歌山、京都の間に、臺東廳は奈良、鳥取の中間に位せり。左の參考の爲に內地府縣との面積を比較せん。

| | | 面積 | | | 面積 |
|---|---|---|---|---|---|
| 熊本縣 | | 四八一、八九（方里） | 宮城縣 | | 四七二、四五（方里） |
| △臺中州 | | 四七八、七二 | 山口縣 | | 三九四、六四 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| △高雄州 | 三七一、〇三 | △花蓮港廳 | 三〇〇、一〇 |
| 三重縣 | 三六九、七〇 | △新竹州 | 二九八、一六 |
| 愛媛縣 | 三六九、五〇 | △臺北州 | 二九六、五六 |
| △臺南州 | 三五一、五一 | 奈良縣 | 二四一、八五 |
| 千葉縣 | 三二九、二九 | △臺東廳 | 二二八、六四 |
| 和歌山縣 | 三〇六、八五 | 鳥取縣 | 二二六、九四 |

更に內地府縣との人口に比較せば次の如し（臺灣は昭和四年末現在內地は昭和二年度現在）

| | 人口 | | 人口 |
|---|---|---|---|
| 臺南州 | 一、一四〇、八七六 | 滋賀縣 | 六六四、八〇〇 |
| 山口縣 | 一、〇六一、一〇〇 | 高雄州 | 六一九、一六一 |
| 臺中州 | 一、〇〇一、五〇〇 | 沖繩縣 | 五五四、七〇〇 |
| 岩手縣 | 九一二、五〇〇 | 花蓮港廳 | 八〇、三一二 |
| 臺北州 | 九一六、七七〇 | 澎湖廳 | 六二、二一〇 |
| 青森 | 八二四、七〇〇 | 臺東廳 | 五七、六〇八 |
| 新竹州 | 六七八、〇二四 | | |

由是觀之、花蓮港、臺東の兩廳下五百二十八方里の面積あり然るに人口僅かに十三萬に過ぎず、これを開拓して我が同胞を移住せしむるに國家の施設として何たる困難あるを感せざるべし。硫磺の島嶼多く資源乏しき沖繩縣に五十五萬人の人口を有す。而も千古斧鉞の入れざる中央山脈に富源を有し、農耕適地として六萬町の未開原野を有する東部臺灣に、人の入らざる理由なし。要は督府當路の大英斷にあり。言架空の提唱にあらずして今や實際問題なり。鹽海道路開鑿に七百餘萬圓を投じたるは、蓋し東部臺灣開拓を積極ならしむる前提ならずや。

西部臺灣は各般の施設經營殆んど內地各府縣と異ならざるものあり。否寧ろ農民の如きは政府の多大なる保護の下に或は島米の增產改良に、或は水利灌漑事業に、或は河川の護岸工事に其規模の大工事に既に完成して今や收獲の期となり增產又增產を見んとするの盛況なり。農業國としての臺灣民の享受する幸福は既に遺憾なし、然れども工業國として內地人の受くる幸福は僅かに資本主義の砂糖工業以外にこれを見る能はざるなり。今や土地政策の不徹底を嘆じて、內地人をして此土に親しめよと叫ぶ聲や囂々たり。彼の朝鮮に於ける東洋拓殖會社の如きは主として內地人本位を以て開拓の基礎としたり。則ち土地開拓に見識を有する石塚總督、人見長官を迎へたる島人は臺灣現時の土地政策に對して大なる期待を有するものなり。

## 一　臺北州勢と片山知事

面積＝人口＝教育＝農業＝林業＝水產＝鑛業＝金融＝信用組合

**本州の面積**——は叙上の如く二百九十六方里あり。內市街庄地域百七十七方里强にして、街庄を置かざる蕃地百十九方里弱で、其の最も廣き處東西十九里、南北三十六里あり。卽ち南新竹州、臺中州に隣り東花蓮港廳に境して居る。本州は臺灣の最北端にありて比較的山嶽重疊相連りて平野としては僅かに臺北市近郊一圓の盆地と宜蘭平野を有するに過ぎない。大山名河として其最も高きは南隅に南湖大山（三七九七米）中間に桃山（三三九〇米）として其他二千米以上のもの枚擧に遑なく河川としては淡水河（三三里）を第一として新店溪（一八里）基隆川（一六里）を合して淡水港に注ぐ其他、宜蘭濁水溪（一七里）大南澳溪（九里）花蓮港廳界を流るゝ大濁水溪（一二里）あり。港灣とは北門の鎖鑰たる基隆を始めとして、蘇澳港及淡水港を有して居る。

**人口**——は昭和三年現在戶數十七萬四千二百十二戶、人口九十一萬六千七百七十人にして、內地人の戶數は二萬五千七百二十五戶、人口九萬五千六十一人を算し、殆んど全島內地人の總人口五割を占めて居る。

**教育**——の方面を觀ずるに、初等普通教育機關としては昭和四年度現在小學校二十九校、公學校百四校、計百三十三校の多きを算し內尋常小學校二校は州立として、其他は悉く市街庄立となつて居る。尙昭和四年四月三十日現在の小學校

教員數及兒童數を學ぐれば教員男一七九人、女七十三人にして計三五四人在學兒童數は男六千六百十五人、女五千九百四十四人、合計一萬二千五百五十九人、就學歩合は九八、一四の好成績を擧げ、經費爲くべし四十八萬八千二百十三圓を要して居る。次に公學校教員及兒童數は教員數男八四二人女一九九人、在學兒童男三七、三七二人、女一五、二二七人、合計五二、五九九人として就學歩合は僅かに三六、四一に過ぎないが、經費は百五十四萬二千七百十八圓を要して居る。之に依つて見れば內地人の就學歩合は九十八％一四なるに本島人は三十六％四一で內地人の半にも充たない結果となつて居る。

**高等普通教育**——機關としては昭和四年度現在、中學校三、高等女學校四、計七校、中學校は臺北第一、臺北第二、基隆中學の三校である。教員數は臺北第一の三二人臺北第二の二一人、基隆中學校の一二人、計六五人、生徒數は臺北第一中、九六九人、臺北第二中は四三五人、基隆中學校は二九二人、計一千六百九十六人にしてこの經費三十萬二百九十四圓を要して居る。

**高等女學校**——の昭和四年四月末日現在の教員數、生徒數は臺北第一女學校の教員數は三十三人、第二女學校は二一人、第三女學校は二六人、基隆女學校は二二人、生徒數臺北第一女學校八七四人、臺北第二女學校四五九人、臺北第三女學校六〇一人、基隆女學校三八三人、合計二、三一七人にして此の經費三十二萬四千九百十九圓を算す。

**實業教育**——としては昭和四年四月三十日現在商業學校、工業學校、農林學校、農業補習學校三、計六校がある。商業學校の教員數は二五人、生徒數は五六六人、經費九萬一千七百四十圓、工業學校の教員數は五十人の多きに及び生徒數は六六三人を數へ、經費二十萬九千四十三圓を要して居る。農林學校の教員數は二〇人、生徒數三七〇人、經費十一萬四千八百十圓を要して居る。實業補習學校は木柵、金山、和尙の三校を合せて生徒僅かに四八人に過ぎない。教員は殆んど兼務となつて居る。其他

**私立學校**——としては臺灣商工學校、臺北女子職業學校、靜修女學校、漕洞宗中學校、成淵學校、臺北中學會、基隆夜學校、淡水中學校、淡水女學院、臺北神學校、宜蘭夜學校等あり、幼稚園は臺北市に五、基隆市に二、瑞芳に一、宜蘭に二、羅東に二、計十二園を算し、昭和四年四月三十日現在、園兒數九百人、保姆四十人、經費二六、五四九圓を要して居る。以上州下の教育費市街庄負擔を合せて三百十餘萬圓に及んで居る。實に旺盛なりと謂つべきであらう。次に本州下の產業を列擧して見る。

**農業**——としては土壤肥沃にして、氣候溫暖にして降雨多く農業に適し、臺北、宜蘭の平野より、米、甘藷、果實、蔬菜の農產物に富み、生產侮るべからざるものがある。卽ち農業を首位とする臺北州下の耕地面積及農業を見るに、昭和三年度に於ける州下田畑の面積は九萬一千六百二十七甲、內田五萬五千六百八甲、畑三萬六千十九甲で、農業者總數三十一萬八千四百六十五人を數へ、總人口の三割六分を占めて居る。內自作農は九萬二千八百四十七人農業者總數の二割九分自作兼小作農は九萬八千九十一人にして三割八分强、小作者十二萬七千五百二十七人にして三割三分弱となつて居る。

州下の主要農業の總生產高を見るに昭和三年度に於て四千百六十六萬二千餘圓にして、其主なるものは米作の百八萬六千三百十四石（作付面積十萬一千五百二十五甲）價格二千二百二十一萬九千二百二十八圓の多きを占め、次に茶の生產高六百三十四萬五千九百十七斤にして價格二百四十九萬八千百三十三圓、蔬菜作付面積五千五百四十甲にして價格二百二十七萬餘圓其他甘蔗の百五十七萬一千餘圓、甘藷の百六十四萬六千餘圓、果實の八十萬四千餘圓の多きを產して居る。

**林業**——更に本州下に於ける畜產業の有望なる、森林の豐かなる。彼の阿里山の豐庫を凌駕するといはれて居る太平山の森林の如きは今猶ほ三千萬石の多きを藏すと聞く。昭和三年度に於て伐採せる扁柏、紅檜、香杉、亞杉、姬小松等十三萬九千石に上り價格一百二十四萬五千餘圓に達して居る。

**水產**——次に本州下の水產概況を見るに、本島沿岸に漁族多く、漁撈の途、捕魚の法未だ完全ならざるものありと聞くもそは水產業の統制なく、彼の水產會社が基隆に南部に蠢動するものを打つて一團となし補助を積極たらしめて、斯業の隆大を計るは緊急の急といふべく、四面環海の臺灣に於て特に緊要の條件である。今日那威が列强に介在して其權威を保持するは、卽ち統制ある水產業の賜である。

本島に於ける水產業の沿革を見るに明治四十三年初めて水產施設を定められたのである。當時養殖業の收獲は百六萬圓を算したるに、沿岸の漁族豐富なるに漁獲總高僅かに九十六萬圓に過ぎなかつたのであるが今日では昭和三年度の漁獲高一千二百六十七萬餘圓に上つて居るから僅か二十年間に十三倍の增收を見て居る譯である。更らに竿頭尺を進めて水產の統一を計り且つ其施設に遺憾なきを期せば必ずや、世界の水產國を以て任ずるの盛況を告ぐるに至るであらう。片山知事

の意をこの方面に注がるゝ蓋し故ありといふべきである。

本州の水産總額は八百萬圓を超へ、全島産額の五割弱を占めて居る、而して内地方面への移出の如き年々百餘萬圓に達し多々益々有望なるものがあるといふ。

**鑛業**――に就て見るに有要鑛物は金鐵、砂金、水銀鑛、銅鑛、砂鐵、硫化鐵鑛、石炭、硫黄及燐礦の八種であるが、水銀鑛、燐礦は大正六年以來これを休止して居る。昭和二年度の鑛産價額は總計一千六百四十二萬一千餘圓に達し、昭和元年に比し百八十五萬圓を增加して居る。就中、石炭は其首位を古めて一千四百二十九萬餘圓に上つて居る。盛んなり矣と謂ふべきではないか。

**金融**――を見るに昭和三年中の臺灣銀行兌換券發行高年の初めに五千百萬を上下したるに漸次遞減して四千五百萬圓を示したが、年末最高五千七百萬圓に達した。次に臺北組合銀行の預金貸出の狀況を見るに預金九千六百萬圓にして前年に比し四百萬圓の增加を示し、貸出しは一億八千萬圓にして前年に比較すると千九百八十萬圓を減少して居る。

**産業組合**――中下級金融機關の産業組合は逐年發達を告げ、昭和三年末現在八十四ありて、内信用組合五十八、購買組合六、利用販賣組合三、利用販賣購賣組合十五、建築利用組合一、販賣組合一にして、組合員數四萬二千餘人の多きに達し、出資口數十八萬七千口、其出資總高四百十二萬四千九百餘圓、内拂込濟出資額二百八十六萬六千七百餘圓、貸付一千十一萬二千餘圓、貯金九百十七萬七千五百餘圓、購買品賣却高三百三十二萬餘圓、販賣品高四百五十三萬餘圓、諸積立四十四萬餘圓に達して居る。

以上の如く臺北州勢は産業に於て今尚隆々發展すべきものは、農産、水産、鑛産、林産等にして宜蘭濁水溪の河川整理の工事竣成後は州下の農産に貢献する處甚大であらう。片山知事の新經綸は卽ちこの部面に注がるゝことゝ信ずる。

## 貴公子　臺北州知事　片山三郎君

由來京の地は、優雅にして閑靜、古櫻玉殿樹林南北に聳へ、金門朱壁東西に聯なり、花開けば雅致夾かに、螢飛べば風色涼し。嵐山の紅葉、吉野の櫻花、鴨川の水、比叡の景俱に天下に冠たり。然り山水若し女人を生み、女人多く旅行の性癖ありとせば西本願寺法主は正に京都山水の特産といふべきであらう。此の地桓武天皇以來の舊都として、民人擧げて長袖流なるものが多い。換言すれば公卿の風は卽ち京都民人の風たり。然れども時代の進運は之を許さゞるものがある。卽ち明治初年歐化主義の槇村縣令はこの悠長閑雅なる外美的を矯正せんとなして極力改造に努めた。彼の京都博覽會の如き明治四年に開催し、十四番小學校の如きは明治二年の創設である。又京都病院は之に遡りて明治元年の開設を見たるが如き孰も我が國文明機關の魁けをなしたる處である。想ひ見よ『間座叡峰雲霧間。清風六月拂仙寰。玉皇當日震前雪。一點香爐是此山』と尊王攘夷の中心をなしたる舊都の靈山、海拔二千八百尺の山頂に王政維新後數年にしてケーブルカーの自由に上下したるを、其思想其物質の大變化は蓋し史上の奇觀といふべきである。

片山臺北州知事は京都の産、早稻田出の人で明治三十四年首位を以て判檢事登用試驗に登第して居る。壯年司法官より轉じて農商務省に入り永く林政の實際を究め、後本省に入つて中樞的人材として令名あつた人である。

片山知事は貴公子然たる好紳士で、地方長官中の最古參者である。伊澤總督時代殖産局長たりしが、上山總督時代に臺南州知事となり川村總督時代に臺北州知事として今日に及んで居る。片山君は極めて明い、情實に因はれない公明な人で爾來臺北州知事として州民から批評の標となつたことのない人である。誠實と温情とはよく衆を率ひ、よく衆を容れる。げにや愛は百德の基とは君を形容したるものであらう。因循の如くにして理解力が早い、一面には茫乎たる裡に眞氣を藏して果斷一往の高處がある。前の高橋知事が殘した草山温泉の開拓は片山知事の手に據つて着々として工を進められて居る。其他林政に農政に多年造詣深き君の手腕に期して待つものが多く、州下の開發は正に刮目すべきものあらう。乞ふ邦家の爲に加餐自重を望むや切なり。

## 二　新竹州勢と田端知事

### 州下の生産狀況＝州勢振興調査會＝努力の人熱の人、田端新竹州知事

北部臺灣文化の發祥地として淡水城趾のありし新竹市は今や新興途上にあつて官民の緊張振作涙ぐましきものがある。

新制度以來十年間に地方長官を代ふること六人に及び恰も政爭激しき內地の府縣知事に似たるものがある。州民の不幸之れより大なるものはあるまい。新興新竹の開拓者を任ずる現知事田端幸三郎君の州政を見るに生氣潑剌日に又新たなる施設に邁進しつゝあるは實に意を强ふするものがある。昭和四年十二月十七日知事として州通常協議會の席上に於て演說したる最要を揭げて將來の證左としたい。

從來新竹州ヲ以テ恰モ貧弱州ノ如ク他モ云ヒ自ラモ之レヲ首肯スル弊ガアリマシタガ之レガ自然萎縮退嬰シ習ヒト相成リマシテ斷ジテ民心ヲ鼓舞作興スル所以ノ途デナイノミナラズ日進ノ大勢ニ順應スルモノデナイノデアリマス現在州下ノ狀勢ハ產業ニ於テ敎育ニ於テ交通關係ニ於テ他州ニ比シ劣ルモノデアリマスガ私ハ我州ハ寧ロ洋々タル希望ト矜ヲ有スル青年ニモ譬フベキ多分ノ未來ト豐ナ天分トヲ包藏スルモノデアルト堅ク信ジテ居リマス私ハ新興新竹ヲ現出スルノ方途眞ニ官民相融和シ相協力シテ資源ノ開發ニ文化ノ進展ニ適切ナル調査研究ヲナシ以テ人心ノ作興ヲ圖ルト共ニ盛ンニ經綸ヲ行フコトヲ以テ第一義ト存ジマス

以上ノ見地ニ基キマシテ州下官民有力者ヲ網羅シテ先ヅ勸業土木ニ關スル委員會ヲ組織シ約二箇月ニ亘リ細密ナル調査ヲ進メマシタ結果誠ニ剴切ナル資料ト有益ナル結論ヲ得タ次第デアリマシテ之レガ調査ノ結果ニ對シテハ充分ニ利害得失ノ及ブ所ヲ考覈シ適切重要ナルモノニ對シテハ漸次其ノ實現ヲ期シ度イト存ジマス尙敎育、衞生ノ調査ハ止ムヲ得ザル事情ノ爲メ本年開會スルヲ得ナカツタノデアリマスガ來年早々之レガ調査ニ着手シタイ考ヘデアリマス本州ノ現狀ヲ以テ致シマスレバ其ノ生產、負擔力ノ關係州財政ノ狀態、銀行及產業組合ノ貸出金、預金ノ關係低利資金融資ノ狀況、郵便貯金等各種條件ニ就キ之レヲ平面的ニ他ノ四州ト比較對照致シマスレバ一トシテ誇リ得ベキ資料ハアリマセン此ノ狀態ノミヲ以テ判斷スレバ新竹州ノ貧弱ナルコトハ如何トモスルコトノ出來ヌ事實デアリマスガ立體的ニ之レヲ觀察スルトキハ大正十年卽チ制度改正當時ト昭和二年ノ狀況ニ付比較スルニ此ノ間僅ニ七年而カモ州下ノ生產總額ハ四千七百萬圓ヨリ八千一百萬圓卽チ約二倍ニ近キ急激ナル增加ヲ來シ大正十年ノ指數ヲ一〇〇トシテ各州別增加ノ比率ヲ見ルニ我新竹州ハ嶄然一頭地ヲ拔キ外四州ガ一一三乃至一五一ノ間ニ在ルニ對シ實ニ一七二ニ及ンデ居リマス

卽チ本州ノ貧弱タル蓋シ資源ノ枯渴乃至施設ノ行詰リニ因ルモノデナク仔細ニ州下ノ趨勢ヲ考察シ以テ將來ヲ付度スレバ州下ノ各種產業ハ著シキ伸張力ヲ有スト謂フモ敢テ過言デナイト信ジマス而シテ產業ノ振興ハ州下各般ノ文化向上ノ基礎ヲナスモノデアルト存ジマスルガ故ニ之レガ振興ニ付テハ特ニ意ヲ注イデ居リマス

茲デ御斷リ申上グルコトガ便宜デアルト思ヒマスガ豫算編成ニ付キマシテ從來州對農會又ハ水產會トノ業務關係ニ付テハ雜然トシテ一定ノ分界ガ無カツタノデアリマスガ其ノ爲メニ各種弊害ノ伴フ虞モアリマスノデ各團體ノ間ニ於ケル事業ノ分野ヲ判明シ各其ノ目的トスル方針ニ專心セシメ事業ノ混淆ヲ避ケ能率ノ增進ヲ期シ度イト考ヘテ居タノデアリマスガ過般督府ノ通達モアリ團體相互間ノ財政ニ著シキ影響ノナイ限リ漸次基本的ノ調査試驗、重要產物ノ改良ニ付テハ州ニ於テ之レヲ經營シ所屬各種團體ハ專ラ奬勵事業ニ全力ヲ傾注スル事ニ改ムル方針ヲ採ツタノデアリマス

從テ從來農會ニ於テ經營シ來ツタ種畜場ハ本年度カラ州ニ移管シ之レニ對シ州ヨリハ奬勵事業デアル畜產奬勵、茶業奬勵及ビ園藝振興奬勵事業中加工試驗ノ關係ヲ除キタルモノヲ農會ニ移管シ又水產會ノ事業中漁場試驗ノ如キヲ州ニ移管スル等分掌事項ノ分界ヲ明ニスルコトニ致シタノデアリマス（後略）

其の說く事極めて剴切、理路整然たるものがある。而も他州に比して寧ろ洋々たる希望と矜を有する青年に譬へて州下六十七萬人をして奮起勇躍せしめ新興新竹を現出せんと努力する田端知事の勇往邁進は任後寧處なく日も尙ほ足らざるの感がある。

## 新竹州下の生產總額

新竹州下の產業狀況を見るに昭和三年末現在農產は四千九百四十五萬六千六百六十三圓の多額を占め、林產二百五十三萬六千二百七十七圓、工產三千百二十一萬九百十三圓、水產四十八萬七千九十二圓、鑛產百二十萬二千三百十圓を合計すれば八千四百八十九萬八千二百五十五圓の多きに上つて居る。

農業戶口及耕地面積は昭和三年末、戶數五萬二千四百三十三戶にして人口三十七萬六千五百六十四人を算す。耕地面積は十四萬三千五百五十一甲にして內田は八萬千六百四甲、畑六萬千九百四十七甲、農家一戶當り田一甲五六、畑一甲一八にして計二甲七四を有して居る。これを臺北州の九萬一千六百二十七甲に比すれば新竹州下の耕地は五萬餘甲多き譯なり之れを集約して立體的增產を計らば優に臺北州を凌駕するに至らん。田端知事の勸業土木に意を致す所以卽ち玆に存するのであらう。

## 新竹州勢振興調査會設置理由

田端君は新竹州知事として赴任するや州下の開發に寢食を忘れて努力されつゝあるは叙上の如くであるが、君の明敏な

る觀察はよく州下萬般の運施企畫を透視し將來あるの新興新竹と斷じて積極政策を樹て多年の案件たる各般の新經營に勇往邁進の實を示した。新竹州勢振興調査會なるものは卽ちこれである。今振興調査會の規程を見るに、

第一條　本會は州勢の振興を圖る爲め重要事項に付き調査するものとす。

第二條　調査會を分け勸業、敎育、衞生の三部とす。

第三條　各部に於ては左記事項に付き企畫研究調査審議するものとす。

## 一　勸業部

A　産業（農業、畜産、林産、水産、商工、金融、副業、蕃地産業及蕃地授産）

B　交通土木（道路橋梁、交通機關、港灣、水利、公園及遊覽地）

## 二　敎育部

A　學校敎育　B　社會敎育　C　社會事業　D　蕃人敎化事業

## 三　衞生部

A　保健　B　防疫

等（以下略）を調査研究し會長に知事、副會長に內務部長、警務部長を以て充て委員は州下の有力者を網羅されて居る。其の額振れを見るに、

樋口典常　鄭肇基　松橋逵生　鈴木壽作　新原龍太郎
清水源次郎　桑原佐一郎　鄭神寶　李良弼　張式穀
兒玉三次郎　葉心榮　羅亭錦　川田武彥　范姜羅
黃立枝　篠原太一　簡朗山　林鴻英　山本新太郎
宋燕貽　姜振駁　氏家壽右衞門　陳堯梅　鈴木伊勢敎
邱雲興　鍾建英　謝長清　嚴藩

等の諸氏で既に昭和四年度に於て産業の部面は調査濟みとなつて居る。この調査に依る生産見込額は實に甚大なるものがあるが、限りある紙數にては到底細目を揭げて記述することが不可能であるから他日の編纂に讓る。

多年虐げられし感ある新竹州は努力の人熱の人たる田端知事の巨腕に依つて近き將來には各般の施設經營に燦然光りを放ちて他州に比し毫も遜色なきに至るであらう。空拳以て實效を收むといふ、田端知事は正にこの勇氣を以て、州の一字で突進する覺悟であつたことゝ信ずる。

田端君は本府に來たのは同鄕の先輩下村長官時代で、始め警務局の警務官たりしこともある、後ち新制度の際選ばれて新竹州の警務部長に榮轉し、次で警務局衞生課長、臺北州內務部長、臺北市尹等を歷任して新竹州知事となり現在に及んで居る。田端君は一寸官人らしからざる處に甘辛の妙味がある。州下の開拓に衝らば、千萬軍吾に於て何かあらん、百戰して死するなきを善戰といふ。卽ち田端知事の現況やこの感を深ふする。

田端君は斯の如くよく頭の動く人で臺北市尹時代に於ても相當の事蹟を殘して居る。市場の改造埋立、下水工事の如きも田端君時代であつた。電車の計畫は市營バスに變じたが、田端君としては遺憾に感じたことであらう。君一度壇上の人たらんか、其の辯舌流るゝ如く恰も金口木舌の感がある。總督の地方巡視の際、知事連が茶話會の席上に於ける挨拶の辭が同行の操觚者から及落の點數を附せらるゝを常とするものだが、田端君の如きは全く百點最優等の及第者として謳はれて居る。何んといつても知事中では年は若く才もあり一異彩といふべきである。今の總理大臣中島秘書官とは同窓で且つ最も昵懇の間柄であると聞く。明治十九年二月の生れとあるから著者より一つ上の四十五の花盛りの人だ。

## 三　臺中州の産業と水越知事

臺中州の産業は米が第一

臺中州は全島各州に比し其の面積の最大なることは叙上の如くで、其の生産額に於て米の如きは第一位を占めて昭和三

年末產額百八十九萬九千石を越えて居る。甘蔗は二十六億一千餘萬斤を算し全島第二位を占め、芭蕉は一億五千萬斤で全島第一である。其の他柑橘、鳳梨等の事業は益々累增して居る。卽ちこの生產總額は七千二百三十一萬餘圓で、之を臺北州の四千百六十六萬二千圓に比し、新竹州の四千八十三萬八千餘圓に比し約三千餘萬圓の增產を示して居る。尤も臺南州の七千三百八十萬五千餘圓に比しては一籌を輸されて居るが、將來多々益々遞增の域に進みつゝあるは論ずるまでもない

州下の主要產物としての大宗は何といつても米である。所謂砂糖の臺中より米の臺中で名高い。昭和三年度の米の作付面積及收穫高を表示すれば、第一期作水稻七萬四百八十七甲で、收穫高は九十八萬八千二百六十二石、同陸稻の作付は二千二百七十甲で、收穫一萬七千百九十三石、計作付面積七萬二千七百五十八甲にして收穫高は百萬五千四百五十五石を產して居る。第二期の水稻は作付六萬九千七百五十八甲、收穫八十九萬九十三石、同陸稻五百五十一甲で三千九百十五石、合計百八十九萬九千四百六十三石の產額を示して居る。全島に於ける產米總高六百八十萬石とすれば臺中州下は約三分の一の產額を示して居る。

次に州下の工產總額を示せば（昭和三年度統計）七千八百二十餘萬圓にて農產總額にこれを合する時は一億五千四十一萬圓の多きに達して居る。州下工業の主なるものとしては製糖、籾摺、精米、製帽、製麻、罐詰業にして、製糖業の外は概して規模小である。

## 歷代の州知事觀

大正九年新制度と共に臺中州知事に任命せられたる加福豐次君は、大衆政治家として州下の民人より崇敬せられ令名あつたことは萬人の知る處である。當時今日の如き政治思想の激甚を極めなかつたので、臺中州政は同滿に進んで居つたものである。開拓問題も積極的に行はれたものである、其の後に來たのは立川連君で、牧民の長としては餘りに消極的な人であつた爲めに、內務部長の本山文平君や警務部長の伊藤彙吉君の腕が極めて冴えた感があつたので、この人も知事としては印象を貽して居らぬ。其の後任に拔んでられたるは田系の四天王といはるゝ常吉德壽君である。當時新竹州知事から臺中州へ轉じた常吉君に對して迎もの騷ぎをやつたものである。今から見ると一茶飯事の感があるが、其の當時は秩序的に任免が行はれて居つたので、破格の進級者といふのは至つて少なかつたものである。其の後に伊澤總督が來任した機を見るに敏なる本山君は伊澤總督の精悍で猪突的な態度をよく嚙み分けてよく奉仕したものである。田系と賀來系とは共に枕を彙べ城を開いて悉く身を退いた後に拔擢せられたのは本山文平君と三浦碌郎君とであつた。

本山君は居据つて臺中知事となるや、州下產業の興隆を計つて、生產の增加を企てたものである。先づ新興生產の巨擘として芭蕉の奬勵を計り、これが統制と販賣機關との必要を認めて、農商務省と樟俎折衝を重ねて、漸やく出來たのは今の青果株式會社である。草創の時代に於て、過渡期の時に於ては、多少犧牲に供しても大を救濟するといふのは止むを得ないことで、生產者の保護をなすと共に內地の販路擴張にも犧牲を拂つたのは當然であつた。

本山知事が一人で拵らへた此の芭蕉問題の改善に就て幾多の野心家、幾萬の生產者が寄つて集つて鳩首鼎座を重ねての策動も遂ひに關門を破ることが出來ずに今以てワイ〳〵騷いで居るといふ始末である。本山君の力亦偉なりといふべきであらう。

その本山君が、阪本森一君の後に警務局長に榮轉し長官後藤の股臣として、上山總督の腹臣として渾身以て大いに努めたものだが、例の臺中の不祥事件に責を負ふて挂冠した。本山知事の其の後任になつたのは佐藤繼君であつた。佐藤君も年は若し、氣は銳で、而も身を奉ずること極めて薄かつた人として、地方民の人氣は大したものであつたが、志成らずして本山君と共に責を負ふて退官した。

其の後に來たのは生駒君である。田系にも卽かず、伊澤系とも離れず、官海游泳の達人として聞えてる人で、上山總督抔は生駒さへ居れば皷抔はいらぬといつた態度で、馬鹿に生駒君を信賴したといふことである。然し臺中では餘り冴えたる仕事もせずに拓務省へ轉じて了つた。

其の後任として今の水越幸一君が審議室から出でゝ牧民長官として臺中州下に君臨して居る。臺中州下には、一萬尺以上の山嶽は二十八座を有し、人口は昭和四年末調査に依ると一百萬一千五百人を數へ、臺南州の一百十四萬八百七十六人に次ぐの盛觀を告げて居る。

水越知事は大體學究的で恰も執上の人の感がある、雜貨屋式の牧民長官としては果して適任であるか否やは未知數の人

だといふものがあるが、然し尸位素餐の人では決してない。水越君が臺灣總督府に來任したのは下村長官時代で、東京市役所の主事から轉じた人である。勿論今の新制度の審議立案に沒頭した官人たるはいふまでもない。

新制度が布かれると君は州廳課長となり更らに課の廢合の結果地方課長となり、次で審議事務官から臺中州知事に榮轉して今日に及んで居る。山梨縣の產で、大正元年の帝大政治科の出身である。

君は、極めて節義の正しい、行ふて度の越えない人である。渾身これ膽甲州武士の風もあれば、山村水郎の好學究の佛げもある。臺中州政は全島でも却々至難とされて居る處だが、些の批難もなく州政を圓滿ならしめて居る。

## 四　臺南州政と永山前知事

### 赤裸々の臺南州を基調として施設した永山前知事の靈腕

著書この一文を草するの時、突如として臺南州知事の更迭を傳へらる。されど其の眞疑確むる要なく豫定の筆戰を以て永山知事時代に於ける臺南州政を窺ふことゝした。臺南州下は元の嘉義廳を合して一州とせる處で、我が臺灣に於ける糖業地帶一圓を包括せるの感がある。卽ち臺灣の蓬萊境であり臺灣の**カリフオルニア**である。當州下の生產は全島に於ける總生產額六七億の內其三分の一に相當する產額を見て居るのである。今產業の趨勢を見るに田園面積二十六萬一千三百餘甲を有し耕地の廣大なること全島第一となつて居る。昭和三年の生產總額を見るに、糖產、農產、工產、畜產、林產、水產を合して一億九千四百五十七萬八千三百十圓に上つて居る。永山知事の所論の如く『臺南州は正に全島の三分の一見當に當る富力を有して居る』となす、蓋し故ありといふべきである。

從つて農業人口の如きも六十九萬五千三百八十二人を算し總人口の約六割三分を占め、農業戶數十二萬五千九百八十一戶に達して居る。永山知事は臺南州に赴任以來、州下の產業開發に專ら主力を注ぎ、地力の改善問題に對して銳意農事の改良に努め、多年の掠奪的農業法を刷新し、且つ深銳に土壤の研究をなして、更らに施肥の必要を說き、施肥の方法としては堆肥と綠肥とにあり、これを完全ならしむるには農家の家畜を普遍的飼用を期せしむるにありとなし、大いに州下の畜產に意を用ゐ、更らに州下の海岸一帶に防風林なるもの一も見ることなく、永山知事の炯眼はこの方面にも發射して、所謂耕地防風林及護岸林の五箇年繼續事業として計畫を見るに至つた。其の他民林の增殖を圖り苗圃を開設して苗木の養成に努め一般希望者に無償を以て配布し林業思想の發達を期した。次に農家の副業として養豚、果樹、園藝、養鷄等の更新を五箇年を劃して積極的にこれが實行を期し、商工業の振興に對しては商品陳列館の活用と副業的工藝品展覽會開催其他の方法を講じ一層商品紹介の實を擧ぐると共に、商品陳列館と最も密接なる關係にある商工者を打つて一團となして商工奬勵會なるものを組織せしめ、新規の製作品に對しては作業費の資金に充つるべく、これが奬勵金を交付し以て所期の目的達成に努力した。其の他道路の開鑿と相俟つて地積の整理の計畫を樹て、昭和五年度より向ふ三年繼續事業としてこれが整理の遂行に努めて居る。其の他敎育問題に、體育の振興に社會事業の改善に衛生の施設に未だ曾て充分に施設せられざる部面に、永山知事は巨腕を揮はれて居る、其の歲計の如きも、歲出總額三百七十萬九千五百餘圓にして前年度に比し僅かに十四萬二百餘圓の增加に過ぎないが、斯く新起事業を策して、財源の捻出豫算の案配勘考を遺憾なからしめた所以は卽ち永山知事の算數に明ある賜といつてもよからう。

石塚總督、君を評して曰く。『臺南の永山知事はよく何んでも知つて居る男だ』と、この數言を以て君の頭腦を忖度することが出來る。事務官であつて技術方面に一見識を有して居つた時代は世間はさう重きを置いて居らなかつたが、君が知事となり、牧民の長となつてから翕然として其の造詣が現れて來た。頭が確かに勝れて居る。一部の人々から種々な批評を蒙つて居るが、君には正義といふ劍を胸に閃めかせて居る。であるから州政に對して不正のある筈がなく、官人としては全くの無疵の人である。

只惜むらくは君が個性は、餘りに社會人に對する思慮が周匝でない點である。露骨にいへば今少し融通の利く事にしなくてはならない、況哉地方長官の椅子から離れて嘉南大圳管理に撰ばれた曉に於てをやである。前枝管理者は却々政治家肌の人で、人の心を收攬するに妙を得たものであつた。君に望むは卽ちこの人心を收攬することである。

## 五　新興高雄州の産業と太田知事

前途益々多望なる州下の産業と、州政の任にあるもの愈々責任の大なるを思ふ

新興高雄の州狀を見るに高雄市は新制度以前には臺南廳の管内にあつたものである。然るに田、下村の明斷に依つて高雄港に州廳を設け元の阿緱廳下一圓と臺南廳下の一部とを合して高雄州なるものが生れたのである。新制度中で最も意義あらしめたものはこの高雄州の行政區域の大改革であつた。當時高雄の民人は如何に歡呼してこれを迎へたか。新らしく興つた高雄州政は今や隆々乎として文化の施設擧り、産業の發達、人口の增加、僅かに十年を閲して一個の成人をなしたる感がある。

昭和四年度末の州下の人口を見るに合計六十一萬九千百六十一人に達し、内地人男一萬四千五百六人、女一萬二千七百三十九名となつて居る。これを昭和元年度の人口五十四萬三千七百九十七人に比すれば殆んど約七萬人近く增加して居る然して産業方面を見るに昭和三年度現在州下の農業總生産額は三千七百五十八萬五千四百六十五圓にして就中米の一千八百三十四萬四千五十八圓餘、甘蔗の一千五十萬三千餘圓、甘藷三百三十六萬二千二百餘圓は本州下の主要産物として重きをなして居る。

昭和三年末の耕地面積は十二萬八千九百八十甲で、全面積の二割二分に當り、農業人口三十七萬三千三百二十二人にして農業戸數六萬七千四十戸となつて居る。

製糖業は本島に於ける發祥の地で明治三十三年臺灣製糖會社が橋仔頭に新式工場を設立した。之本島新式工場の鼻祖である。今期昭和五年度臺灣製糖の産額を見るに、合計三百七十六萬擔に上り、前期に比し十六萬六千擔の增加を示して居る。今當州下の産高を見るに阿緱工場の六十萬二千九百三十一擔、東港の二十三萬二百十一擔、恒春の十萬五千九百十三擔、旗尾の三十萬八千六百擔を産し、更らに新興製糖の産糖十三萬五千擔及び其の他を加ふると百五十萬擔より二百四十萬擔の産糖にして全島産額の約五分の一に當つて居る。

其の他漁業は、最近頓に活氣を呈して漁撈の方法改められ昭和三年度現在發動漁船百七十五艘に及び、鰹節漁業、鰮巾着網漁業は高雄港を根據として大規模の計畫なし大いに發展せんとしつゝあり。昭和三年度の漁獲高を示せば

| | | |
|---|---|---|
| 鰮 | 百五十萬二千六百七十二斤にして價額十九萬四千七百三十三圓 | |
| 鮪仔 | 三百四十三萬四百三十七斤　價額八十萬六千八百九十圓 | |
| 旗魚 | 百八十一萬九十三斤　價額四十二萬八千四百八十四圓 | |
| 鯛 | 二百四十九萬三百八十四斤　價額六十四萬七十五圓 | |
| 鰹 | 二百六十萬三千三百四十六斤　價額二十四萬六千七百五十二圓 | |

叙上の盛況を告げて居るが、當州は南部一帶の漁業の根據地として將來の發展は刮目すべきものがある。

高雄州の工業として見るべきものは砂糖工業はその巨擘たるやいふまでもないが、酒精も之に次ぐの生産となつて居る最近著しく發展興隆しつゝあるものに鳳梨罐詰業あるを特記すべきであらう。次にセメント、肥料、鐵工等で其の産高を表示せば左の如くである。（昭和三年度末）

| 種別 | 工場 | 産額 | 價額 |
|---|---|---|---|
| 砂糖 | 二〇 | 五〇、三九七、〇五四斤 | 二三、三四七、〇三三圓 |
| 酒精 | 四 | 八、五二一、三一一立 | 九、四七七、五三四圓 |
| セメント | 一 | 六九六、一〇〇樽 | 三、六八九、三三〇圓 |
| 肥料 | 四 | 八、一〇四、四〇九貫 | 二、七二九、四五九圓 |
| 鳳梨罐詰 | | 六、一一二、〇〇〇箇 | 一、四六八、二〇〇圓 |

以上の如くにして工産として約四千四萬圓に上つて居る。新興高雄の名ある所以、現在にあらずして將來の大成にありとせば、州政の任にある者の責任又輕からざるを思ふものである。

知事の太田君は上山總督時代臺北市尹から榮轉して今日に及んで居るが、高雄の知事として在任永き部類の人である。君は茫乎とした如何にも悠長な長袖流に見えるが、却々眞氣を藏して、氣勢の壯活な處がある。臺北市尹として君の遺した仕事として十有餘に及んで居る。其の主なるものは水道の擴張工事である。電車の計畫を樹て、公會堂建設の案も出來たのであつたが、これを實現せずして高雄州へ轉じた。

前叙の如く高雄州下の產業狀態を述べたが、高雄州は未來を有する靑年である。世人は高雄港を呼んで南門の鎖鑰、南支南洋發展の策源地だと叫んで居る。全くそれに相違ない。歷代の知事として富島、三浦、高橋の三知事を送迎した高雄市民は新興高雄港の爲めに如何に犧牲を拂つたことであらう。

高雄市民は多年憧憬せる黎明に接しやうとして、吾等の高雄の爲めに或は病院の敷地を寄附し、或は全島に率先して公會堂の建設をなし、其の他總ての文化的設備は、市民の力に依つて出來た處である。多年老いたる臺南廳に支配されたる若き高雄は斯の如き歷史を持つて居るのである。一朝一夕を以て築き上げられた港ではないのだ。

仕事好の太田君はよく此の間の消息を研究され、州民の聲を基調として、外的、內的に大高雄建設の爲めに努力されて居ることはいふまでもない。彼の下淡水溪の護岸堤立工事でも君の熱心なる努力にて三四十萬圓が州民の負擔が輕減されて居るといふ。

君は、曾て二十三萬の市民を擁する島都臺北市尹として輿論の尖端に立つて苦辛經營を積んだ甲斐あつて、何事も虛心淡懷情實に囚はれて公人の節義を沒するやうなことは斷じてない人である。明治四十三年の帝大出で、石黑內務と同期である。山水美なるを以て名高い靜岡の產。

## 六　澎湖廳勢と大竹廳長

### 媽宮城の風月に親しむも一興

昭和四年末現在の澎湖廳下の人口は六萬二千二百十人を算して居る。大正九年の制度改正の際、高雄州の一郡として所屬されたものだが、今日では元の如く獨立廳政を布かれて居る。廳勢は恰も碁石の點々散在するが如き島嶼で六十四も臺灣海峽に橫つて居る。高雄港から海上七十八浬定期船の便がある。全島殆んど不毛の土地で山林水源に乏しく島民は主として漁業に從事して居る。海產は侮り難いものがあるから施設宜きを得ば累增的發展は期して待つべきものがあらう。大竹廳長赴任以來、勸業方面に主力を注がれて居るといふことであるから、今後の澎湖廳は刮目すべきものがあらう。

何分本廳は帝國南門の鎖鑰で國防の第一線にある要港部がある。海軍の諸星も相當に多い。從つてこれが行政の任にある廳長は、軍部側との親善に融和に其の折衝に對して決して閑談空語を許さない處がある。勅任待遇の大竹君が、特に選ばれてこの地の行政の長となつて居るのも、卽ちこの消息からであらう。

大竹君は裁判官出身ではあるが、臺南州に內務部長たりし事もあつたし、稅關長として手腕を振はれた人でもあり、却々圓滿で常識に富み、年輩も四十二年の帝大出であるから相當鍛錬されて居る。寧ろ澎湖廳長としては役不足であるに相違ない。世間も亦君の澎湖廳長は餘りに氣の毒だといつて同情するものが決して少なくない。

然し港には戰艦艦艇海上を壓し、陸には城砦の嚴然たるものがある。帝國南端の國防要地として須臾も閑却すべき處ではない。

君はこの地の廳長に任命された時、喜んで赴任されたといふ事も聞いて居るが、惟ふに君はこの要地には幾多の國家の干城たる、陛下の軍人が南海百度の炎熱と戰ひ、困苦缺乏に耐えて、帝國南方の守備に任じて居らるゝを顧みれば、自責の愈々大なるを感銘された結果であらう。

昔時、浦島太郎が龍宮の乙姫に歡迎を受けたといふ傳說のある媽宮城(龍宮)は、周圍七百八十九丈餘、四方及小西、小南に六門を設けて居る。古城空しく荒れ果てゝ雜草離々たるものがあるが、天晴れ風靜かなるの日海面に映じて島光水色畫くが如き風月を樂しむも亦一興であらう。切に自愛を祈る。

# 七　花蓮港廳勢と猪股廳長

## 富源を藏する東臺灣

天涯地角恰も碁布せる島嶼の沖繩縣は人口五十五萬を數ふ。然るに三百方里を有する我が花蓮港廳下は、昭和四年末人口僅かに八萬三百二十二人を算して居るのみである。農業國としての東臺灣、工業國としての東臺灣、その孰れにも富源が横はつて居る。今農業方面の實際を見るに花蓮港廳下三百方里中農耕に適する地は北大濁水溪右岸より研海加禮腕の山脚一帶の平野を始めとして、南花蓮溪、秀姑巒溪沿岸地方に藏する處のものが多い。就中花蓮港街より臺東に發する鐵道の沿線、海岸山脈と中央山脈の中間を縫ふて走る南北二十四里、東西廣き處二里に亘る原野は花蓮港廳下の農耕地である現在既農耕地として僅かに二萬餘甲に過ぎない。

**農産物**——主なるものを擧げれば米、甘藷、甘蔗、落花生、豆類、胡麻、葉煙草、黄麻、果實等である。昭和四年度花蓮港廳下の生産總額は一千六十五萬圓を示して居る。これを前年度の六百萬圓に比すれば七割五分の激増である。今其の主なるものを列擧せば次の通りである。

砂糖七百六十七萬圓、米百十五萬四千圓、樟腦八萬八千圓、腦油五十三萬圓、酒精八十三萬九千圓等であるが、尙將來を有する花蓮港の産業は益々増産の可能性があるのである。卑近の例を示せば今年度花蓮港製糖の成績は四十萬擔の累増を見ても明かなことで、從來同所産糖は二十萬を上下して居つたものである、然るに斯界の權威者として令名ある黑田秀博君が同所長となるや多年蘊蓄せる手腕を發揮し且つ從業者總動員の努力とが與つて斯の如き好成績を擧げたのである。今その實績を示せば次の如くである。

**大和工場**——原料壓搾高一億七千六萬三千百七十斤、歩留一割二分四一％産糖高二十一萬九百七十一擔。

**壽工場**——原料壓搾高一億五千二百十三萬九千斤、歩留一割二分七三％産糖高十九萬三千六百三擔、合計四十四萬五千餘擔を示して居る。更らに立體的に、平面的に集約を遺憾なく發揮せんか、必すや逐次遞増すること疑ひを容れぬ。東部臺灣の糖業決して悲觀すべきではない。

更らに林業方面を觀るに、面積約四十一萬四千餘甲廳下總面積の八割七分を占む。山林の大部分は千古斧鉞の入らざる原生林である。森林樹帶は海拔の高低、氣候の關係に依り樹種の分布を異にして居るが、四千尺以上六千尺に於て紅檜扁柏混生し、八千尺に於て殆んど扁柏の純林をなして居る。曰く木瓜山、塔山等には未だ斧鉞の入らざるもの無盡藏なりといふ。

此の外、前途を嘱望されて居るものに廳下の砂金事業である。横堀理學博士の談によれば秀姑巒溪より**タツキリ**溪の間至る所に産出するといはれて居る。若しこの砂金地帶を基礎として鑛脈が發見せられたる曉には東部臺灣は急ち黄金の花が燦然と光りを放つことであらう。前途多望なるは東部臺灣である。

この未來を有し富源を藏する地に開拓の任にある人々としては眞に行り榮がある、猪股廳長の手腕は正にこれから驗せらるゝ譯で、所謂黎明曉きの時代で決して日暮れて道遠きものではない。

## 其任に選ばれた猪股廳長

臺北州内務部長から出でゝ花蓮港廳長に轉じた君個人は、決して榮轉ではないかも知れない。然しそれは只眼前の景色であつて人事の興亡ではない。思ふに官吏として國家の爲めに奉仕する意義からいつたならば小藩なりと雖も、一國一城の主である。自由裁量の權限を行使し得る權能がある以上、一内務部長に比すれば決して優るとも劣るべきでない。石塚總督の君を撰んだ所以も卽ちそこにあることゝ信ずる。

君は行ふて節度の超えない極めて正しい人である。これあるが爲めに君の非難を聞いた事がない。茫乎たる處あるも德が備つて居る。明斷威令なきやうでも果斷一往の眞氣がある。赴任匆々、情弊多しとされた庶務課の大改革を行つた如きは、君の果斷によるもので、情實に桎梏されては出來ない藝當である。何事も人の力である。人の力を强ふするには、眞の協力を期さねばならぬ。心の一致が必要である。東部開拓の任にあるもの徒らに上下の區別を設け階級の制度を高くす

るやうでは下情が上達されない。仕事が出來ない。共に一丸となつて『吾等は東部開拓に一身を捧げて槽櫪の下に死なん』の覺悟を忘れてはなるまい。

猪股廳長は既にこの信條の下で孜々としていそしんで居られる。東部臺灣の天地又多幸といふべきであらう。明治四十一年帝大文科を出て、大正四年帝大法科を出て居る。所謂經學博覽、政治文辯に長じた人である。

## 八　臺東廳政と兒玉廳長

### 新產業鳳梨事業の將來、刮目すべき廳下の產業

前山拓くべくして豈に後山の開けざる理あらん哉とは往時その直隸州知事たりし袁聞折の東部開拓の標語であつた。此地元蕃語**プサン**と云ひ後支那人に依り近音譯字を以て寶桑(**ポウソン**)と稱へ更らに卑南臺東と改稱せられし處なり。斯の如き古き歷史を有する臺東が、元其の行政管下にありたる花蓮港に一籌を輸せらるゝに至つた近因は主として地理的關係によるものであるが、又一面には督府の東部施設が普遍的に行はれざりし結果とも云ひ得る。卽ち花蓮港には三箇村の官有移民なるものを計畫した。曾て**タロコ**蕃討伐の本營地として幾多の從軍幾多の官民が來往した處である。而して鹽水港製糖は積極的施設をなして其の投資殆んど二千萬近くも投じて居る。乃ち此の結果として恰も水の低きに流れると同じに人間も亦西部地方から移住するものが多くなつたのである。斯して新興氣分が勃然として、加速度的に新らしき市街が形成せらるゝに至つたのである。

然るに臺東廳下には官有移民の建設はなく、開拓會社の積極的投資者もなく、只僅かに臺東製糖會社が、小額の資本を擁して餘喘を保つに過ぎない狀態であつた。何ぞ之れを以て圓滿なる事蹟と開發とを期し得べきか。臺東廳下の遲々として牛步の感ありしは決して偶然ではない。督府は鹿野村、旭村の移民事業を民營の下に放棄して顧みなかつた憾がある。尤も廳長として相良、森尾、朝倉、能勢、市來抔といふ人々が人物としては至極眞面目であつたが開拓に對して極めて消極的の人々であつた結果、目新らしい事業が興らなかつたのである。只僅かに市來廳長時代新港開拓に主力を注いで今日の如き坦々砥の如き立派な海岸道路が竣工されて居る。然しこれも後任の齋藤廳長が、寢食を忘れて專心一意された賜であつて市來氏は只其の基礎工事を築いた丈けであるといつてもよい。

多年の懸案として今尙殘されて居る臺東原野に水を求めたいといふ叫びは廳下の最も重要問題である。卑南溪の架橋も新港漁港が完成するまでは是非實現せなくてはならぬいはゞ緊急の事業である。最近督府が臺東た農產試驗場を開設して大いに臺東廳下の產業に裨益する計畫であるといふが、これ抔も前の齋藤廳長が懸命に努力された賜といつてもよい。

要之、督府が臺東廳下の開拓に對して餘りに繼子扱ひに過ぎた感がある。資投せずして開拓の實擧がる理なし。臺東が花蓮港に後れたる所以蓋し當然といふべきであらう。

### 臺東廳下の產業大觀

臺東廳下の重要生產總額を見るに昭和三年度末現在五百五十八萬七千六百八十八圓を示し、內農業は百八十二萬六千百三十六圓、畜產二百三萬五千八百二十二圓、林產三十七萬三千八百六十一圓、水產四十六萬五千七百四十圓、工業八十八萬六千百二十六圓となつて居る。農耕人員は三萬六千二百七名、戶數五千戶を數へて居る。耕地面積田五千二百六十六甲畑八千九百五十二甲にして一戶當り田一甲餘、畑二甲となつて居る。

臺東廳下の產業は平地は米作、蔗作に適し、山脚地帶の傾斜地は鳳梨、珈琲、苧麻等の企業的經營に適して居る。現に總督府に於て農產試驗場を開設して大いに新產業の興隆に資せんとなしつゝあり。然して水產業は廳下沿岸南北四十餘里に亘る間漁族多く、愈々新港漁港の造營は豫算も通過したれば、これが竣工の曉には頓に水產業の發展を見るべく玆數年を出でずして陸に海に各種產業の興隆發展を見るであらう。

新人兒玉廳長は猪股花蓮港廳長と共に東部經營の任に立ち既に年餘ならんとして居る。此の間、君の燃犀なる巨腕、明敏なる頭腦は、この古く藏はれたる部面に深鋭なるものあり。一皆直ちに廳下の狀態を知得して、これが運施勘考、其の宜しきを制して今や着々として新活氣を注入しつゝあり。

卑南大溪の鐵橋、卑南埤圳等君の手腕に依つて必ずや實現せらるゝであらう。其他廳下至る處、未開原野の開拓に對しても一意專心、努めて倦まず、心中大に期するものありてこれ又着々と此の方面に伸手張足毫も寸暇なきの有樣である。

君は福岡の人、大正三年の帝大出で猪股花蓮港廳長よりは一年先輩となつて（但し法科）居る。始め千葉縣に警視たりしことあり、後ち朝鮮總督府に轉じ地方廳の財務部長、警察部長を歷任し、先年臺南の高商敎授として來任した。其後間もなく行政官たる警務部長に返り咲きして臺中州下の警察行政を一身に荷ふことゝなつた。次に澎湖島廳長に轉じ、石塚總督時代になつて選ばれて臺東廳長に任命されて今日に及んで居る。爲人、氣勢壯濶、構思多くして、特異卓技なる高處を有して居る。千萬軍吾れに於て何かあらん百戰して死するなき人ある。明治二十年十一月の生誕、春秋に富める前途多望の俊材たるはいふまでもない。

## 九勅任技師物語り

中村秀太郎と井手薫
池田季苗と松本虎太
小山三郎と栗山俊一

總督府の官制中改革を要するものは土木、港灣、林業、營林の部面なりとす。往年土木局に網羅せる營繕、道路、橋梁港灣、河川、上水、下水、埤圳等の各專門技師は同一官衙にありてその施設大いに見るべきものありき。然るに、伊澤總督時代に於て交通局なるものゝ官制を發布し交通局總長の下に鐵道、遞信の二部を置き其一人を勅任ならしむる制度となして遞信局長を廢したり。爾來交通局總長なるものは鐵道、遞信、道路港灣を裁し來たりたるも官衙は區々に分れ爲めに事務の簡捷に大なる支障を招來したるは雄辯に物語るものあり。

先づ交通局總長の出務時間を見るに午前は鐵道部にあれば午後は遞信部にあるが如く、全く前頭忙殺、後頭繁雜の感なからずや。若し夫れ、交通局の官制を以て時代に適ふものとせんか、總督府に總務局を置き、內務、殖產、文敎、財務、專賣の各部局を廢合するも何等支障なけん。

石塚總督が參事官長時代立案せる官制の簡明統一は著者等の深く追憶に新たなる處にして、現制度の複雜、不統一を見る毎に轉た往時の官制を想起せざるを得ざるべし。これ蓋し尠くとも改惡の甚だしきものと斷ずるも不可なからん。政治の本義は人の爲めに官制を作るを許さず。臺灣の官制中交通局の如きは正に人の爲めに官制なるかの感あり。識者以て如何となすか。

臺灣の土木行政に從事する技術官を見るに內務局に勅任技師として最も頭腦の明晰なるは中村秀太郎君である、兼勅技師として交通局技師松本虎太君あり、交通局道路港灣課長に池田季苗君あり。交通局鐵道部改良課長に小山三郎君あり。これ等の四人技師は恰も頭變尾同の感ありて、官制を知らざる民衆は全く土木行政の本家は何處にあるやを疑はざるを得ざるべし。殊に官房に營繕課あるが如きも全く奇想天外の觀あり。

舞臺は一轉、勅任技師の顏振れを品隲すべし。

內務技師中村秀太郎君は明治三十九年帝大土木科の出身にして石川縣の產、多年內務省にありて斯界の權威者を以て任ぜられたるの人、田賀技師の後を襲ふて今日に及ぶ。道路港灣課長の池田季苗君は同じく明治三十九年の京大土木科の出で、古くから臺灣總督府技師として土木行政に貢獻せられた人である。京都の產。松本虎太君は殆ど其の半生を基隆の築港に從事して基隆築港の大恩人、基隆市民は神の如く敬ふて居る。此の人も三十九年の京大土木科の出身で香川縣の產。井手薫君は矢張り三十九年帝大建築科の出身で、多年本府にあつて建築技師として令名を高めて居る。籍は東京とあるも原籍は福井縣の人である。小山三郎君白頭だが明治十八年の生れであるから一番若い人だ明治四十二年の帝大土木科の出身、君の嚴父は我が臺灣鐵道の爲めに貢獻せられし人であると聞く。一時花蓮港出張所長たりしことあるも、今の石塚總督時代になつて鐵道部に戻り勅任技師に陞叙された。よく部下を愛するので馬鹿に評判のよい人である。栗山俊一君は勅任待遇、井手技師の下で屹々と働いて居る。四十二年の京大建築科の出身で、大正五年頃まで名古屋の高等工業の敎授をやつたこともある。以上勅任技師の顏振れを叙すると、三十九年の大學出が四人、四十二年の大學出が二人を數へる譯だ。池田技師と小山技師とは肌合がよく似て居つて、東部抔の出張先きで隨分面白い挿話を持つて居る。井手技師と栗山

技師は營造物保存抔に沒頭して居るが、安平の海國城を誰の立案か知らぬが三百年前に築かれた文明的優先を偲ぶものが無くしたのは殘念である。舊廳舍の保存も今少し研究の要があつたと考へられる。中村技師は內務の土木に專心一意して餘りに世間に出酒張ぬのでよい。松本技師は雨の港で浮世と遠ざかつた仙洞の海濱に一竿の風月を供として樂しんで居る

## 府內中堅的官人

| | | | |
|---|---|---|---|
| 內務局地方課長 | 本間善庫 | 殖產局特產課長 | 中瀨拙夫 |
| 專賣局庶務課長 | 川村直岡 | 殖產局農務課長 | 橫光吉規 |
| 祕書課長 | 大谷忠四郎 | 文書課長 | 石川重男 |
| 審議事務官 | 竹下豐次 | 社會課長 | 野口敏治 |
| 府衛生課長 | 石井龍猪 | 營林庶務課長 | 渡邊廣 |
| 商工課長 | 戶水昇 | 專賣局煙草課長 | 河野博通 |
| 研究所庶務課長 | 松岡一衞 | 稅關事務官 | 青木敬次 |
| 府稅務課長 | 奧田達郎 | 保安課長 | 山內繼喜 |
| 鐵道部庶務課長 | 須田一二三 | 鐵道部運輸課長 | 小川嘉一 |
| 山林課長 | 赤堀鐵吉 | 事務官 | 中田榮次郎 |
| 鐵道部技師 | 堀口勉一郎 | 研究所技師 | 三宅勉 |
| 內務局技師 | 荒木安宅 | 內務局技師 | 磯田謙雄 |
| 殖產局技師 | 土井季太郎 | 殖產局技師 | 小笠原金亮 |

世に人物經濟を說くものあり、而もその經濟を知らざるもの多し。人物經濟とは自ら三個の要目あり。一に人物の養成二に人物の使用、三に人物の保存これ也。則ち一個人に就てこれを例せんか、青年時代(例せば大學卒業の頃)は養成の第一期にして、中年時代は卽ち使用の第二期也。更に老年時代は保存の第三期に當るべし。然り而してこの三期の人物經濟上互ひに相通用するものにして其の何れも輕んずべきものにあらず。

個人性を遺憾なく發揮せしむるの要道は卽ち各人の長所、短處によりてこれを啓發せしむるに外ならず、蓋し其才に、其の器に應じてこれを用ゆるはこれ人物使用の最善良法なり。人を用ゆるは卽ち人を敎ゆるの所以なるべし、況哉人物經濟を知る者の眼中には斷じて天下に棄つべきものあらざるべし。若し天下に無用の人ありとせば开は人物經濟を解せざる大馬鹿者の類也。豈に楠公の泣き男を利用したる例を知らん哉。豈に水滸傳に於ける百八の人間を解し得ん哉。

石塚總督幕下の新人舊人を見るに、何れも多士儕々の感なからずと雖も、その人物の經濟に於て適材適所ならざるもの多きを遺憾とす。世は擧げて合理化を叫ぶとき、臺灣の官場に目を晒せば轉た一掬同情の念なきを得ん。

## 勅任の候補本間善庫と中瀨拙夫

**本間君**　は新制前に臺北廳警務課長として來臺した人で、今日では古參官人の部類の人となつて居る。大學は明治四十四年出で、夙に愛知縣警察部に警視として警務課長たりしことがある。當時の職員錄を繙くと同期生の內海忠司君は沖繩縣の地方課長、竹下豐次君は福岡縣の警視抔をやつて居つた。當時今の石黑局長は文部省の普通學務局の判任屬で奏任には任官されて居らなかつた。人事の浮沈興亡、世態の變遷の甚だしきに驚くべきではないか。

君は督府の理蕃課長、臺中州警務部長、臺北州警務部長、新竹州內務部長等を歷任して督府の地方課長に轉じた人だが君と肩を並べて居つた本山文平君でも佐藤續君でも既に勅任になつたが、君丈けは取殘されて三丁目一番地で停つて居る。然し何が幸になるか解らぬ。後輩の佐藤君は知事になつた爲めに例の不祥事件で官を挂けて今尙浪人生活を續けて居る。君は墓穴を掘ること急ぐ必要ないと泰然として今日を保つて居る。

官人の典型として正しい人それで君の評が盡る。阿諂、迎合、追從抔は斷じて出來る人ではない。福島縣の人で石塚總

督幕下の良臣の一人である。明治十八年の生誕である。

**中瀬拙夫君**　は決して拙夫ではない。曾ては洋行歸りのチヤキ〳〵の新人であつた。糖務課長時代の君は確かに府内の新人連に一等地を拔いて居つたものだ。長崎の產丈けあつて茫乎たる處に眞氣を藏して居る、總てが思索的であり、討究的であつて、天禀の敏才を閑に徜徉せない。

君は生粹の殖產兒で、一歩も局外から出たことのない珍中の珍男である。かるが故に歷代の局長、喜多、片山、高橋、內田の各局長の智囊となつて局長の手腕を大ならしめたものは卽ち君である。高木風に惡まれるとかや、如何にも中瀨君は險手辣腕家のやうに一般から見られて居るが、粗枝大葉でないから風が吹かうと颱風があらうと一向頓着なく泰然自若たるものだ。

內田君が官を挂けて內地へ去つた後は當然君が其の後釜に据るものと世間では期待して居つたのだが遂にその運に至らなかつたのは臺灣殖產行政の爲めに實に遺憾の極みであつた。然しさう旱魃ばかりは續くまい慈雨の惠みも遠からずあることゝ信ずるが、殖產兒は何時までも殖產兒として大成させたいものである。本間地方と同じく君も古參官人の部類の人だ、大學は大正三年出だと思ふ。

## 川村直岡と横光吉規

**川村君**　は大正八年の帝大出であるが、在學中に既に高文を登第して居る英才である。帝大を出ると直ちに拓殖屬に任じて、大正十年三月に本府事務官に任ぜられ內務局勤務として來臺した人である。新制度施行と共に君は臺北州の勸業課に拔擢せられだが、任にあること二年有餘にして大正十三年十二月府事務官兼專賣局參事に任ぜられ、次で大正十四年一月專任專賣局の參事となり煙草課長たる一年餘にして昭和二年三月鹽腦課長に轉じ、高等官四等に陞叙せられた。昭和二年七月庶務課長に轉じ、宇賀局長を補佐して些の遺漏なきを期し手腕ある若き課長として內外に名聲を博した。昭和三年三月歐米各地へ出張を命ぜられ、昭和四年十二月十六日附で再び庶務課長となり、昭和五年三月高等官三等に叙せられ今日に及んで居る。

今の專賣局は新人揃ひで他の部局に比して生氣漲つて居る感がある。君の圓滿なる常識と理智に秀ひでしその頭腦とは確かに新人中の一異彩たるものがある。君のベターハーフは著者と鄕を同ふする會津の產とか、君は籍を東京にあり、明治二十五年の生れとあるから未だ不惑に足らない。前途洋々春の海の如きものがある。

**横光吉規君**　は川村直國君よりはズツト先輩である。確か大正三年の帝大出だと思ふ。多年鐵道部にありて新元部長の下で奮勵怠らなかつた人である。宜なる哉、其の功勞は報ひられて海外出張を命ぜられ、歸朝殖產局商工課長に轉じ更らに臺南州內務部長に轉じ最近復び殖產局に入りて農務課長の椅子に据つた。君、風姿端麗何處となく氣品高古な處がある。人に接して極めて懇情、事に當つて公明通正、新人組の人たるを失はない。

## 大谷忠四郎と石川重男

天下の朝日新聞記者より臺灣總督の秘書官に衣更へをした大谷君は一山百文の奧州白河の產である。

**「都をば霞と共に出てしかも**
**秋風ぞ吹く白河の關」**

この歌何ぞ詩的なる、惟ふに往年奧州の地は日本以外の地の如き感があつたのである。前九年、後三年、奧州の征戰に年を過ごすこと多年、戈を枕とし鎧を褥として空しく東北の邊彊に老去つた古への名將源義家公が實踐嘆賞の餘りに詠じた

**「吹く風を勿來の關と思ひしに**
**道もせに散る山櫻かな」**

勿來の名、何ぞそれ哀史の多きことよ。なこそ――『來る勿れ』――といふ也。惟ふに當時都の人の問ひ見んとするものを警しめたる悲涼の勸告辭と見てよい。

白河城は戊辰の變に、純義隊の會津兵と共に嬰守して官軍に抗したる處にして、今鐵道はこの外壁に沿ふて走り、史を知るもの往時を追想せば轉た悽愴の情に堪えざるものあり。

大谷君は白河の素封の家に生れ、夙に安積中學を卒へて明大に入りこれを卒業し、更らに佛語を研究する處あり、多年朝日の政治記者として貴族院を擔當し、常に一管城子を携へて侃々諤々の言論を皷吹して、其の達文麗筆同僚儕輩を凌ぎ才能藉甚たるものありき。

而して君に誇るべきは愛鄉の念深きにあり。愛鄉心は愛國心の小なるもので、愛鄉心を離れて愛國心のある筈はない。君は朝日の記者在職中よく東都一流の政治家、學者に懇囑して鄉里に至りて文化講演會なるものを開催し大いに地方文化の向上發展に貢献せること尠なからず。而もこれに要する費用は自ら支出して他の援助を蒙らざるが如き實に當代青年の軌範たるものがある。

君の人格はこの一事を以て全貌を律することが出來るが、更らに誇るべきは殉公の精神である。石塚總督に鑑拔せられて其の幕賓に擧げられた君は、石塚氏の爲めに馬前の勇を至さんとする立派なる臣節振りである。

今日の臺灣官海人材を要するや切なるものがある。君は總督政治の中樞にあり、人事の案配勘考、決して閑談を許さゞるものがある。卽ち人事行政の失敗は臺灣統治に影響すること大である、從つて石塚總督の壯圖大計を扞格牴牾せしむることゝなる。君の任や重且つ大なりといふべし。未來あるの人材、將來有望の好青年として鄉黨より囑望せらるゝ君が、決して一秘書官に終るべき人材にあらざるを思ふ。

良馬は鞭影を見て走るとかや、君に望むは卽ちこの良馬たらんことである。而して其の正しく信ずる所に向つては飽くまでも自說の堅牢を保持すべきである。右顧左眄して鼎の輕重を問はるゝ如きは斷じて著者等の與せざる處である。乞ふ自愛加餐して石塚總督政治の幕賓たる任に背かざらんを希ふや切なるものである。

**石川重男君**　は府の文書課長として石塚總督傘下の中樞人物である。君は東京の人、大正四年の帝大出で校門を出るや、早くより大藏省の官吏として地方へ出た人である。大正七年頃には靜岡の稅務署長たることがあつた。石塚總督の直參たる大谷秘書課長に對立する文書課長は當然總督、長官の信認者であらねばならぬ。君は人見長官に夙に知られた人で畑違ひの財務局主計課長から文書課長に拔かれたのも亦故なしとせない。

君は事に働りて平和的の人で決して侵略的の人ではない。從つて偏狹獨斷は全然ない人である。總てに於て探微密細で、極めて眞摯實直の人である。文書課長の職は大衆的輿望を一身に荷ふことは却々至難であるとされて居る。對內にも、對外にも苦心の存する處は多々あらう。百戰して死するなきを善戰といふ。將來大をなすにはこの心が肝要である。否か。

## 竹下豐次と野口敏治

**竹下豐次君**　と聞けば長野縣の警察署問題が想起されて慄然たるものがある。暴政梅谷知事を屠れの旗幟を鮮かにして幾千の縣民の雄叫びは遂に暴動と化して知事の官舍警察部長の官舍は修羅の巷と化したのであつた。聖代の不祥事件として國民は擧げて其非を鳴らしたものである。卽ち當時の警察部長は竹下君であつた。

君は痩姿輕肉一見して貴公子然の俤げがある。雙勇熊の如き梅谷君に配するには餘りにへたゝりがあつた。君の立案か、梅谷の名斷威令かは問ふ處でないが、アノ事件の爲めに職を去つた君には同情者が多かつたと聞く。

君は九州宮崎の富豪に生れ、明治四十四年の帝大出である。川村總督時代、同鄉の平島秘書課長の推薦で來任した人だが、ドチラかと云へば系統は民政の人かも知れない。社會課長、地方課長を歷任して高等官二等の審議事務官に榮進したのは今の總督になつてからだ。

**野口敏治君**　は生粹の臺灣ッ兒、所謂土地ッ兒である。神奈川縣の人で大正四年帝大を卒へるや、直ちに臺灣の官海に入つて今日に至つた人である。臺北州地方課長から臺中州警務部長に轉じ、前々の上山總督時代文敎局學務課長に榮轉した。君は學務課長時代海外出張を命ぜられ、歸朝其の椅子に戾つたが、杉本良君が局長となるや、社會課長に轉じて今日に及んで居る。

君は名の如く頭腦明敏な人で、常に才氣は煥發して居る。身を持する淸淨潔白、幾多官人中に美點の多い人である。前の警務局長本山文平君は君の推援者であつたことは周知の事實である。

## 石井龍猪と渡邊廣

警務局の新陣容は確かに適材を集めた感がある。衛生課長兼警務課長代理の石井龍猪君の如きは先づ其の一人者であらう。君は大正十年の帝大出で、其の始め高雄州勸業課長となり、次で臺中の教育課長を經て臺北州へ轉じ更らに臺南州警務部長に榮轉して新人の巨腕を示して令名を高めた人である。

君は山岳的のやうな高い處もあれば、海洋的の如き深い處もある、常識に富んで知つたか振りをするやうな衒耀兒でない。深く藏して空しきが如き、常鱗凡介の端睨すべからざるものがある。年僅かに而立の境、佐賀縣の人で夫人は貯蓄銀行頭取の長女として才色兼備の淑德高い夫人である。

**渡邊廣君**　熊本縣人である。石井君と同期の大正十年の帝大政治科出身で、府内に於ける人材として上下より囑望されて居る。大正十一年專賣局事務官、大正十三年二月同局臺中支局長、大正十四年神戸支局長、昭和二年府事務官に榮轉して榮林所庶務課長として今日に及んで居る。

君は川村總督時代幾多の群雄衆議を斥けて斷々乎として本島林政に精進した點は、確かに新人としての存在價値があつた。操守嚴、義に明か、新人中の新人として石井君と併び稱せられて居る。明治三十年七月の生れである。

## 戸水昇と河野博通

**戸水君**　は新商工課長に榮轉した。君は鐵道と遞信畑で育つた人で、高塔内で食を喰んだ新人でない。田總督時代から若き監理課長としてよく働いた人である。遞信畑から行政畑へ轉じたのは、君自身が榮轉とは云へ、君の配下屬僚は嘸かし惜別の情に堪えなかつたことゝ信ずる。一樹のかげ、一河の流れ他生の緣とせば、當然の人情であらう。

君は大正四年の帝大出で、河野博通君と同期である。君は商工課長に轉じて任僅かであるが、其人氣は素晴いものである。それは君の銳眼は周ねく民衆へと注がれた結果である。彼の商品陳列館に對して權威ある民間の聲を聞くに努めたこと抔は確かに時宜を得たものである。一般商人から『流石に洋行歸りだ』と稱賛されて居る。頭の思索的な、研究的な、そして民衆的で抱擁力は豐かであるから上下の氣受けもよく、一般民間からも令名を博して居るのは故なきではない。君は文才に富み、この一二年の著書がある。その麗筆達文、天下の文人を瞠若せしむるものがある。夫人は船越倉吉翁の二女で賢夫人として且つ貞淑の名が高い。

**河野博通君**　は大正四年帝大を出ると三菱に入り實業界に雄飛された人であるが先年感ずる處ありて身を五斗米に投じ七星郡守から新竹州の教育課長となり、更らに專賣局參事に榮轉し煙草課長となつた。一見して風格高雅な、親分肌の處がある。官吏らしからざる處に何んとなく甘辛の妙味がある人だ、東京の產とある。

## 松岡一衛と青木敬次

**松岡君**　は廣島縣の人、中央大學の出身で高文パス者である。喜多殖產局長時代水產課長として燃犀の手腕を發揮し水產行政の統一に奮鬪した人である。後年臺中州地方課長時代は本山知事に用ゐられざる處ありて一時休職の噂さあつたが、佐藤知事に至つて其の難を免れた。君は官人としての典型で、自信は飽くまでも枉げない熱の人で、從つて狐媚便佞は大の嫌ひな男である。

**青木敬次君**　は熊本縣の產である。多年官界にありて轉々して恰も殘艷餘香の感がある。君大正三年の帝大出で其の始め財務局を振り出しに遞信局の監理課長、專賣局神戸支局長を經て今や稅關事務官として苦むす岩の感がある。西澤關長は大正二年帝大出で、外務畑で育つた丈けあつて却々如才なきものありといふが、君は一見して好學究の高處がある。

## 奥田達郎と山内繼喜

帝大を出ると直ちに本府に奉職し臺北州、臺中州に歷任し次で高雄州警務部長に拔擢せられ、若き部長として石井臺南と共に世の羨望の標たりしが、川村總督時代更らに警務局衛生課長に轉じ、今は稅務課長に榮轉して今日に至つて居る。

君は廣島の產、明治三十一年一月の生れであるから石井君よりも年少者だ。爲人、茫乎たる内に眞氣を藏して容易に口を開かざるの人で、つまり温情沈勇といつた人であらう。官人として操守あり、節義あり、將來大成すべきの人たること

は著者の喞々を待つまでもない。

**山內繼喜君**　保安課長として警視廳の登龍門から出て來た人である。前の大久保局長の懇望に依つて來たことは勿論であるが、君を政黨的の人物とすることは斷じて不可である。而も未だ新人中の新人で前途を有する人材であるからである。今の石井局長にも其の部下たりしこともあるといふが、石井局長は君を依然保安課長として置くのは、畢竟君の心事の公明なるに信頼して居るからであらう。

君は歷代の保安課長中最も若い人である。最近の名保安課長として官民から令名あつた小林光政君の後を襲ふたのであるから相當骨が折れたことゝ信ずる。然し君は善く戰つた、よく努力した、努力して成らざるの理はない、それが君の生命であつた。小策は用ゐず、世に迎合せず、僞らず、飾らず、眞正公明な官人たるの典型を固持した。君は大久保君の政治肌に比して純然たる能吏であつた。これあるが爲めに君は官民の何れからも惡評を聞かない。福井縣の人で帝大は大正十年出である。

## 須田一二三と小川嘉一

鐵道部庶務課長に須田一二三君が居る、福岡縣の人で新進法學士である。君は生野總長時代から鐵道の庶務を裁して今日に至つて居るが、若い人に似合はず、職に熱心誠實他の範たるものがあるといふ。一見して官吏氣質のない人で、衆多の人氣は馬鹿によい人である。府內の新進人物として將來あることは勿論であらう。

**小川嘉一君**　運輸課長で洋行中である君は鐵道部に於ける新進法學士で大正十年の出である。庶務の須田君と共に鐵道部の將來ある官人であらう。君一夕淺酌低唱でもやつたら馬鹿に元氣が出る。踊り出す、唄ひ出す。得意の淨瑠璃が唸り出す。却々に面白い人だ。

## 本多保太郎と平輝雄

專賣局の新陣容は馬鹿に新人を網羅した感がある。本多君は渡部君の後を襲ふて酒課長となり、更らに鹽腦課長に轉じた、神戸支局長の平輝雄君が君の後に拔擢されて酒課長の椅子に就いたが、二人共同時に任官した新人である。二人共痩姿輕肉一見して書生肌を脫しない。然しこの二人者は將來必ず大成する資質を備へて居る。御兩人其の自重を望んで止まない。

## 赤堀鐵吉と中田榮次郎

**赤堀君**　は和歌山の產、大正七年の帝大出で、八年十一月愛知縣の屬官などをやり十年四月臺南州へ轉じ警視から理事官、州事務官と頓々拍子に出世し、一番若い內務部長として高雄州にあつたが、更らに臺中州の警務部長に轉じ、今回府の事務官として山林課長鑛務課長の重要な椅子を占めて居る。人間は正直で時に人言を過信する嫌ひがあるが、先づ無難な新人と見てよい。明治二十三年四月三日の生れである。

**中田榮次郎君**　は金融課長時代は馬鹿に各方面から攻擊の矢面に立つた人だが、歐米各國を視察してこの頃歸府、內務局に燻ぶつて居る。人間は廣島縣人丈けあつて却々如才ない處がある。大正六年の帝大出の筈だ。

## 若槻道隆と山口重知

氣勢壯闊で而も豪落なるは若槻學務課長である。君は長野の產、明治十六年三月の生れである。明治四十年東京帝大文科を卒業するや、岩手縣遠野、茨城縣太田等の中學校敎諭を六年間も勤め、次で高等園藝學校、桐生高等工業學校、米澤高等工業學校敎諭（九年間）長野中學校長（二箇年間）等を經て大正十四年十一月本府に來任された人である。臺灣の女敎に對しては未だ改善運施すべき事柄が多い。或は頭變尾同の感あるものもあれば粗枝大葉、到底風雪に耐ふことの出來ないものもある。只無暗矢鱈に智育の方面に重きを置き德育に對する方面は全く缺けて居るらしい。或る小學敎員は兒童に對してこんな質問を發したものがある。『例令ば或る雜貨屋の集金人が表門に請求に來たとするか、父母にこの旨を傳へた處、都合があるから、留守だと斷れと父母の吩付けである。その時の考はどうしたらよいか』といふにある。常に嘘を吐いてはいけない嘘は泥棒の始まりだと常に先入が主となつて居る。故に居つても居らぬといふのは嘘になるから惡いとい

ふ答をするものが多かつたといふ事である。何んといふ狹い智育の坩堝に堅めた言葉であらう。『父母は子の爲めに隱し、子は父母の爲めに隱す、直この内に在り』といふことを度外にした敎育から來た結果であるまいか。

若槻君に望むはこの點である。餘りに智育方面に傾くと人間が利發になつても實際の社會生活は疎くなる。現に學校の成績がよくとも、世間に出て役に立たぬものが多い時代である。這般石塚總督が中等學校長會議に訓示された智育にのみ流れぬやう情的内面へも力を注げといはれて居る。これ抔は全く現代敎育界の箴言である、鐵案を下したものである。

學務課長として、學事行政の前哨にある君に向つて敢てこの言を進めたのは專門家たる丈けに期待されるものが多々あるからである。昭和二年七月歐米出張、昭和三年四月歸朝された人である。

**山口＝視學官**　美人の名所、雪の名所の新潟の人、明治四十二年の東京帝國大學文科哲學を出づるや、各地の中等學校敎諭や學校長を歷任された人で、督學官としては一異彩である。如何にも敎育肌の人で、溫情和氣、一言苟もせざる態度のを有して居るが、時には破顏高談もやる。若槻君に比して氣勢壯んではないが、人の急所を突く敏銳な處がある。君學徒であつたといふ元府保安課長の小林光政君（現警視廳官房主事）はよく著者にそんなことを語つたものである。上山總督時代日月潭に同行した時、蟠局を卷いた蛇のやうな銳い目でニヤリ〳〵として列車の片隅に陣を取つたのは君であつた。始めて君に會つたのは其の時で、爾來音問を絕えて居るが、何時も『敎育家らしい人』として**フアストインプレツション**の深いので忘れた事がない。君も歐米視察中であつたが最近歸朝されたといふことである。乞ふ加餐自重して日暮れて道遠い感のある我が文敎の爲めに黎明の期を與へて貰ひたい。

## 堀口勉一郎と三宅勉

鐵道部工務課長となつた堀口技師は東京の人、明治三十七年の京大出身で、小山技師抔の大先輩格であるが、その昔支那政府などにも居つたといふことで官界が遲れて居る。花蓮港出張所長として東部鐵道の改善運施に並ならぬ苦勞をした功勞者である。先年歐米各國を視察して歸府今日に及んで居るが、人間としては眞面目な人で、氣持ちよい春の曙でも遁遙する如き感じのする人である。學究的であり、構思又豐富な點に於て群官中に一頭地を拔いて居る。

**三宅技師**　も同じく三十七年の北海道帝國大學農科の出である。研究所の植物病理科長として令名のある人だが、却々政治家肌の快男兒で、理に明かに、言論も風發する、君も歐米の文明を吸收して來た人だ。

## 荒木安宅と磯田謙雄

農業土木の**オーソリチー**として内務局の技師荒木安宅君あるを誇りとする。臺灣の今日、各地の水利事業が着々として完成に近づいて來たのは確かに君の賜である。君は技術家として事務官的行政手腕を有して居る丈け他の技術官のやうに事務官連から制肘や壓迫抔は斷じて受けない志氣峭健な處がある。曾て桃園埤圳問題で豐田内務局長をして手古摺らした豪の者である。人間は會津武士の流れがあるので、自己を飽くまで完ふする痛快な男だ。大正四年の帝大農科出である。

**磯田謙雄君**　は同じく内務局技師として、其の巨大な手腕を發揮して盛名のある人だ。中村勅任技師と同じく石川縣人、大學は大正七年帝大工科の出で、業に精しく、理に明かで飽くまで技術家らしい**タイプ**の人だ。極めて圓滿な男。

## 土井季太郎と小笠原金亮

殖産局に多くの技術者が居るが、この二人者は何んといつても斯界の權威者であらう。尤も農務課に新進の鈴木進一郎君も居るが、土井技師は曾て臺灣製糖に奮勵された閲歷があるので、官吏らしからざる美點があつて却々勉强家である。今や糖業方面の專門家として府内でも重きをなして居る。兵庫の人で、帝大農科の出である。

**小笠原技師**　も特産課になくてならぬ人として一方の權威者である。北海道の農科大學を大正六年に出て居る。今や新産業たる鳳梨方面にも君の力に俟つべきものが多いといふ。人間は極めて正直な人。前内田局長からガミ付かれて憤慨した男だけあつて氣慨がある。

## 中堅的地方官人遠望

臺北州內務部長　深川繁
臺中州內務部長　能澤外茂吉
高雄州內務部長　淺野安吉
新竹州內務部長　中島覺之
臺南州內務部長　內海忠司

**深川＝臺北**　帝大を四十五年に出て、直ちに遞信官吏として專門の吏僚として令名のあつた人だが、臺灣に轉じてから洋行を最後として遞信畑から葬られた形ちである、官海一轉自他共に豫期しなかつた地方行政の任に立たれたことは、全くせまじき者の悲哀を感じて居ることであらう。三宅福馬君が電氣局書記官として監理課長時代、君は東京鐵道郵便局長高等官七等であつたから三宅君よりは後輩である。

**中島＝新竹**　朝鮮の專賣局から轉任した人だが、仁川府尹抔やつた事があるから田端知事の臺北市尹に比して面白い對照だ、自治的手腕は確かにある。專賣局から新竹州の內務部長に榮轉―とするには餘りに歡迎もして居るまい。常吉局長と同鄕關係だが、今川のやうな人間が飛び込んで來た爲めに庶務課長たる事の出來なかつた男だ。人間は圓滿でよい。多少は衒氣もあるかも知れないが、緩急に適應する經綸は豐富に持つて居る。雜氣もあつて面白い男である。

**能澤＝臺中**　は金澤の人、大正五年の京大出身、其の初め司法官として京都奈良に歷任し大正十年本島の司法官として來任された人である。其の後行政畑に轉じ練習所敎官から府の保安課長として敏腕を揮ふた人である。其の後臺南州警務部長に榮轉し三年も先輩の今の增田臺北市尹は當時臺南州の地方課長として居つた時代だ。其後研究所營林所の各庶務課長を經て內務局地方課長に榮轉し、昨年五月歐米各國に出張を命ぜられ歸朝、臺中州へ轉任することゝなつた。君は消極的な司法官上りとして馬鹿に積極的な氣勢壯濶な處があつた。部下を見ることの明、書類を見るの銭、其の才幹俊敏、意態雄傑は事務官中の一異彩として中瀨君抔に比肩すべき人材であつた。臺中に轉じても嘸かし冴えたる腕を揮ふことであらう。自愛せよ。

**內海＝臺南**　最近官海の掘り出し者として馬鹿に人氣のよいのは臺南へ行つた內海君だ、流石は內地で警察、內務の兩部長を歷任しただけであつて何處となく蟬脫して居る。佐賀縣で內務部長時代知事の大島破竹郎と喧嘩したとかで政友內閣で休職となつたが、蛟龍は何時までも池中のものではなかつた。川村總督の時、臺北州警務部長として來任し、莅任匆々官民間の信望を博し君を稱するに全くの掘り出し物となしたものである。大學同期に河村臺日や、安保辯護士、竹下審議や本間地方抔が居るが、川村總督時代內地から來任された官人中の鵬的人材として、著者は常に君の人物の偉大なるに敬服して居る一人である。常識に富み、正義の念强く、何事でもこだわりなくスラ／＼と解決して行く甘辛の妙味は確かに地方長官として不足ない人である。而も部下に臨むに抱擁力が大きい。であるから部下から馬前の勇士が幾らでも出るといふ、近代に珍らしい話ではないか。

**淺野＝高雄**　大正五年府の警務局が警察本署といつた時代に松下芳三郎と共に來任した人だ、爾來松下君は專賣局に君は殖產局に別れて相互の榮達を希つたものだが、後年松下君は伊澤總督、上山總督から信を得ず、零丁孤苦の感があつたが、後藤文夫長官の人情味から松下君は朝鮮へ轉任した。君は殖產局に依然として十餘年間の永きに渡つて奉仕した。

こんどの異動には――と一般から期待されて居たのが**アクシデント**となつて、君は高雄州へ轉することゝなつたのである。決して左遷ではない。京都の產で年齒漸やく不惑を過ぎたばかりである。家庭上に悲劇あつたが、先年內地から配遇者を求めて鳳衣蕎枕馬鹿に圓滿で他の羨望の標となつて居るといふことである。

## 其二

臺北州警務部長　高橋秀人
臺中州警務部長　猪股一郎
高雄州警務部長　福田直廉
新竹州警務部長　石川定俊
臺南州警務部長　尾佐竹堅

**高橋＝臺北**　警察權を郡守から搦ぎ取る、警察署が獨立される。これは當然のことであるが、民度の低い地方に行けばまだ〳〵サアーベル政治が必要の處あるかも知れない、高橋君は錦衣故鄉の感がある。臺北州の警務課長、基隆郡守地方課長、一躍して新竹へ警務部長、高雄州警務部長、次で島都臺北州警務部長と頓々拍子に出世した。既に三等官となつて居るから部長中での古參株である。臺北一中の出身者として大學在學中高文にパス者として俊才たることは吶々を要しない。爲人、才氣煥發、夏雲奇峰を湧くが如く、機鋒縱横、爽利精悍な處がある。廣島縣人、明治二十七年二月の生れであるからまだ不惑にも遠しない。前途洋々たるものがある。

**石川＝新竹**　秋田縣の人、大正十一年の大學出で而も農法の二つの學士を有して居る面白い人である。初め殖產局屬たりしことあるが、年餘にして七星郡守、臺北市助役、新竹州地方課長、臺中州地方課長と歷任して今次の更迭にて新竹州警務部長に榮轉した人である。君は郡守や、助役の際隨分と新聞記者から攻擊を受けたものだが、最近の君は實に洗鍊されて圭角もとれ極めてよくなつたといはれて居る。社會は理論ばかりでは通らぬ、殊に牧民官としては尙更らである。君はよく社會的に人物が鍛へ上げられて居る。一面には智の人であり質の人で、秀拔道鍊、人をして行程悉く新景に富むといつた逸趣も橫生して居る。風姿端正、若きサアーベルの總帥として其の前途を祝福する。

**猪股＝臺中**　府の理蕃課長より拔かれて臺中州警務部長に榮轉した。君も其の初め臺中州警務課長たりし事がある。新潟に籍のある人で富豪の家に育つた丈けあつて名利に恬淡たる處がある。辯說豐かでなくとも、悠々迫らざる態度は見るからに氣持ちがよい。醉中の君を問ひ見よ、氣勢壯濶、廣い座敷を狹くする程の快男兒である。一番若き警務部長として著者はその大成を望んで止まないものがある。現狀恰も猛虎負嵎、行くとして可ならざるはあるまい。好漢夫れ靴音高くして州下の民衆に弊害なきを期すべしである。

**尾佐竹＝臺南**　有名な法學博士尾佐竹猛君の令弟、大學は四十五年に出居てるが決して墓石の行列的人物ではない。多年司法官として公權保護の任にあつた人だが、そんな氣風は微塵も見えない。府の衛生課長から新竹へ榮轉し今次復た臺南州へ榮轉した。警務部長としては兄哥株の格である。常識に富んで、理性に勝つて居て、苟も感情に支配されるケチな人物ではない。よく襟度を披瀝して、抱擁力が大きい。殊に灣官吏の臭味のないのは何より特異で、且つ果斷一往の勇猛心ある事は意を强ふする事が出來る。臺南には內海君が居る。論じて來ると三人の知事が居るやうな感もないではない。乞ふ。爲邦家加餐自重せられんことだ。

**福田＝高雄**　立志傳中の人とは聞いたことあるが、親しく語つたことのない男だ。始め練習所の敎官を勤め、新竹の警務課長、臺北の警務課長を經て一躍高雄州の警務部長に榮轉した。臺北では內海部長の薰陶を受けたが、內海君が臺南の內務部へ轉じ君は其の隣州の高雄へ榮轉したのであるから、其の得意想ふべしである。昔から艱難汝を玉にすとある。げにや君の如きは一介の警察官より身を起して今日の榮職に就いたといふことは努力の賜である。然し、この立志傳中の人に限つて往々器局が偏狹に陷つて居るものが多い換言すれば物事を餘りに理論化して社會政策抔は眼中にない。著者の友人にも一二人あるが、事に處するに試驗科目でも受けるやうな態度で居るので評判の悪いこと夥しい。君に望むは卽ちこの癖弊のなからんことである。世の中は二一天作の五で行かない場合も多いことを銘記して貰ひたい。之れ前途ある君の大成の爲めにである。

## 七市尹の人物觀

臺北市尹　增田秀吉　　基隆市尹　加藤守道
新竹市尹　山本正一　　臺中市尹　名和仁一
嘉義市尹　政所重三郎　　臺南市尹　堀內林平
高雄市尹　今井昌次

領臺當時縣廳あり縣知事あり書記官あり警部長あり、民間公共團に區長なるものありて官治民政機關の助長をなしたのであるが、三十有餘年の今日に及んで州知事となり市尹となり、街長となり、庄長といふ退化的名稱を附されたるは如何なる理由に基くにや、而も郡役所に警察課長あるが如きは領臺當時縣の書記官が裁判所長を兼ねたるよりも奇觀たるべ

し。若し夫れ理事官たる郡守に警察權を與ふを以て當を得たりとせば同じく理事官たる市尹に警察權を附與し警察署長を指揮監督し、市政の助長機關たらしむる敢て不審といふべきであるまい。聞くが如くんば市政の主なる衛生施設や交通問に就て警察關係常に不統一に流れ、各自に意を異にして權限のみ主張するが如きこと多しといふ。今や郡警察の獨立の計あるの時、斯る錯覺的言論を皷吹するは甚だ矛盾の感あるも、從來市政と警察行政とは常に扞格齟齬を來たしたる例決して尠なからざるが故敢てこの言を高調せる所以である。

**增田**＝臺北市尹は、人口二十四萬の臺北市政に立つて種々の批評の標となつたが、彼の電車計畫を一蹴し、尨大なる費を市民に負擔せしめざるを期したが如き時代をよく見た鋭眼に敬服する。然して市役所と云へば恰も養老院の感を以て世間から見られたものだが、君は先づこの內面的刷新にも大鉈を振つて整理の實を示した。大抵の官人なら躊躇することであるが情實を排して斷々乎と所信を遂行したのは流石は增田君である。一部の人々から增田君は市政の破壞屋だと評されて居るが、電車施設を中止したのが決して破壞でもなければ衒氣でも奇矯でもなかつた、蓋し臺北市に最も忠實な役人として推賞すべきであらう。

臺北市政、未だ爲すべきもの多々ある。恰も前頭忙殺後頭繁雜の感があるが然し**ウツカリ**手を附けると白無垢鐵火の彌次の多いことを忘れてはならぬ。根が善人だけ、人を抱擁することに氣が附かずに喧嘩を買ふやうな態度あるは惜しい、要するに市尹といふ役柄は臺灣の官吏萬能の弊から見ても餘り光榮ではないのである。

君は大正二年の帝大出、秋田縣から臺灣へ轉任して始め府の土木課に居たこともある、その後臺南州の地方課長、臺北州警務部長、次で歐米各國へ視察し、歸府臺北市尹として今日に及んで居る埼玉縣人だけに却々俠氣肌の男でもあり、情的熱血な美點も多い。彼處に大醇あれば此處に大疵ありとかや、君の如き人物を指した形容詞であらう、明治二十年の生れとあるから著者と同年輩だが、一見して不惑にも達せぬ好男子である。島都臺北の若い市長さんとして謹んでこの邊で敬意を表して置かう。助役長谷川君は正直者として君の女房役には最適任者だ。

**加藤**＝基隆市尹、名は守道、馬鹿に氣に入つた名前の持ち主である。年もまた若く明治十八年九月二十四日、新潟縣柏崎町に生れた人である。壯年新潟縣北辰學館を出づるや、身を官界に投じ北海道屬、岩手縣屬から同縣の郡長に累進し後ち郡制廢止となるや選ばれて岩手縣事務官として地方行政の鍛錬者である。昭和三年九月臺灣總督府理事官に轉じ臺灣北門の鎖鑰ともいふべき基隆市の市尹に榮轉し今日に及んで居る。前の佐藤市尹も新潟の產であつたが、不思議にも君も又新潟縣人である。基隆の人口は全島第三位にあつて昭和四年末の現在七萬二千三百七十三人の多きに上つて居る。從つて物貨の呑吐集散港として南客北賓、公職にあるものその迎接に寧處なき處である。殊に市民の代表機關たる市尹の職に於て特に此感を深ふする、爲人、姿勢端正、何んとなく節義の正しさを表現されて居る。人に接して溫情懇切、內地で鍛え上げられた行政官出身だけにソツのない人である。基隆市尹は叙上の通り、總督長官の迎送以外北賓南客雲霞の如く蝟集する處で、骨の折れることは全島一であらう。助役は最近內務局から轉じたばかりで特筆すべきものがない。

**山本**＝新竹市尹、高文**パス**者、三宮警察署長などをやつた人、阪本森一君時代臺北州警務課長として榮轉し、淡水郡守、大溪郡守を歷任して昨冬新興新竹市の初代市尹として市政の任に立て今日に至る。臺北州時代には淡水港の實傳を努め、臺北市の主なる操觚者を招待して淡水舟遊大會を開催して大いに名郡守の名を高からしめた男だ。淡水の公會堂の如きも君の手で出來たといはれて居る。酒も飲むし、議論もやる。何事でもグヅ〳〵して居るのは大嫌ひで氣も短い處もある。劍棚錚々嚴めしい**サアーベル**から平腰の役人に轉じた君の今後は果してどうか、助役松本君は行政に長じた人として君の幕下として最適任者だ切に自重自愛を望みたい。

**名和**＝臺中市尹、一時に教育畑から三人の市尹が出來たといふので高塔下の大小官人が暇つぶしにはしやぎ廻ることは甚だしい。何も不思議はない。三人共高師出の秀才と斷すればよいのだ。大學を出ても型の決つた高文試驗を**パス**出來ない連中から見れば、或は蔑しみ的に高師出の市尹を指して曰く、今後の臺灣の市尹は勅任になれない、地方理事官を最後とするものだといつて居るものもある。まさか此三人は萬年市尹じやあない。そんなに羨望嫉視しなくともよさそうなものだ。名和尹は山形の產、東北氣質があつて社會的には未熟な處もある。然し高雄で教育課長をやり、臺北で地方課長を歷任した男だから、臺中市尹の要職に据つても決して其の椅子を穢すやうなことはあるまい。人間は馬鹿に律義で、操守が正しい人だと聞く、臺中の初代市尹は金子二代は川中子、三代遠藤、四代は小島、悉く千軍萬馬の勇者として知られた人々である。臺中は難治の處などゝいふが、臺北や、基隆よりはまだ〳〵樂な處である。若し評する如く市政の難治は君

の爲めに手腕を示すに最もいゝ時期である。平々凡々、御座成り的の市政では今後、市尹そのものゝ役柄の必要がなくなる。千燈に千策を生じ、萬艱に萬策を樹てる位の勇氣があつてこそ始めてその市政は市民の總意を代表するものである。市民と市尹とは恰も唇齒輔車の如く、反目したり、喧嘩する間柄でないことを深く留意すべきであらう。助役河野十郎君は永く秘書課にありて手腕家を以て認められた人材として臺中でも評判がいゝ人だ。

**政所**＝嘉義市尹、高等官三等の府の事務官から四等官の嘉義市尹に轉じ欣々然として居るのは君である。嘉義は人口五萬四千二百二十二人(昭和四年末現在)臺中市よりは三千有餘人多い處である。人物は法院、營林所出張所、農林學校位で君は先づ官人として上位の部にある。嘉義は其の奥に阿里山の豐庫がある。その附近に砂糖國として知られ臺灣の**カリフオルニア**を以て目されて居る處である。嘉義名物は美人鄉を以て内外に宣傳され、從つて南部旅行の人々はこの美人鄉たる嘉義を訪はざるものがない、殊に其の阿里山へ登山する遊子墨客は踵を接して嘉義の地に入る。かやうに嘉義は他の地と異なつて却々將來有望の處である。君は高雄や新竹では馬鹿に評判が悪かつたが其の實君程人間が正直に出來て居るものは多く見ない。人格が立派で、行ふて節度の越えない正しい人で、徒らに世人に迎合するやうなことは出來ない人である。高師出の敎育家上りであるが、却々行政手腕は燃犀なものがある。助役阿部君は臺南州の文書課長から榮轉した人、極めて温和な人物。

**堀内**＝臺南市尹、臺灣最古の都市として人口九萬二千三百八十六人を抱擁する臺南市は幾多の名勝史蹟に富む處である。從つて臺南には爲すべき事業は數限りなき程である。先づ市區の改正の如きは全島中最も遲れて居る感がある。古き市街の臺南市を一夕逍遙して見給へ、餘りに元氣なき老いたる市街の俤が漲つて居るではないか。三百年の歴史を物語るものとして誇るべきもの多いが、著者は臺南市民に向つて百尺竿頭尙一歩の勇を進めて一時も早く臺南市を街衢整然たらしめて貰ひたいものであると絶叫する。廳時代枝廳長がこの土木の施設に意を用ひ、彼の停車場通りから州廳へ通ずる道路の如き一大市街の先驅として誇るべきものがある。堀内新市尹に望むのは卽ちこれである。往時、民間に川原義太郎翁の如き公共方面に力を盡した人があつたが今日では餘りに影を潜めてしまつて自己開拓にのみ汲々たるものが多い感がある。里見四郎翁病を得て公共方面に活躍不可能となつたと聞くその外代表的に市民の前哨に立つて働く人としては誰であらうか。

**譜州西崎君**は九泉の人となるし、荒卷翁は安平に燻ぶつて居る、佐々木、越智の兩雄あるのみで、一方本島人側を見渡しても極めて公的人物が缺けて居る。貝黄欽君、獨壇上の感あつて許廷光翁は今や老境に入り多年公共に盡瘁して赤貧洗ふが如しと聞く、新人中で中島紀一、川上八百藏抔が居るが市政を代表するまでの勢力はあるまい。

堀内君は多年臺灣の地方行政に任じて今日に及んだ人だが、臺南市民とシツクリ合ふ政治を採るには尙前途があると思ふ。初代荒卷二代田丸、三代遠藤と百戰して死するなきの勇者が、臺南市政に隨分苦勞したものである、君は此間の消息をよく諒解して居ることゝ信ずるが、老ひたる臺南をして活氣旺盛ならしむるには相當骨が折れやうと思ふ。君は長野縣の人、大正二年の高師出高文パス者として前の大久保警務局長とは同窓である。明治二十年の生れとあるから增田臺北市尹と同年輩である。人間は氣勢壯濶で、態度極めて重厚一言苟もせざるといふ風格が床ゆかしい。助役の松尾君は臺北州文書課長から轉じて今日に及んで居るが、郡守として進出してもいゝ時機の人である。

**今井**＝高雄市尹は立志傳中の人として臺灣官海に其の軌範を示して居る男だ、其始め臺北廳警務課に仕し、警部より警視に累進して南警察署長となり地方理事官となり、彰化、苗栗の所謂一等地の郡守を歴任し其後拔擢されて高雄市尹となつた人である。新潟縣人で、普通文官の登第者である。明治十七年一月四日の生れで理事官中には決して古い部の人ではない。新興發展の途上にある南門の要港として其前途洋々春の海の如き感ある高雄市政は今後に俟つべきものが多い。多年警察行政に洗練され、地方行政の前哨に立つた閲歴から推察しても君の手腕は他の追從を許さぬ處があらう。正直一點で、職に忠、官人としては全く典型の人物である。臺北廳時代には生字引と綽名された人であつた。花や昔の花ならぬ、げに定めなきは浮世の變遷であるまいか。助役梅川君は高雄州會計課長より榮轉した人。極めて細心堅實を以て名がある。

## 東部二廳下

黎明の東臺灣、開拓の機運到來せる東部の現狀は、新材を用ひて新功を樹つるにありと、石塚總督の一斷は兩廳長をし

て有資格たらしめた、卽ち花蓮港に猪股君、臺東廳に兒玉君が任命されて今日に及ぶ、今その幕下を一瞥するに花蓮港廳務課長に高文バス者の新進を以て鳴る廣谷君が居る。府の審議室屬として法制に首つ引きをやり後高雄州旗山郡守、敎育課長、地方課長の要職を歷任して今回花蓮港に轉じた人である。性極めて溫厚而も律義者で、淸水のやうに潔い人で福島縣人である。警務課長の靑木行滿君は警察官出身新高郡守より轉じた人である。却々如才なく、滋賀縣人としての特性は遺憾なく發揮されて居る。花蓮港に轉じて以來、一の惡評を耳にした事はない立派な警務課長である。年も未だ若いし、氣も銳であるから前途は遼遠なものである、稅務に靑山君が居る臺中や澎湖廳に仕したことのある、稅政に明るい人である。花蓮港支廳長に警視候補者に一般から認められて宮崎末彥君が野心なく屹々と東部の開拓にいそしんで居る。警官練習所の敎官から花蓮港支廳に轉じて數年間に及んだ、勿論將來のある警察官である。玉里支廳に古藤君が居る、鳳林に渡部君が居る。新城に磯貝君が居る。身判任支廳長なるも立派な行政をやつて居るが、事蹟埋もれて世の中に現れない恰も棄て石同樣の感あるは同情に堪えないものである。

次に臺東廳下を一瞥せんか、庶務課長に江口幸市郎君が居る。多年臺東廳屬として朝倉、能勢、市來、齋藤の各廳長に仕へ、後ち臺北高等商業學校の首席書記に拔擢され再び廳理事官に陞進して今日に及ぶ、職に忠實精勵他の模範たるものがある。殊に會計の事に轉じて些の遺漏なき人として令名か高い。府の專門屬官でも江口君の頭腦明哲に一驚して居るとか、酒を好むが淫せざる處があつてよい。福島縣人、警務課長に植田末熊君が居る熊本の人、多年警察界にありて其の眞摯朴訥を以て令名のあつた人、高雄警察署長より拔擢されて今日に及んで居る。爲人、正直で而も潔辯家だけに行ふて節度を超えない立派な警察課長である。稅務に狩野君が居る、多年府の稅政に鞅掌奮勵された手腕家で、臺東に轉じて以來その徵稅振りは見上げたものである。熊本縣人である。

里壠支廳長に警視富永藤平君が居る。此人も警察官練習所の敎官から拔擢された人で、所謂新進の官人である。里壠はマラリヤの巢窟として有名な處であるが君が赴任して以來極力この衛生施設に從事され、今やこの惡疫も正に影を潛めんとして居る。又理蕃策に對しても一見識を有し、自ら蕃地に入りその前線に立ちて兇蕃の首魁を說いて歸順をすゝむる等富永君に於て始めてその効果顯著なるものがあるといふ。職に忠理に精しく、論にも轉じ、里壠の山峽に置くのは何んとなく惜しい人物で宮崎縣人である。新港に菅宮君が居る。愈々漁港が實現されるので菅宮君の歡びが如何ばかりか世に禍を轉じて福となすとか。正に新港の漁港はさうであつた。が、今の石塚總督は昨年赴任前まで事業中止に對し、今年度の豫算計上は不可能とされたものであつた。之に對して上京中の著者は極力その非なる所以を說き尙理蕃上にも影響すべしと論じたるに總督は一應見てからの後に解決すべしといはれたものである。菅宮君は新港の恩人、隨分苦勞した甲斐あつて今や新港は名の如く春光麗らかな歡喜に滿つる新天地となつた。君竿頭更らに大に努めよや、茨城縣の人。

大武支廳に金子彌平君が居る、埼玉縣人で今の警務局長と鄕を同ふする。多年警察に仕して今日に及んで居るが、大武の地僻にして交通不便なるが故にその子女の敎養に苦心するといふ、然るに君は子女の敎育に熱心長子は今春臺北師範を卒業して敎壇に送り出せりと聞く、不自由を忍び困苦と戰ひつゝあるの境地にあつて、斯の如くよく子女敎育に熱心なるは他の軌範たるものありといふ、記して以て君の爲人の反面を謳ふ所以である。

## 臺灣の裁判官

我が臺灣にも、古來有數なる司法官人が居つた、例の高野猛矩を始めとして鈴木宗言、川淵龍起、石川常英、手島兵次郎、菅野善三郎、高田富藏、谷野格（法學博士）杉井榮堯、杉坂實抔いふ出色せる人々が居つたものである。殊に臺灣に於ける司法官として最も古きは、前の臺北法院長宇野庄吉、望月恒造の二君であらう。（今では宇野望月氏は官を捨けて居る）學閥なき二人者は後進の躍進を外に見て、虛心淡懷、平凡の裡に眞氣を藏してゐた人である。

望月氏は二十六年の判檢事試驗の登第で宇野氏は二十八年の合格者である、共に山梨縣人は奇緣でないか。尤も二十六年には石井爲吉、丸龜德十、早川彌三郎、杉阪實、朽木義春（辯護士合格）津田毅一の臺灣關係を多く出して居る。二十七年には早川彌三郎、大西道生（辯護士合格）抔も出て居る。二十九年に故白倉吉郎、三十年には角源泉、三十一年には小野得一郎、佐藤三之助、倉敷熊次郎を出だし、三十二年には上內恒三郎、三十三年には伊藤政重、三十四年には筒井淸良、

金子保次郎、三十五年には岩本喜之助、三十六年には高林勝治、三十七年には高橋喜又、田中吉雄、菅沼寛藏（辯護士）四十年には鈴木徇路、野津三次郎、四十一年には上田貞藏、古河新次郎、篠崎岩太郎を出して居る。更らに四十二年には緒方清繼、四十三年には北村政敬、四十四年には姉齒松平、鰍澤榮三郎、大正二年には有水常次郎、大正三年には今西保知抔が出て居る。以上檢討して來ると、學閥なきの司法官が我が臺灣に隨分重きを爲して居る。

轉じて學閥方面を論じて見る。頓々拍子の幸運兒たる新高等法院長の後藤和佐二君は明治三十六年の帝大獨法科の出身籍は東京の人とあるが、出生は長野縣人であると傳へられて居る。爲人、壯大雄傑、斷行の骨力も硬いといふ。次に漸やく勅任の位置を得た山田示元判官、地方法院檢察官長と同期の三十二年の帝大出である。或る人曰く山田判官は司法官よりは行政官の方が適任であると評して居つた。

今回新任の竹內高等檢察官長は明治三十六年の出で、後藤法院長と同期である。曾て東京地方裁判所に居たことがあるが、最近横濱の檢事正で居た人だ。

金子臺北地方法院長は東京の人で前にも述べた如く明治三十四年度の判檢事試驗登第者である。勅任判官中部內に重きを爲して居る人で、才幹俊敏、溫厚沈勇と又一面には清淡閑逸の風流もある。倭軀短少であるけれども、キリツトした勁烈な處もあつて評判のよい人である。

臺中の法院長は大里武八郎判官である。この人も、陞進の遲れた人であるが昨年勅任となつた、明治三十三年の帝大佛法科の出身として餘りに惠まれて居らぬ。三等官の行き詰りに甘んで居る。曾て土木業者の談合事件に關る君の一直は以て公否を斷じ、其の第一審の決、恰も爆竹の如く無罪を宣した名判官である。

**田中**　臺南地方法院長、三十七年の國家試驗の登第者島根の人、辯舌豐富、我が判官中に出色した人であるといはれて居る。高等法院部長の伴野判官四十一年の帝大出で、長野の產。

**石橋**　臺南檢察官長は四十四年の帝大出で、千葉の人である。却々奇警秀拔な處が多い、例の阿片事件を摘發して、天下の耳目を聳動せしめた人だ。

**武井**　臺中檢察官長は富山縣の人で明治四十三年の帝大出、福井、名古屋、札幌等に檢事として歷任され、大正七年臺南地方法院の檢察官として來任し、大正十二年に臺北へ榮轉し更らに臺中法院檢察官長から臺南へ轉じて今日に至つた人だ。性剛毅果斷、直行徑行、檢察官長として未來ある新人である。

**鈴木**　英男君は高等法院部長である。明治四十四年の帝大出で、靜岡の產、例の阿片問題に英名を高からしめた人である、爲人、痛快雄壯、何時までも秋官として置くのは惜しい人である。姉齒松平、明治四十四年の判檢事試驗の登第者一時臺北で辯護士を開業して若手在野法曹として人氣の焦點となつたものだが、後聊か感ずる處ありて、谷野博士の推輓で判官に轉じて今日に及んで居る、宮城の人。

## 特輯

（大正五年實業之日本十一月一日號發行所載）

# 東拓新總裁　石塚英藏氏

## 海の鄉人

本編は六月二十一日附で山本光雄氏から寄贈を受けたるものなるも、石塚總督の部は既に印刷を了したる爲に第三編中に挿入し得ざるを遺憾とする次第なり。種々案配勘考の結果特輯として官の部末尾に掲載することゝせり讀者之を諒せられん事を。

### 明治の叔孫通

明治の叔孫通とは實に此度新に東洋拓殖株式會社の總裁になつた前の朝鮮總督府農商工部長官石塚英藏君の事である。君の半生は明治年間に於ける大日本帝國の領地を通じて、實に其の法律制度の制定に些も關與して居らぬ處は一つもな

い。

君は明治二十三年を以て赤門を出づると、直ちに法制局に入つて參事官として、當時の日本帝國全領土に通じての法律命令の制定に參與した。尋で明治二十七八年日清戰役の結果として臺灣割讓を受け、臺灣が我領土となつて、彼の八釜しい法律第六十三號に據り、獨立して律令を制定し得る事となると、君は又同樣總督府の參事官長として其律令制定の樞軸を掌握した。夫から明治三十七八年日露の戰役で我が軍破竹の勢で遼東の地を席捲し滿洲の野から敵を追ひつめ〳〵掃蕩し、流石難攻不落と稱せられた旅順の堅塞も陷落して我手に歸し、此に日本の軍政が布かれて大陸の地に於て始めて日本の權力の下に法令が制定發布せられ新なる光明を發揮することになると、君は又その民政長官として之を管轄し、後平和克復に及んで我が國が露國の權利を繼承して關東州が愈々我の租借に歸し、日本の政治的權力が確立すると共に亦從つて眞正の關東都督府の民政長官となつて、その地の法制の基礎を確立した。

更らに韓國が我が保護國となり、年と共に日本の勢力が進展して日本的にその法制を整備するが爲めに、我が統監府で韓國の法制を監査し、特に其の重要法規並に重大なる行政處分は總て我が統監府の承認を要する事となると、君は卽ち新設の監査部長となつてその任に當り、尋て明治四十三年の韓國併合で朝鮮が愈々我が領土となり、總ての法令の制度皆我が國權の下に置かれて主として制度舊慣を調査し、法令の改廢若くは新制定の基礎を作ることゝなつて、君は又其の長官となつた。斯くて明治年間に於て、我が領地の擴大せられ、新法制の定められるゝ毎に一として君の手に待たぬものはないである。

## 無類の法制的頭腦

併し乍ら君が明治の叔孫通として稱せらるゝところは獨りその土地の上に於て、明治の全領土に亘りて、法制に關與したといふ許りではない。寧ろその頭腦の法律的にして、その法制上の技能の群を拔くに因るからである。第一學問の筋が徹つてゐて、學校の成績は常に一二を下つた事はなく卒業の時も首席であつたが、特にその明瞭にして綿密な頭腦と正直にして精確なる性格は、實に誂へ向きである。それで何をやつても隙のない、動きのないしつかりしたもので、議論も立ち辯もよく、法制家としては恐らくは明治年間の第一であらう。

石塚君は大學時代から既に秀才を以て目指れてゐたが、法制局時代は實に若手連中のチヤキチヤキで局内の花と稱せられ、昇進も至つて早く、時には一箇年に二度昇つた事もあり、當時内務書記官の柴田家門氏と駢稱せられて居た。それで當時の長官井上毅氏には大分望を囑せられて居た樣だ。そこで遂ひに臺灣總督たりし兒玉大將に拔擢せられ、奏任四等から一躍して勅任官となつて總督府參事官長として伴れて行つたが、滿洲に行つたのも亦其緣に因ると云ふことである。大將は餘程その技能を認めて居たらしい。伊東巳代治氏も亦君の前途に關しては少からず推輓を惜しまなかつたといふことである。實に法制家としての君の技能は殆んど何人も疑を挾むの餘地がないやうである。而して、その正直、其の謹嚴、明治の叔孫通とは蓋し最もよく適合した批評であらう。

## 植民地歷任

君の頭腦と性格とは實に誂へ向きの法制家である。君の平生の事業は又法制の上にある。君の官場の經歷は多くは參事官的である。唯これのみを以てしては之を東拓の總裁としては聊か畠の違ふ樣にも考へられぬでもない。が併し、これで縱から觀察すると共に、更らにこれを横から吟味すると、君の半生は又實に植民地の經歷である。臺灣、滿洲、朝鮮、盡くそれ植民地新領土である。假令その職直に拓地植民の衝に當るに非ずと稱するも四圍の境遇多年の間見るにつけ、聞くにつけ、拓殖上に關しても得る處の智識は蓋し少くないであらう。特にその新開地の風土同じからず、人氣自ら異にして趣味もなく、娛樂もなく、滿目たゞ落寞たる裡に在て君は他の多くの役人たちが較もすれば年の半分を東京で暮すに反して四年も五年も必要がなければ任地を離れぬといふ熱心を有することゝ、その至る處に新制の施設を以て相當の效績を擧げて居ることは亦見逃すべからざる所であらう。

臺灣時代は行政官でなく、參事官職であつたから華々しい目につくものとてはないが、凡ての法制が君の手に依つてその基礎が確立せられた事は疑を容れぬ。次で關東州に於ては今現に相當の施設として人の注目に値する位の事は多くは皆君の時代にその基礎を築いたものである。

更らに朝鮮に至つては監査部長とし並に取調局長として法制を整備し、制度の基礎を定めたるは言ふまでもないが、就中總で長官代理として警察委任條約締結の任を帶て彼の面從腹拜反覆常ならざる朝鮮人對手に折衝の任に當つた時の如きは、君の鬢髮爲めに白を加ふること幾萃なるを知らすと言はれた程で、其の效績の大なるものがある。尋で併合後の官制改革の始末に至つては全く君の手に成つたもので、新朝鮮の出現は其の半面は卽ち君の功であると謂はねばなるまい。

## 循吏の典型

斯くの如くにして君の半生は殆んど法制の中に在つた。而して其の性格も亦頗る法制的に出來てゐた。第一正直で、精確で、廉潔で、謹嚴で、又綿密なる頭腦と共に毅然として容易に人に屈せざるの風があつた。彼の最も襤褸の出易い朝鮮の農商工部に五年間も長官をして居たのに、嘗て一問題の世の疑惑を招いた事がない。其處には流石會津武士の血が通ふて居ると偲はしめた。而して君が堅造一遍の性質は平素身を持するの嚴正なるのみでなく家庭に在つてさへも事務的で嗜好趣味など謂ふものは些もなく、他の多くの法律家の如く駄辯を弄するなどいふ事は勿論嘗てなく、必要がなければ寧ろ沈默の方である。全體大學時代から當時の亂暴書生の中にあつて君は寧ろ常に袴の襞を直して折目正して着用するといふ人であつた。君は綿密な丈に善く他人の事にも親切で、正直の性は自ら任諾を重んじ、苟も人の依囑を受くるに及んでは否とは言はず、必ず應分の盡力はする。這處頗る任俠の風があつた。

君の恪勤勵精は又書生時代からの特色の一であつた。君と常に試驗の成績を爭ふて居た佃一豫氏が其の快活なる性格を以て餘り勉强もせずに、善く相當の成績を擧げて居たに對して嚴格なる君は常に勉强で勝を制したは面白き對照であつた官吏となつて以來も此の勵精主義は常に各處にあつて發揮せられたが、就中韓國併合後官制改革の衝に當つた時には君は毎日總理大臣官邸で會議しては旅宿に歸つて種々と筆を執り又京城の總督府に向つて指揮を仰ぐなど、二過間程は殆んど夜も二三時間位しか眠りに就かなかつた程であつた。要するに君の如きは實に循吏の典型と稱すべきであらう。（完）

# 第五編

# 臺灣統治と其功勞者列傳

## 第一章

## 第一節　公共的功勞者

### 公的生活三十餘年民間に於ける功勞者の隨一　茶苦來山人　三好德三郎翁

（明治三十二年渡臺）

### 偉ふとき存在價値

翁の臺灣に於ける偉大なる勢力、それは翁の公的生活（パブリックライフ）三十餘年そのものがよく之を物語るものである。著者は先づ其順序として翁が青年時代より今日までの活きた歷史を伺ふことにする。翁は日本一の名所京都府宇治に呱々の聲を擧げられた人である。三好家は祖先來製茶を業となして隆々發展今日に至つて居るが、翁が青年時代、宇治茶の販路擴張に就ては本店の辻利兵衞翁はいふまでもなく、宇治の各茶問屋が必死となつて地方產業の向上發展に專心一意されたものであつた。

當時翁が僅かに齡十七八歲の黃口兒の身を以て、青年實業團なるものを組織して斯業の改良發達に資せんとした。即ち其栽培、製造販賣等の向上革新を計つたのである。而も自ら實地に之を行ひ、其傍ら大いに高唱力說して奬勵の先驅となつた。所謂斯の如く茶で苦勞して來た故を以て茶苦來山人の號ある由緣である。明治二十四年の頃宇治に組織した青年實業協會は左の如き會歌を作り大に宣傳したものである。

實業に關する青年が。　組立なりし協會の。　新作如何と問ふたれば。　三好茶苦來先手とし。　幹事五名を後手となし。

鄙合會員三十と五名。實業發達趣意となし。花の宇治町に產れ出で。朝日の咲にかがやきて。宇治の流れと限りなく。將來國家富强の。一つの基いとなるなれば。實に滿足慶賀の至り。欣躍〳〵〳〵愉快〳〵

時偶々明治二十六年。時の農商務省次官であつた前田正名氏が、日本の將來は海外貿易の發展と產業奬勵にありとなし、官を罷めて自ら率先して實業團體なるもの組織せられ、進んでは全國を遊說行脚の壯圖あるを聞くや、翁は年來の素志至れりとなして、蹶然起つて上京し知己の奧田義人氏を介して前田正名翁と始めて會見したのであつた。

げにや梅檀は二葉より香ばしく、蛇は寸にして人を呑むの兆しありとか、二十歲前後の翁は既に天下を呑まんとするの概があつた。三好翁は前田翁に會見するや腹藏なく自己の所信を披瀝して大いに其の計畫に贊し、兩者我れなく、彼なく直ちに融化了して、相携へて全國的地方遊說の行脚の途に上つたのである。其當時左の如き歌を新作し遊說中至る處にて大に宣傳したものであつた。

人のためには苦勞をせねが。　戀しき日本に苦勞する。　たつた一つの絲柱。　それにならんで茶の柱。
あぶない二本の此家に。　四千餘萬の同胞が。　すまいするのをしらないか。

斯て一介の書生は前田翁の高風に馴致されて政治實業兩方面に伸手張足したのである膽大雄圖の翁は伊藤公、山縣公、西園寺公、松方公、近衞公、井上侯、佐野伯、樺山伯、奧田男等明治大正の功臣や元勳の門戶を叩き一躍天下の奇才を以て知遇を得「怪傑青年」を冠せらるに至つた。今日翁が中央に於て茶苦來の名を藉甚たらしめて居るのは抑々この時代の活躍に胚胎して居のである尙翁の尊ふとき存在價値は尙これのみではない。

## 機會を見るに敏なる翁

機會を知りて迅速に世人の上に立ちて之を捉ふる人は必ず成功すと哲人ゲーテの言である。然し機會なるものは他より來たるものと、自ら作るものと二者がある。彼のレキザン大王は稀世の雄才を以て歐亞の大陸を蹂躙した時、某將軍は大王に問ふに「機會だにあらば長驅して更らに敵の市街を擊つべし」と嘆じたるに大王は「否な余は自ら機會を作るものなり」と答へたといふ事は有名な話である。翁は機會を見る事敏で且つ自ら機會を作つたといつてもよい。齡而立にも達せざる時代に、早くも時勢の推移を大觀した人である。其當時各地に博覽會、共進會の開催に際して屢々製茶審査委員、品評委員、出品奬勵委員等に推されること枚擧に遑なく、殊に明治二十九年露國皇帝の戴冠式に我が國から參列大使として山縣公が差遣さるゝ事となつた、機會を見る事敏なる翁は、直ちに之を前田正名翁に諮り、更らに鄕里の同業者と協議して、露國兩陛下は勿論各國の參列大使に純然たる日本茶を献ずる策を取つたのであつた。斯の如き美擧は實に國家的で、國光を海外に宣揚したものといはねばならぬ。翁は之を山縣公に依賴せるに公は非常にこの美擧を贊せられて彼地へ携帶を快諾されたのである。蓋し日本茶の聲價は玆に於て始めて世界各國に翕然と周知せらるゝに至つたものであつて翁の功績と得意想ふべしである。

宜なる哉、明治三十一年秋皇太子殿下(大正天皇陛下)宇治に行啓の際、時の內海京都府知事の奏請にて特に拜謁を賜り且つ各所へ御成りの際、畏くも供奉の光榮を荷ふる等、當時既に一流の地方代表の公的人物であつた。

## 翁の新活躍舞臺

製茶業の海外發展の爲に當時混沌たる政界の活躍を辭し、三十二年の春、時の文部大臣樺山伯、同次官奧田博士及び翁の親分前田正名翁の三人が偶々京都に邂逅したるを幸ひ、年來の持論たる製茶業等の海外發展の一策として我國最初の植民地たる臺灣に於て實地に之を行ふて我が國產の增進を圖らんと力說したるに、右等の先輩の諾する處となり。更にこの壯擧は伊藤、山縣、松方、內海、樺山、桂、奧田等の顯官諸公より稱讃され、加ふるに時の總督兒玉將軍及後藤長官に宛たる翁の保護的紹介を與へられた。翁は感激してこの書を懷中なし飄然臺北に現れたのである、これ翁が二十六の青年時代であつた。著者等今日翁がこの青年時代に海外發展の雄心は、如何に壯にして熾烈であつたかを想察するだに忸怩るものがある。

翁は臺北に着くや、兒玉總督、後藤長官に面會し先づ先輩諸氏よりの紹介狀を提供し自己來臺の希望の一端と且つ統治上に關する意見などを述べ尙將來を懇囑して引下つた。ソコデ明治三十二年五月五日臺北北門街に(今の京町)辻利茶舗を開設し之れが開業祝として時の兒玉總督、後藤長官其他十餘名の官民代表者を洋食店の臺灣樓に招待して祝宴を開

催した。實に奇拔な雙應振りを見せたものである。

當時奇警非凡、よく人を見るの明ある兒玉總督は後藤長官に對して「彼は只の鼠ではない」と看破し、內海京都府知事に向つて翁の身元を照會されたといふ。然るに內海知事よりの返信には「孺子三好をして誘掖指導是非保護を願ふとの意味を齎らされたのであつた。英雄よく英雄を知るとかや、彼は只の鼠ではないと看破したる兒玉總督の鋭眼は確かに當を得た評であつた。眼吼紙背に徹せる後藤長官の烱眼も亦よく見たものである。爾來この二英雄は翁の爲人を識るや、常に談ずる友なき時、翁を官邸に招して歡談時の移るを知らざる事多くあつたといふことである。

## 對岸視察と翁の鋭眼

更らに翁は一介の茶商として臺北に齷齪するを屑ぎよしとせず、茶業の調査研究に專心意を用ひ、他面對面貿易に着目し其經濟的事情及對政策等調査の爲に其翌年厦門、福州、汕頭、香港等を視察されたのである。

當時の臺灣茶業は頗る幼稚なもので之れが研究の資料として茶樹の栽培、製造の改良、販賣等に關したる意見を發表して斯業の發展に資したことがある、それ明治三十五年二月である。更らに先輩なる橫濱の**大谷嘉兵衛**、神戸**山本龜太郎**の兩氏に臺灣茶の事業を報告して內臺合同の一大製茶會社設立の急務を力說し、進んで米國紐育にある知友**古谷竹之助**、シカゴ**水谷友恒氏**等にも本島茶の宣傳に努め、明治三十六年大阪に開かれたる第五回內國勸業博覽會に翁は卒先して臺灣館設置を總督府へ獻策し、又民間側に向つては協贊會を組織するに努めた。更に進んでは本島物產の紹介に資すべく、共同賣店及び臺灣茶宣傳の喫茶店の開設を計り、尙本島人啓發の一策として此の機會を利用し內地觀光誘導の策を樹てゝ大に之を優遇する道を講じたのである。そして翁は專務理事として先づ明治三十五年十月に博覽會の出品勸誘其他協贊會の用務を帶び全島を遊說し翌年正月大阪に至り東西奔走し、朝旦寸暇なき努力を續けて其設備に沒頭されたのである。宜なる哉、努力して報ひられざるの理はない。其結果は非常なる歡迎を受け觀覽人の喝采を博した。畏くも兩陛下皇太子殿下の天覽、台覽の榮を賜ふ等、誠に光榮と觀喜とに包まれた有意義は臺灣館として、內外に稱贊を博したものである翁に對し第五回內國勸業博覽會より感謝狀を授與された。又明治三十八年日露戰爭の際兒玉將軍より戰後の滿州を視察せよとの通報に接したので、翁は關東州利源調査委員を囑託され滿州に渡航し各地を視察したこともある。蓋しこれ翁の名譽のみでなく臺灣島の光榮として永く銘記すべきであらう。次で翁は曾つて「臺灣より見たる南支政策」に付、中央政府其他要路に居る先輩知己に意見書を交付して幾分實現されて居る事もあるといふ。

## 翁の臺灣統治に貢獻した公的活動

其他翁の今日までの公共的活動振りを記念すべき事は枚擧に遑なく限りある紙數にてこれを盡すことは全く不可能であるが、要するに翁は渡臺三十餘年間歷代總督政治を援助し飽くまで無冠の大夫を以て任じ天下の貧乏人として衒はず、阿ねらず只至誠至純を以て官民の調和劑となり。所謂後押し的態度に眞に「爲臺灣」一身一家を顧みず晝夜奔走盡力し、何等功名利慾に走らず、地位も名譽も捨てゝ只天職の茶業を經營しつゝ專心一意國家の爲にあらゆる方面に對する公共事業に盡瘁して居る。一面には義に厚く俠に富み所謂幡隨院長兵衛式の處もあり、又其脈管に流るゝ熱血は只至誠の結晶である。何十年來、苟も私事に拘泥することは絕對に避け、人を待つこと頗る寬である。統治上の問題に於て尙然り、內地に於ける政治及財界方面に亘つてもよく古き事情に精通して居る。勸業銀行創立の如き、臺灣銀行創立の如き、其他各方面の內外の主なるもの翁は知らざる事はない。惟ふに翁は、壯年時代より中央に於て政治的且つ經濟的各種方面の人物と交友多き結果であらう。蓋し現在にても然り、內地にある官民の先輩親友などに折々臺灣統治上の爲め種々なる問題に付意見の交換をなし蔭ながら臺灣の爲め有利に盡力して居る。殊に翁は人の爲に盡助して惜しまざる美風は前にも述べた如くであるが、翁の人格の偉大なるは、時に翁を誹るものでも翁は決して其人物を誹謗せぬ、其代り高笑談戲頂天立地の勇は何時も躍如として現はれて居る。

或る人が「茶苦來山人を中央にあらしめば」抔といつて非常に山人の一生を惜しんだものだ。全く翁の如きは公的人物として島內に於て所謂鐵中の鏽々たるものである。島民に惜まれて在職中死去された明石總督は三好翁を無二の談友として何事でも山人を呼んでは温故知新の道に供したものである。

或る顯官が山人を評して「曾呂利新左衞門」と云ひ、某總督は「三好君は大久保彥左衞門」と評された事がある。實際眞

を穿つた評である。然して翁は內地に居る頃から知己先輩より衆議院議員立候補の相談を屢々受け臺灣に來てからも同樣の交渉を受けた事は數あるも翁は一切之を辭退して寧ろ臺灣より友人の出馬に對して積極的に後援して居る。これが茶苦來山人の山人たる眞價ある所以で、山人の生命と得意又この裡にあると信ずる。翁は飽くまで野人として一布衣として黑法師的に、獻身的に、社會公共の爲に終始一貫三十年一日の如く活躍されて居るので內外人の德望厚く敬稱して臺灣の大御所などゝ評され、恰も死んだ三浦觀樹將軍の俤げか偲ばれるものが多い。

翁が二十歲前後から中央に於ける國家の重臣元老等に知遇を蒙り居ることは前にも述べた如くであるが、翁は臺灣にありても春夏秋冬三十年一日の如くこれ等の先輩の爲に盡すべき事などを怠つたことがない。仄聞するに臺灣總督に親任せられたる人は必ず親任の挨拶に西園寺公を訪問されるようだ。老公は訪問の總督に對して。

『私は臺灣で知つて居るのは三好だけたが、閣下は三好を御存じですか』と話されるそうである。

又牧野伯や伊東伯や或は官民の重なる連中なども翁のことを必ず話されるそうである。卽ち臺灣と云へば三好翁を、三好翁と云へば臺灣を呼び起す丈けの偉大なる德望があるからである。

現に今春死去された夫人の葬儀に際し全國至る處の朝野の名士から弔電七百餘通の弔問を受けて居る。その主なるものを擧ぐれば左の如し（次第不同）

公爵西園寺公望　伯爵東郷元帥　伯爵山本權兵衛　伯爵牧野伸顯　伯爵伊東己代治
濱口雄幸　子爵上原元帥　犬養毅　子爵齋藤實　公爵近衛文麿
侯爵大久保利武　高橋是清　若槻禮次郎　水野錬太郎　男爵山本達雄
男爵九鬼隆一　子爵入江爲守　鈴木貫太郎　奈良武次　財部彪
男爵田健治郎　男爵山下源太郎　武藤信義　伯爵兒玉秀雄　男爵安東貞美
子爵青木信光　床次竹二郎　中橋徳五郎　鈴木莊六　福田雅太郎
內田嘉吉　伊澤多喜男　上山滿之進　川村竹治　柴五郎
菅野尙一　田中國重　石塚英藏　菱刈隆　關屋貞三郎
寺內伯爵　山縣公爵　樺山伯爵　佐久間伯爵　後藤伯爵
奧田男爵　前田男爵　明石男爵　片岡直溫　山本悌二郎
久原房之助　男爵園塚廣　川崎卓吉　小松謙治郎　橋本圭三郎
井上侯爵　男爵深尾隆太郎　男爵東郷安　倉知鐵吉　西園寺八郎
男爵大倉喜七郎　南弘　馬場鉄一　中川小十郎　永田秀次郎
有吉忠一　花井卓藏　藤山雷太　藤原銀次郎　大橋新太郎
富谷鉎太郎　橫田秀雄　松本直亮　柳谷卯三郎　牧田環
大谷嘉兵衛　菊地恭三　堀啓次郎　鳴村淺夫　山下龜三郎
松方巖　梶原仲治　原修次郎　鳩山一郎　竹內友治郎
武富濟　中村啓次郎　增田義一　櫛瀨軍之佐　本山彥一
武智直道　加藤恭平　太田光熙　島田茂　松本幹一郎
相馬半治　矢野恒太　久米孝藏　遠藤達　杉山茂丸
下村宏　岡實　賀來佐賀太郎　後藤文夫　河原田稼吉
人見次郎　赤石定藏　高木友枝　森廣　宮尾舜治
和合英太郎　長尾半平　高石眞五郎　高原操　片山義勝
松岡正男　喜多孝治　木下信　丸茂藤平　妻木頼遠
櫻井鐵太郎　一瀨久米吉　森俊六郎　高橋親吉　川崎軍治
村田會藏　鈴木三郎助　中野金次郎　渡邊武　辻良兵衛

其他重なる文武官民兩院議員主なる銀行會社、實業家の代表者及び美術家、新聞雜誌記者等各方面に亘りて之を一々列擧するに遑がない。斯の如く全日本の名士から翁の存在價値を尊ふとまれて居る事は決して偶然ではないのである。

## 內地の風光に接する事僅かに五回

翁は渡臺されて以來三十二年になるが此間內地に旅行したること僅かに五回で一回は明治三十六年大阪の第五回內國

勸業博覽會へ臺灣館の用務を帶びて上阪し、第二回は明治三十八年滿州へ利源調査委員として視察の途に上り、第三回は明治四十五年臺北市區改正に對し低利資金問題の用務にて上京し、第四回は大正四年京都に於ける御大典の用務にて上洛し、第五回は大正八年明石總督が、福岡にて斃去されたるに付き、その用務を帶びで出福したのみで、以上五回なるも何れも私的關係にあらず、皆公的關係の用務のみにて內地に旅行したのである。要するに最後の大正八年以降十二年間翁は內地の風物に接したことがないのである。著者は翁に對して時には內地の風物に接し、大に浩然の氣を養ふの必要を說けば翁は、

「第一內地へ行く氣樂な金がない御承知の如く天下の貧乏人である故に又個人として毫も內地へ行く用事もない、假りに公的の如何なる問題が起るとも電信や手紙で充分用事が片付くから態々借金をしてまで內地へ行く必要はない、それよりも臺灣に居て、何かと大馬係をやつて居る方が愉快である。」

と話されたが、翁はドコまでも臺灣を愛し、臺灣思ひの人である。

萬事が斯の如くにして三十二年間終始一貫天下の貧乏人として總督政治を援助し所謂後押の役に立ち恰も漬物の下敷きたるを甘んじて居る人である。故に自分が出世するよりも、官吏でも民間でも翁の友人が出世することを非常に歡び何よりの樂しみとし且つどこまでも援助して成功させてやつて居るが、翁は何時も謙遜して曰く「俺は三十餘年も臺灣にあつても何等御役に立たず、不相變何時も下敷の形ちであるからモウ駄目じや」などゝ會合の折々に話して居るが、或時、某總督は翁のこの談話に耳を聳てゝ姿勢を正して

『いや〳〵そうじやない、君の聲は天に達して居るよ』

と話されたそうであるが、之れ抔は實に意味の深長なるものでなくて何んであらうか。げにや至誠は通ず、赤心萬朶の花は亦得難いものである。

## 偉大なる德望家

信を以て人に交はれば財の足らざる事はない、德を以て人に施せば又必ずや德吾身に到るはいふまでもない。翁が三十有餘年間努力して倦まなかつた社會公的の奉仕振りは、決して私がなかつた。卽ち自己を度外にして公に殉じて來た人である。而も先見の明と人物を見る明とは常人の端睨すべからざるものがある。翁に意見を求むべく訪客門前市をなすも決して疾言なく、遽色なき人で、例へば問題其物が政治的にせよ、社會的にせよ、個人的にせよ、直ちに以て輕々して是非の言を與へぬ、其用意周到なることに驚くべきものがある。然して一度信じ一度斷じた際には身を燒いて金石も徹透さんとするの任俠があるソレハ殊に至誠懇切であるからである或る新聞記者が翁を指して社會の醫學博士であると評したことがあるが、實際翁は、利那的に物事を考へたり。世話したりすることが斷じてない。飽くまでも定石を踏んで誤らない人である。かるが故に翁の緻心な點は五年も十年も先きの事を考へて居る。翁が一端斷じたことで失敗した例は恐らくあるまい。多年總督政治に對する信念なるものは實に正しくして强いものがある、新聞記者に對しては執れの時代の總督でも決して非議してはならぬ。統治上總督を惡くいわないようにして呉れ給へといふて居る。

斯の如く新聞記者に對する翁はどんな問題でも諄々乎と眞心を披瀝してよく說得し飽くまで善用するに努めるので如何に血氣の多い新聞人でも翁の誠實誠心には皆敬服されて了ふのである。

要するに臺灣の政治が圓滿に遂行されて居るといふのが、この新聞人を過激化せしめない事も亦與りて大なるものがあるこの意味に於ても翁の如きは確かに功績の顯著なる人である。

## 翁が荷ひし光榮の數々

翁が今日まで社會國家の爲に盡瘁せられたる事績は枚擧に遑がないが、その主なる光榮の數々を列記すれば左記の通りである。先年畏くも攝政宮殿下本島行啓に際して三好翁の功を思召され、特に綠綬褒章を賜り。且つ單獨拜謁及び御賜宴の光榮に浴した。次に昭和三年今上陛下御大典には臺灣統治上の功勞者として勳五等に叙せられ瑞寶章を授けらる。臺灣總督より產業功勞者として表彰銀盃授領、陸軍大臣より軍事功勞者として表彰銀盃授領、大日本赤十字社より有功章授領、大日本武德會より一等有功章授領、愛國婦人會より一等有功章授領、忠勇顯彰會より功勞章授領、帝國在鄕軍人會より木盃授領、內外國博覽會共進會等へ烏龍茶を出品每に功勞賞、名譽金銀賞牌、感謝狀等授領、且つ出品の

製茶は屢々宮内省へ御買上の光榮を荷い居る。其他各種公共團體より表彰せられたる事枚擧に遑なく、而して翁の三十餘年間の臺灣生活中公職に奉ずる事又頗る多々あるが現在の主なる公職は左の如し。

一　臺灣總督府評議會員
一　總督府史料編纂委員會顧問
一　臺灣慈功神社合祀者資格審査委員會委員
一　臺北商工會副會頭
其他省略ス

## 昔は百萬長者財界闘將の雄統治上の大功勞者　古賀三千人翁

（明治二十九年渡臺）

由來福岡の特色は政治思想の激甚を以て名高い。而も地の利は筑紫二郎流程三十六里其長大なる九州に冠絶して居る然して此の地は歴史上に、地理的に於て敵國外患の餘波を受けて新文明の最も早く注入せしめたる處である。見よ、多々良濱邊に、千代の松原に、箱崎八幡樓門の畏くも　醍醐帝の御宸筆に係はる「敵國降伏」の四大文字は聽て凝つて如何に其特風を訓練せしぞ。

古賀君は、明治二年八月二日この史實に富む福岡縣遠賀郡上津彼村に呱々の聲を揚げ、明治二十九年二月齡僅かに二十有七歳の身を以て新領土開拓者として本島に渡航せられた人である。

君の志は萬里獨往、堅忍不拔の精神を以てよく難局に處し來たりたる活歴史は聽くもの、見るものをして轉た後人子弟の龜鑑たるものが多い。君渡臺以來專ら土木建築工事の請負に從事し本島が軍馬倥偬の裡にあつてよく斯界の爲に貢献せられたるは著者の言を待つまでもない。其他製腦、製糖、製氷等の各種事業を經營して本島實業界の重鎭として全臺を壓するに至つた。而して一面には公的事業に盡瘁する事多年、今之を叙すれば明治三十三年打狗内地人組合を組織し評議員に選ばれ次で明治三十七年には年僅か三十五歳にして同組合長に擧げられ市民の衆望を一身に荷ひ爾來大正九年地方制度の實施に至るまで高雄内地人組合長として内臺人の融和親善、官民間の調和楔子となりて我が臺灣統治に盡瘁する處多い。明治四十年臺灣實業協會高雄支部長に擧げられ就任し、大正六年同協會解散と共に退任したが、同年高雄商工會を組織せらるゝや、君復た其會長に擧げられ、就任今日に及ぶ。其他明治四十一年高雄公會理事長に、同四十二年高雄補習學校長に、同年高雄幼稚園を創設してこれが顧問に擧げられて育英の業に力を竭すこと甚大なるものがあつた。

### 公的生活三十年

高雄の古賀か古賀の高雄かと謳はれるまでの公的努力の數々を擧げれば、明治三十七年僅かに三十五歳にして内地人組合長に擧げられ、大正九年地方制度改正まで高雄内地人組合長として内臺人の融和に、官民の調和に、盡瘁した功勞なるものは見逃してはならぬ。當初君が五千圓を投じて所有せる土地十六甲（今の煉瓦會社附近）を内地人組合の財源として之を寄附した。後一年ならずして五千圓の土地が三萬圓に賣却する事になつて玆に始めて高雄内地人組合の新財源が生まれたのである。當時荒木萬三郎等の組織になる高雄港内の交通機關たる旗後高雄間の巡航船の經營は困難に陷り一時之を廢止するより外なき運命となつた。斯ては完全なる交通が不可能であるから從つて婦女子等の交通に對しても又危險極まるものあるといふのて官廳に於ても大いに憂慮されたものである。それて内地人組合がこの經營に當ることゝし進んて交通整理の任に立ち大いに自治的活動をやつたものである。當局は最初この巡航船より得る收入の純益は公共衛生費に入れる方針であつたが、内地人組合の活動を認めてこれを同組合の仕事として與へたのである。次に當時水道の設備がなかつたので曾て陸軍の所有せるタンクを修繕して飲料水の配給をなした。

然して當時高雄には火葬場なるものなく内地人の死者は悉く死體を野天に於て行はれて居つたのを君がこれを遺憾となして内地人組合でこれを設備することにしたのである、次に當時高雄には官立病院なるものがなく病に泣く患者は多く屏東、臺南へ診療に行かなくてならなかつた狀態で内地人組合長たる君は新興大高雄たらしむるを期するには是非共衛生保健の機關の必要を痛感し、それで内地人組合が敷地として三千坪を寄附して漸やく高雄に病院が設立せらるゝ事

になつたのである。左の如く內地人組合の仕事は全く自治的精神を基調として市民の諸願諸屆官廳關係の傳達機關となり其他市の衞生設備例へば便所掃除塵芥等の整理は總て內地人組合でやつたのである。更らに高雄將來の自治の基本を造ることを考察して舊墓地であつた今の海野組附近に土地二萬四千餘坪を組合が拂下げて所有した。高雄に公會堂を建設されたのは全島に魁けせるもので公會堂の嚆矢である。其後將來の大高雄、今日あるを透視先見せる古賀氏は組合を改めて高雄公會となし法人組織として財產は法人團體に移すことゝした。然して將來自治が布かれた時は一切自治團體に引繼ぐ規約を設けたのであつたが、大正九年新制布かれたので右の財產を商工會の基本財產に殘すことに處理した。尙當局より第一期の高雄街長に推擧せられ知事よりも交涉を受け郡守は二三度古賀氏を訪問されたが君は常に上京勝ちので自治の發達の爲にこれを辭退し、その代りとして內地人副組合長であつた鈴木直之助君を第一期の街長に推薦し組合の會計であつた楠田金之亟君を收入役に推擧した。これ恰も內地人組合の看板を人と共に其儘移した感があつた。叙上の如く明治三十七年より大正九年まで現在も然り約三十年に垂々とするまで終始一貫永く地方公共並に產業の爲に貢獻されたるは君の右に出るものかない。當時臺南に於ては川原義太郎臺中にあつては小畑駒三臺北には木下新三郎の諸氏あつた。今日では悉く人間が新らしくなつて居るが獨り君丈けは高雄の商工會長として依然殘つて重きをなして居る。著者は君を呼んで臺灣統治上の最大なる功勞者となす所以は卽ち玆に存する。

## 寄附と救濟とに投じた金は莫大

其他君は人材を造る爲に大學生七名中學生十一名を出して居る。社會の爲に、貧民の救濟に淨財を投ぜること實に枚擧に遑ない程である現に君は當時內地人隨一の資產家として如何に公共方面に盡瘁せしか、今日の君を推察しても伺はれるものがある。君は常に敬神崇祖の念厚く神社佛閣に寄附獻納せること決して僅少ではなく、彼の高雄に於ける景勝の地たる西本願寺の敷地、石垣、鐘樓、本堂の建築の大部分は皆是れ君の寄附によつて出來て居るのである。尙此の外高雄神社敷地の基礎を定めて九千六百圓を投じて拵へた石段の如きは今猶ほ君の敬神の佛げを物語るものがある。今や其敷地には兒玉大將の石像が建立されて居る。蓋し千秋萬春の後まで君の芳名が輝くことであらう。彼の金光敎の建築、石垣、敷地も全部君の寄附で出來たといふことであるが、君は要するに神社佛閣は人生最大の慰安に必要であるといふ見地から犧牲的奉仕を遺憾なくなし遂げた人である。其他二萬圓を投じ臺北臺灣神社々前に山口縣德山產の大理石の大華表を獻納して居る。高雄の民風ともいふべき官民協力の實は他州では到底見られない美はしいものがある。何事でも市の爲なりとせば、直ちに市の爲に身を燒いて惜まぬといふ犧牲的精神が宿つて居る。これも古賀君多年の主張たる會社員も官吏も市民も打つて一團となり抱擁し提携し行くといふ美はしい團結心涵養の現れと見てよい。高雄に州廳を置かれたやうになつたのは畢竟君の努力の賜と見てよい。明治四十三年日本赤十字社特別有功章を賜り、大正九年五月志を政界に轉じて福岡第十區より打つて出て中原に鹿を逐ひ見ん事これに當選し衆議院議員として議政壇上の人となり十年には豫算委員に擧げられ、十一年には法律六十三號の期限改廢の大問題に對する特別委員に選ばれ、大正十二年には民政黨々務副委員長に擧げられる等政界に重きをなしたものである。今日まで政界にあらしめば當代總務格の人である。天性數に明かに、理に長じたる君は、よく諤々の言を吐きて寸毫も誤りなく院內に於て君の博聞强記を推稱せざるものがなかつたといふ。

## 融資銀行頭取としての責務を完ふした

爾來選擧毎に選擧民の推薦喝仰多く、これが謝絕に苦心せる現狀なるも、君の純義の精神はこれを許さず專ら臺灣統治の爲に奮鬪努力せられて居る。大正九年十月一日新制度施行と共に高雄州協議會員を命ぜられ、同十年六月一日總督府最高諮問機關たる臺灣總督府評議會員に任命せらると同時に依願高雄州協議會員を免ぜらる。大正十一年七月十八日臺灣史科編纂委員を命ぜられ、大正十三年一月二十六日宮內省より社會事業の功勞により銀盃三組並に金二百圓を下賜せらる。

臺灣議會請願に對しては極力反對して來た人で永井代議士や田川君杯に向つても反對の理由を開陳して諒解に努力して來た、神田君抔は非常に古賀君の反對に對して不快の念を懷いて居つたといふが、最近になつて諒解して大いに古賀君を崇敬して居るとのことである。

更らに特筆すべきは、君が臺灣商工銀行頭取就任以來の功勞を見逃してはならぬ、昭和二年の春、財界パニック當時より減資並に融資銀行として、自ら身を挺してこれが前哨の任に膺り、上京數旬、樽俎よく折衝して融資三百五十萬圓を得て、商銀を起死回生せしめたる功績は君ならずんば他の到底企及し得ざる處である。多年情弊多しとされたる商銀をして私情を棄て公義に殉ぜんとなして大改革を斷行し今や成績の見るべきもの多大なりといふ。

この間君を毀損する野心の徒も多かりしが、正義は最後の勝利者を如實に示し、飽くまで身を殺して仁を爲したるが如き君の志氣峭健たるによらざるはない。銀行を中心として我が財界革正の闘將としてよく孤軍奮闘、矢盡きず、刀折れず、百戰して死するなきを得た。何等の榮譽ぞ、想ふて玆に至れば私人としての君が心や人一倍の愛憐慈眼の人なり。深夜靜かなる時徐ろに哀思を催すもの多からん。

君資性、義を重んじ情に厚く、苟も浮華に流れず、權門に媚びず、正節を持して動かざるの人。これあるが爲に最後の勝利者として今日あるの所以也。請ふ邦家の爲め、自愛加餐して益々本島統治の爲に貢献する處あれ。

因に本年三月一日附を以て濱口民政黨總裁より政務調査委員を命ぜられて居る。

尙君が現在事業會社關係を掲ぐれば次の如くである。

株式會社臺灣商工銀行頭取取締役　臺北鐵道株式會社長
臺灣爆竹株式會社長　新高軌道拓殖株式會社長
臺灣軌道株式會社取締役　株式會社臺灣貯蓄銀行取締役
臺灣煉瓦株式會社取締役　高雄土地株式會社取締役
臺南新報株式會社取締役　朝鮮產業貿易株式會社取締役
大日本製氷株式會社監査役　嘉義電燈株式會社監査役
大平洋炭坑株式會社監査役　高雄信用組合理事長

以上

## 我が臺灣に於ける財界の功勞者
## 彰化銀行專務取締役臺灣評議會員　坂本素魯哉君

（明治二十九年十一月渡臺）

君は明治元年の生れで南海土佐の產、由來土佐の地は峨々たる山嶽重疊起伏し所謂「地偏山爲塞」と、而も陸に發展の餘地なくして鬱勃の氣を海風濤聲に洗ひたる誠に宜なりといふべし、彼の中濱萬次郎の此地より太平洋上を橫航して米國に漂泊したるが如き、卽ち土佐人の壯圖大計が伺はれる。

君又志を千里の外に伸べんと縣立師範を出て更らに關西法津學校を卒業し、次で帝都に出で明治法津學校に學び專ら法學を研究した。二十九年同校を卒業するや、當時日本銀行總裁たる川田小一郎の知遇を得て同行に入り同年十一月群倫逸才を拔きて日本銀行臺北支店に赴任し始めて我植民地の金融に精勵よく努力奮闘されたのである。後三十二年臺灣銀行の創立せらるゝや、同行に轉じ一躍して嘉義及淡水の出張所長に歷任し、その手腕先輩を凌ぐものあり。宜なる哉、三十八年君は撰ばれて彰化銀行支配人に就任し、爾來今日まで專心一意中部臺灣の經濟產業に裨益する處頗る甚大にして、又市政に州政に其統治上貢献する處尠なしとせず、今や臺灣の胸臟ともいふべき中部臺灣を論ずるには先づ坂本素魯哉の功績を數へなくてはならぬ。大正八年高知縣より逐鹿して代議士たりし事あり。大正九年臺灣の自治制施行と同時に臺中州の協議會員に選ばれ後督府最高の諮問機關たる評議會員として今日に及ぶ。資性謹嚴誠直、よく衆を容れ、よく人の聲を聽く、又辯舌に巧みにして、其侃々諤々の論は蓋し議政壇上の人たるを偲ばしむるものあり。中部臺灣財界の偉傑として內外に藉甚たる亦故なきではない。乞ふ自愛加餐して、我が臺灣統治の爲に益々裨益する處あれ。

我が仁政を尊ぶ鐵火迸出の熱血兒日清日露の勳功者　勳三等　辜顯榮翁

臺灣統治の過去を討究するもの此の勳功者たる辜顯榮翁を忘れてはならない。辜翁は臺中鹿港の產、夙に鄕關を出でゝ

臺北に來り、過渡期の臺灣に大志空しく身の置く處を知らざりき。偶々日清戰役後、本島が我が領土に割讓せらるゝや、皇軍の澳底上陸三貂嶺の險を突破し基隆を陷落せしめ、次で堂々臺北城に迫らんと聞くや、翁は率先身を挺して皇軍を其途水返脚に迎へ且つ東道役たらんことを願ひ出たのである。當時水返脚（今の汐止）錫口（今の松山）附近は山澤の流賊と田園の匪徒と合して寸時も油斷すべからざるものがあつた。翁はよくこれを精査して我軍の爲に利する處多く、五月十日我が軍は臺北城にその精銳を現はしたのである。

今日より之を見れば悽愴の氣轉た人に迫まるが如き感があらう。卽ち良民と匪賊の區別を知るに由なく若し臺翁がこの東道役たらざりせば、如何に精銳を以て鳴る我軍と雖、或は殞傷を蒙るもの多かりしなるべし。宜なる哉、其戰役の功に依り勳六等旭日章を賜ふたのである。斯て翁は初代總督樺山子爵を始めとして歷代の總督より本島に於ける勳功者の隨一として常に四百萬の代表者として遇せらるゝに至つた。翁の勳功は之れのみではない。彼の日露の風雲急を告ぐるや、島民の歸趨甚々として民情不穩なるものがあつた。翁は又痛く之を憂ふると共に人心騷擾の鎭壓に努め且つ率先して皇國の興廢此の一戰にありとなせる大敵艦バルチック艦隊の我が領海に入らんとするを聽くや、翁又これが機先を制せんとし自ら輕裝し身を戒克船に投じてこれが偵察に從ひしが如き、實に後世の美譚たるべし。日露の役終るや、再び其功を嘉せられ、勳五等旭日章を賜ふに至つた。何等の光榮ぞ、何等の榮譽ぞ。

翁は、徹頭徹尾我が國體を尊び、後人子第に軌範たるものあり。近時、島民の新人と自負せる一派が翁を目するに舊思想俱に與するにあらずとなすものあるも、翁は轄然としてこれ等の不逞新人に與せず、飽くまで我が臺灣統治の爲に身を殉せんとす。其鐵火迸出の氣慨は正に延平郡王鄭氏の俤げを偲ぶものあり。大正四年先帝陛下の御大典に勳四等瑞寶章を賜はり更らに大正十二年今上陛下が皇太子殿下として本島御巡啓の際、畏くも翁の功勞を恩召され叙勳三等瑞寶章を下賜せらるゝに至つた。翁今年六十有餘の高歲を以て皇國の恩寵を忘れず、一意專心邦家の爲に貢獻せんことを期して居る。

## 先年を透視した翁の鋭眼

臺翁は舊思想の持ち主だと一言に排斥して居る所謂新人と稱する一派があるが、抑々本島の歷史を知り、本島文化の變遷を說くものゝ言としては餘りに矛盾撞着たるものが多い。尠なくとも臺翁は三十有餘年前より臺灣統治の爲に盡瘁されたるの人である。その幼時の文化に哺くまれたる現代の靑年と稱するものは大いに臺翁の國家的殉公の精神に感謝すべき筈なるに反對に臺翁を陷し入れんとするが如きは恰も天に唾するの類に等しい。臺翁が今日まで偸安姑息し只管功名致福のみに沒頭して居つたと解するは誤聞も甚だしきものである。又一言にして舊思想家なりと評するも、臺翁の胸奧腦裏には尠なくとも今日の新らしい靑年が叫ぶ位の思想は二十年も前に抱藏して居つたのである。現に臺中中學校の如きは卽ち十數年前に臺翁が主唱し力說した結果實現されたものではないか。卽ち民衆黨員の叫ふ處の文化の先驅は翁が二十年前に其役目を果して居るのである。臺翁は名實共に國家的に、社會的に貢獻せられたるは叙上の如くで明瞭なるものがあらう。無暗に口走る文化の尖端に立つて云々する空言は世に何等の益がないが、臺翁の言は鐵石の如きものがある。內地人に三好茶苦來山人あり、本島人に臺翁あり以て兩者は臺灣統治に對して恰も唇齒輔車の如き實人であるといふも決して過言ではないのである。かの孔子廟の建築の如きも翁が率先して努力されて居るが、この計畫の如きも決して徒爾ではない。人心の荒める今日大聖孔子の敎典の力に藉るべきもの擧げて數ふるに遑がない程である。石塚總督も大いにこの計畫を贊し與ふるに補助を以てせられ、尙一般官吏の寄附金を蒐集せらるゝと聞く。あゝ東洋に於ける大聖人を祀る孔子廟は瞬目雄大、瓦甍粉壁美々しく工成るの日近からんとして居る。

## 翁が美擧の數々

翁が先年財界好況時代瓜哇糖數百萬ピコルの買ひ占をやつた時、一躍して千數百萬圓の砂糖成金を見ることゝなつたが、翁は東京に於ける糖商連の苦境を忖度し深く之れに同情して、その利益金は殆んど彼等に提供し、僅かにその一割にも充たざる百餘萬圓の額を得て恬淡たるものあつたといふ。然るにこの美譚を聽きたる當時の明石總督は翁の太ッ腹に驚き「臺顯榮君は實に人物は大きなものだ」と賞められたといふことであるが、この一事を見ても如何に物質慾に恬淡たるかを證することが出來やう。

又昨春後藤新平伯が京都にて臺去せるや、翁はあり合せの金五千圓を持參して香料の資に典じたといふことである。これなども恩義に報ゆる清い心がなくては出來るものではない。斯の如く翁がこれまで社會的にも國家的にも奉仕した美譚の數々は限りある頁では盡せないが、翁が最も誇るべきものとして特筆大書すべきは、全島に亘り七千餘甲歩の土地を所有して居ることである。而もその土地は利權的に政府から下附されたものでなく悉く買收したもので、屏東の土地などは十餘萬圓も出して內地人から買收されたものであるといふ。

土地の所有者として全島に鳴る林本源各房の如きは世々累代の遺產にして其土地は新竹、宜蘭、臺北以外に有して居らぬが、臺翁は北臺北州より南高雄州に亘りて七千餘甲の土地を所有して居るのであるから將來臺灣唯一の土地持ちとして有望なるものがある。尤もこれまでの苦心經營は容易ならざるものもあつた。故に多少は負債も有して居つたが、これに對しては林家の張良ともいふべき敏腕家の許丙君が一意專心、翁の爲に整理の任に立ち債權者側たる臺銀重役等に折衝効を奏して今や着々として整理の緒に就て居るので、近き內に翁は數百萬圓の資產家たるは明かである。これも歷代總督政治の仁政の賜であるといつて感激して居るのである。

## 正義は最後の勝利

這般、神田、清水の前代議士が渡臺された時、翁はこの二人を招じて一夕の驩談を交はしたが、席上臺翁が露骨直接に我が聖代の難有さを說き、臺灣が領臺前に比して如何に進步發達せるかを見れば一目瞭然たるものありと論じ、これを十年前に遡り、二十年前を回顧して見ても、敎育機關の如きは山間僻陬まで校堂の設けなき狀態で中等敎育も普及され、高等學校、帝大までも立派に施設され、その他衞生に、土木に、交通に、產業に一として完備せられざるはないのである。若し之れを三十年前に比較せんか、恰も隔世の感があるのであると聲淚共に下るの懷舊談を試みたが、其一言一句理路整然たるものがあつたといふことである。

神田、清水の兩君も臺翁のこの諄々乎として說く正義の叫びを傾聽して痛感したといふことである。兩君は全島の本島新人連から招待を受けた數は限りない程であるが、その述懷談として痛嘆された一事がある。それは

「本來なれば隣接國や宗國には臺灣總督の寫眞でも掲げて其德政に感謝すべき筈なるに爲んぞ知ん、不快にも孫文の揮毫や寫眞などを掲げて如何にも吾れは中國民であるといつた態度に見えるのは實に遺憾である」云々と

正義は遂ひに最後の勝利者であつた。臺翁の堅い信念と赤心萬朶の花の如き主張とは遂ひに兩人の心を感動せしめ、吾れなく彼れなく融化了して堅い〳〵握手が交はされたといふことである。斯の如く翁は飽くまでも我が仁政を尊び所謂尊王大義の精神躍如たるものあり。我が總督統治の功勞者として千秋萬春の後まで竹帛に垂るべき人であるまいか。吾か心石にあらず轉すべからずと、げにや、翁の赤心は煥として日月と共に光りを放つものであらう。

## 臺灣の澁澤事業熱に旺盛名家林家の棟梁　勳四等　林熊徵君

臺灣を語るもの林本源を知らざるものなく、林本源を說くもの林熊徵を知らざるものがない。君は林維源長兄林經讓の長男林爾昌の嗣子眞に林本源の本家にして臺灣に生る。幼にして穎悟。衆童に秀ひで、夙に經史を修めて其蘊蓄する處大であるといふ。明治四十四年家產の分配を得るや、厦門より本島に本居を移して板橋に住し、林本源第一房の長として、且つ臺灣に於ける最大の富豪者として全島に冠す。

君は昔時た於ける我國事業界の恩人澁澤子爵の如く、臺灣唯一の事業家なり。彼の林本源製糖會社の如き、彼の華南銀行の如く、其他大小幾多の事業會社に君の名の現れざるはなく、林家同族間に君の右に出づるものはない。宜なる哉、今上陛下が曾て攝政宮たりし大正十二年の初春、本島に行啓あるや、君の勳功を思召され、特に單獨拜謁を賜り、且つ勳四等瑞寶章を下賜せられた。あゝ一家一門の光榮何物か如かん哉。

君の事業熱の旺盛なること斯の如く、我が臺灣を策源地として南支南洋に其勢力を宣揚せんと、早くより南支南洋各地を視察し、彼の地の富豪名望家と交りて親善融和の實を擧げ、臺灣の經濟、產業に貢獻せること甚大である。

世に祖先の遺產を擁し、社會も國家もなく妄事して豐かなる者多し。然るに君の如きは一身の榮達、自己の利のみに走るにあらずして、世道人心の爲に、其財を活用せんことに努力しつゝあるが如き、眞に林本源第一房の名望家たるに

背かざるものといふべし。事業の成敗は成るも敗るゝも時に於て止むなし。君が南支南洋發展のパイオニーとして國家附託の大任を負ひ、華南銀行の總理として今日に至る。或はこれが爲に財を失ひたるもの多からん、然れども萬金の財寶を擁して世の守錢奴として醜名を天下に晒す者に比して、如何に意義あり、如何に樂しきか、君の如きは實に事業に生て事業に終る國家の寶人といふべし。これ臺灣の澁澤の名ある所以である。

林本源各房を見るに決して人材乏しからざるも、君の如き公的人物あるを見ず。君あるが爲に名家林本源の名を損せざるものといふべく、祖先の遺風をして顯彰するものは實に君なり。今や君は我が國家の重寶として遇せらる。更らに倦ます撓まずして、我が國家に貢獻せんか、必ずやこれに報ひらるゝの時あるべし。好漢夫れよくこれを銘して愛國忠誠の觀念忘るゝなからん事を希望して止まない。尙君は今日まで多くの人材の爲に大學又は專門學校中等學校等に學資を與へて卒業せしめたる數は四五十名に達するとのことである。

## 商實に頭が低いが氣骨稜々古武士の風ある臺北實業會長　中辻喜次郎翁

（明治二十八年渡臺）

英雄の氣格骨格、古來凡庸ならず、豪傑の擧措行動も亦然り。温和なる容貌、雄渾なる品性これひとしく常に卓越せる處なくてはならぬ。臺北實業會長中辻翁の如きは確かに常鱗凡介の人ではない。

君は富山縣氷見郡布勢村に生る。明治二十一年笈を東都に負ひ、神田にある專修大學に入り（其當時專修學校と稱せり）法律經濟を修し二十三年卒業した。君業卒へるや、海外壯圖の雄志勃々として抑ふること能はず、明治二十八年日清戰役後、大連柳樹屯にて始めて識れる德島縣人藤川類藏氏と共に渡臺し共同經營の下に臺北に盛進商行を開設し孜々營々名詮自稱の如く爾來盛んに進展し、島都臺北に於ける最大なるデパートメントストーアとして巍然臺北市に頭角を現し盛觀を呈して居る。其後甥中辻喜策氏を加へ大正十年株式會社に組織したるも、其內容はこれ等三人の合資に過ぎないのである。

君が、商估の傍ら我が事業界に貢獻せるもの蓋し枚擧に遑がない。大正八年基隆に於て東亞肥料株式會社を組織し、其專務取締役となりて全責任を負ひ、臺灣に於ける過燐酸肥料製造の嚆矢として聲價を擧げ、次で大正十二年高雄の臺灣肥料を合併して今日に及んで居る。更らに大正十三年臺北實業會を組織せらるゝや、君は多年全市民より德望と信認とを荷へ、所謂衆望全市を壓し、名實共に代表人物として、其會長に撰ばれ、今尙繼續され臺北市民の爲に盡瘁されて居る。次で昭和二年臺北市の中央に位せる舊臺北廳跡の空地は雜草茫々として體面を損するものあるを以て、君は進んで臺北共榮株式會社を組織し、自ら社長となりてこの空地に結構莊麗なる新築家屋を建設して市街の美を添ふるに至つた。斯て昭和五年一月該地の全部建築成れるを以て該會社を解散し、殘務は君が理事長たる臺北共榮建築信用組合に引繼きその經營に遺憾なきを期して居る。君の關係せる公共方面と會社關係を擧ぐれば先づザット左の通りである。

一　株式會社盛進商行代表取締役
一　有限責任臺北共榮建築信用購買利用組合理事長
一　臺灣商工銀行取締役
一　臺灣肥料株式會社取締役
一　臺灣製鹽株式會社取締役
一　臺灣オフセット印刷株式會社取締役
一　臺北鐵道株式會社取締役
一　東光油脂工業株式會社相談役
一　基隆自動車株式會社取締役
一　臺北市協議會員（內地の市會議員）
一　參酒販賣株式會社監査役
一　臺北實業會長

此外大阪及び滿洲に於て種々なる事業に關係してゐらる。

尙別に盛進商行納品部の看板の下に各宣衙への金物、木材、諸機械等各種の用達又は本島人に對して毛織物綿布及雜貨の卸賣各種肥料の問屋業等を兼營してゐる。

趣味としては觀世流の謠曲と子規派の俳句で、翁性格に適して居る。商估の傍らこの雅懷あり、以て翁の反面を伺ひ知ることが出來やう。

斯の如く爾來機鋒縱橫、商利商畧に富みて、終始一貫努力した賜が今日の大成をなしたものである。君又相當の學歷

を有し、明治時代の官尊民卑の弊に囚はれず、五斗米に腰折せなかつたといふ事は近代青年のよき鑑戒であるまいか。

君、人に接して懇情親切、熱もあれば、俠氣もあつて氣骨凌々古武士の風がある。聞くが如くんば後宮信太郎君が金瓜石鑛山に手を染めるや、今や隆々大發展、大活躍の機會を與へたのは君であるといふ。始め後宮君より金瓜石鑛山の經營に就て其相談を受くるや、君の鋭眼は早くも今日を透視して、直ちにその交渉に贊し、諾するに同社の大株主たる事を以てした。爾來君は同社の重役とならざるも甥喜策氏を取締役とし、藤川氏を監査役たらしめて居る。今日金瓜石鑛山が、再び昔時の如く山に黄金の花が咲くてふ名實共に謳はるゝことゝなつたのは、實に君の力に俟つものが大であるといふ。隱れたる美譚として君の活歴史の一つに飾り度いものである。

著者一日中辻翁を訪ふて領臺當時の追懐談を叩けば端然として左の如く語らる。

何分私は二十八年日清戰爭が濟んで間もなく臺灣に渡つたので、最初の天長節の祝日に招待されたものだが、その當時の感振れを想ひ起せば轉た感慨無量なるものがある。曰く山田海三、河東利八、近藤喜惠門、山下秀實、廣瀨餌之、大島邦太郎、關野善次郎、塚本喜三郎の諸氏であつたが、今日では右等の人々は殆んど故人となつて了つた。山田海三君は花蓮港で蕃人から襲撃を受けて慘死し、河東利八翁も、近藤喜惠門翁も、山下秀實翁も皆故人となつて居る。

第一回目の二十八年十一月の天長節に招待された面々は右等の人々であるか、却々當時總督府の儀禮が嚴格で式場にはフロックコート着用者でなければ許されなかつたので、私はモーニングを持つて居つたが、フロックコートを持參しなかつた爲に、第一回の天長節に參列出來なかつた。西洋人杯もモーニングで參列しやうとしたが門前で追つ拂はれるといふ嚴格さであつた。其翌年第一回の始政記念日には內地からフロックを取り寄せて式場に參列した。當時日本衣服といふものは全然なく、又仕立屋杯といふもないので、隨分困苦缺乏と戰つたものだ、私と專修大學を出た同窓の高橋虎太君や、木下新三郎、木村匡の兩君杯は當時錚々たる者で重きを爲したものたが、これに面白い一挿話があるよ、何分浴衣の一枚も持參しなかつた連中が多いので、私が一枚持參したのを高橋に貸したが、アトは浴衣がないので止むなく本島人の仕立屋にたのんだ、處が始めての仕立てゞあるので袵のないものを持へて來てネ然し贅澤いつても致し方がないから平氣でこれを着用したものだ。今からこれを想ひ出すと全く夢物語りの感があるよ。更らに著者は藤川類藏氏との關係を問へば翁は欣然として語る。

藤川といふ人は實に胆大な人で、商機商暑に長しそして店員に對しては溫情懇切よく衆を容れる人で私は多年敬服して居る。私と藤川君とは國も遠へば、性格も全然異なつて、恰も木と竹のやうなものだが、三十有餘年間一つとして爭ふたことのない仲である。私と多年懇意の間柄であつた中村啓二郎君に藤川君を紹介して置いた處か、此頃では私より藤川君の方が接近が多くなつて居る、中村君は藤川君を稱讃して曰く、商人としては日本一じやと賞めて居るやうな次第だよ。

曾て私の父が病氣の際、大阪にある藤川君に是非來て矣れと打電されたことがある。その時、藤川君は急遽私の老父の許に馳せた時、老父は「私が死んでも喜次郎と決して別れて矣れるな」で、依頼されたさうだ。その時藤川君は「決して御心配入りません、死するまで別れるやうな仲ではありません」と、答へたさうであるが、それを老父が聞いて「安神した、用件はそれ丈けであつた、直ぐ大阪に歸つて矣れ」と、いはれたとて常に藤川君は笑つてゐる。かやうに私の父までよく藤川君の人物を見拔いて居つたからでもあらうが、何れの方面の人々から見られても、藤川君の人格を惡くいふものは恐らくありません。若しあつたとせばその人は却つて笑はれますよ。

翁は更らに懐古の情を偲びつゝ語りつゞけた。

何分領臺當時即ち自分の渡臺せし時の事を考ふれば實に感慨無量である。城內としても三分の二は耕地と竹藪で、幾度となく土匪に襲はれたものだ。今の東門や南門邊へは物騷で小人數で行けなかつたものだ。各所に沼のようなものが澤山で今の鐵道ホテルの邊は其最なるもので、深く廣く皆釣を垂れたものだ。又今の公園のあたりは大藪原で、其中に京都人の塚本翁(喜三郎氏)が牧場として牛乳屋を始めたのが最も古いが幾度となく失敗したものだ。今の都通邊は放生池で大きな池で名の如く供養の爲めに放生せしめたもので、魚族が澤山にゐたが何時となく塵の爲め、埋められたものだ、又今の本町(府前街)の兩側は大抵憲兵隊の厩と來てゐたものだ、その東裏の今の醫師町は總て沼と藪ばかりであつた。當時の衛生狀態は實に話にならぬもので下水は各所で埋まり溝は綠色の藻の如きものが一面に浮き臭氣紛々たるもので、又店の裏は何處も糞尿と塵埃の山をなしてゐるので、何れから見ても流行病養成に至極適してゐるので、先づマラリアは十人は十人皆是に惱ませられ、幾回でも是に罹るので遂に蒼灣色てう青白い色になつたものだ。其他赤痢、チブス、黑死病など猛惡を極めたものだ。特に其頃は野菜が少なかつたので蕪、大根、牛蒡、人參、茄子の類迄內地より取寄するので、是には大閉口したものだ、斯る次第で今より當時を追懐すれば全く隔世の感ありと申すべきである云々

と縷々語り續ける翁の一句一言は過去に於ける苦辛經營の跡がありく〳〵と見える感がある。恰も管仲が鮑叔に對する友誼そのまゝを物語つて居る。「管の曰く吾れを產むは母々にして我を知るは鮑子なり」と、げにやこの二人者の友誼は天下廣しと雖も管鮑以外に見ることは蓋し不可能であるまいか。終りに翁と藤川君との關係に對して、伯爵故後藤新平氏は臺灣の民政長官時代から翁と藤川君の美はしい膠漆も管ならざる仲を賞讃され、何かの機會毎に世の模範とすべきものであると語られたものであるといふが、それは叙上の如く、生地も異なれば性格も違つて居る二人の間柄は實に珍らしいものであるからで、後藤伯爵がツイ生前までも賞讃されたといふことである。實に獨り故後藤伯のみであるまい。天下齊しくこの感を深ふせざるものは蓋しあるまいと思ふ。

在臺三十五年統治上に對して語るべきこと、論ずべきこと、主張すべきこと數あることゝ思ふが、翁が常に温健の態度で自制されて居る。これには意味深長なるものがある卽ち多くの島民が背後に扣へて居ることを先づ考へなければならぬーと、全く翁の如きは總ての方面に細心なる注意を拂つて飽くまで統治上の犧牲者を以て甘んじて居る人である。

## 器局益々大統治上に貢獻する公共的新人　許丙君

臺灣の林本源と云へば林熊徵氏を想ひ出す如く、臺灣に於ける代表的の新人と云へば先づ許丙君を數へねばならぬ。君は明治二十四年十一月の生誕と云へば當年不惑に達した。明治四十四年國語學校を卒へるや、林家第一房に入り庶務を裁して熊徵氏の爲に專心一意、大いに盡瘁する處あつた。當時林家第一房に於ける各種の問題に對する施設案配等の方策は極めて幼稚の域を脫せなかつた時代で、大いにこれが改革の必要があつた。先づ君がこの前哨に衝りて終始一貫熊徵氏の爲に計つたことは今更呶々を要せぬ處である。宜なる哉、熊徵氏が今日君に對する待遇の如き殆んど幕賓の禮を以て遇して居る。

君は斯の如く林家の爲に貢獻せる傍らその餘力を公共に奉仕し、官民間に交際を廣くし、吐哺握髮的に多くの人々に交友多いので君の名の及はざる處はない。歷代の總督政治に對する君の隱れたる功勞といふものは又決して僅少ではない。



其一例を擧げれば、かの關東大震災の時恰も君が上京中であつたのでこの大震災に直面した君は、幾多の留學生は勿論本島に在住せる內臺人の危急を救ふた數は驚く勿れ百數十人の大きに上り、私財五六千圓も拋ちて救濟せし如き美譚がある。

而も歸臺の途中第一着として船中から時の長官賀來氏其他の人々に宛て在京中の臺灣關係者の安否を詳電して大いに便宜を圖りたることは今尙耳朶に新たなるものがある。

其他君は社會公共方面に犧牲を拂ふた事は數限りなく、今日まで後人子弟を敎育せる數十有餘名に達して居る。現に臺北帝大に一人(內地人靑年)臺灣高商に一人、工業學校に一人、東京に三人の學費を與へて居るといふことである。尙此外州廳市役所に土地を寄附せる事多く公的方面にも相當貢獻されて居る。

多年同族間に橫はれる幾多の係爭問題を圓滿に解決せしめ或は本島人有力者間の確執軋轢に向つても君は率先してこれが調停役となりて融和協調の實を結んで居る。否獨り本島人のみの問題ではなく、內臺人の關係に對してもよく意を用ゐて圓滿に步を共にすることに努めて居る。

先年熊徵氏と臺顯榮翁の不和なりしを親密ならしめたのも君の力說に基く。君は常に私心を離れて社會の爲に奉仕する結果、何事でも君の意の如くならざるはないのである。愛の力は百德の基本なりとは、言や美いかな。君は常に人に接するに情舒び、氣躍らしむる快感を與へる。何事でも圓滿に、何事でも和衷協同に、といふモットーで處世の要諦として居る。

本島人中第二世茶苦來の稱號ある所以も蓋し故ありといふべきであらう。今日君の勢力は恰も隆々昇天の概あるも、君は秘して其鋒鋩を現はさぬ。新人許丙君の存在價値はそこにある。今や全島に藉甚して臺北に來るもの許丙君を訪はざるものなき有樣である。豈に獨り臺灣島のみならんや。內地に於ける顯官及民間紳士は勿論操觚者間にも臺灣に於ける許丙君の名聲を知らぬものなき狀態である。以て君が如何に世の爲め人の爲に貢獻しつゝあるかを證するに足らずや。然して彼の臺北市營バス問題に對する君の公的精神の美はしき、全く男を上げた。思ふに君は常に高處大局に立つて尖端を踏むことはしない。極めて大事を取り、極めて眞率な處がある。感情は純潔であるから何人に對しても淸談閑逸、

名節高義を偲はしむる。然るに一部の人々が君の勢力を嫉視して種々の批評をなすものがあるが、サテ實際に君の如く社會的にも、公共的にも貢献する新人は臺灣四百萬人中人材多しとするも、君の右に出づるものがないのはどうしたものか。事實は何より雄辯に物語つて居る。內地人の有力家も齊しく君の公的努力に敬服して居るのは決して偶然ではない。君は何事でも、自己を本位として人を傷付くるやうな卑劣な行爲は毫もない。何時も天空開濶、光明霽月の感ある新人中の新人で、又社會上に於ける調和劑といつてもよい人である。

君は國家多事の際は必ず犧牲的精神が躍如たるものある事は彼の關東震災の時でもさうであるが、更らに財界パニックの際、臺銀抔は營業を中止しやうかと騒いだものだ、その時上山總督の一斷と官民一致とに依つて本島の財界は平隱なるを得たが、これにも特筆すべき美譚がある。君は島民をして不安なからしむるを期する爲に、率先して臺銀に預金に行つたものである。この美事は當時の新聞にも詳報されて居るが、上山總督が上京してこの美譚を特に强く宣傳されたといふことである。かやうに君の國家的奉仕は何時も衆に先んじて居る。當時內地人すら疑惑を感じたものだがそれを君が率先したのだから特筆大書すべきものである。叙上觀じて玆に至る、蓋し臺灣統治上に貢献せる公共的新人中の唯一となすも過言ではあるまい。

## 文章報國に貢献した富地近思翁

（明治二十九年渡臺）

百萬石を領せる加賀金澤の產で、安政四年十一月の生誕であるから臺灣にある我が內地人中での最も古き人であらう。幼名を虎之助と呼び、長するに及び、漢藉を專攻し磧儒手島道齊翁の門生となりて薫陶を受け明治初年筆を東京に載せて政論新報を創立したが不結果に終り、明治二十一年朝日奈知泉と共に東京新報を創刊し更らに鳥尾子爵を中堅としたる中政新報に入りて新文豪の名を高からしめたものである。其後明治二十九年臺灣總督府通譯官として渡臺した。これ翁を以て臺灣に於ける支那語通譯の先覺者であつた。（翁は曾て北京に留學して支那語を研究せられたる人である）三十四年鳳山廳財務課長となり、後臺南縣の學務課長に轉じこの間匪首林少猫の歸順に幾多の苦辛慘憺を極められる等血涙史が多い。其後奥村金太郎君と今の臺南新報を發刊爾來營々辛苦を經て今日の權威を得るに至つた。爾來新聞人として名利に淡く其一生を終らんとする翁の如きは正に斯界の權威者と畏敬すべきの人である。翁既に老境に入るも未だ寒灰の間尙一點の活火あるを偲ばしむる。更らに自愛自重して新聞人の使命を完ふせられんことを。

## 文筆で始終した勲五等赤石定藏君

（臺灣總督府評議會員）

君は東北靑森の出身で、明治二年の誕生と云へば既に耳順を超へて居る。君小壯、早稻田に學び、其業を卒へるや外務省に入り其書記生として遠く南洋諸島にあつたこともある。後官を退くや、日本銀行に入り、其行員として大いに天分を盡して令名をあげ、その後志を轉じて身を言論界に投じ、日本新聞社の記者となりて侃々諤々の言論を持してよく僚輩を凌駕せしといふ。後明治四十三年臺日社の副社長として赴任、當時の今井社長を佐けて同社の發展に貢献する處甚大であつた。其後今井社長引退せらるゝや君は其後を襲ひ、一時同社の經營退勢に傾きしも君の敏腕はよく起死回生の實を示し、今や我國植民地に於ける有數の新聞として基礎鞏固なものがある。君は今日では同社の株式過半を有して他のぎゆを許さざるものがある。今や功成り、名遂け悠々自適の生活を營み、餘生を樂しんで居るが君の如きは終始一貫文章報國の任にあつて、よく臺灣統治の爲に盡瘁せられたる功勞者である。

## 南洋發展の主唱者松岡富雄君

（臺灣新聞社長）

臺灣の西部に人口四百餘萬人を有す。而も四百萬人を有する地に日刊新聞僅かに三を數ふるに過ぎない、曰く臺日、曰

く中報、曰く南報これである。松岡者は前社長山移定政君の後を襲ふて臺灣新聞社長として今日に至る。君は中部臺灣の實業界に雄飛活躍せられたる人で、眞の新聞社長ではない。明治三年三月熊本縣八代郡高田村に生る、長じて札幌農學校に入り(今の農科大學の前身)研鑽を積み、後臺灣に航し、其始め五斗米に腰を折り、職を糖務局に奉じ、後退官と共に臺中に改良糖廠を經營した。其後糖業の益々有望なるを確め、松方正熊、山下秀實の諸氏と共に帝國製糖株式會社を創設してその取締役に擧げられ大いに斯業の發達に盡瘁し、大正四年獨立、松岡拓殖合資會社を創設して南進主義を樹て比律賓拓殖合資會社を起して大に南洋開發の爲に貢献する處あつた。中部臺灣の事業家として名を爲したる故ありといふべきであらう。大正九年新制となるや選ばれて州協議會員、後總督府評議會員として現在に及んで居る。

## 東臺拓開の先覺者　梅野清太君

(東臺灣新聞社長)

東臺灣を論じ、東臺灣を說くもの此のパイオニーたる梅野君を知らなくてならぬ梅野君は長崎縣嚴原の產で明治十年の生れである。夙に軍籍に身を投じて小壯士官として巨腕を揮ひ鋭敏の才を以て隊內に範たるものがあつたといふ。明治三十八年本島南端の國防守備の前哨地たる澎湖に干城、肱股の任を全ふした所謂公的精神の立派な人である。

後身を實業界に轉じ賀田組の東部進出開拓に招かれ、爾來三十年近くも東臺灣の開拓に一意專心されて居る。今や時めく、民政黨の筆頭總務たる原修次郎氏の腹臣の人として信認一身に受けて居るが又以て原氏も君の力に藉るもの決して尠くない。君は雄辯である處から原氏の選擧毎に態々茨城縣に出馬して火の如き侃々諤々の言を吐いて選擧民を敬服せしむるのは君である。君が辯に長する上にその記憶力の豐富な、博識多趣の能辯には何人も驚かされるものがある。

原代議士も多年梅野君の實力と才能に敬服して居るが、梅野君はモー東臺灣の人物ではない、これから西部臺灣に進出して大に臺灣統治の爲に盡瘁すべき人であると常に口にされて居るが全くさうだ。

聞達を世に求めず、功名致福に走らず、身を奉すること極めて薄い。今日まで地方公共に貢献せること枚擧に遑なく、東臺灣開拓の犧牲的奉仕者として內外から盛名ある所以決して偶然ではない。

昨年、君が組合長たる花蓮港信用組合專務理事の不正事件に直面した時、君を擁する人は多いが排斥するものが一人もなかつたといふ德望家である。而もこの問題に對して役員會議の席上で自已の不明を陳謝すると共に全責任を以て辨償する旨を開陳したるに、役員連は組合長一人に責任を負はすることは斷じて出來ぬ。吾々もその一部の責を負はなくてならぬと各理事五名か一人五千圓宛二萬五千圓を向ふ三箇年間無償で提供されたといふ涙ぐましい物語りがある。

臺灣の產業組合如何に多しとするも斯る美はしく、一致協力、自責の觀念の强い花蓮港信用組合役員の如きは恐く絕無であらう。それもこれも梅野君が多年培養された德の力であるまいか。

君はよく友を愛し、よく義心を以て盡力するの人として名ある。從つて血涙迸出、赤心萬朶の花は何時もその胸奧に秘めて現はさぬ。所謂正しくして强い世の龜鑑たる人である。再び謂ふ。東臺灣を論じ、東臺灣を說くもの先づこのパイオニーたる梅野君を知れと。

## 新界の權威　松木幹一郎君

(臺灣電力株式會社長)

臺灣を愛するものは來たり聽けよと雄叫びの聲は今尙耳朶に殘つて居るであらう。卽ち昭和四年三月三日日月潭旣成同盟大政談會が臺北共樂座で開かれた時の辯士連の獅子吼である。著者もその辯士の一人として病驅を携げて壇上に立つて火を吐いたのである。日月潭問題は彼の明石總督時代の計畫で、時の下村民政長官が主としてこれが實現の任に衝つたものである。當時明石總督はこの問題は輕々に視て居らなかつた、それは若し民營に行らせて失敗した際は官營でやらうといふ意氣込みで斷行したものである。後年、世界的の財界不況に禍ひされ遂に工事中止となり、これが復興に就て全島民は如何に傷心碎骨の苦を嘗めしか、日月潭工事の殘骸は我が臺灣の產業開發を妨ぐる一の癌腫である。一時も速かに取除かなければならぬといふ聲は官といはず民といはず、苟も臺灣に食をはむものゝ一人として叫ばぬものが

なかつたのである。斯て漸やくその曙光が川村總督時代に實現さるゝことゝなつたが、内閣更迭と共に又復これが復興に一頓挫の形勢となつて居る。

壹千二百萬圓の政府の株を無利息で使用して居るこの電力會社なるものは、日月潭工事を完成せしむる爲に與へられた特典であり、利權である。若しこの工事が民營では實現不可能であるとせば總督府は明石總督の聲明通り官營を以て進むべきもので、荏苒日を長ふすることは斷じて許されないものである。著者は專門家でない、從つて日月潭そのものの研究なるものは不可能であるが、多くの權威者、多くの實際家の說く處を以てすれば決して悲觀すべきものでない。彼の嘉南大圳の如きも高サ百八十五尺と長サ七百間の堰堤を築いて、これを水量五十五億立方の貯水池たる珊瑚潭を造るのであると說明された時代は、尠なからず疑惑の念を懷いたものであるが、理事者の周到なる計畫と運施その宜しきを制して今日では立派に竣成されて居るのである。更にこれを例證しても素人觀では直ちに以てその可否を斷ぜられるものでない。要は、世の權威者實際家の言を信じて斷行すればよいのである。若し夫れ調査に藉口して實現の機を荏苒たらしめんか、社長も重役も同社には必要なくなる。

斯界の權威者松木新社長はこの間の消息よく解して居るものと信ずるが、近き將來に果して日月潭が物言ふ時代が來るや否や、神ならぬ身の知るよしもないが是非共物を言はせて貰ひたいものである。彼の電燈料の値下げを解決せる如きは確かに新社長の腹を見せた處であるが。灣臭味なきその呀えたる巨腕を伸ばしてこの工事着手に獨往邁進されたいものである。卽ち島民が、これのみ君に期待して居るのである。刮目して待つて居るのだ。

君は如何なる人物なるか、未見の士には不明であらう。玆に君の閲歷を揭げて特に島民に紹介する。

四國は愛媛縣の產、明治五年二月二日の生れてある。明治二十九年東京帝國大學英法科卒業後遞信省に入り廣島一等郵便局長、本省の參事官を歷任し、千九百七年伊太利羅馬に萬國郵便會議開催に當り、帝國全權委員として差遣され、次て歐米諸國視察を命ぜられ。歸朝鐵道院に轉じ、參事、理事を經て、後東京市電氣局長となり、大正七年山下合名會社總理事に就任し、山下汽船會社及福島炭鑛會社の代表取締役として山下鑛業會社、浦賀船渠會社の取締役を兼務し實業界に雄飛せられた人である。其後大正十一年東京市政調査會の創立に參畫し後藤新平會長の下に專務理事として縱橫に馳



驅し良賢佐として內外に藉甚たりき。大正十二年帝都復興院設置と同時に同院の副總裁に任ぜられて大東京の復興に敏腕を揮ふて令名を擧げたるも、山本內閣の總辭職と共に君も又これに殉じて野に下つた。

叙上の如く永く官途にあつて他の範たるもの多く、又民間に下つては、機會を見る事深銳なるものありて、恰も百戰して死するなきの功業を樹てた人である。

今や、臺灣は人材を要するの時、君の如き斯界のオーソリチーとして生彩あり、又底力の强き人を迎へ得たことは何よりの幸福といふべきであらう。君は今の井上大藏大臣に信望が多いといふことである。

## 在野法曹界の重鎭有血有涙の快男兒臺北辯護士會長　安保忠毅君

我國で有名なものは故田中栃鎭翁である。明治の佐倉宗吾とまで謳はれた義と俠との人であつた。又翁は民軍の總帥として議政壇上の闘將であつた。曾て足尾の鑛毒事件に於ける翁の死力は、よく幾萬の民を死地より救ふて關東男兒の意氣を天下に鳴らしたものである。

安保君は關東栃木縣の產、何處となく親分肌で長脇差の風流遺俗を充分に貯つて居る人である。

明治四十四年の帝大出で大正八年頃まで臺北地方法院の判官を奉職したが、大器は逸ひに小器に容る能はず、蹶然職を辭して臺北に辯護士を開業するに至つたのである。當時君は未だ年は若し、氣は銳し、辯に長じ且つ正しく明るい人として、人材乏しかつた在野法曹には實に鷄群の一鶴であつた。宜なる哉、君が開業するや事務所へは前頭忙殺、後頭繁雜で旦暮門前人の市をなしたものである。

君は一面に言論を好み、彼の高砂バックを主宰して臺灣統治に侃々の筆を揮ひ安保止水の名全島を風靡したものである。當時主筆として故柴田廉君あり、兩者相携へて世の木鐸者として文章報國に任じ慚ざりき。後年柴田君不治の病に臥するや、君は約五年の長きに在りて其生計は勿論藥餌の費に至るまで之を贈りて後顧の憂ひなからしめしが如き今尙世の美譚として推稱せざるものはない。

世は擧げて輕兆浮薄に陷いり百年の友も一夜にして交りを疎くする時代に、斯る人情美に厚き安保君は眞實人間味タップリの人である。然して君は政界に、實業界に、名走利奔は大の嫌ひで、飽までも人の權利の擁護者で一貫するといつて居る、時に自ら「革命兒だぞ」と酒席杯で新聞記者に泡を吹かして意氣沖天たるものがあるが、眞に君は人類の爲に身を燒いて惜しまざるの慈眼愛膓者である。臺北に君を有することは何よりの力であり又誇りでもある。近來健康を害したと聞くが、これも皆社會人の爲に積極的に各方面に活躍された結果と信ずる。著者又身體和を缺き久しく君の秀麗快活なる風貌に接し得ず、空しく陳劉の臭を想ふのみである。請ふ臺灣統治の爲に自重加餐して貰ひたい。

## 官民のセイフテー、ヴアルブを握る得意の新人　河村徹君

（臺日社長）

「人間爲吏亦風流」とは岩村通俊が口吟したものである。君も安保君と同期の四十四年の帝大出で、其初め五斗米に身を托し先年臺北廳庶務課長として燃犀の手腕を擧げた人であつた。其後遞信局に入り監理課長となり更らに方向を轉じて製腦會社の重役として實業界に身を投じた。當時製腦會社は創設匆々のことゝて君の手腕に待つべきもの多かつた。專務の三村三平君を扶けて社運の隆大を圖らんとして對岸支那樟腦に着眼し、着々成績の見るべきものがあつた際、突如として政變があつた。其結果として臺灣內閣も總辭職の形となり專賣局長も又內地から轉任することゝなつた。卽ち其局長は一名定九郎と諢名された宇賀四郎君であつた。

臺灣に始めて來る多くの人々は、臺灣の眞相を碌々研究もせずして、臺灣を指して魔の島位に考へて居るものが多い。當時の伊澤總督も其例に洩れず、先づ官紀振肅を高調して逐ひに司法權を發動せしめて星事件を摘發した。と、同時に專賣關係の故を以て、こんどは製腦會社重役の更迭を餘儀なくせしめた。

多年官海の人格者として令名あつた謹嚴實直の三村三平翁に、金杯に不自由のなかつた河村君はサツサと椅子を棄て內地に歸つた。其後星事件は泰山鳴動鼠一匹も出ず、世人から司法權の威信を失つたことは絶大であつた。當時臺日社長として井村大吉翁が頑張つて居たが如何に意態雄傑でも身體弱く遂に其職に堪えなかつた。それでこれに代る適任者として三好翁や安保君杯の推援で再び君は臺灣に其雄姿を現はしたものである。井村社長が歿した後、其社長の椅子を繼承して今日に至つて居るが新聞社長として經驗のなかつた君が、一躍して無冠の總帥として天下を風靡するに至つた。

君の特異とする點は、井村鈴川翁のやうな短慮な點がない。從つてよく衆口を耳に容れる。故に未だ曾て君と口論したといふ新聞記者は一人も聞いたことがない。包擁力は確かに豐富である。官民の間に立つても極めて協調、和氣の人で問題を釀成することは絶對不可として居る。何んと辯解しても經營する新聞は純全たる御用紙で野黨の反對紙ではない。御用紙と云へば語弊あるかも知れぬが、臺灣統治に貢獻するといふ主張に變りはない筈である。終りに官民間のセイフテイーヴアルブを握る得意の新人たる君に望むものがある。官民間の融和に三十餘年間努力された三好茶苦來山人はそろ〳〵老境に這入つた今日、第二世茶苦來として大いに官民間の爲に貢獻されんことを希望して止まない。

## ビヂネスマンの典型　小寺新一君

（三井物產支店長）

歷代三井物產臺北支店長として著者の知つて居るのは蓑輪、飯沼、羽鳥、津久井の五代支店長である。この內蓑輪爲三郎君は何んといつても第一人者であつた。飯沼剛一君の愛嬌娟約振りも臺北花柳界で唸らせたものだが、この飯沼君も年の若い割合にはよく臺北社交界に乘り出して生彩を放ちたものである。羽鳥君は法學士で臺南支店から臺北へ轉じた人だか極めて堅實味の人であつた。其後には津久井誠一郎君である。徹頭徹尾、動的の人で、朝々暮々、店務に餘暇あれば必ず飛び廻る。八面六臂の活躍は實に目醒しかつたものだ。栃木の產丈けで剛直な處があつたがその鋒鋩を努めて現はさなかつたのは社會的に洗鍊された賜であつた。

昔の三井物產は今の大成火災のある建物であつたが、今では三十餘萬を投じた大建築物、臺北市の表玄關を飾つて居

るが、津久井君時代何んとなく官僚臭い點か內容に現れて居つたが、今の小寺支店長となるや、全くのビヂネスハウスと化した。

嚴めしい支店長室が撤廢されて支店長自ら階下の應接室の薄暗い、狹つこい室に陣取つて孜々と商務にいそしんで居るのは小寺君だ。

小寺君は明治三十九年の帝大政治科出身で、籍は東京にある。大正三年頃には本店營業部主任、大正十年九月臺南支店長、その後長崎支店等で大いに手腕を揮ひ、後再び臺灣に轉じ錦衣故鄕に歸つた感のある人である。

華手な津久井君の後に來た地味な小寺君は、全然性格が變つて居るので、從つてその一擧手一投足も輕々にせぬ堅實さであるので飛耳張目から一時は批評の標となつたものだか、小寺君には一の信念がある即ち自己職業の奉仕意識か極めて濃厚である爲め人氣に投じたり。世に迎合することが、餘りに快とせぬ人である。飽くまでも堅實主義で石橋を金棒で叩いて渡るといつた思慮周匠の人である。何事も商務第一で邁進する人である。然し、何んといつても三井物產は我が臺灣に於ける最大なる商取引の貫鍵を握つて居るのであるから、一面には臺灣統治上といふことも考慮せねばなるまい。勿論臺灣の富を搾取的に儲けやうとするのみは時勢が許されなくなつた。三井の世界的に大なる所以、信認ある所以は、所謂 自利利他 であつたからである。今や、三菱か本島に躍出せんとするの際、三井物產の緊褌一番を要するは著者の論ずるまでもない。この意味から見ても小寺君の如き堅實他の軌範たる人あるは何よりの强味である。

## 能ある鷹の如き眞氣の人　松本晄吉君

（近海郵船支店長）

人間味のある人だといふものもあれば、人間離れした仙風道骨の處もあるといふのは、松本晄吉君を指した言葉である。全く一見して無骨極よる書生肌の男であるが、阿ねらず、衒はず、何處までも生地で行つて居るのは君だ。歷代の支店長中何んといつても安田繁三郎君は垢拔けもし、社會的にも長しだ人であつたが、其後の支店長としては先づ君は一異彩である。

大正十三年臺灣に赴任して以來、借金こそすれ、一文の貯蓄もない程に社會公共の爲に盡瘁されて居るのは君だ。一支店長の身を以てよくアレ迄活躍されたものだといふ聲名は臺北の社交界を壓して居る。君は多くの意見を胸奧に藏して居る。經倫抱負もあるが決して出洒張らぬ。知つたか振りをせぬ人である。表面空しくして、眞氣を藏して居るのは君だ。

君は、名にし負ふ、四國は土佐の產と聞く。前の三井の津久井氏と同窓で專修大學の出身であるといふ。由來土佐の地は峨々たる山嶽重疊起伏して陸に發展の餘地なき處とされて居る。かるが故に臂勃の氣を海風濤聲に洗ひたるは無理はない。彼の中濱萬次郎はこの地より亞米利加に航した如き、土佐人の壯圖大計をよく物語るものである、君は大學を出ると郵船會社に入り毛色の變つた歐米航路船の事務長となつて、浪を枕とするの生活を續けた。然し君の材幹は何時までも浪の上の生活を許されなかつた。

船から下りると直ちに本社の人事課に榮轉し、更らに門司支店、八幡出張所、若松出張所長を經て、基隆支店長となつた人で、頓々拍子に躍進した所謂青年支店長である。

君か始めて臺灣に來た時は、未だ商船のやうに壹萬噸級の船か航海されてなかつたが、今では商船と同じやうに一萬噸級の船か三艘も揃つて動いて居る。島民から一齊に船もよし、船長もよし、事務長もよいとその待遇上評判を高くしたのも君の熱心なる努力である。君は全く氣持のよい人である。多くを語らぬが能ある鷹は爪を隱すとか君の如きは正にこの類の人であらう。

## 銀時計組の山中義信君

（電力副社長）

君は籍を東京に置くも產地は水戸ッ兒であると聞く。茨城の首都水戸は德川公親藩の土地で其聲望偉名の高きこと、

天下の副將軍を出した處である。即ち都人節を曳く偕樂園は今日では常磐公園と呼んで居る、烈公が開いた好文館が水戸學の大木を偲ぶものがある。仙波湖を俯瞰し、近く櫻山とも對し、遠く筑波、加波山の翠巒を雲際に仰ぎ、双眸に映する處詩的にして風韻に富まざるはない。一陽來復、春風の園内を襲ふの時梅樹の下を徘徊すれば、寒からざるに何の雪ぞ、樹間より降り來りて、衣袂爲に芳香馨郁たるをと。

君は明治四十一年の帝大英法科出身で、在學中優秀の成績を以て銀時計を下賜された人であるといふ。四十一年の帝大出は人材雲の如く輩出して居る。後藤文夫、豐田勝藏、梅谷貞光、得能佳吉君が居る。臺灣には江上恒之君が居る。君は校門を出づるや、臺灣銀行に入り、後華南銀行總理となりて南方領土の金融界に雄躍された人であるが、上山總督時代、時の後藤長官の推擧で電力會社に入り、主として外部の金融關係に鞅掌された最適任者である。

川村總督が退官の際、副社長の遠藤達君を拔いて社長の椅子に就かしめた時に、君はトコロ天式に其後を襲ふて副社長に就任したが、決して政黨的に撰拔された人でないのは明かである。

遠藤達君が屑よく退職するや、松木新社長を迎へた電力會社は、サテどんな陣容を建て直すかと私かに期待して居つたが、營業方面の一部に刷新を加へた丈けで依然として官僚臭い處が多い。君は官祿を食んだことのない純全たる民人として官臭紛々たる同社に入つた時、如何なる感懷ぞありしか。

電力は半官半民の會社ではあるが、官權の威を張る必要のない會社である。民衆本位、何事もテキパキと解決し行くやうに速決自斷の勇を望んで止まない。

君の頭は利及一閃の悟い處がある。決して常鱗凡介の士ではなく、且つ人間味が豐富である。時に紅情綠意の情的人として人情にも脆いといふことである。

## 若槻顏の小原時雄君

（大阪商船支店長）

大阪商船は近海郵船に對して何んでも先きへ前へと進んだ經營振りである。一萬噸の蓬萊丸を筆頭に瑞穗丸、扶桑丸と恰も雨降つた後に出來た筍のやうに出揃つた時、郵船は漸やく吉野丸を臺灣航路に廻したものである。であるから何時も乘客は大きな船の商船の方へ多かつたことも亦否定する事が出來ぬ。然るに郵船側では船は小さくとも乘客の待遇に努め、飽くまでも乘客本位に奉仕するといつた工合で、兩社の努力振りは涙ぐましきものが多かつた。

小原君は諏訪前支店長の後に來た人だが、曾て臺灣支店に居つた閲歷があるので臺灣氣質といふものはチャンと呑み込んで居る。官民間の融和にも、社會的の奉仕にも、人一倍赤心萬朶の花がある、近海郵船の松本君の書生肌に比し君は悠揚迫らざる學者肌の人である。人に接しても却々甘辛の好味があつて、直ちに遽色、疾言をやらぬ人である。相當に辯も立つし、見識もある。又社是の爲には身を犧牲にする丈けの勇猛心がある。日外、例の泉和組と商工銀行の問題に對して斷々乎として起つた態度の如きは大いに掬すべきものがある。

君は純全たるビヂネスマン的の人で、バリツクマン的の人ではない丈け總てに於て細心であり、堅實である。故に其一投足、一擧手は決して亂拙に流れるやうなことはない。臺北の社交界に華やかならざるも亦これが爲であらう。

人稱して曰く臺灣若槻と、げにや、船内にフロックの瀟洒な姿を現して船客に應待するあたり、全く若槻さんに彷彿たるものが多い。

## 貴公子高須時太郎君

（三井合名出張所長）

新聞記者からのニックネームは君を貴公子と呼ぶ。蓋し一代の光榮者でないか。君は明治三十八年の帝大林學士で、校門を出ると直ちに臺灣に來た人であると聞くが、爾來誠意誠心堅實味を以て三井山林部を支配して居る。三井山林部の國家的に活躍され施設されて居ることは著者の言を俟たずして明かであるが、君は前の星野政敏君のやうに出晒張らぬ處が官民間の氣受けがよい。君は民勅中の最古參者組であるが、毫も傲らず、衒はず、超然と塵外に遊ぶの風がある。

十三年の夏上梓した臺灣の官民にかう紹介して居る。「公卿樣然とした型に絲なし眼鏡をかけた所にマーチャン然とした所もあり。葉巻煙草を燻らして悠揚迫らざる所に事業界の權威者の樣な所もある。彼をして青白い顏にダラリとしたお召ぐるみにしたら風姿端麗、色男の型があり女に惚れられる型の所有者であると。

眞に然り、君も亦、多少は首肯される處もあらう、無粹でもないか色の黑い加藤恂四郎君は餘り花柳界に待遇されないか、公卿然たる君はにいさんと呼ばれる柳腰嬢手は尠なくないといふことだ。然しそれは臺灣に古いからであらう。

## 活動家　辻本正春君

（山下汽船會社支店長）

郵商船獨占の我が臺灣海運界に突如として入道雲の如く現れたる山下汽船が華々しく臺灣に割り込んで來た時代のことを想起すると、何んとなく人心を緊張せしめたものである。獨占は弊害あり。獨占は暴利のものであるといふ聲が好況時代に溢れ漲つて居つたものであるから、我れも吾れもと山下汽船に目掛けたものである。

初代の支店長は內藤正太郎といふて斯界の敏腕家を以て知られた人であつたが、辻本君はその時代からの人であるから隨分古顏の部類である。神戸の高商を出た秀才である丈けに、機敏に頭が働く男である。今日では臺北有數の事業家として民勅連に伍するやうになつたのも君の自力奮闘がさうさせたものである。

君は自己宣傳は大の嫌ひな男で、一風變つた處がある。君にして今少し時流に棹す技倆があつたならば、必ずや、天下を風靡するに至るであらう。惜しむらくは快男兒、社會の兵法を知らないといふ譯か、山人三好翁杯は盛んに君の人物を賞めて居る。君一面には情の人、紅訪尋紫に脆く、通人として粉闘香軒に粹名を馳せて居る。

## 社會の實的人物　船越倉吉翁

（明治二十九年渡臺）

關八州に名あり、而して景勝の地として誇るべきものを擧ぐれば、筑波山の遠翠、利根の淸流、奥多摩の幽邃、御嶽山の古跡、熊谷の堤、相馬の古御所、太田の呑龍、足利學校を數へねばならぬ。船越翁はこの名勝史實に富む武藏大里郡太田村の產、慶應二年八月十八日の出生なり。壯年身を土木界に投じ、各地の土木工事に從事したる其半生の歷史を辿れば實に血戰奮闘の感がある。知己の人、澤井市造翁と共に身命を賭して勇往邁進した跡を偲べば轉た感慨深きものがあらう。彼の難工事と稱されたる奈良鐵道の龜瀨壁道工事の如き、北陸鐵道敷設工事の如き、皆なこの二人者の手にて完成されたものである。

其後、我が臺灣の土木經營に任ずべく、明治二十九年六月澤井翁と共に來臺し、直ちに縱貫鐵道敷設工事に從事し大いに成績を擧げ、其他河川工事に、埠圳開鑿に、架橋工事に翁の貢獻せられたるは枚擧に遑ない。今や老境に入るも公共精神は躍如として張り社會的犧牲を甘んじて其餘生を樂しんで居る。一面には臺北消防組長として全島に模範を示し爾來私財を投ずること幾千なるかを知らない。這般天長節の佳節に當り石塚總督より永く斯界に盡瘁せられたる功績により表彰せられたるが如き、翁の一生を物語るに足るものがあらう、翁の如きは實に我が臺北の寶的人物として永く遇すべきの人であるまいか。切に加餐自愛を祈る。

## 運輸界の功勞者　日東商船組長　大坪與一君

（明治二十九年渡臺）

臺灣の運輸界を語るもの先づ高雄の大坪與一君を擧げねばならぬ。君は明治二十九年の渡臺者にして既に本島にあること三十有餘年に及んで居る。その三十有餘年間終始一日の如く我が臺灣の運輸界に貢獻し來つた人である。浮沈常なき斯業に一意專心精進された人として全臺に令名ある故なきではない。

君は渡臺當初基隆を根據として大坪艀船組なるものを起した、君は自ら其組長として熱心之に當り、その敏才と精勵と相俟つて其實力を發揮し、忽ち同業者を凌駕して隆々昇天の勢ひを持した。斯て業務の擴張を計り基隆商船組と改稱

し全島主要の箇所に支店、出張所を置き普ねく顧客の便を計り後年高雄に本店を移して日東商船組と改め、名詮自稱、日は東よりの盛運を告げて今日に及んで居る。

君は眞に運命の開拓者である。克己奮闘に贏ち得た人である。爲人、義に厚く、情に深く、後人子弟の爲に身を燒きて惜しまざる人である。故なるかな、打てば鳴る鐘、響けば彈ね返る。それが君の生命であり、今日を爲したする素因である。何處までも正義の人として、理智に富んだ人で確かに一方の重鎭たるを失はない。

高雄製氷株式會社取締役社長　高雄共榮自働車株式會社社長
壽山遊覽自働車株式會社社長　高雄劇場株式會社社長
高雄漁業組合長　高雄漁業購買組合長
高雄州北部自働車營業組合長　高雄建築信用購買利用組合長
臺灣運輸業組合第三區支部長

## 發明に富んだ斯界の權威者　中村一造君

（明治二十八年渡臺）

南部臺灣に於ける代表人物として名聲ある我が中村一造君は、本島統治上の功勞者たるは云ふまでもない。君は廣島市上流川町の產、明治六年三月の生れである、夙に鄕黨の秀才を以て謳はれ、小中學を卒へて笈を東都に負ひ和佛法律學校に入り、專心攻究の効空しからず優等を以て卒業した。當時世は擧げて海外壯圖の聲喧びしかりき、君率先新領土の開拓に從はんと志し、明治二十八年本島に渡臺し、職を鐵道部に奉じた。斯て十有餘年の間運輸交通の任にありてよく上下の信賴厚かりしが、感ずる處あり明治四十一年退官し臺灣製糖會社に入り鐵道係長として精勵すること十一年、發明心に富んだ君は此間コンクリートブロックポンプ、ポイント抗打器等を發明して專賣特許權を有して居る。大正七年齢して臺灣倉庫會社に入り取締役兼高雄支店長として今日に至る。

君爲人名利に走らず、浮華に陷らず、眞摯にして實直の人である。人に接して温容玉の如く好感を與へ、問ふものをして崇敬せしむる高德の人である。宜なる哉、未だ曾て君の惡評を耳にしたことなきは、以て君の人格の高潔を物語るものであるまいか。

## 任俠兒　岡今吉君

（明治二十九年渡臺）

一言にして盡せば即ち任俠兒、これを解訓すれば義、仁、俠、愛、情の人となる。憐れなるものを見ては、自らの食を捨てゝ與へ、弱きと見れば水火の間も入つて之を助く、勿論其間に親疎因緣の如きを顧みる人ではない。又人に施して之が酬を受けんとする如き輕薄才子ではない。

君は明治十二年三月三日雛の節句の祝ひ日に香川縣木田郡に生る。今吉の名はこれに因緣するにあらざるなきか。即ち「今日は如何なる吉日ぞ」その今と吉とを取つて名命せれたるものに相違ない。今の專賣局長池田君の名は藏六と呼ぶ、蓋し故事にある如く、六を藏するは龜なりといふ。これ杯も親としての慈悲、壽の永からんことを祈つて藏六と名命したるものであるまいか。

君は四國中に於て、最も多くの名所と交通の便に富む讃岐の地に生れた丈けあつて、四國人離れした雄大なる所がある。著者少しく此の山水の景を叙して見たい瀨戸內海より船上にて望めば、屋島の翠黛、眉を舒べたるものがある。天正年間黑田如水の設計せる高松城は今尙儼然として今の城壁を存して居る。朝暾燃ゆるが如く海に映じて波爲に紅なるの時、海濱の沙地白く、竝松萬株、翠滴りて紅白青の色を重ね、群島環繞して恰も瀨戸內海は湖水の狀の如きものがあらう。

俯仰靜かに栗林公園に想ひを馳すれば松平四世の財を以て計を設けたるもので、其一樹一草、珍石、奇巖見る者をして窮る處を知らず、魂飛神驚の感を深ふする。

君はこの名勝の地を後にして明治二十九年渡臺、身を運輸界に委ね、粒々辛苦すること數年、三十六年岡田組を開設

し、海運業を經營し、自ら前哨に立ちて、新人の巨腕を示したものである、これ君が齡僅かに二十五才の時である。爾來三十年に垂々とする間、一意專心斯業に貢獻しつゝ來つた人で、又臺灣消防組副組長として島都の治安に任じてこれ又二十餘年の長きに亘つた人である。

### 赤心萬朶の花　石坂莊作君

（明治三十二年渡臺）

君は長脇差しの產地として、其任俠天下を壓する群馬縣吾妻郡原町の產、明治三年三月の生誕である。鄕土に育英の職にありしが君が雄圖大計は新領土開拓にありとなして、明治三十二年十一月本島に渡來した。始め臺灣日日新報社に入り後同社を辭し同時に獨立事業を經營するに至つた。爾來基隆港の長老として社會公共の爲に貢獻する事多大である。先づ其一二の例を擧ぐれば基隆夜學校の創設、基隆石坂文庫の開設に對し私財を投ずること決して僅少ではない。自ら夜學校を創設し自ら圖書館を開設せるもの臺灣廣しと雖も、君を措いて他にない。君は又他の先驅者に任じてこれまで淨財を投じたことは數限りないが、就中この石坂文庫の經營は人知れざる苦心されたといふことである。石坂文庫の名、內地の各圖書館に周知せられざるはなきは蓋し當然であらう。君一面に文藻豐かなるものがある。その文獻として今尙傳へられて居るものに「臺灣踏査實記」「農民の天國」「基隆港」の著あり、此書後進子弟の參考圖となるは勿論であるが、苟も基隆を知らんする者は缺くべからざるの參考圖書である、夫人は淑德高くよく巾幗の任に背からざる賢婦人として名ありしが、昭和四年の春に背いて黃泉の客となり、頓に基隆婦人會は寂寞蕭索の狀態であるといふ。君誠心誠意の人、知己や人の爲には飽まで身を碎くるの任俠に富んで居る。在臺卅年間名奔利走に囚はれず公共方面の爲に終始一貫基隆長老の實を示して居る。

## 第二節　臺灣金融界

### 臺銀頭取　島田茂君

從來の頭取は何れも堂々たる人々で、初代添田博士を筆頭に、柳生一義、櫻井鐵太郎、中川小十郎等海山千年の甲螺に苔の生へた連中であつた。君は年齡不惑の時に、この大屋臺を荷ふたのであるから並大抵の苦勞ではなかつたと思はれる。君は生粹の銀行家でないが、銀行と最も緣の深い大藏省の役人から臺銀に轉じた人で、滿更ら素人でないことは明かである。例の財界パニック時代に森頭取を佐け東西馳驅して好漢島田の名を高からしめたものである。森頭取の勇退後君は擧げられて頭取として今日に及んで居るが、この間同行の減資に伴ふて種々な危局難所に立つて善處した功績は沒すべからざるものがある。

明治四十五年の帝大經濟科出身で、先輩の久宗、荒木、古田の各重役に對しては敬虔の念を披瀝して居るので極めて圓滿に進んで居る。

同行が君が頭取になつて以來着々として事績も擧りつゝあるから近き將來には往時の如き臺銀王國が出現され、過渡時代の我が臺灣財界に一エポックを劃することゝ信ずる。人間は極めて圓滿で話せる男だか、まだ世事に遠い處もある。

### 臺灣銀行の柱壁　本島財界の功勞者　久宗薰君

（臺銀の副頭取格）

明治三十九年の帝大政治科の出で和歌山縣の人である。校門を出でゝ直ちに臺銀に入り爾來三十年に垂々として居る。柳生、櫻井、中川、森、島田の五代頭取を佐けて今日に及んで居るが、一理事の職に甘んで南方領土の開發に貢獻されたことは著者の說くまでもない。君は行內に於て黨同異伐を忌嫌し、總てに平等無差別を基として上には强く下に

親切を以て行員から崇敬されて來た人である。

君は純粹の銀行家として櫻井、中川、川崎のやうな勅任官上りの墓石の行列の感ある人ではなく、官吏上りの階級意識は極めて薄く、從つて民間方面にも氣受けのよい人である。時には陰罵非譏するものもあつたが、それは行務上に於ける責務側の手前味噌の不平であつて、君の全人格を誹謗するのではなかつた。上山總督時代臺灣銀行の大整問題に直面し、彼の財界バニツクの際に於ける君の死力を盡しての大奮闘は、本島財界史上に特筆大書すべきものである。宜なる哉、上山總督が君の功勞に對して名刀一振りを紀念として贈つた如き、當時を偲ぶべきものがある。

今や後衆の島田頭取の下に何等の不平、何等の野心等なく一意專心臺銀復興に傷心碎骨されて居る。臺銀をして斯くあらしめた責任者は疾くの昔に其職を去つて居る。其殘膾餘肉に等しかつた臺銀を背負つて起死回生の今日まで努力された君の功勞は、必ずや、將來何等かの形ちに依つて世に表彰さるゝ事を確信して疑はぬ。

爲人、寛宥誠情、氣品高古、接して氣持のよい人で恰も春の曙を逍遙するの感じを懷かせしむるのゼントルメンである。

## 日支提携の連鎖、南方開拓のパイオニー重且大なる使命者　有田勉三郎君

（華南銀行副總理）

南方經營は我國の大策である。海外貿易のエキスパンションは我國將來の基礎をなす所以である。即ち新領土たる臺灣の眞價はこゝにある。而して臺灣に於ける經濟、產業の部面を更らに遠く南支南洋に列せしむるにあるとせば、これに對する機關の必要も亦當然でなくてはならぬ。即ちこの要求に依つて生れたのは華南銀行である。

大正八年一月この國家附託の大任を負ふて設立さるゝや、先づ南洋方面に其支店出張所を設置して、事業を開始したが、爾來其成績極めて不良で、歷代の副總理も手を燒いたのは事實である。それは當然財界好況時代に生れて、不況時代になつて躍進したのであるから是非もなかつた。

君は臺銀の中樞的人物として知られた人材であるといふのて鑑拔されてこの難局救濟の衝に立つたのである。

財界バニツクの時、臺灣銀行にありて、よく久宗理事を佐けて事なきを得せしめたのは君である。明敏な、果斷な而して身を挺する殉公的精神が、當時躍如たるものがあつた。久宗理事が論功される場合は必ず君の論功もある筈である。

君はバニツクが靜謐となるや、臺銀を去つて今の華南に轉じた。華南に轉じてからの一苦勞は又格別なものがあつた即ち國家より同行が融資さるゝ問題解決の任に立つたのである。君の樽俎折衝は遂に功を奏して先づ同行の基礎を漸やく立てたのである。爾來、其任の重且つ大なるに鑑み、直ちに南洋各地を視察し、將來其取捨案配を勘考研究して整理を斷行した。げにや、南海の颶風、これが北洋の怒濤に遭はざれば舟師の技倆を驗する能はず。鴨越へ、壇浦にあらざれば勇士の面目を知る能はず、とは實に君を指す言葉であらう。君はよく同行現在の危局を救ふて將來の方策を樹てんとした。天は働くものに幸を授けるとか、空言を去つて實行に取りかゝつた石塚總督の斷案にて常に徒消勝ちであつた南支南洋の調査費の活用を同行に與へられたのである。斯て同行の設立目的が石塚總督に依つて着々と實行し得ることゝなつたのは何よりの僥倖といはざるを得ない。良馬は鞭影を見て走るとかや。石塚總督といふ伯樂を得た君は駿馬鬣を振ふの快擧を望んで止まない。大正三年の帝大獨法科の出身だか病氣の爲に卒業が遲れて居るといふ。山口縣の人である。

## 本島財界の最古參者　貯蓄銀行頭取　邨松一造君

（明治二十九年渡臺）

君は東京の人。青年時代日本銀行に入り、領臺後臺北に日本銀行支店の開設せらるゝや、選ばれて其上席行員として赴任せる人である。明治三十二年臺灣銀行の創立に際し同行に轉じ、臺南及基隆支店に歷任し、大いに令名を高め、後明治四十四年臺北製糖會社の設立さるゝや、君又選ばれて其專務取締役となる。在職僅かにして大正元年更らに商工銀行に入り、專務取締役となり、木村頭取を佐けて中下級の金融に貢獻すること大であつた。後貯蓄銀行の開設と共に其專務取締役に轉じ爾來行々重々同行設立の趣旨を遵守して行務を苟もせざりしが、偶々行員に同行を疵付くるものあり

たるも自責の觀念强き君は責を一身に負ひ株主に迷惑を一切掛けず、僅かなる自己の俸祿を割いて整理せるが如きは、近來財界に於ける一種の美談ともいふべし。

爲人、理に長じ、數に明あり。而も其辯說の深刻痛烈なるは、蓋し財界中の耆宿なるべし。多年財界の漕手として舵手として其神機妙算を以て鳴りし人なるも、今日には總ての肝血を絞り、總ての雄志を銷し、總ての元氣を磨し、總ての事平かに、穩かに、安らかに活躍すべき時代となつて、往時の如き機鋒縱橫なるものあるを見ることが出來ない。好漢夫れ自愛して益々我が財界に貢獻すべきである。

## 農學士の銀行家　値賀龍夫君

（勸銀臺北支店長）

日本勸業銀行臺北支店は、島内の不動產を資金化し、且つ農業金融に貢獻せしむる目的で、大正十二年一月臺北に支店を開設せられたものである。初代の支店長は久米孝藏君で、この人は氣勢壯濶、意態雄傑を以て新領土の開拓に奮鬪された人である。臺灣社交界の花形として官民間に重きを置かれた人である。二代目の値賀君は毛色の變つた農學士で極めて堅實な人である。明治三十九年出の農學士であるから古參株である。大正六七年頃には本店の鑑定役として燃犀の手腕を揮ひ、後各地に支店長として令名を高めた眞の銀行家肌の人である。

臺灣が農業國として將來益々其開發に對して同行の力に俟つべきものが多い。宜なり昭和三年末五千二百五十五萬圓の島内放資をやつて居る。久米君時代の昭和元年末四千六百萬圓に比し二割强の增加を示して居る。資金の用途を見るに埠圳資金、農業者の舊債償還資金は最も多く、家屋建築資金、雜農資金、農業倉庫建資金等で、期限は普通二十箇年賦として七分九厘乃至八分八厘の利率である。

値賀君は、華手な久米君の後を襲ふて社交も極めて地味なので、久米君のやうに臺北社交場裡の花形と謳はれないが、行務の方は精勵恪勤、好成績を擧げて居る。

## 銀行家の典型　山中佐太郎君

（三十四銀行臺北支店長）

五十年の永き歷史を有する三十四銀行は、我が臺灣統治の爲に貢獻せること甚大なるものがある。未だ本島が軍馬倥偬の明治二十八年六月始政に際し同行の前身大阪中立銀行をして國庫金取扱を託することゝなり。同年九月基隆港に同行の出張所開設されて、專ら國庫事務の取扱の任に膺つたのである。これ同行が本島に於ける金融機關の嚆矢である。

現在の山中支店長の閱歷を見ると此の前の北村支店長と同鄕で滋賀縣の產。而も入行の年は明治三十二年である。山中君は明治十六年七月大津市に呱々の聲を擧げられた人で、滋賀縣立商業學校の出身である。明治三十二年五月三十四銀行に入行し爾來同行の爲に敏腕を揮ふて上下の信用を博し精勵恪勤行員の範たるものがあつたが、四十年七月同行を退職したこともある。明治四十二年六月再び同行に入り專心一意行務に精勵された功空しからず、大正九年二月兵庫支店長を命ぜられ、其後尼崎支店長（大阪支店長兼務）、德島支店長、（池田支店長兼務）等を經て、昭和四年四月臺北支店長兼臺灣諸店監督を命ぜられて今日に至る。

一見して茫乎たる態度の人だが、深淵藏珠の人で決して鋩鋒を現はさぬ。穩健と着實奮勵努力の人で、銀行家の典型といはれて居る。臺北の官民にも評判がよい。

## 米國仕込みのセントルマン　荒木正次郎君

（臺灣銀行理事）

熊本縣の人、明治四十年の帝大獨法科を出て、臺銀に入り今日に至る。先年米國紐育出張所長として、燃犀の手腕を發揮して事績大いに見るべきものあつた。又臺銀の全盛時代大正元年頃には基隆支店にあつたこともあるが、民間から

非常に氣受けのよい人として今尙ほ君を崇敬せざるものがない。

久宗本尊を立て、吉田理事と共に臺銀の復興に努力されて居る。今日では着々事績擧り本島に於けるイッシューバンクの名を懐かしめない結果を齎らして居る。今更臺銀の使命杯論ずるの必要がないが、特殊銀行としての臺銀が、從來餘りに內地へ活躍過ぎた結果が、バニックの中心銀行とされたそうである。多年同行の爲に其下積み的努力をなした、久宗、吉田君杯の三人者は實に氣の毒なもので、恰も人か御馳走になつた後片付けを現在やつて居るのである。然しながら努力して酬くいられざるの理はない。事業は固人物の如何に依つて其成否が斷定し得るもので、暮氣迫つた官人上りと異なり眞の銀行家として生え抜きの連中が、懸命に努力されて居るから、今後の臺灣銀行は刮目すべきものがあらう。否な著者は其期の一時も早からん事を希望して止まないのである。

## 何んとなく親しみ易い溫容和氣の人　吉田勉君

（臺灣銀行重役）

四國は愛媛縣の人、瀬戸內海を一眸に收め大小幾多の島の松風、時に嘲嘵たる天樂を奏し、紺碧なせる海面、金波、銀波の閃めく影を見、水の變化、山の動搖を眺めて生た人である。明治四十三年の帝大政治科出身、臺銀に入り二十餘年に達した。此間柳生、櫻井、中川、森、島田の各頭取を迎へ些の野心なく孜々汲々として行務にいそしんだ人である。川崎、江崎の二重役の後に拔かれて其後任として今日に及んで居るが、曾ては名計算課長の評高き人であつた。重役に陞進してからの君の內面的努力は著者等の窺ふことを許さぬが、一般社會から一の批難を耳にしたことのない德望家である。接して寡言沈默の人であるが、何んとなく親しみ易い溫容和氣の人である。

## 臺灣財界の潤手　商工銀行專務　江上恒之君

熊本縣の產にして明治四十一年帝大出の法學士である。君は多年臺灣銀行にありて我が金融の潤手として又舵手として、其守成に、創設に、活躍の技倆を有して居る人である。君が先年商銀重役に選ばれて、臺北本店より轉ずる時、君と大學同期生であつた時の長官代理の豐田勝藏君は吾が事の如く喜んで、君の人格を稱揚したものである。斯て君は同行に轉じて以來、古賀頭取を佐けて孜々營々一年ならずして着々整理の實擧り、任幾干ならず今や、其事績頗る顯著なるものがある。

君は生粹の臺灣銀行員として、終始一貫身を持する嚴に、他に野心なく誇張なく、一意專心我が臺灣財界の爲に奮鬪された人で、臺灣財界の潤手なりと謳はるゝ所以である。

古賀頭取は融資銀行としての責任上、從來の如き放漫なる貸出を改めて、總て堅實主義を以てこれに衝たつた。君も又大いにこれを信條として銀行中心を以て營業を擧つたのである。努力して報ひられざるの理はない。同行の現時は基礎既に確立して、益々隆運に向はんとして居る。これ古賀頭取をよく佐け、行員をよく指導し、怠りなきを期した結果といはずして何ぞやである。

資性、極めて溫容和氣の人、我が臺灣の財界に於ける古參株である。

## 南洋通　竹藤峰治君

（華南銀行常務）

臺銀時代に竹藤と云へば羽振りを利かした男だ。廣東支店長時代にも相當の腕を揮ふて日支關係の經濟連鎖を圓滿らしめた功人である。華南銀行に轉じてからの君は、世間に餘り名も出ないやうだが、屹々として努めて倦まず、同行本來の使命に向つて活躍の機を窺ふて居る。昨年南洋各地を視察し、同行の遠大なる使命に就て案配勘考種々研究して歸北したが、過去よりはこれからの問題は幾多も橫つて居るのであるから、臺銀の前哨となり、先驅となつて、南支南洋の天地を席捲するの積極的な政策を發揮して貰ひたいものである。

爲人、小柄な男だか、犀利精悍な處があり、頭が蜥のやうによく働く人である。

### 彰銀智畜　中津德治君

中部金融界の奮鬪兒として中津君は重きをなして居る。君は性極めて卒直一般の操觚者から見ると馬鹿に尊大な處もあるが、其眞髓竹を割つたやうな立派な人間である。阪本氏の智囊者だけに何處かに藏しながら茫乎たる處がある。君も又能ある鷹の類で、何事も太つ腹のやうに見せて、却々細心な處がある。術はない處に君の面目が躍如たるものがある。彰化銀行の中堅的人物として中部臺灣に其名が高い。

## 第三節　臺灣事業界

事業は飯よりも好な臺灣唯一の仕事師、時代は正に到來した

### 後宮信太郎君

（明治二十八年渡臺）

明治六年六月十七日京都府下に生れた人である。明治二十八年の渡臺とあるから齡僅かに二十三歳の秋であつた。其當時の臺灣は累々たる屍が骨となりて野に晒され腥血の氣鼻に迫り、寂山鳥聲なく只暮々として聞ゆるは砲聲のみであつた。枯川草木長くして匪賊を伏し、瘴病所として絶ゆるなきの時に際して、更らに恐怖の念なく泰然自若として、粉骨碎身せる君の青年時代は、實に身命を賭しての奮鬪なりき。

爾來三十有餘年、終始一貫して臺灣の事業界に躍進した。然れども如何に事業經營の才に長じ、其案配勘考に秀づるも、時勢には適ふものではなかつた。君は隆々乎とし臺灣事業界に覇を唱へた大正八九年の財界好景氣より逆轉して、世は擧げてパニック時代となるや、君亦關係する方面多く、從つて其打擊を蒙るや甚大なるものがあつた。君一時其整理に、其前後策に、日夜傷心碎骨せりといふ。世間普通の事業家なりせば、既に一家の正に覆へらんとするの時一柱のよく支へることが不可能であつたのである。

然るに君はよく奮鬪した、死中だも活を求めよと古人の警言をよく守つて努力した。其努力は酬ひられざる理はなかつた。爾來幾多の難關を突破して終始一貫の努力は遂ひに幸福を齎らされた。それは彼の廢鑛に等しかつた金瓜石鑛山に手を染めるや、其經營の手腕は籌謀神の如きものありて、慧眼早くも生產上に於ける研究を怠らず、今や隆々昇天の勢を持するに至つたのである。

君は常に何事業に對しても其鋭眼を一局部に映射せしめず必ず其兩端を透視する。であるから君の睨んだ目に誤りが尠ない。君は金山王として天下に鳴るの日は正に近き將來であらう。臺灣に於ける內地人の眞の事業家として、事業に一生終始せんとする君は、臺灣の統治に如何に功勞の大であるかは著者等の說くまでもない。又長男武雄君が千里の波を超へて、遠くブラジルの野を開拓せんとする勇悍な壯圖の如きも、亦此父ありてこの子ありの感を深ふせざをる得ない。要するに君は臺灣に於ける內地人中唯一の事業家であり、且つ統治上の功勞者である。

奇代の事業家
土佐藩士の出

### 赤司初太郎君

君は籍を東京小石川區水道町にあるも、固と舊土佐藩士小山龍氏の二男にして、明治七年一月七日の生誕である。幼小の頃故あつて赤司家の養嗣子となる。夙に學事に努め、明道館に入りて研鑽怠らざりき。幼にして大志四方に馳せ、千萬里吾れ行かんの壯圖を懷き齡十七歳にして、帝國北門の鎭鑰北海道に渡り各種の事業に手を染めて艱難を友とした。更らに雄志は日淸の戰雲に乘じて、韓國に渡り、軍隊の酒保を營みて胡朔吹く風を友として苦楚を嘗めたが、日淸戰後三國干涉により遼東半島の還附の事あるや、君は憤激して更らに南方の新領土を經營せんと志し、大鵬の翼は南天に翔んだのである。

先づ空拳を以て實効を收めんとせば農業に如かずとなして農業に從事し、其傍ら樟腦及木材商を兼ね大いに得る處あつた。後三十九年に至り糖業を營み、酒精、醬油の釀造販賣を企て各地に支店を設けて大に飛躍した。君の半生に於ける盛衰浮沈の活歴史はこれを以てよく解することが出來る。

百難に百勇を生じ、千難に千策を樹てたる君の努力と、明敏とは、遂に今日の如き大成を齎したものである。かの酒の專賣前に於ける大正製酒株式會社設立の如き、製腦の全島統一に對する問題の如きは、確かに君の力に負ふ處甚大なるものある。而して君が臺灣に於ける各種の事業會社の爲に渾身以て盡瘁する處のもの、これ又決して尠なしとしない。其關係する主なるものを擧ぐれば、臺灣製腦株式會社長、嘉義電燈株式會社長、臺灣軌道株式會社長、赤司鑛業株式會社長、新竹製糖株式會社長で其他銀行會社の重役として君の智囊を藉らざるものはない。

## 人間味の多い君子　木村泰治君

（明治三十年渡臺）

萬古の秀色を自然に横へ、長く遠く大麓の裙を曳ひて、踞然として雄姿するものは、即ち我國有數の小阪鑛山である。不斷の紺碧を漂はし、溶々として雲霞の影を盪するものは、即ち御物川と能代川である。此の美觀に副ふるに、この景致を以て知られたる羽後の大館は君の生地である。

君は幼より覇氣横溢、鄉關に跼蹐するを屑きよしとせず、奮然笈を負ふたるは齡僅かに十五歲の時なりき。當時未だ鐵道開通せず、歩又歩、行々重々、着京したるは花咲く春の中旬であつた。君は上京するや直ちに英學に志し研究する事多年業了へるや內閣官報局に飜譯者として入り、大いに令名を擧げ、後千里獨往の壯圖を懷いて明治三十年我が新領土たる臺灣に渡臺した。

先輩女豪內藤湖南氏の推擧にて臺日社に入り操觚の業に從事すること十有餘年、同社の編輯長として麗筆を揮ひ、天下の木鐸の任に背かざりき。



爾來十二年間眞に統治上に對して文章報國の任を以て當り、盛名全島に冠たるものがあつた。今日臺日の隆々たる君の功績も亦與りて大なるものがある。

當時君は年は若く、氣は鋭で、烱眼早くも世の趨勢を達觀し、文筆を一擲して實業界に身を投じた。即ち明治四十一年臺日社を退くと共に、今の建物株式會社創立委員となり設立と共に同社の支配人となり、更らに專務となりて今や事實上の社長である。この建物會社の創設は在臺北市民唯一の眞の味方であつた。然るに往年松村一派が策動し市區改正に伴ふて家屋の建築に對する反對運動を高調して、當時の井村臺北廳長を陷穽せんとして、種々なる陰謀を企てたものであるが、然し正義には敵するものがなかつた。今日、臺北市街が、街衢整然として內外人の嘆賞を受くるやうになつたのも井村氏の力である事はいふまでもない。と、同時に建物會社の犧牲的奉仕も亦大いに認めねばならぬのである。

即ちこの大責任を果した木村專務の功勞といふものは之れ又偉大なものがある。何んといつても臺北市の恩人は故井村臺北廳長であることを斷言したい。

木村君は爲人、才德群に秀て、風丰や優美、其人格は高潔で、何人も畏敬せしむる。情に厚く、後進子弟をよく誘掖する。君の門前に蝟集する幾多の新聞雜誌關係の者に對しても親切に世話をして居る。大抵の人々の出來ることはでない。であるから一日緩急ある場合は君の爲に馬前の勞を披瀝せんとするものも決して尠なくない。

昨年市營の代行會社に對する魚市會社問題は或る一派の策動となりて反對の聲が全市を壓したが、臺北の操觚者は一齊に起つて君の爲に有利な論陣を張つたものである。これは問題そのものより君の純眞な人格に對する眞の擁護と見てよいのである。これから見ても如何に德望の高い人であるかを證さるゝではないか。

尙君の人格と德望とを偲ぶべき唯一のメモとすべきものは、明治四十三年三月二十日君が臺日の壇上から實業界に轉ぜんとするの時、同社長以下社員全部からその退社を惜まれ、且つ紀念品まで贈呈されたといふことである。その當時の新聞を繙けば左の如き君の前途に對して其の行を祝福されて居る。今日君が、臺灣統治の功勞者として在勤中、中堅的人物として、名を博したるは決して偶然ではない。宜なる哉、昭和三年の御大典當時本島統治の功勞者として中辻、後宮の兩君と同じく表彰されて居る。

## 木村地天君の退社

（明治四十一年三月二十日臺日紙上所載）

木村地天君は今次本社を退いて臺灣建物會社の支配人となれり。君は實に本社創立以來の功勞者にして本紙第一號より筆を執り或は外交主任となり、或は編輯長となり、十二年一日の如く勤勉精勵し爲めに本紙の光彩を添へ、臺政に貢献する處なりしが、今や編輯局に君の椅子を見ること能はざるに至れるは、本社の損害にして同人の齊しく痛惜する處なり。

地天君の氣の鋭才の敏にして文の妙を兼れ政治、經濟、法律、社會行く所として可ならざるなきは世上自ら定評あり、木村の名地天の號は本社新聞と密接の關係があるのみならず、實に本島文壇と密接の關係あり。その觀察の鋭利なる一見裏面を看破するの慨あり、その行文輕妙なる筆端疾風を起すの感あり、新聞記者としての手腕能力を本島前後の文士中能く君に及ぶ者稀なり、今や君は文士生活を棄て、實業社界に投じ機警なる觀察と輕妙なる文字とを本報紙上に見ること能はざるは、本島文壇の爲め深く遺憾とする處なり。地天君は由來文筆を以て身を立てんと處し以て今日に至れり。然るに突然文士生活を去りて實業社會に入る。人或は君の前途を危ぶむものなきにあらざるも、是れ畢竟杞憂なり。君の才、圓滿縱横にして交際に長じ、世故に老け、殊に經濟事情に精進すれば實業社會に入りたる後の前途は實に多望なるものあり。吾人は斷じて君の成功を疑はざるなり。君の退社に方り多年の功勞を感謝し其分秩を痛惜すると共に君の多望光榮なる前途を祝福す。

君の才既に浩蕩輶達の趣きあり、其人物は萬里渺茫として水光天に接する豪宕秀拔の慨ある素より怪しむに足らぬ。君の如きは實に臺灣の歴史より逸すべからざるの巨人たるや論を俟たない。臺日社の第一號當時より臺灣にありたる人だけでも亦偉ならずや、三十餘年前君が文壇にありし日を顧みれば茫として夢の如き想あらんも、南海の新領土に文章報國の功業は永く錄して傳ふべきであるまいか。

## 三卷俊夫君

辯も長じ文も雅なるパブリツク的の人物、今では大學出の先輩

我が臺北の社交界の表裏によく活動する人として三卷君あるを誇りとしたい。君は山口の產、陸軍少將三卷弘義の二男である。明治十二年九月の生誕で、京都帝大經濟科を出たのは同三十七年である。三十七年の大學出と云へば、我が臺灣の民間に於ける古參株で、所謂兄分格の人である。一見無髯童顏の爲め、アノ人がそんな先輩とはどうも受け取れぬ。

君も三好翁に倣つて近き將來は臺北の三卷翁たる尊稱を冠せらるゝに至るであらう。それも餘り永い將來ーではあるまいが、君としては餘り若々しく見られる事が幸か不幸か分らぬ。君が青雲の志を立てゝ新領土開發の爲に臺灣銀行に這入つたのは校門を出ると同時であつた。而も其覇氣は事實南洋進出の雄圖を抱いて、嘗ては馬來半島にも足跡を印したが、宿志は遂に果さゞるに、臺銀臺中、汕頭の支店長を最後として大正五年臺灣倉庫株式會社設立と共に、同行の推薦に依て倉庫入社の餘儀なきに立ち至つた。當時は同君壯齡三十八歳、取締役に選ばれたが爾來春風秋雨十幾年同君は依然として現位置に甘んじ、何等の野心もなさそうな顏付をして居る。得意と云ひ、失意と云ひ、唯だ眼前の景象に過ぎない顯職榮位に昇るか成功か物質に惠まれず、社會的に待遇されるが不幸か、人間の事棺を蓋ふて後定まる。百歳の後初めて眞骨頭を知られるであらう。

惟ふに、三卷君の如きは其位置に生きずして、其事業に生きて來た。故に其事業の爲に傷心碎骨したことは決して尠なくない。君は若し臺銀に籌を置いたとせば、立派な頭取になつて居つたかも知れない。或は官に仕したとせば疾く親任の位置を占めて居つたであらう。然しこれが果して君の爲に榮譽ある境遇であるか否やは判斷に苦しむ。況哉近代政爭の激甚は常に位置の安定を缺くに於てをや。今の官吏を浮き草稼業といふ。內閣が代る毎に首の心配とあつては、精神的に其人間が死んで居ると同じ事である。それに比較して見ると三卷君の如き現位置に假令輕小にもせよ、盤石牢乎たること如何に幸福な境遇か分らぬ。

大正五年以來公共方面に盡瘁されたことは限りない。市政の爲に、或は統治上の問題に、古い丈けに功勞ある人である。又多年西門町會長として兼ねて方面委員となつて奔走せられた。嘗ては自ら方面委員の社會劇を脚色し、某俳優をして上演せしめた事もある。その熱心、其努力は空名に生きずして眞實に生きて居つた。最近君がこの公職を後進の爲

にといふ理由で勇退したとあるが、其由つて來たる所以は多々あることゝ信ずる。

三卷君は勿論政黨に何等の關係もない。只た二十餘年臺灣統治の功勞者である。然るに此頃の總督官邸に種々な人物を招待して晩餐會が開かれるか、このパブリックマンたる三卷君の名の無いのはどうしたことであらう。同君の後輩或は將官に、部局長に時めきつゝある際、同君は不關焉と獨り清風に嘯いては居るが、心中果して平かなりや否や。著者は同君の心事を忖度して常に同情の涙を注いて居る。然し人の善行は永久不滅である。多年君か臺灣に於て盡瘁した善行美事は徒らに史上の花となることを信じて疑はない。

## 本島炭業界の重鎮　山本義信君

（明治三十三年十二月十四日渡臺）

讀者は、都の花の散り果てる頃、房總の名勝を訪ね見んと思はずや。印幡沼の涵渾紺碧たると、佐倉神社の四邊淨麗とは賽者思はず襟を正ふする。靈驗新たなるを以て聞ゆる成田の不動尊は信者殺倒、常に京成電車は滿員の盛況ならずや。北條の海水浴に、勝浦、館山、銚子港共に東海に冠たるものがあらう。

山本君はこの名勝に富める千葉縣長生郡五郷村の人にして明治十四年十二月この地に生る。千葉縣人にして本島に成功せる先づ高橋猪之助君を數ふるも又君あるを見逃してはならぬ。多年本島炭業界に於て名實共に隆々旭日の觀を呈せるは君を措いて他に求むべくもない。君の周到堅實なる、而も精神の堅忍不拔なること、投機的に流るゝ感ある炭業界をしてよく自ら戒心して、他の軌範となり、明光となつて終始一貫よく奮鬪倦まず撓まず今日に及ぶ。

世に努力して報ひられざるの理なし、君が今日の大成を告げたる所以は蓋しこの結果の賜といふべきであらう。

君は又一面に於て公共事業に盡瘁せること多大で、現に板橋街長として同地方の自治行政の任に當つて居る。而して臺北州協議會員に擧げられて、州政の諮問機關に携つて居る、一度會議開かるゝや、君の雄辯は州下民衆の爲に極めて事理の整然たる主張を披瀝して眞の諮問者たるの義務を忘れたることがない。

爲人、任俠に富み、義に厚く、自ら淨財を棄つる幾何なるやを知らない。宜なる哉、臺灣炭業界に重きをなすの人として上下等しく君の公的精神を稱揚せざるはない。臺灣炭業界の重鎮たる盛名ある決して誇言ではない。請ふ、不振の炭業をして益々興隆發展の域に進ませられんこと切望に堪えざるものである。一部の或る批評意とするに及ばず斷々乎として所信を貫徹するは千葉縣人の特性ならずや。敢て君の奮勵一番を希望する。

## 金口水舌の人、詩人孤松學人先生　小松吉久君

（明治二十九年渡臺）

小田原は山光水色兩つながら備はりし境として四季共に佳なる處とす。鎌倉、江島に次ぐの行樂地なり。日暮れて白光波を照す時、俯仰閑かに心を清まして思ひを北條氏政父子に馳すれば、關東男兒の面目躍如たらしむるものあり。天正十八年關八州の精鋭を集めて天下第一の要害と稱せられしは小田原城なり。

これを攻畧したる者は日本開闢以來の大英傑豐臣秀吉にして、之れに率ひらるゝものは德川家康、前田利家、蒲生氏郷、上杉景勝の諸將にして、全日本の軍兵なり。日本あつて以來の大盛事にして又大偉觀たり。更らに史蹟を說かんとせば、著者の短才淺學にては盡す能はず、僅かに當時の俤げを偲ぶに止めん。孤松學人先生はこの日本第一の堅城湯池たりし小田原の產にして而も藩の士族にして父を吉晴と呼び。慶應三年五月二十七日の生誕なり。幼より學を好み、藩の塾に入りて漢籍を學び、年少にして職を司法省に奉じ、二十年十二月大審院施行の書記登用試驗に登第し、直ちに同院の書記に任ぜられて精勵恪勤他の模範たり、後二十一年一月司法屬に轉じ、二十七年に至る數年間同省に勤務した。

其後臺灣が我が新領土となるや、君の壯圖大計は新領土の經營にありとなし、多年消極的の司法官を一擲して活舞臺として與へられたる臺灣に來つて、積極的の植民政治に志し、明治二十九年四月渡臺せり。斯て君は總督府民政局屬をステップとして法務部、總務部、祕書課等に歷任しこの間臺北地方法院事務囑託となり領臺當初の法政に貢獻し、其手腕を認めらるゝや同年七月府典獄に任し、高等官七等に叙せられ臺北監獄長を命ぜらる。これ君が齡僅かに三十有餘歲

の時なり、君が若き典獄として令名を擧げたる所以は、先づ囚人に對する待遇の改善、獄舍の改築等に意を注ぎ且つ各般の缺陷を矯正したるに由る。職にあること數年、明治四十年年九月彰化廳長に拔擢せらる。

次に四十二年十二月宜蘭廳長に轉じ爾來十有餘年間蘭陽開發に專心一意して事績の見るべきもの多し。當時良二千石として全島十二廳長中に異彩を放ち、其能辯舌端鐵火迸出の慨ありき。

大正九年感ずる處あり、實業界に入り爾來今日に至る。君は機智湧くが如く、神算鬼謀又驚嘆すべきものあり。今や督府の最高諮問機關たる評議會員に選任せられ今日に及ぶ。從四位勳四等である。

## 名實共に成功した　正四位勳三等　枝德二君

廣島縣の產、內地各縣に於て敎育行政に其半生を過した人である。臺灣に來る前には愛知縣に奉じて職に奮勵鞅掌されて居つたのである。兎に角、翁は內地に於て相當の手腕家として內務系から囑望されて居つたのは事實であつた、臺中廳長として轉じた時は、內田長官時代で、更に臺南へ轉じ、新制度には選ばれて州知事となり約一年にして冠を掛け、嘉南埤圳の管理者に推薦され今や其工成りて勇退し、悠々自適の生活を神戸で送ることゝなつた。

翁が先年まで官人として令名あつた人、行政官としての翁は、其裁量すべき權限に對しては出來得る丈、自由に快刀斷麻的にやつてのけたものだ。多少溫情に公私を破つた傾きがあつた杯を評するものがあるが、苟も牧民官として、民を牧するには先づ德を以てし、道を以てすべきである。然らば一面には溫情といふ事を忘れてはならないのである。此の意味に於て著者は翁が廳長から州知事時代に至る十餘年間といふものは、其德政、其仁政に最大の意を傾注して、如何なる些事の問題でも翁は愛謹嚴肅して、平寧和樂を期する爲に細心周匝して努力された事を感謝し、且つ記念せざるを得ない。げにや州下百萬の民衆より良二千石として崇敬の中心とされたのも節義の正しい結果であつたのだ。臺南州政を語るものこの名知事であつた枝翁を忘れてはならない。

## 金瓜石鑛山の救主　田中清君

（臺北州協議會員）

讃州高松は舊松平賴重侯の子孫代々の城主にして十二萬石を領せる城下である。而して四國中、瀨戸內海の交通の要路として第一の良港である、名も床しき玉藻の浦に面せる高松城址は、天正年間黑田如水の設計に係る堅城として名高い。今や、外廓空しく二三の城櫓と門扁とを有するに過きずとするも廓內水深く、松靑く、遠く瀨戸內海より船にて望めば、遠く翠黛眉を伸べたる如きものあり。これ市の東方屋島の古戰場である。西に槌島、北に男木島、女木島を呼べば應ぜんとす。春花秋葉絕美の風光、城址と共に想昔の感を深ふする。

君はこの名勝史實に富む高松市西濱町の產、明治十七年七月二十六日の生誕と云へば前途多望の人である。明治四十一年三月山口高等商業學校の第一期卒業者にして、卒業後、二三事業會社に入りてその實際の研究を積み、後日本電氣化學工業株式會社工場長、大阪アルカリ株式會社工場長等に歷任し君獨特の敏腕を揮ふて上下の信認深かりき。大正七年田中鑛山株式會社に入社し、釜石鑛山用度課長兼(船舶鐵道)運輸課長となり、大正十一年十一月同社金瓜石鑛山鑛業所長に拔擢せられて渡臺、着任匆々君の銳眼は熔鑛製鍊採算上不可なるを知るや、直ちにこれを建言して廢止し、專ら賣鑛本位に改め、經費を節約するに努め一面には運施計畫すべき幾多の改革刷新を圖りて大に事績顯著なるものがあつた。大正十四年十一月金瓜石鑛山株式會社創立せらるゝや、君擧げられて專務取締役となり又重役は斯界の驍將連にして新陣容は恰も衣冠の峨々たるものがあつた。社長後宮信太郎君の達識と、斯界の權威者たる君の銳眼とは、遂ひに一個の全才となし從來の經營方を改め主として生產費の輕減を圖りたる結果、今や昔時の悲境を脫し全國中にも稀に見るの好成績を告げて居る會社となつた。君は高商出の學歷を以てよく技術方面の業務に鞅掌せられたるは叙上の如くであるが、若し夫れ君をして專門技術家たらしめんか恰も虎に羽翼を副へたる感あるの人ならん。金瓜石をして民謠にある如く、山に黃金の花が咲くてふ、唄ふだに氣持ちのよい處と化した君の獻身的努力は、永く本島鑛山界の功勞者として錄

すべき人である。

## 金瓜石鑛山の中堅人物　後宮末男君

事業は固と人生の外部形式の發露、其内部生命の現勢は之が經營の人物に就て窺ふうを要するや言を俟たず。卽ち事業は經とせば、人は緯である。如何に事業が有望でも、その適材を得ずんば到底事業が成功すべきものではない。君は臺灣事業界の覇王後宮信太郎氏の令弟である。大正十三年四月慶應義塾の經濟學部を卒業するや、同月合資會社南洋鑛業公司東京支店に入り、大いに燃犀の手腕を振ふて令名を高からしめたが、大正十五年一月家事の都合にて退社、同二月金瓜石鑛山株式會社に入社し、主として計理の任に立ち爾來同社經營の中堅人物としての重大なる責任を完ふした人である。昭和四年十二月木村久太郎氏の取締役を辭任するや、君擧げられて取締役に就任し、愈々益々其責任の大なることを感ずる一面には亦手腕を遺憾なく發揮し得ることゝなつた。

君は小後宮の感ありて理智に長じ、常識に富み、先輩長者を尊敬して尙も不遜の如き態度なく謙讓の美德があるといふが、齡僅かに而立を出るつる三歲、よく人心の機微に通じて居る青年紳士である。今や金瓜石鑛山が再び世に名をなし隆々盛名を擧げたる所以も、亦君の力に負ふ處甚大なるはいふまでもない。

君は後宮信太郎氏の令弟であるが、後宮家を相續すべき人であるといふから、今後の君の手腕は將に刮目すべきものあるは言を俟たない。明治三十一年六月五日の生誕である。

## 百戰の勇士　評議會員　荒卷鐵之助君

（臺灣製鹽會社長）

荒卷君は我か臺灣統治の最功勞者なるはいふまでもないが、今日の境地は餘りに榮とするに足らない。君は慶應元年十二月福岡市に生れ、明治二十九年の渡臺者で其の半生警察に仕し、後年初代臺南市尹として令名のあつた人である。百戰して死するなきをこれ善戰といふが、君の如きは正に百戰の勇士である。壯年、我か新領土の開拓にその一生を過しただけでも、統治の最功勞者をいふべきである。君三十有餘年の官界生活より去るに際して、特に臺灣製鹽會社長に撰ばれたが、同社は整理時代で逆睹すべからざるものがあつた。然し百戰の勇士、遂ひに健鬪怠らず、今日では相當の事績を擧げて居ると聞く。乞ふ老境益々自愛自重せられんことを望んでやまない。正五位勳四等の所有者である。

## 近江の豪族　近江時五郎君

（明治二十八年渡臺）

俳聖芭蕉が遺せし名句に「木曾殿と背中合せの寒さかな」芭蕉が靈、義仲墳墓の傍に安らけく眠る。傳へ聞く君の祖は近江の豪族なり。故を以て近江を姓となすといふ。旭將軍木曾義仲の戰亂の頃避けて秋田和仁の地を卜して永住の地とせり。君は明治三年十二月の生誕、既に耳順を超えて居る。壯年和仁鑛山の外人技師に就き、斯業の蘊奧を學ぶ處あり。業積んで足尾銅山に入り、亞いて大阪藤田組の經營に係はる山形伊田鑛山の鑛業課長となり。更らに福岡縣神崎炭鑛主任に轉じ、其後撰ばれて秋田小阪鑛山の鑛業課長たりしが、明治二十八年再び藤田組に復歸して臺灣に渡り、瑞芳鑛山技師兼鑛業課長として一意專心、同社の爲に努めて倦まざりしが、同鑛經營上の意見採用されざりし結果、憤然辭して木村組支配人に轉じ、組長木村久太郎君の賢佐智囊となりて、浮沈興亡常なき金鑛の經營を廢して、主として石炭に積極たらしむるに至つた。往時木村組の全盛は、君の巨腕に俟つもの多く、基礎の牢乎たるものあつたが、組主木村君は志を北海に立て、本島を去つたのである。然るに君は依然として本島鑛山業の爲に「吾れ一生を送らん」の赤き心を以て、木村氏の業務を繼承、着々として成績の見るべきもの多かりしが、君も亦、東都に事業を經營することゝなり、常に上京勝ちの狀態である。然しながら一念一慮、悉く本島開發の爲に傾注して。彼の水產會社の如きも君の力に負ふ處

甚大である。君も亦本島統治の功勞者たるはいふまでもない。

## 努力の人　益子逞輔君

（大成火災常務取締役）

臺灣に於ける唯一の火災保險會社である大成火災株式會社は、我國に於ける有數の會社となつた。今や積立金八十萬圓を突破する勢ひで、社の基礎は益々鞏固となつて來た。過般同行十周年記念祝賀會を臺北と東京とで開催されたが天下知名の士は一齊に同君の努力を推奬せざるはなかつた。

努力して成らざるの理はない。益子君は門地あるではない、財閥の背景あるものでもない、然るに君は艱難に處してよく努力した、よく邁進した。十年間孜々營々。朝々暮々一意專心寐食を忘れその奮鬪を續けて來たのであつた。今日の大成ある故なきではない。

君は茨城の人で、早稻田出の俊才、始め臺日社の新聞記者となり、後ち感ずる處あつて、實業界に身を投じたのである。爲人、義俠に富み、友情に厚く、時に人の爲に身を燒いて惜まざる熱の人であり、情の人である。年齒僅かに不惑君の大成はこれからである。君の圓熟せる巨腕の發揮も正にこれからである。好漢爲邦家自重自愛せよ。

## 南部臺灣の開拓者　佐々木紀綱君

（明治二十八年渡臺）

臺南に於ける商工業の牛耳を握るものは佐々木翁を隨一とすべし。翁は和歌山縣海草郡紀伊村の產で萬延元年の生れである。明治二十八年九月大阪石田商會員として渡臺し、雜貨木材の移入販賣の傍ら砂糖移出業を營み、二十九年大阪共立物產會社の支店を繼承して專ら木材建築材料販賣及土木建築等を經營せる閱歷がある爾來、南部臺灣實業界の重鎭として各種の事業會社に關係し且つ公共方面にも翁の力に俟つもの多大である。今や臺南實業會長として重きをなす所以は蓋し當然といふべきである。爲人、極めて堅實實直の人で、華美を衒はず、世に傲らざる眞摯誠情の人である。老齡今尙矍鑠として壯者を凌ぐものありといふ、國家の爲自愛加餐して多々益々本島統治に貢獻する處あれ。

## 巨巖の如き　櫻井貞次郎君

（明治二十九年渡臺）

君は愛知縣の人、臺北に於ける最大の事業家として極めて堅實の名を以て世に知らる。明治二十九年本島に渡臺し始め錄威に當る高橋某に寄寓して其事業を佐け、後三十年十月高橋某が清國にて客死するや、君はその整理の任に衝り、餘財はその遺族に渡して一旦歸省したるも、君の志は鄕閭に齷齪たるを許さず、その翌年更に鞭舞振作して渡臺し、空拳以て櫻井組なるものを組織し、先づ土木請負に從事して大に成功した。その後各社の事業會社に關係し、其經理宜しきを制するものありて、今や、君は一方の重鎭となつて居る。彼の製腦會社の如きも君の巨腕に依つて着々と整頓されつゝありと聞く。君も亦本島に於ける古參人として且つ事業界に功勞のある人である。

## かく鍊壯者を凌く　吉鹿善次郎君

（明治二十九年一月渡臺）

臺北實業界の元老株として夙に世人に尊敬されて居るのは吉鹿翁である。翁は文久三年十月十日、福岡縣筑紫郡水城村に生る壯年萬里獨往の氣慨は、遂に明治二十九年本島に來りて實業界に身を投じた人である。その始め南洋商會臺灣支店長として事業に從事し、同年十月、殺伐悽慘な氣漲る蕃界を踏査し、蕃產物の拋棄せられあるを痛感して元の新竹廳下樹圯林(今の竹東)に雜貨商を開設して蕃產物の交易を業とした。明治三十八年より四十二年に亘り元阿猴廳下今の

族尾で開墾業に從事し、更らに馬來半島に護謨栽培事業を經營したることもある。今や庶民金融機關たる無盡會社長として臺北に於ける長老格である市協議會員として公共方面にも活躍されて居る。翁の如きは正に臺灣統治の棄て石同樣の功勞者といつてもよからう。

## 第三節　臺灣商業界

### 隱れた功勞者　高進商會主　高橋猪之助君

（明治二十九年九月二日渡臺）

春は蒼翠を疊む東京灣、秋は澄徹せる九十九里濱の濤の色、白光に照り輝き、碧に光りて風物恰も畫の如き房總の眺めは都人行樂の隨一となつて居る。

由來千葉の人は其東海の波濤に看る如く、時に激湍として麗光を漾え、時に澎湃として、暗雲を捲き起し來るが如き慨なしとせない。高橋君は前者に見る如きこの鄉土的風物に馴致された人であらう。

明治八年千葉縣佐原町に呱々の聲を擧げ明治二十九年九月の渡臺者なりといへば、先づ臺灣に於ける內地人として最古參者であり、且つ統治上の功勞者であるといつてもよい。岳父由義翁は明治二十八年十二月八日の渡臺者にして壯年、東京本所の有名なる大橋順三氏の高弟たる並木栗收氏の螟蛉學舍に入りて經史を修得せられたる人で、臺北に於ける隱れたる經學の人である。今や老境に入り總てを猪之助君が主宰されて居る。

臺北京町通りに巍然として天空を摩する大厦高樓は即ち高進商會の建物である。君は在臺三十有餘年の永きた亘りて、孜々家業に專心一意されて今日の大成を告げたるは故なしとせざるも、其一面に於ける公共的精神に富めるに至つては實に敬服すべきものがある。宜なる哉、先年市協議會員に選任されて、臺北市政の爲め寢食を忘れて奮鬪されて居る。

又彼の京町の改築に於ける君の犧牲的奉仕に對しては市民の主なる者は感謝の意を表せざるものがない。或は臺北商工會常議員、臺北實業會の幹部として自ら前哨に立ちて東西奔走し、市の爲に裨益する處決して尠なしとせず。又君の一言一句は恰も人をして春風に座せしむるの快感を懷かしめ、溫容玉の如きの襟懷は人をして徐ろに畏敬せしむるに至る。臺灣統治を語るものこの隱れたる功勞者を忘れてはならない。君の關係せる各方面の公共及事業會社を揭ぐれば左の通りである。

臺北市協議會員
臺北市財源調査委員
臺北度量衡器販賣業組合長
臺北實業會理事
京和會專務理事
臺灣畜產株式會社取締役社長
株式會社高進商會取締役代表者
臺北市町委員
臺北市臨時土地整理委員
臺北商工會常議員
京町建築信用購買利用組合專務理事
京町改築委員
臺灣合同電氣株式會社取締役
以上

### 臺北市協議會員　京町改築の功勞者　近藤勝次郎君

（明治三十四年渡臺）

我が臺灣に於て清酒問屋として名をなすものは、先づ近藤、辰馬、宅を數へなくてはならぬ。就中近藤商會の先代喜惠門翁の如きは早くも明治二十八年本島に渡臺せられたるの人として、本島統治の功勞者たることはいふまでもない。君は明治三十四年以來岳父の業務を擔當し、一意專心清酒問屋として洋食料品の卸小賣業を兼ね、社會的奉仕の精心を以て名走利奔に陷らぬ點は、一般普通商人と其趣きを異にして居る。これあるが爲に、社會的の位置を高めて官民の間にも信望ある所以である。

宜なる哉。君が多年の功勞報へられて臺北市民の代表機關たる市協議會員に撰ばれて居る。加ふるに方面委員、町委員、土地整理委員、商工會常議員、實業會理事、京和會專務理事等に擧げら專ら大臺北のサービスに沒頭されて居る。此の外君の業務關係方面を擧ぐれば臺灣總督府酒賣捌人組合副組合長、臺北支部長、臺南支部長、ビール販賣會社專務取締役、京町信用組合專務理事、近藤商會專務取締役等枚擧に遑ない程である。特に大書して君の功勞を擧ぐれば京町改築に對する犧牲的盡力である。京町改築は當局多年の懸案であつたが、遂ひに着手を見ず荏苒日を長ふしたのである。

然るに君はこの大懸案の解決に努むべく、蹶然起つて身を投じた結果、容易に資金を得て今日の如き燦然たる市内の盛觀を期するに至つた。何等の誇りぞ、何等の榮譽ぞ。想ふて玆に至れば君の功績は千秋萬春の後までも謳はれることであらう。

君は明治十八年兵庫縣に生る。年齒來た春秋の境、前途洋々恰も春の海の如き感がある。爲人、寛宥誠情、正義の爲に身を燒き、人情に厚きを以て内外に知らる。輕薄淺慮、衒耀杜撰は寸毫もない人で、決して世に阿ねらず、徒らに人に迎合せざる一見識あるは著者の意を強ふするものがある。

尙臺灣に於て永年の間夏の惱みの一ツとしてビール販賣の競爭なるものがあつたが、その弊害も麥酒共同販賣成立に由つて除かれることゝなつた。君はこの問題の成立に就ても事實上の功勞者であるが今日世間では餘り知らぬであらう。然し今後の經營に付ても君の責任の重且つ大なるはいふまでもない。

## 全島酒賣捌人組合長 ビール販賣會社長　河東富次君

（辰馬商會專務取締役）

清酒問屋として、飲料水卸問屋として其名島内に藉甚たるものは辰馬商會であらう。曾て著者は臺灣バックに筆を執つた時代、川端伊之助といふ人が、辰馬の總支配人であつた。この人隨分バックの材料を提供された人である。鐵腕關君が主筆時代にも川端君が盛んに書かれたものである。春風秋風十餘年の昔となれり、花や昔の花ならず、その川端君は這般長逝されたといふが、川端君時代の辰馬商會は臺南に河東氏あり基隆に新田氏あり、却々活躍されたものであつた。あゝ今やこの人亡し、蕭々たる風雨の夜、靈魂何れにか迷ふの感慨を深ふする。

即ち河東君はこの川端伊之助君の後を襲ふて專務取締役として今日に及ぶ。君は明治十四年七月兵庫縣武庫郡御影町に生る。嚴父河東利八翁は辰馬吉衛門氏の分家にて、名門辰馬の出を以て近鄕に藉甚たるものがある。君はその嫡男として斯界に薀蓄を積み、造詣又深きものありて、其一生を通じて斯業に貢献せんと奮鬪を續けて居る。

彼のビール專賣問題に對しては同業近藤商會と共に率先してこれが反對の氣勢を擧げるや、世の同情翕然と集まり、各地の商工團體も亦反對の議を決する等、全島この問題に對して一種の社會問題化したるの感ありき。輿論は偉大なもので、專賣局が着々計畫を進めて居つた該問題は時勢を鑑みて、これを中止するに至つた。げにや衆口鑠金とはこのことをいふであらう。君は爲人、温情にして和氣あり。何人も君に接して不快の念を起さしめざる、温容玉の如き高處がある。近藤勝次郎君と共に本島清酒問屋として且つ市の公共盡瘁者として稱揚すべきの人であらう。右の外關係會社を擧げれば龜甲醬油販賣會社專務取締役、臺灣オフセット會社監査役、合資會社河東家本家代表社員となつて居る。

## 日蓮宗拜村崎長昶君

（明治二十八年六月一日渡臺）

君は熊本縣宇土郡不知火村の產、明治三年十一月十二日この地に生る由來、熊本の地は擧げて日蓮宗徒なり。その由つて來たる所以は、千古の英雄加藤清正が戰亂の世に生れて而も武將として百戰して死すなきを得たるは、卽ちこの日蓮宗南無妙法蓮華經の賜とせり。故に熊本縣の何れの都市に至るも本妙寺の名刹を宗拜せざるはない。本妙寺は鎭西唯一の大伽藍にして清正公の子忠廣の建つる處なりといふ。

君はこの鄕土の人として日蓮宗の大宗拜者である。日蓮の加護は堅忍不拔の精神あるものに依つて現はると傳へらる。君が、明治二十八年以來、終始一貫して知識の源泉ともいはるゝ各種圖書の販賣業を以て今日に至る。即ち三十有

餘年間に於ける。其堅忍にして不拔なる精神を鍛錬せられたるは日蓮宗の賜と見てよい。宜なる哉、君が此の宗敎の爲めに、時に自ら佛前に立つて「立正安國」を說けば、宗徒爲に其難有さに涙そゝる者多しと聞く。日蓮上人の豪吟あり「鳥は啼けども涙出でず日蓮泣かねと涙ひまなし」と、絕叫せし英雄僧の面目尊ふとくして亦崇高ならずや。

君、爲人、旣にこの信者として餘り說く要なし。三十有餘年の間、大患なく、災殃なく、極めて樂しく、極めて安穩に、世の爲め人の爲に奉仕して而も財の足らざることなきは、あゝ日蓮宗の賜ならずや。今や內地人中立志傳中の人として且つ屈指の富豪として知られて居る。公職としては臺北大同會副會長、臺北町委員、臺北信用組合理事、中央市場株式會社監査役等に擧げられ市民から信用を博して居る。

## 曾根茂夫君

**眞く儲けて善く逸散する、事業界の熱血兒**

大分縣佐伯町の出身、明治十三年八月の生れである。大分の天地は自然の美に富み、景勝他に比類なき處である更らに又史實多く、此地士人の氣慨をして一層仁義高節を保たしむる國風を馴致した。古來學者を出だし、詩人を出だし、畫伯を出して天下に藉くこと甚だしきものがある。

一世の快男兒增田宗太郎を出だし、更に川路聖謨を出だし。而して今人にこれを索めば、佛山先生の甥に安廣伴一郎の法律家がある。財界に朝吹英二、故和田豐治與に福澤翁の門下で、福澤翁の甥たる故中上川彥次郎は三井系の柱壁たりし人であつた。現時の政界に元田肇、山本達雄、箕浦勝人、木下謙治郎、松田源治等輩出し、明治大正昭和の政界に重きをなして居る。武人の典型にして軍神廣瀨中佐を此の地より出だしたる亦奇觀でないか。

曾根君は即ちこの國土に呱々の聲を擧げ、長するに及んで縣立農學校を卒業し、一時敎壇の人たりしこともある。後ち齡而立に達せざるに、早くも海外壯圖の念禁じ難く、志は千里にありとなして明治四十年二月本島に渡臺した。後幾干もなくして現在の山一商行なるもの組織し進んでこれが專務となり、以て斯業の發展に努力奮勵されたのである。當時山下汽船の臺灣航路開始と聞くや同社の荷役一切を掌握し、或は滿州に伸手馳驅して其敏捷輕妙の手腕を發揮して內外に信用を博し、社基漸やく隆々たらんとするの時、君更らに大志を抱きて東京に出で事業會社を經營し、年に二三回臺灣の事業を視察するに止まりしが、今回再び臺北に腰を据へ、拓地植民の爲に健闘せらるゝと聞く。君の如きは眞に事業界の逸材にして又求めて得難きの人である。

爲人、輕妙洒落にして交友多く、而もよく友を愛す。人に對しては懇情親切苟も傲るが如き態度を持したことがない。而も良く働き、よく機先を制して儲け、善く逸散するを以て有名の人である。

今や、この熱血兒が直往邁進、山一商行の爲に朝々暮々、寸暇なきの活躍を續けて居るといふ。努力して報ひられざるの理なし、君の今後の大成を期待する、豈獨り著者のみならん哉。

## 臺灣唯一の木材王 植松材木店主　平戸吉藏君

（明治三十九年渡臺）

西に紀淡海峽を一眸に收め、淡路島南北に長ふし、和泉灘を西北に控へたる紀伊國は山林の國であり、木材の本場である、卽ち君は其木材を見て天下に冠たる紀州新宮に呱々の聲を擧げた人である。君の叔父植松新十郎氏は我國山林經營者として造詣深く、又木材業者としてその薀蓄高き知名の人であつた。君は年幼より叔父に愛育せられ、長するに及んで叔父の業に從ふ。齡僅かに二十一歲の時、大阪支店長として業務一切を擔任しその經營に當り後明治三十九年我が南方開拓の爲に臺灣に支店を設くることゝなるや、君撰ばれて臺灣支店長として渡臺した。時に君僅かに三十二歲の青年時代なりき。爾來二十有五年の永き間孜々營々今や臺灣唯一の木材王として藉甚たる蓋し故なしとせざるべし。君は此間叔父は沒し、從兄又數年前に失ひ、三代目の當主は電氣學校に學びある爲に木材商を廢するに至つた。

斯て君は植松の名を存じて事業一切を繼承し今日に及んで居る。爲人、極めて溫厚和氣の人であるが、一面には却々俠氣の豐かな人である。よく人の爲に身を燒いて斡旋する人情美の人だ。今や業務は隆々乎として發展し基礎又鞏固なるものがある。

支店としては大阪及嘉義に設け、更らに合資會社臺灣木材共同販賣所及び臺灣丸太共同購買所理事、並に木材信用組合長として專ら營林所及內地材の販賣に從事し、取引銀行は臺銀一行主義を採りて信を內外に博して居る。又君は臺灣の事情に精進し、臺灣に於ける實業家として、且つ臺灣唯一の木材王として、官民間より好評ある所以は、蓋し君が終始一貫よく斯業に努力し貢獻した賜である。

## 蘭陽の奇人　宜蘭の代表者　行木由太郎君

（明治二十九年渡臺）

龜山島を抱ける弦月灣一帶波の寄する處、蘭陽の天地とす。蘭陽の首都宜蘭は當時宜蘭廳の在りし處で、其時代の宜蘭は今日に比し生氣潑溂たるものがあつた。然るに新制度となり鐵道開通となりし文化の宜蘭は恰も火の消えたる感なくんばあらずである。殊に內地民人に於て更らに大なるものがある。

蘭陽を代表する奇人熱血兒として知らるゝ行木由太郎君の如きは、蘭陽に於ける最古參者にして、最良の人物である。明治六年八月千葉縣山武郡鳴濱村に生誕とあるから既に知命を超へて居る。君小壯、海外雄圖に志し本島が軍馬倥偬の時蹶然家鄉を去つて軍隊酒保として本島に來り其業にいそしみ、後宜蘭の地を卜し永住の地とし商業を營み、爾來春風秋雨三十有餘年名物蘭雨と惡戰苦鬪して今日にに至る。

君、三十年來宜蘭にあるや、終始一日の如く內地人の發展に苦心し、或は口に、或は言論に、直接間接に宜蘭の宣傳に努め來たつたが、勞多くして得る處の功は尠なかりき。これが爲めに淨財を散ぜし事枚擧に遑ない。時には鐵火迸出の氣慨を以て談論風發し、時には人の爲に水火劒刃も尙恐るゝを知らざる熱の人、情の人である。任俠以て自ら持し侃々諤々の氣焰は年と共に盛んなるものがある。

## 勤儉の軌範　臺北信用組合長　銀屋慶之助君

昔時薩南に旅するもの、薩肥の境出水の關にて通行を阻まれたるもの多しといふ。彼の高山彥九郎か關吏の爲に入るを拒まれ「薩摩人いかにや如何に刈萱の關もとざゝぬ御代と知らずや」と豪歌して纔かに通行を許され、又賴山陽が雨に濕れ泥に塗れて生命辛々辿りつきしに、關吏に一喝され關外の民家に一夜の雨宿りをしたといふ。

（明治三十二年七月渡臺）

薩摩人は徹頭徹尾外より入り來る人を排し、自國の人を抱擁するに努めたるは、地勢上止なきことなりしならん。君は鹿兒島縣川內町の出、明治八年十一月十八日生れで明治三十二年七月東京高等商業學校を卒へ、直ちに臺灣銀行に入り、本店、臺中、基隆支店に勤務し本島金融界に貢獻すること大であつた。明治三十九年一月退職して新原金物業を經營し今日に至つて居る。君は全島唯一の好成績を告げて居る臺北信用組合長として多年斯業の發達に努力し臺北金融界の爲に盡力されたことはいふまでもない。公職としては臺北市協議會員である。

## 綿布問屋の驍將　星加彥太郎君

（明治三十八年渡臺）

愛媛縣新居郡の人、慶應三年十月の生誕也。幼少鄉黨に學を修め、後軍人に志を立て敎導團に入りて業を終へるや、第八聯隊（大阪）に入隊し、よく國家の干城として範を垂れり。二十六年滿期除隊となりて歸鄉し、鍊へられたる軍人精神を發揮して無爲徒食を排し直ちに精米業を開始經營せり。後日淸の風雲急を告ぐるや、大本營陸軍雇員となり、次て臨時第七師團の編成と共に同師團附となりて出征せり。皇軍連戰連勝淸國敵すべからざるを覺りて降伏的和議遙ひに提唱して玆に平和克復と同時に君は更らに臺灣近衞師團監督府附として渡臺した。後ち幾干もなくして上長と意の合はざるものありて蹶然辭して鄉關に歸り、除ろに捲土重來の期を待つた。劉備は池中のものでなかつた。君の鋭眼は早くも臺灣に於ける綿布事業に着目し、從來支那より輸入供給されつゝありたるものを我か國產を以てこれに充つる計畫を樹て、四十四年再び本島に來つて其の業を開始したのである。然るに本業は資本の固定を要する爲に、資財小にしては業

務發展せず、遂に叔父某に賴りてこれが資金の助力を得て苦心經營遂ひに今日の盛運に達したのである。此間屢々支那南洋を踏査し、大ひに得る處ありて需用南支南洋の天地に充滿せりと聞く。君の今日まで專心一意本業に奮闘せられたるは直接にも間接にも本島統治に貢獻せられたる決して僅少ではない。左に伊澤總督の表彰を掲けて君の事業の一般を窺知せん。

多年綿布商ヲ經營シテ奮闘努力今ヤ家運日ニ盛ニシテ内外ノ信用倍々篤シ居常自ラ奉スルコト極メテ薄ク公共ニ奉仕シテ嘉績尠カラス往年斯界ノ危機ニ際シ身ヲ挺シテ之カ救濟ニ盡シタル如キ衆人ノ範トスベキモノアリ仍テ始政三十年ニ當リ木杯一組ヲ授與シ之ヲ表彰ス。

大正十四年十月三十一日

臺灣總督正四位勳二等　伊澤多喜男

## 牧畜業の先覺者　塚本喜三郎君

（明治二十九年渡臺）

京の山は風雅にして秀麗、京の地は史蹟に富み、悲劇の跡も多い。君は京都麩屋町の產、安政六年一月二十三日、殺伐たる時代にこの地に生長した。明治二十九年一月、新領土開拓の爲に獨然立つて千里の波濤何かあらんと、臺灣に渡來した。然して島都臺北に居を卜し、專ら牧畜業に從事して倦ます今日の大成を見るに至つた。柊牧場と云へば島内津々浦々に至るまで其名藉甚たるものがある。翁の如きは本島に於ける牧畜業者の先覺者として稱揚すべきの人であらう。京都柊旅館は即ち君の親戚に當ると聞く。

## 故賀田翁の妹婿　中村五九介君

（花蓮港の元老株）

山口縣の人、花蓮港には最古參の一人である。東部開拓王故賀田金三郎の妹婿として夙に同組に從事して令名あつた人だが、後ち獨立して商業を營み、所謂士鬼商才の人となつて今日に及んで居る。この間花蓮港の社交團體に、或は商工會の爲に盡瘁せること甚大で、花蓮港に於ける元老株となつて居る。野球もやれば、ゴルフもやる、世話好きで、交際上手で、辯舌も却々長じて、公會の席上に元老中村のスピーチを聞くこと決して尠なくはない。乞ふ益々加餐自重して東臺灣の開拓に精進せられんことを望んで止まない。

## 東部土木界の功勞者　小川浩君

（花蓮港の有力家）

東臺灣の成功家として其名を高からしめて居るのは、何んといつても花蓮港に於ける小川浩、吉村佐平、大江虎吉、古賀朝一郎の諸君であらう。君はその一人者として且つ東部土木界の功勞者として大いに特筆すべきの人である。仙臺の人、明治十二年二月の生れで、東京に出でゝ成城中學を卒へ、一年志願兵として軍隊生活をなし、今や後備陸軍歩兵中尉として地方在鄕軍人の軌範たるものがある。始め澤井組に入り請負事業に從事したる人だが、天性の手腕は遂ひに斯界を壓して今や獨立自營、巨萬の財を贏ち得、花蓮港に於ける有力家となつた。君の如きも東臺灣に於ける土木界の功勞者といふべきであらう。

## 頻々拍手に成功したる　吉村佐平君

（花蓮港の功勞者）

實直で、眞摯で傲らず、衒はず、他の追從を許さないのは君である。今では花蓮港に於ける唯一の人物として且つ功勞者である。金物商の傍ら土木業者として今日の大をなして居るが、殉公の精神が脈々として全身に漲り溢れて居る人だけに、公共問題は萬事スラ〳〵と解決して行く人である。何んといつても今日では花蓮港に於ける花形的社會人となつて居る。

## 新港開發の者　松井金二郎君

（臺東の有力家）

君は臺東に於ける代表人物として、新港開發の貢献家として其名東臺灣に藉甚たるものがある。千葉縣の產なるも籍は東京にあり。所謂江戸ッ兒を以て任じて居る。賀田組拓殖の先驅者として原代議士あたりから今尙知己の人物として遇されて居るが、君は今や、臺東に於ける、民間代表人物として一層責任の大なるを考へなければならない。臺東の開拓者と知られたる增永三吉君が九泉の客となつた今日、君の公共心に待つもの蓋し大なるものがあらう、彼の新港の漁港實現にも、君の今後の重責はいふまでもない。

## 商機商暑に長した　古賀朝一郎君

（花蓮港有力家）

花蓮港に於ける成功家として其堅實味は他の模範たるものがある。君は飽くまで一個の商業家として終始した人だが、先年梅野氏の肱股として賀田組に入り（今日の朝日組）その支配人として今日に及んで居るが、傍ら商業に從事し花蓮港第一の店舗を飾つて居る。佐賀縣の人で、商機商暑に長じた、敏才として重きをなして居る。



## 勤儉力行の人　中村豐太郎君

（花蓮港の成功家）

君も亦花蓮港では古參者である。岡山縣の產だ明治四年四月の生れであるといふから早くも耳順に達した人である。花蓮港に於ける唯一の藥種業と印刷業とを以て終始した人で、世に聞達を求めず、人に阿ねらず、飽くまでも自力自經で來た人である。商業家の明星として勤儉力行自ら奉じて來た人である。

## 本島油脂工業の先驅者　八十川清君

光は東よりか、東の光か。その孰れにするも東光石鹼の名は天下に冠たるものがある。即ち本島油脂工業界の先驅として其聲價頓みに盛んならしめて居る。八十川清君は名の如の八十の川が清いと書く、其名詮自稱の如き君は體を現はして眞に天眞流露なるものがある。世に誇るにもあらず、人に迎合するにもあらず。常に虛心淡懷人をして畏敬せしむる風格宏量の人である。

君は鄕土氣質の覇氣に富む長崎縣人にして、明治二十四年四月を以て生る。幼にして學を好み、長ずるに及んで、身を實業に投じ、我が新領土の開發に貢献せんと先づ令兄に伴はれて朝鮮に渡航し酒醬油業、金融業を開業し。大正六年澎湖島にある原商店の招請にて颯然立つて南進策に邁進せられたる人である。大正八年二月現在の高砂油脂工業合資會社を設立しこれか代表社員として本事業に着手するや、本島に於ける石鹼製造の先驅として內外各方面より大いに囑望せられたるものである。其後株式に改め、組織愈々完備するに當り、その製品を精撰して、需用者顧客の爲に奉仕すること甚大なるものがあつた。宜なり今日何れの家庭に於ても東光石鹼を使用せざるものなきの盛況を呈したるは全く君が畢生の業として且つ天職として努力して倦まざる賜である。爲人、意態雄傑、何んとなく人間味の豐かさと感じさせる人である。

## 木材界の雷　飯田清君

（臺北市協議會員）

駿州の都、靜岡を中心として富士の麓より東西十有餘里の間は、東海道中最も山河秀麗に富み、史跡も亦大いに語るべき資料を有して居る。君はこの日本景勝の地たる靜岡縣の產で、明治十七年九月一日の生誕である。即ち多年天龍材木店臺北支店長として我が臺灣の木材界に雄飛して居る人である。

天龍川を有する靜岡縣の人は實に幸福といふべきである。同會社がその天龍の名を冠せるは愛鄉心の發露といふべく人、天龍と呼べば靜岡を想起する所以である。

臺灣に於て天龍の名を藉甚せしめたるは全く君の力に負ふ處大である。君が大正二年臺北支店長となるや、多年の蘊蓄と造詣とを遺憾なく發揮し日に、月に隆盛發展し、社運の益々鞏固となり、他の追從を許さざるものがあつた。大正五年代表社員となり、大正九年擴張して株式會社とし萬華停車場前に約壹千坪の一大製材工場を建設して斯界に活躍雄飛して今日に及ぶ。君又本島統治の功勞者として毫も不足なきの人材である。

## 商才に長じた松浦屋主　中村誠道君

（明治二十九年渡臺）

臺北市の純然たる商人として名をなすもの多きも、松浦屋事中村誠道の名を見逃してはならぬ。君は明治二十九年二月の渡臺者で明治四年十二月佐賀市に呱々の聲を擧げた人である。君は松浦屋を主宰して居る傍らに印刷業を兼業し、本島印刷界に貢獻せること甚大なるものがある。小塚、江里口と其に鼎立の形であるが、就中君の勢力は臺北商業界に壓倒的なるものがある。人間としては商人に似合はぬ、義心があり、俠的人物として中下產階級から名を高くして居るが一方築地御殿の主人公としても、挾斜の巷には馬鹿に豪勢な力を有して居る。



## 大日本製氷重役　里井勝太郎君

（臺北出張所長）

漫談博士として、その座談の天下一品は玄人の講釋師も洗足で逃げ出すといふ程堂に入つたものである。大阪在の岸和田の人だか、江戸ッ兒辯の爽やかな語調は自然に人を魅して了ふ。自己の業務の餘力を臺北の商工會及び實業界の爲には、他の支店長や重役と異なつて眞面目に盡力して居る。這般澎湖島の實業大會にも臺北商工會を代表者として出席してよくその使命を果して歸北されたが、臺北商工會は今や人材乏しきの時、君の如く前哨に立つて活躍される人あるを何よりの誇りとすべきものであらう。臺灣に於て事業をなし而も金を儲けんとするもの里井君の如き公的精神を望ましいものである。臺北に赴任日淺いが、君は臺北に於ける事業會社の代表人物として官民間から非常に人望あるのも決して偶然ではない。臺北市協議會員

## 古武士眞木勝太君

（明治三十年渡臺）

愛媛縣の人、文久二年八月二十八日の生れである、夙に公共に力を致し、明治二十七年宇摩郡書記を振り出しに、同郡の村長等歷任して、明治三十年六月の渡臺者である、始め官途にありしも後嘉義銀行を創立し始めてこれが頭取格となりて一切を裁いたこともある。大正九年以來嘉義街長に擧げられ、爾來營々嘉義の公共に盡力すること甚大であつた。昭和四年の暮、新制發布と共に勇退、老境尙依然として本島統治の爲に貢獻せんとなして居る。膽大で理義に正しく、輕擧せず、盲動せず、悠々乎たる處、眞に古武士の俤がある。

### 嘉義の長老　早川直義君

（明治三十年渡臺）

東北福島縣の產にして慶應三年三月六日福島市宮町に生る。その始め官に仕へたるは明治二十六年十一月三十日、福島縣屬に任官し其後日清の風雲急なるの時、明治二十七年九月第二師團軍夫千人長に選拔せられ、軍役二千餘名を引率して渡清せられたる功勳者である。明治三十年九月渡臺嘉義縣屬となり、官制改正後嘉義廳屬、爾來文書、庶務、學務の各係長を歷任して令名高かりしが明治四十年七月退官爾來嘉義の地を墳墓となして各公共事業に貢獻せられたる人である。曰く嘉義商工會副會長、曰く北門區總代、曰く嘉義圖書館長、曰く嘉義公會堂理事、曰く何、曰く是れと枚擧するに遑ない、今や嘉義の長老として實的人物の一人である。

### 高雄の長老　楠田金之亟君

島根縣の人、永く官界に靈腕を揮はれた經歷を有して居る。後辭して實業界に入り鹽糖旗尾工場の創設た力を傾注してその手腕を揮ひたるのこともある。今や高雄の長老として名をなす所以は、曾て內地人組合評議員會長として恰も自治團體の如き公共に盡瘁すること多年に及び、新制度の際、街の助役に擧げられ終始高雄の公共に奮鬪せられた人である。今や高雄信用組合長として悠々自適の生活に樂んで居るが君の如きは眞に我が臺灣統治の功勞者といふべきである趣味として和歌を好む。



# 第二章　臺灣の製糖業と其功勞者

## 第一節　本島の糖業に就て

殖民地は其の本國に對し、何等かの使命を有する要素地であることはいふまでもない。英領印度の棉花、蘭領爪哇の砂糖の如きは、其の中に就て最も大なるものと云ふべきであらう。臺灣も米、砂糖、果實の如き、或は海外に對する茶の如き、何れも其の天則の支配を受け居るものである。米は埤圳の完成により、更に增大の實收が見込まれ居るので、臺灣產業の收穫物としては相當の成績であるが、然し隆々として實際に他の頭地を拔き、臺灣事業界に其の覇を唱ふるものは何と云ふても砂糖工業である。砂糖工業の往昔舊式糖廊鈍重なる水牛を用ゐ、百萬擔內外の夫より改良に進み、更に科學機械化したる今日、將に壹千三百萬擔を凌がんす勢あるは、實に霄壤の差であつて、全く驚異に値するものあるは强ち著者の吾儕のみでない。嘗て重役慰勞金何十萬圓なるものは。如何にも其の旺盛時代を物語つたものである。吾日本は文化の程度未だ高からず、文明を測度する砂糖一人當りの消費量、歐米の人夫に比し甚しきの遜色あるは、尙間斷なきの向上を意味するものにして、今後吾日本は三十年間に四千萬擔の常用を喚起するものなりとの加速度的推定の統計あるを以て、臺灣の糖業たるもの一層の努力なくして可ならん哉と云ふことになる。

著者はこの機會に於て、臺灣の糖業に對し、率直に小意のある所を開陳したい。臺灣糖業の敏は、爪哇、玖瑪である。この兩生產地は常に徐ろに生產の制限を爲し、世界市場の緩急に應じ、其の能率の伸縮を自由になし得ることが出來るのである。臺灣糖業がこの有利の地位にある兩生產地を向ふに廻はし、之に對抗せんには、併合による營業費緊縮の必要もあらんが、第一に自作蔗園の擴充である。今更既に詮なきも、迎合的過配當並に掠奪的報勞は、總て上げてこの費目に充つ可きものなりしを。著者の見る所を以てすれば、自蔗園の豐作なるは臺灣製糖のみて、他社は新開拓地を他に

求むるが、前叙兩埤圳の完成に伴ふて、其處割込みの策に出づるかに他に方法がないやうである。

米作問題の八釜敷今日、埤圳の完成は水利をして至便ならしむる爲、勿論地價の昂騰を來たし、農民は又自衛上米作を正論とするを以て、製糖業者の期待が果して奈邊に落付くものなるやを疑問とせねばならぬ。製糖會社は絶體に自作蔗園を必要とする。窮餘の策として或は督府の威を藉つて買收の事を行はんか、此處に始めて危險問題か胚胎するのである。この問題を今日に熟慮することが小意の第一義で、其の第二義は製糖業者は、何處迄も其の職能の範圍を製造工業なる權威内に止め、或は他事業に關聯するなど、又思惑等の超越的機能を抑止することである。而して生産分配をして均等に進むるやうにすべきである。今や嘉南大圳完成に伴ふ、農民の權利の向上は免れないとしたならば、この對策としては、農民對會社の關係は一層親密の度を增して互讓的精神で協定しなければなるまい。今や糖業を投機化して刹那の成績を以て甘んずる秋でないことを深く理事者は考ふべきである。況哉關税徹廢の議、逆睹すべからざる時代に於てをやである。

## 第二節　累增的發展の臺灣糖業

評者あり、臺灣の糖業は恰も温室に栽培かはれたるものであつて、總督府といふ園丁がなかりせば到底今日の發達は期し得べきでない。現に今や囂々として高唱されるものに砂糖關税徹廢問題の如き決して逆睹すべからざるものがあると。然しながら領臺當時に於ける産業の施設としての糖業に對する積極政策を採用したことを忘れてはならぬ。

當時、兒玉總督が、糖業是を樹て一本調子に直往邁進した政策が、今日の大をなしたもので一朝一夕で今日の成功を告げたものではない。明治三十四、五年期に於ける産糖を見ても眞に首肯されるが、其當時僅かに九十萬八千七百四擔に過きなかつたものを、今日では(昭和五年期に)壹千三百餘擔の增産を告けて居るのである。即ち三十年間に十三倍餘の累增發展を告けて居るのである。批評家のいふが如き温室的糖業でないことが明かに證されるではないか。尤もこの間に於ける會社側の苦心經營の努力に俟つべきものが多いが、又以て督府當路者が鋭意積極力を注かれたことも感謝すべきであらう。今期(五年六月二十五日調査)の産糖を各社別に見れば總額千三百五十萬八千餘擔に上つて居る。

| | 昭和四五年期 | 昭和三年期 |
|---|---|---|
| 臺灣 | 三、七六六、七九三擔 | 二、三七七、七八九擔 |
| 明治 | 二、六二三、二八八 | 一、八七九、六六四 |
| 大日本 | 二、五七二、九一八 | 一、七九六、七七一 |
| 鹽水港 | 一、七七八、三三八 | 一、二〇九、〇二六 |
| 帝國 | 一、二八七、五九三 | 一、一四六、四一九 |
| 新高 | 七〇二、三七二 | 六八四、六〇七 |
| 昭和 | 二三一、五四〇 | 二一二、〇〇〇 |
| 新興 | 一四七、二一一 | 一〇二、八〇〇 |
| 新竹 | 七一、八一二 | 四〇、四三七 |
| 臺東 | 六四、二八一 | 三〇、〇四九 |
| 沙轆 | 五三、九六一 | 七九、六一〇 |
| 總計 | 一三、三〇五、〇五一擔 | 總計　九、三〇八、一三九擔 |

外に鹽糖は再製糖二十七萬擔を製出して居る。

## 第三節　爪哇を凌駕せる臺灣今期の製糖歩留

臺灣新式製糖工場の四月末迄の實績によると平均歩留一割二分八厘にして前年同期の一割一分六厘七毛に比し實に一厘三毛の增率を示してゐる。四十六工場の内一割四分以上の實績を收めたものは臺糖橋仔頭第一、第二と旗尾の三工場で一割三分臺の實績を擧げたるものは十五工場、一割二分臺十九工場、一割一分臺七工場、一割臺一工場、九分臺一工場である斯く今期の歩留が異常な躍進振りを示した理由如何といふに、

一、最も糖分の多い而も最初より歩留高く終了期に於ても割に歩留の下らぬ大莖種二七二五號が漸次增殖して前期の